

Interstage List Works V10.1.0



APIリファレンス

Windows/Solaris

J2S0-0394-01Z0(00)
2012年10月

はじめに

本書は、List Worksの「APIリファレンス」です。List Worksを使用した帳票業務アプリケーションの開発、およびカスタマイズにおいて使用する、各種APIについて説明しています。



List Worksのマニュアルの体系、関連マニュアル、マニュアルの読み方、商標、説明・表記上の約束については、“マニュアル体系と読み方”を参照してください。

List Worksの各機能の詳細については、“操作手引書 運用管理者編”または“操作手引書 利用者編”を参照してください。

本書の構成

第1章 サーバ機能API

List Worksのサーバ機能を利用したアプリケーションを開発するためのインタフェースについて説明しています。

第2章 クライアント機能オートメーション

ほかのアプリケーションからList Worksクライアントの機能を制御するためのインタフェースについて説明しています。

第3章 Web連携機能API

List WorksのWeb連携機能を利用したアプリケーションを開発するためのインタフェースについて説明しています。

付録A サーバ機能APIのエラー情報

サーバ機能APIのエラーコードとエラーメッセージについて説明しています。

付録B サーバ機能APIのサンプルプログラム

サーバ機能APIを利用したサンプルプログラムを記載しています。

付録C オートメーションメソッドのサンプルプログラム

オートメーションメソッドを利用したサンプルプログラムを記載しています。

付録D Web連携機能APIのサンプルプログラム

Web連携機能APIを利用したサンプルプログラムを記載しています。

付録E List Worksにおける処理の流れ

Web連携機能APIを利用したプログラム開発の参考として、List Worksにおける処理の流れをフローチャートで示しています。

付録F ログイン画面の初期値の設定方法

Web連携機能APIを利用したプログラムのログイン画面に初期値を設定する方法について説明しています。

Copyright 1995-2012 FUJITSU LIMITED

目次

第1章 サーバ機能API	1
1.1 サーバ機能APIの概要	1
1.2 開始、終了	3
1.2.1 LW_StartServerApi(サーバ機能API開始)	3
1.2.2 LW_EndServerApi(サーバ機能API終了)	4
1.3 エラー情報取得	5
1.3.1 LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)	5
1.3.2 LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)	5
1.4 保管フォルダ	6
1.4.1 LW_StartKeepFolder(保管フォルダ一覧開始)	7
1.4.2 LW_EndKeepFolder(保管フォルダ一覧終了)	8
1.4.3 LW_GetKeepFolderCount(保管フォルダ数取得)	9
1.4.4 LW_GetKeepFolderItem(保管フォルダ一覧取得)	10
1.4.5 LW_StartKeepList(保管フォルダ内の帳票一覧開始)	12
1.4.6 LW_EndKeepList(保管フォルダ内の帳票一覧終了)	13
1.4.7 LW_GetKeepListCount(保管フォルダ内の帳票数取得)	14
1.4.8 LW_GetKeepListItem(保管フォルダ内の帳票一覧取得)	15
1.4.9 LW_DeleteKeepFile(保管フォルダ内の帳票の削除)	18
1.4.10 LW_ChangeKeepFile(保管フォルダ内の帳票情報の変更)	19
1.4.11 LW_CreatePDFFile(帳票のPDF変換) <Solaris版のみ>	24
1.4.12 LW_CreatePDFFileEx(帳票のPDF変換(セキュリティ情報指定))	26
1.4.13 LW_SendMail(メール送信)	30
1.4.14 LW_CopyKeepFile(保管フォルダ内の帳票の複写)	37
1.4.15 LW_MoveKeepFile(保管フォルダ内の帳票の移動)	38
1.5 印刷フォルダ	39
1.5.1 LW_RemotePrint(リモート印刷) <Windows 版のみ>	39
第2章 クライアント機能オートメーション	44
2.1 オートメーションメソッドの概要	44
2.2 リストナビ オートメーション	48
2.2.1 Change(オブジェクト情報の変更)メソッド	49
2.2.2 ClearSearchCondition(帳票の検索条件の解除)メソッド	50
2.2.3 Connect(リスト管理サーバへの接続)メソッド	51
2.2.4 Copy(オブジェクトの複写/移動)メソッド	52
2.2.5 Count(オブジェクトの数の取得)プロパティ	55
2.2.6 CreateLocalKeepFolder(マイコンピュータの保管フォルダの作成)メソッド	55
2.2.7 CreateRemoteKeepFolder(リスト管理サーバの保管フォルダの作成)メソッド	56
2.2.8 Delete(フォルダ/帳票の削除)メソッド	58
2.2.9 DeleteFolder(フォルダの削除)メソッド	59
2.2.10 Deliver(受信フォルダ内の帳票の再振り分け)メソッド	59
2.2.11 Disconnect(リスト管理サーバからの切断)メソッド	60
2.2.12 Filing(ファイリング)メソッド	60
2.2.13 For Each・・・Next(オブジェクト一覧の取得)	61
2.2.14 GetOpenFileName(帳票を開くためのファイル名を取得)メソッド	64
2.2.15 Item(オブジェクト情報の取得)プロパティ	65
2.2.16 ItemListPrint(オブジェクト一覧の印刷)メソッド	66
2.2.17 ItemListSave(オブジェクト一覧のファイル出力)メソッド	67
2.2.18 LocalPageSetup(ローカル印刷のページ設定)メソッド	68
2.2.19 LocalPrint(ローカル印刷)メソッド	69
2.2.20 Maximize(ウィンドウの最大化)メソッド	71
2.2.21 Minimize(ウィンドウの最小化)メソッド	72
2.2.22 Move(ウィンドウの移動)メソッド	72
2.2.23 OpenFolder(フォルダを開く)メソッド	73
2.2.24 OpenItem(選択されているオブジェクトを開く)メソッド	74
2.2.25 Quit(リストナビの終了)メソッド	75

2.2.26 RemotePageSetup(リモート印刷のページ設定)メソッド	75
2.2.27 RemotePrint(リモート印刷)メソッド	76
2.2.28 Restore(ウィンドウを元のサイズに戻す)メソッド	79
2.2.29 ResumeRemotePrint(リモート印刷の再開)メソッド	80
2.2.30 SearchList(帳票を検索)メソッド	80
2.2.31 SelectAllItem(すべてのオブジェクトを選択)メソッド	81
2.2.32 SelectFile(保管フォルダ内のオブジェクトを選択)メソッド	81
2.2.33 SelectItem(オブジェクトを選択)メソッド	82
2.2.34 SelectNextItem(次のオブジェクトを選択)メソッド	83
2.2.35 SelectPrevItem(前のオブジェクトを選択)メソッド	84
2.2.36 SetDeviceCondition(一覧の表示条件の設定(装置フォルダ))メソッド	85
2.2.37 SetKeepCondition(一覧の表示条件の設定(保管フォルダ))メソッド	86
2.2.38 SetKeepConditionEx(一覧の表示条件の設定(保管フォルダ))メソッド	88
2.2.39 SetPrintCondition(一覧の表示条件の設定(印刷フォルダ))メソッド	90
2.2.40 SetReceiveCondition(一覧の表示条件の設定(受信フォルダ))メソッド	93
2.2.41 SetSearchDateCondition(帳票の検索条件の設定(日付情報))メソッド	94
2.2.42 SetSearchManageCondition(帳票の検索条件の設定(管理情報))メソッド	95
2.2.43 SetSearchTextCondition(帳票の検索条件の設定(印刷データ内の文字情報))メソッド	96
2.2.44 ShowApp(ウィンドウの表示/非表示)メソッド	97
2.2.45 Size(ウィンドウのサイズ変更)メソッド	97
2.2.46 StartRemotePrint(リモート印刷の開始)メソッド	98
2.2.47 StopRemotePrint(リモート印刷の中断)メソッド	99
2.2.48 UnselectItem(オブジェクトの選択状態の解除)メソッド	100
2.3 リストビューア オートメーション	100
2.3.1 Activate(リストビューアをアクティブにする)メソッド	102
2.3.2 Cascade(重ねて表示)メソッド	103
2.3.3 Copy(クリップボードへコピー)メソッド	103
2.3.4 DataConvert(データ変換)メソッド	104
2.3.5 ExtractCancel(絞り込みの解除)メソッド	106
2.3.6 ExtractFind(検索による絞り込み)メソッド	107
2.3.7 ExtractItem(記入による絞り込み)メソッド	108
2.3.8 ExtractPage(ページによる絞り込み)メソッド	111
2.3.9 FieldArea(帳票項目の範囲の追加)メソッド	112
2.3.10 FieldClear(帳票項目の削除)メソッド	114
2.3.11 FieldClearPage(帳票項目の削除(先頭/中間/最後のページごと異なる範囲))メソッド	115
2.3.12 FieldDate(帳票項目の日付型の範囲の追加)メソッド	116
2.3.13 FieldDefineMode(帳票項目の設定)メソッド	118
2.3.14 FieldItem(帳票項目の追加)メソッド	118
2.3.15 FieldItemPage(帳票項目の追加(先頭/中間/最後のページごと異なる範囲))メソッド	119
2.3.16 Find(印刷データを検索)メソッド	121
2.3.17 FindClear(検索条件の削除)メソッド	122
2.3.18 FindDataConvert(検索結果のデータ変換(行の一覧))メソッド	123
2.3.19 FindDate(日付の検索条件の設定)メソッド	125
2.3.20 FindLoad(検索条件の読み込み)メソッド	128
2.3.21 FindNext(下方向に検索)メソッド	129
2.3.22 FindNumeric(数値の検索条件の設定)メソッド	130
2.3.23 FindOption(検索の方法の設定)メソッド	132
2.3.24 FindOrderConvert(検索結果のデータ変換(表形式の一覧))メソッド	135
2.3.25 FindOrderSelect(検索結果の表形式の一覧の項目名の選択)メソッド	136
2.3.26 FindPrev(上方向に検索)メソッド	137
2.3.27 FindResult(検索結果の表示/非表示)メソッド	137
2.3.28 FindResultList(検索結果一覧の表示/非表示)メソッド	138
2.3.29 FindSave(検索条件の保存)メソッド	139
2.3.30 FindString(文字列の検索条件の設定)メソッド	139
2.3.31 FullScreen(全画面表示)メソッド	142
2.3.32 GetCurrentTotalPage(全ページ数の取得)メソッド	143
2.3.33 HScroll(水平方向へスクロール)メソッド	143

2.3.34 IsExtract(絞り込み状態の取得)メソッド	144
2.3.35 ItemList(記入の一覧の表示/非表示)メソッド	145
2.3.36 LocalPrint(帳票を印刷)メソッド	145
2.3.37 Maximize(ウィンドウの最大化)メソッド	148
2.3.38 Minimize(ウィンドウの最小化)メソッド	148
2.3.39 Move(ウィンドウの移動)メソッド	149
2.3.40 Open(帳票を開く)メソッド	149
2.3.41 Option(オプションの設定)メソッド	150
2.3.42 PageBottom(最後のページへ)メソッド	151
2.3.43 PageJump(指定のページへ)メソッド	151
2.3.44 PageNext(次のページへ)メソッド	152
2.3.45 PagePrev(前のページへ)メソッド	153
2.3.46 PageSetup(ページ設定)メソッド	153
2.3.47 PageTop(最初のページへ)メソッド	154
2.3.48 PanWindow(パンウィンドウの表示/非表示)メソッド	154
2.3.49 Quit(リストビューアの終了)メソッド	155
2.3.50 Restore(ウィンドウを元のサイズに戻す)メソッド	156
2.3.51 Save(上書き保存)メソッド	156
2.3.52 SaveAs(名前を付けて保存)メソッド	157
2.3.53 Select(範囲選択)メソッド	158
2.3.54 SelectAll(すべて選択)メソッド	159
2.3.55 Show(表示項目の設定)メソッド	160
2.3.56 ShowApp(ウィンドウの表示/非表示)メソッド	162
2.3.57 Size(ウィンドウのサイズ変更)メソッド	162
2.3.58 Split(分割/分割解除)メソッド	163
2.3.59 Tile(並べて表示)メソッド	164
2.3.60 VScroll(垂直方向へスクロール)メソッド	165
2.3.61 Zoom(倍率の指定)メソッド	166
第3章 Web連携機能API	167
3.1 Web連携機能APIの概要	167
3.2 ListGateway	169
3.2.1 Httpリクエスト	174
3.2.1.1 getjsp(JSPファイルの取得)	175
3.2.1.2 getjspinssession(JSPファイルの取得)	176
3.2.1.3 getkeepfolder(保管フォルダの一覧の表示)	176
3.2.1.4 getkeepelist(帳票一覧の表示)	177
3.2.1.5 listbrowser(帳票の表示)	178
3.2.1.6 listprint(帳票の印刷)	179
3.2.1.7 login(リスト管理サーバへの接続)	180
3.2.1.8 logout(リスト管理サーバからの切断)	181
3.2.1.9 openframe(保管フォルダ/帳票一覧の表示準備)	181
3.2.2 Javaクラス(ListConfig)	182
3.2.2.1 addSheetPath(帳票の論理パスの追加)	183
3.2.2.2 compareKeepCheckInfo(帳票が選択中かどうかの判定)	184
3.2.2.3 getActivePage(現在表示している帳票のページ番号の取得)	185
3.2.2.4 getApplicationURL(Web連携機能のURLを取得)	185
3.2.2.5 getBrosKeepFolderInfoNo(次に存在する同一階層の保管フォルダ情報の番号取得)	186
3.2.2.6 getByteSwap(バイトスワップフラグの取得)	187
3.2.2.7 getChildKeepFolderInfoNo(子の保管フォルダ情報の番号取得)	188
3.2.2.8 getClassFolderNoList(階層のフォルダ番号リストの取得)	189
3.2.2.9 getClassNameList(階層のフォルダ名リストの取得)	190
3.2.2.10 getConnectForm(連結できる最大帳票数の取得)	191
3.2.2.11 getConnectServer(リスト管理サーバ接続フラグの取得)	191
3.2.2.12 getCurrentFolderAttribute(現在選択している保管フォルダの情報の取得)	192
3.2.2.13 getCurrentFolderNameList(最上位の保管フォルダから現在選択している保管フォルダまでのフォルダ名リストの取得)	192
3.2.2.14 getEndNo(帳票一覧の最後の番号の取得)	193

3.2.2.15	getFolderNo(選択している保管フォルダ番号の取得)	194
3.2.2.16	getGroupCount(所属グループの種別番号の取得)	194
3.2.2.17	getHitTotalSheetNo(選択した保管フォルダ内の表示条件に該当する帳票の総数の取得)	195
3.2.2.18	getKeepFolderAttribute(保管フォルダ情報の取得)	195
3.2.2.19	getKeepFolderInfoNo(保管フォルダ情報の番号の取得)	196
3.2.2.20	getKeepSheetAttribute(保管フォルダ内帳票情報の取得)	196
3.2.2.21	getKeepSheetInfoNo(保管フォルダ内帳票の番号の取得)	197
3.2.2.22	getNextKeepFolderInfoNo(次に存在する同一階層、それがいない場合は親と同一階層で次に存在する保管フォルダ情報の番号の取得)	198
3.2.2.23	getListPrintPropertiesName(ListPrint.propertiesのファイル名を取得)	199
3.2.2.24	getPollingPrintWatchTime(ポーリング印刷における帳票一覧の監視時間の取得)	199
3.2.2.25	getRemoteAddr(処理を要求したクライアントのホストIPアドレスの取得)	200
3.2.2.26	getRemoteHost(処理を要求したクライアントのホスト名、または処理を要求したクライアントのホストIPアドレスの取得)	200
3.2.2.27	getSeparatorMark(フォルダ区切りマークの取得)	201
3.2.2.28	getServerAddr(リスト管理サーバIPアドレスの取得)	201
3.2.2.29	getServerName(リスト管理サーバ名の取得)	202
3.2.2.30	getServletURL(ListGatewayのURLを取得)	202
3.2.2.31	getSession(セッションの取得)	203
3.2.2.32	getSessionID(セッションIDの取得)	203
3.2.2.33	getSheetNo(選択した帳票の番号の取得)	204
3.2.2.34	getSheetPath(帳票の論理パスの取得)	205
3.2.2.35	getStartNo(帳票一覧の最初の番号の取得)	205
3.2.2.36	getTotalFolderNo(保管フォルダの総数の取得)	206
3.2.2.37	getTotalSheetNo(帳票の総数の取得)	206
3.2.2.38	getUsePdfSheet(PDF形式での帳票の表示、および帳票をPDF形式に変換して保存する機能を使用するかどうかの取得)	207
3.2.2.39	getUsePrintedSheet(ローカル印刷識別を利用するかどうかを取得)	207
3.2.2.40	getUserID(ユーザIDを取得)	208
3.2.2.41	getViewNo(帳票一覧に表示できる最大帳票数の取得)	208
3.2.2.42	getViewSheetNo(表示する帳票の数の取得)	209
3.2.2.43	setFolderPath(保管フォルダの論理パスを設定)	209
3.2.2.44	setListPrintPropertiesName(ListPrint.propertiesのファイル名を設定)	210
3.2.2.45	setSheetPath(帳票の論理パスの設定)	211
3.2.3	Javaクラス(KeepFolderAttribute)	212
3.2.3.1	getClassNo(保管フォルダの階層番号の取得)	212
3.2.3.2	getCreateDate(保管フォルダの作成日時の取得)	213
3.2.3.3	getName(保管フォルダ名の取得)	213
3.2.3.4	getNodeId(保管フォルダの識別子の取得)	214
3.2.3.5	getPath(保管フォルダの論理パスの取得)	214
3.2.4	Javaクラス(KeepSheetAttribute)	215
3.2.4.1	getAccessCount(アクセス回数の取得)	215
3.2.4.2	getAutoDelete([有効期限を過ぎたら削除対象にする]が設定されているかどうかの取得)	216
3.2.4.3	getComment(帳票のコメントの取得)	217
3.2.4.4	getCreateDate(帳票の作成日時の取得)	217
3.2.4.5	getCreatorName(帳票の作成者名の取得)	218
3.2.4.6	getFileName(ファイル名の取得)	218
3.2.4.7	getFiling(ファイリングされているかどうかの取得)	219
3.2.4.8	getFlagInfo(フラグ情報の取得)	219
3.2.4.9	getIndexFind(抜き出し検索ができるかどうかの取得)	220
3.2.4.10	getItem(帳票に記入情報が記入されているかどうかの取得)	221
3.2.4.11	getNodeId(帳票の識別子の取得)	221
3.2.4.12	getNote1(備考1の取得)	222
3.2.4.13	getNote2(備考2の取得)	222
3.2.4.14	getNote3(備考3の取得)	223
3.2.4.15	getNote4(備考4の取得)	223
3.2.4.16	getReferenceDate(最終参照日時の取得)	224
3.2.4.17	getRegistDate(登録日時の取得)	224

3.2.4.18 getRequestPrint(リモート印刷されたかどうかの取得).....	225
3.2.4.19 getSerialSheetNo(帳票番号の取得).....	225
3.2.4.20 getTitle(帳票名の取得).....	226
3.2.4.21 getTotalPage(ページ数の取得).....	226
3.2.4.22 getValid(有効・無効フラグの取得).....	227
3.2.4.23 getValidDate(登録有効期限の取得).....	227
3.2.4.24 setValid(有効・無効フラグの設定).....	228
3.2.5 Javaクラス(ObjectList).....	229
3.2.5.1 get(オブジェクトの取得).....	229
3.2.5.2 getCount(オブジェクトの数の取得).....	229
3.2.6 Javaクラス(HtmlConv).....	230
3.2.6.1 convVendorChar(Unicode文字列内のベンダ依存文字を変換).....	230
3.2.6.2 toSjisArray(シフトJIS文字列をシフトJIS文字列のbyte型配列に変換).....	231
3.2.6.3 toSjisString(Unicode文字列をシフトJIS文字列のStringに変換).....	231
3.3 ListPrint.....	232
3.3.1 帳票の一覧からの印刷機能のメソッド.....	235
3.3.1.1 localPrint(帳票を印刷).....	235
3.3.1.2 setPrinter(印刷するプリンタの指定).....	238
3.3.2 帳票の表示機能のメソッド.....	239
3.3.2.1 dataConvert(データ変換).....	239
3.3.2.2 extractCancel(絞り込みの解除).....	242
3.3.2.3 extractFind(検索による絞り込み).....	242
3.3.2.4 extractItem(記入による絞り込み).....	243
3.3.2.5 extractPage(ページによる絞り込み).....	247
3.3.2.6 findClear(検索条件の削除).....	247
3.3.2.7 findDate(日付の検索条件の設定).....	248
3.3.2.8 findLoad(検索条件の読み込み).....	251
3.3.2.9 findNumeric(数値の検索条件の設定).....	252
3.3.2.10 findOption(検索の方法の設定).....	255
3.3.2.11 findResult(検索結果の表示/非表示).....	257
3.3.2.12 findSave(検索条件の保存).....	258
3.3.2.13 findString(文字列の検索条件の設定).....	258
3.3.2.14 getCurrentTotalPage(全ページ数の取得).....	261
3.3.2.15 isExtract(絞り込み状態の取得).....	262
3.3.2.16 localPrint(帳票を印刷).....	262
3.3.2.17 pageBottom(最後のページへ).....	264
3.3.2.18 pageJump(指定のページへ).....	265
3.3.2.19 pageNext(次のページへ).....	266
3.3.2.20 pagePrev(前のページへ).....	266
3.3.2.21 pageTop(最初のページへ).....	267
3.3.2.22 select(表示している帳票の範囲の選択).....	267
3.3.2.23 setPrinter(印刷するプリンタの指定).....	268
3.3.2.24 zoom(倍率の指定).....	269
付録A サーバ機能APIのエラー情報.....	271
A.1 サーバ機能APIエラーコード.....	271
A.2 サーバ機能APIエラーメッセージ.....	273
付録B サーバ機能APIのサンプルプログラム.....	300
B.1 サーバ機能APIサンプルプログラム.....	300
付録C オートメーションメソッドのサンプルプログラム.....	311
C.1 オートメーションメソッドのサンプルプログラム.....	311
付録D Web連携機能APIのサンプルプログラム.....	313
D.1 ListPrintのサンプルプログラム.....	313
付録E List Worksにおける処理の流れ.....	320

E.1 ログインから帳票一覧の表示まで.....	320
E.2 帳票一覧の表示条件の設定.....	322
E.3 帳票一覧の表示項目の変更.....	323
E.4 「帳票を検索」の検索条件の設定.....	325
付録F ログイン画面の初期値の設定方法.....	327
F.1 ログイン画面に初期値を設定する方法.....	327
索引.....	329

第1章 サーバ機能API

この章では、List Worksのサーバ機能を利用したアプリケーションを開発するためのインタフェースについて説明しています。

- 1.1 サーバ機能APIの概要
- 1.2 開始、終了
- 1.3 エラー情報取得
- 1.4 保管フォルダ
- 1.5 印刷フォルダ

1.1 サーバ機能APIの概要

サーバ機能APIを使用して、以下の処理を行うことができます。

- ・ 保管フォルダ内の帳票情報の取得
- ・ 帳票の複写
- ・ 帳票の移動
- ・ 帳票の削除
- ・ 帳票のPDF変換
- ・ メール送信
- ・ 帳票情報の変更
- ・ 帳票のリモート印刷 (Windows版のみ)

なお、メール送信では、ファイルを添付することができます。

サーバ機能API一覧表

以下に、サーバ機能APIを示します。

	API	機能
開始、終了	LW_StartServerApi (注1)	サーバ機能API開始
	LW_EndServerApi (注1)	サーバ機能API終了
エラー情報取得	LW_GetServerApiErrCode	サーバ機能APIエラーコード取得
	LW_GetServerApiErrMsg	サーバ機能APIエラーメッセージ取得
保管フォルダ	LW_StartKeepFolder	保管フォルダ一覧開始
	LW_EndKeepFolder	保管フォルダ一覧終了
	LW_GetKeepFolderCount	保管フォルダ数取得
	LW_GetKeepFolderItem	保管フォルダ一覧取得
	LW_StartKeepList	保管フォルダ内の帳票一覧開始
	LW_EndKeepList	保管フォルダ内の帳票一覧終了
	LW_GetKeepListCount	保管フォルダ内の帳票数取得
	LW_GetKeepListItem	保管フォルダ内の帳票一覧取得
	LW_DeleteKeepFile (注1)(注2)	保管フォルダ内の帳票の削除

API	機能
LW_ChangeKeepFile (注1)(注2)	保管フォルダ内の帳票情報の変更
LW_CreatePDFFile (注1)(注2)(注3)	帳票のPDF変換 (注4)(注5)
LW_CreatePDFFileEx (注1)(注2)(注3)	帳票のPDF変換(セキュリティ情報指定) (注5)
LW_SendMail (注2)	メール送信
LW_CopyKeepFile (注1)(注2)	保管フォルダ内の帳票の複写
LW_MoveKeepFile (注1)(注2)	保管フォルダ内の帳票の移動
印刷フォルダ	LW_RemotePrint (注1)(注2)
	リモート印刷 (注6)

注1:

リスト管理サーバと通信を行うサーバ機能APIです。これらのサーバ機能APIを実行する間隔より入力監視時間を長く設定する必要があります。

注2:

実行結果が操作ログ/実行履歴に出力されます。



操作ログ/実行履歴の詳細については、“メッセージ集”を参照してください。

注3:

LW_CreatePDFFile、LW_CreatePDFFileExを使用する場合には、以下のソフトウェアが必要です。

- List Creator Enterprise Edition

注4:

Solaris版のみの機能です。

注5:

帳票をPDF形式に変換する場合には、セキュリティ情報を設定することができるLW_CreatePDFFileExをお勧めします。

注6:

Windows版のみの機能です。

サーバ機能APIは、以下のファイルに格納されています。

- Windows版の場合

F5cwsapi.dll

- Solaris版の場合

liblwapi.so

サーバ機能APIの関数定義、サーバ機能APIで使用する構造体の形式を格納したヘッダファイルは、以下に格納されています。

- Windows版の場合

List Works のインストール先フォルダ¥Samples¥lvsvapi.h

- Solaris版の場合

List Works のインストールディレクトリ/FJSVlw-sv/include/lvsvapi.h

サンプルプログラム

サーバ機能APIを用いたサンプルプログラムは、以下に格納されています。

- Windows版の場合

```
List Works のインストール先フォルダ¥Samples¥ApiSample1.c
```

- Solaris版の場合

```
List Works のインストールディレクトリ/FJSVlw-sv/etc/ApiSample1.c
```



サーバ機能APIを用いたサンプルプログラムについては、“付録B サーバ機能APIのサンプルプログラム”を参照してください。

注意

- サーバ機能APIはマルチスレッドに対応していません。
- サーバ機能APIを使用したアプリケーションは、Windowsサーバ(x64)では32ビットアプリケーションとして動作させる必要があります。64ビットアプリケーションとしての動作は保証していません。
- Windows版の場合、サーバ機能APIを使用したアプリケーションは、管理者で実行する必要があります。管理者以外で実行した場合、LW_StartServerApi(サーバ機能API開始)でエラーとなります。
- Solaris版の場合、サーバ機能APIを使用したアプリケーションは、スーパーユーザで実行する必要があります。スーパーユーザ以外で実行した場合、LW_StartServerApi(サーバ機能API開始)でエラーとなります。
- Solaris版の場合、サーバ機能APIを使用するプログラムのコンパイル時に、-licvオプションを指定する必要があります。
- Solaris版の場合、サーバ機能APIを使用したアプリケーションはEUC、またはShift-JIS環境下で実行する必要があります。アプリケーションの実行環境シェルに環境変数LC_ALLが設定されている場合は、環境変数LANGと同じロケール名に変更してください。

1.2 開始、終了

ここでは、以下のサーバ機能APIについて説明します。

API	機能
LW_StartServerApi	サーバ機能API開始
LW_EndServerApi	サーバ機能API終了

1.2.1 LW_StartServerApi(サーバ機能API開始)

記述形式

```
int LW_StartServerApi()
```

機能

サーバ機能APIを実行するための準備処理を行い、識別子を返します。この識別子をサーバAPI識別子と呼びます。

パラメタの説明

なし

復帰値

0以外

正常終了しました。

この復帰値がサーバAPI識別子になります。以降のサーバAPIの実行で必要です。

0

異常終了しました。

以下のうち、いずれかの処置をしてください。

- Windows版の場合、管理者で実行していることを確認してください。
- Solaris版の場合、スーパーユーザで実行していることを確認してください。
- リスト管理サーバのList Worksサービスが起動されていることを確認してください。
- データベース環境を確認してください。
- Solaris版の場合、実行環境のロケールを確認してください。

注意

- 他のサーバ機能APIを実行する前に必ず、一度本APIを実行し、サーバAPI識別子を獲得してください。
- サーバAPI識別子は、すべてのサーバ機能APIで設定する必要があるため、サーバ機能APIを実行する間、保持しておいてください。
- サーバ機能APIの処理終了時には、必ず、LW_EndServerApi(サーバ機能API終了)を実行してください。LW_EndServerApi(サーバ機能API終了)を実行しないと、領域が解放されない場合があります。

1.2.2 LW_EndServerApi(サーバ機能API終了)

記述形式

```
void LW_EndServerApi(int iServerApiHandle)
```

機能

サーバ機能APIの実行の後処理を行います。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

復帰値

なし



- ・ サーバ機能APIの処理終了時には、必ず、本APIを実行してください。本APIを実行しないと、領域が解放されない場合があります。
- ・ 本APIに指定したサーバAPI識別子は、本API実行後、使用できなくなります。

1.3 エラー情報取得

ここでは、以下のサーバ機能APIについて説明します。

API	機能
LW_GetServerApiErrCode	サーバ機能APIエラーコード取得
LW_GetServerApiErrMsg	サーバ機能APIエラーメッセージ取得

1.3.1 LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)

記述形式

```
int LW_GetServerApiErrCode(int iServerApiHandle)
```

機能

サーバ機能APIの実行に失敗した場合、エラーコードを取得します。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

復帰値

エラーコード



エラーコードの詳細は、“[A.1 サーバ機能APIエラーコード](#)”を参照してください。

1.3.2 LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)

記述形式

```
void LW_GetServerApiErrMsg(int iServerApiHandle,  
char * lpServerApiErrMsg)
```

機能

サーバ機能APIの実行に失敗した場合、エラーメッセージを取得します。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

lpServerApiErrMsg

エラーメッセージを格納するための領域のアドレスを指定します。

1024バイトの領域を、呼び出し元で獲得してください。



エラーメッセージの内容についての詳細は、“[A.2 サーバ機能APIエラーメッセージ](#)”を参照してください。

復帰値

なし

1.4 保管フォルダ

ここでは、以下のサーバ機能APIについて説明します。

API	機能
LW_StartKeepFolder	保管フォルダ一覧開始
LW_EndKeepFolder	保管フォルダ一覧終了
LW_GetKeepFolderCount	保管フォルダ数取得
LW_GetKeepFolderItem	保管フォルダ一覧取得
LW_StartKeepList	保管フォルダ内の帳票一覧開始
LW_EndKeepList	保管フォルダ内の帳票一覧終了
LW_GetKeepListCount	保管フォルダ内の帳票数取得
LW_GetKeepListItem	保管フォルダ内の帳票一覧取得
LW_DeleteKeepFile	保管フォルダ内の帳票の削除
LW_ChangeKeepFile	保管フォルダ内の帳票情報の変更
LW_CreatePDFFile (注1)	帳票のPDF変換 (注2) (注3)
LW_CreatePDFFileEx (注1)	帳票のPDF変換(セキュリティ情報指定) (注3)
LW_SendMail	メール送信
LW_CopyKeepFile	保管フォルダ内の帳票の複写
LW_MoveKeepFile	保管フォルダ内の帳票の移動

注1:

LW_CreatePDFFile、LW_CreatePDFFileExを使用する場合には、以下のソフトウェアが必要です。

- List Creator Enterprise Edition

注2:

Solaris版のみの機能です。

注3:

帳票をPDF形式に変換する場合には、セキュリティ情報を設定することができるLW_CreatePDFFileExをお勧めします。

1.4.1 LW_StartKeepFolder(保管フォルダ一覧開始)

記述形式

```
int LW_StartKeepFolder(int      iServerApiHandle,  
                        char *  lpKeepFolder,  
                        int      iUnderFolder)
```

機能

指定された保管フォルダにある保管フォルダ一覧情報取得の開始処理を行い、識別子を返します。この識別子を保管フォルダ一覧識別子と呼びます。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

lpKeepFolder

保管フォルダの論理パスを指定します。本情報の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

本情報にNULLを指定すると、最上位の保管フォルダが対象となります。

iUnderFolder

保管フォルダ情報の取得方法を0か1の数値で指定します。

0: 指定した保管フォルダ配下のすべてのフォルダ情報を返します。

1: 指定した保管フォルダの子供のフォルダ情報を返します。

復帰値

0以外

正常終了しました。

この復帰値が保管フォルダ一覧識別子になります。

0

異常終了しました。



注意

- 指定された保管フォルダにある保管フォルダ数、一覧などの情報を取得する前に必ず、一度本APIを実行して、保管フォルダ一覧識別子を取得してください。

- ・ 本APIを実行したあと、保管フォルダ一覧の処理が完了したら、必ず、LW_EndKeepFolder(保管フォルダ一覧終了)を実行してください。LW_EndKeepFolder(保管フォルダ一覧終了)を実行しないと、領域が解放されない場合があります。
- また、本APIを一度実行した場合、LW_EndKeepFolder(保管フォルダ一覧終了)を実行しないで、再度本APIを実行すると、エラーになります。

参考

異常終了した場合に以下のサーバ機能APIを実行すると、エラーの詳細を取得することができます。

エラーコードの取得

LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)



LW_GetServerApiErrCodeについては、“[1.3.1 LW_GetServerApiErrCode\(サーバ機能APIエラーコード取得\)](#)”を参照してください。

エラーメッセージの取得

LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)



LW_GetServerApiErrMsgについては、“[1.3.2 LW_GetServerApiErrMsg\(サーバ機能APIエラーメッセージ取得\)](#)”を参照してください。

1.4.2 LW_EndKeepFolder(保管フォルダ一覧終了)

記述形式

```
int LW_EndKeepFolder (int iServerApiHandle,  
                      int iStartKeepFolderHandle)
```

機能

保管フォルダ一覧情報取得の終了処理を行います。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

iStartKeepFolderHandle

保管フォルダ一覧識別子を指定します。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

注意

- ・ 本APIを実行したあと、保管フォルダ一覧識別子は使用できません。
- ・ 保管フォルダ一覧の処理が完了したら、必ず、本APIを実行してください。本APIを実行しないと、領域が解放されない場合があります。

参考

異常終了した場合に以下のサーバ機能APIを実行すると、エラーの詳細を取得することができます。

エラーコードの取得

LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)



LW_GetServerApiErrCodeについては、“[1.3.1 LW_GetServerApiErrCode\(サーバ機能APIエラーコード取得\)](#)”を参照してください。

エラーメッセージの取得

LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)



LW_GetServerApiErrMsgについては、“[1.3.2 LW_GetServerApiErrMsg\(サーバ機能APIエラーメッセージ取得\)](#)”を参照してください。

1.4.3 LW_GetKeepFolderCount(保管フォルダ数取得)

記述形式

```
int LW_GetKeepFolderCount(int iServerApiHandle,  
                           int iStartKeepFolderHandle,  
                           int * lpKeepFolderCount)
```

機能

保管フォルダの数を取得します。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

iStartKeepFolderHandle

保管フォルダ一覧識別子を指定します。

lpKeepFolderCount

保管フォルダの数を格納するための領域を指定します。領域は呼び出し元で獲得してください。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。



参考

異常終了した場合に以下のサーバ機能APIを実行すると、エラーの詳細を取得することができます。

エラーコードの取得

LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)



LW_GetServerApiErrCodeについては、“[1. 3. 1 LW_GetServerApiErrCode\(サーバ機能APIエラーコード取得\)](#)”を参照してください。

エラーメッセージの取得

LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)



LW_GetServerApiErrMsgについては、“[1. 3. 2 LW_GetServerApiErrMsg\(サーバ機能APIエラーメッセージ取得\)](#)”を参照してください。

1.4.4 LW_GetKeepFolderItem(保管フォルダ一覧取得)

記述形式

```
int LW_GetKeepFolderItem(int iServerApiHandle,  
                           int iStartKeepFolderHandle,  
                           int iKeepFolderIndex,  
                           LPKPFINFO lpKPFInfo)
```

機能

保管フォルダの一覧情報を取得します。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

iStartKeepFolderHandle

保管フォルダ一覧識別子を指定します。

iKeepFolderIndex

取得したい保管フォルダが格納されているインデックスを0から「保管フォルダ数 - 1」までの数値で指定します。

範囲外の値を指定した場合、エラーになります。

lpKPFInfo

保管フォルダの一覧情報を取得するKPFINFO構造体 (保管フォルダ情報構造体)のアドレスを指定します。

保管フォルダ一覧情報の領域は、呼び出し元で獲得してください。

KPFINFO構造体の「usf_Length」は、必ず指定してください。KPFINFO構造体の「usf_Length」を指定しないと、エラーになります。

KPFINFO構造体を、以下に示します。

```
typedef struct KeepFolderInfo
{
    unsigned short usf_Length;           /*領域長                */
    char           cf_Rsv1[2];          /*リザーブ              */
    unsigned short usf_NestLevel;      /*保管フォルダの階層    */
    char           cf_Rsv2[2];          /*リザーブ              */
    char           cf_Name[128 + 4];    /*保管フォルダ名        */
    char           cf_PathName[260 + 4]; /*保管フォルダの論理パス名 */
    char           cf_Rsv3[108];        /*リザーブ              */
} KPFINFO;
typedef KPFINFO* LPKPFINFO;
```

KPFINFO構造体の説明

メンバ変数	項目	説明
usf_Length	領域長	構造体のサイズを指定します。 本APIを実行する前に、呼び出し元でsizeof(KPFINFO)を実行してください。
cf_Rsv1	リザーブ	—
usf_NestLevel	保管フォルダの階層	保管フォルダの階層の番号が設定されます。 最上位の保管フォルダは、「0」となります。
cf_Rsv2	リザーブ	—
cf_Name	保管フォルダ名	保管フォルダ名が設定されます。
cf_PathName	保管フォルダの論理パス名	保管フォルダの論理パスが設定されます。
cf_Rsv3	リザーブ	—

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

参考

異常終了した場合に以下のサーバ機能APIを実行すると、エラーの詳細を取得することができます。

エラーコードの取得

LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)



LW_GetServerApiErrCodeについては、“[1.3.1 LW_GetServerApiErrCode\(サーバ機能APIエラーコード取得\)](#)”を参照してください。

エラーメッセージの取得

LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)



LW_GetServerApiErrMsgについては、“1.3.2 LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)”を参照してください。

1.4.5 LW_StartKeepList(保管フォルダ内の帳票一覧開始)

記述形式

```
int LW_StartKeepList(int iServerApiHandle,  
char * lpKeepFolder)
```

機能

指定された保管フォルダ内にある帳票一覧情報の取得開始を行い、識別子を返します。この識別子を帳票一覧識別子と呼びます。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

lpKeepFolder

保管フォルダの論理パスを指定します。本情報の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

復帰値

0以外

正常終了しました。

この復帰値が帳票一覧識別子になります。

0

異常終了しました。



注意

- 指定された保管フォルダにある帳票数、帳票一覧などの情報を取得する前に必ず、一度本APIを実行してください。
- 本APIを実行したあと、帳票一覧の処理が完了したら、必ず、LW_EndKeepList(保管フォルダ内の帳票一覧終了)を実行してください。LW_EndKeepList(保管フォルダ内の帳票一覧終了)を実行しないと、領域が解放されない場合があります。
また、本APIを一度実行した場合、LW_EndKeepList(保管フォルダ内の帳票一覧終了)を実行しないで再度本APIを実行すると、エラーになります。



参考

異常終了した場合に以下のサーバ機能APIを実行すると、エラーの詳細を取得することができます。

エラーコードの取得

LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)



LW_GetServerApiErrCodeについては、“1.3.1 LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)”を参照してください。

エラーメッセージの取得

LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)



LW_GetServerApiErrMsgについては、“1.3.2 LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)”を参照してください。

1.4.6 LW_EndKeepList(保管フォルダ内の帳票一覧終了)

記述形式

```
int LW_EndKeepList(int iServerApiHandle,  
                  int iStartKeepListHandle)
```

機能

帳票一覧取得の終了処理を行います。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

iStartKeepListHandle

帳票一覧識別子を指定します。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。



注意

- ・ 帳票一覧の処理が完了したら、必ず、本APIを実行してください。本APIを実行しないと、領域が解放されない場合があります。
- ・ 本APIに指定した帳票一覧識別子は、本API実行後、使用できなくなります。



参考

異常終了した場合に以下のサーバ機能APIを実行すると、エラーの詳細を取得することができます。

エラーコードの取得

LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)



LW_GetServerApiErrCodeについては、“[1.3.1 LW_GetServerApiErrCode\(サーバ機能APIエラーコード取得\)](#)”を参照してください。

エラーメッセージの取得

LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)



LW_GetServerApiErrMsgについては、“[1.3.2 LW_GetServerApiErrMsg\(サーバ機能APIエラーメッセージ取得\)](#)”を参照してください。

1.4.7 LW_GetKeepListCount(保管フォルダ内の帳票数取得)

記述形式

```
int LW_GetKeepListCount (int      iServerApiHandle,  
                          int      iStartKeepListHandle,  
                          int *    lpKeepListCount)
```

機能

保管フォルダ内にある帳票数を取得します。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

iStartKeepListHandle

帳票一覧識別子を指定します。

lpKeepListCount

帳票数を格納するための領域を指定します。領域は、呼び出し元で獲得してください。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。



参考

異常終了した場合に以下のサーバ機能APIを実行すると、エラーの詳細を取得することができます。

エラーコードの取得

LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)



LW_GetServerApiErrCodeについては、“[1.3.1 LW_GetServerApiErrCode\(サーバ機能APIエラーコード取得\)](#)”を参照してください。

エラーメッセージの取得

LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)



LW_GetServerApiErrMsgについては、“1.3.2 LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)”を参照してください。

1.4.8 LW_GetKeepListItem(保管フォルダ内の帳票一覧取得)

記述形式

```
int LW_GetKeepListItem(int          iServerApiHandle,
                       int          iStartKeepListHandle,
                       int          iKeepListIndex,
                       LPKPLINFO    lpKPLInfo)
```

機能

帳票の一覧情報を取得します。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

iStartKeepListHandle

帳票一覧識別子を指定します。

iKeepListIndex

取得したい帳票が格納されているインデックスを0から「帳票数 - 1」までの数値で指定します。

範囲外の値を指定した場合、エラーになります。

lpKPLInfo

帳票一覧を取得するためのKPLINFO構造体 (帳票情報構造体)のアドレスを指定します。

KPLINFO構造体の領域は、呼び出し元で獲得してください。

KPLINFO構造体の「usl_Length」は、必ず指定してください。KPLINFO構造体の「usl_Length」を指定しないと、エラーになります。

KPLINFO構造体を、以下に示します。

```
typedef struct KeepListInfo
{
unsigned short  usl_Length;           /*領域長                */
char           cl_Rsv1[2];           /*リザーブ              */
unsigned short  usl_Rsv2;           /*リザーブ              */
char           cl_Rsv3[2];           /*リザーブ              */
char           cl_Title[64 + 4];     /*帳票名                */
char           cl_SubTitle[64 + 4];  /*コメント              */
char           cl_Comment1[64 + 4]; /*備考1                 */
char           cl_Comment2[64 + 4]; /*備考2                 */
char           cl_Comment3[64 + 4]; /*備考3                 */
char           cl_Comment4[64 + 4]; /*備考4                 */
char           cl_SplFile[260 + 4]; /*帳票の論理パス名     */
char           cl_OwnerName[64 + 4]; /*作成者名              */
char           cl_AddDate[16 + 4];  /*登録日時              */
char           cl_CreateDate[16 + 4]; /*作成日時              */
}
```

```

char      cl_LastAcDate[16 + 4]; /*最終参照日時          */
char      cl_TermDate[10 + 2];  /*登録有効期限          */
char      cl_LocalSave;        /*ファイリング依頼      */
char      cl_IndexSearch;      /*抜き出し検索ファイルの有無 */
char      cl_DeIType;          /*削除対象              */
char      cl_PrtType;          /*リモート印刷依頼      */
char      cl_MemType;          /*帳票記入情報の有無    */
char      cl_F66Type;          /*高速印刷ファイルの有無 */
char      cl_Polling;          /*ポーリング印刷依頼    */
char      cl_LocalPrint;       /*ローカル印刷依頼      */
unsigned short usl_AccessNum;   /*アクセス回数          */
char      cl_Rsv5[2];          /*リザーブ              */
unsigned long  ull_AllPageNum;  /*全ページ数            */
char      cl_SplId[16 + 4];    /*帳票ID                */
char      cl_PaperOrient;      /*印刷用紙の向き        */
char      cl_PaperSize;        /*印刷用紙サイズ        */
char      cl_Rsv6[2];          /*リザーブ              */
unsigned short usl_PrintWidth;  /*印刷横倍率            */
char      cl_Rsv7[2];          /*リザーブ              */
unsigned short usl_PrintHeight; /*印刷縦倍率            */
char      cl_Rsv8[2];          /*リザーブ              */
char      cl_Rsv9[156];        /*リザーブ              */
} KPLINFO;
typedef KPLINFO* LPKPLINFO;

```

KPLINFO構造体の説明

メンバ変数	項目	説明
usl_Length	領域長	構造体のサイズを指定します。 本APIを実行する前に、呼び出し元でsizeof(KPLINFO)を実行してください。
cl_Rsv1	リザーブ	—
usl_Rsv2	リザーブ	—
cl_Rsv3	リザーブ	—
cl_Title	帳票名	帳票名が設定されます。
cl_SubTitle	コメント	コメントが設定されます。
cl_Comment1	備考1	備考1が設定されます。
cl_Comment2	備考2	備考2が設定されます。
cl_Comment3	備考3	備考3が設定されます。
cl_Comment4	備考4	備考4が設定されます。
cl_SplFile	帳票の論理パス名	帳票の論理パス名が設定されます。
cl_OwnerName	作成者名	作成者名が設定されます。
cl_AddDate	登録日時	登録日時が設定されます。
cl_CreateDate	作成日時	作成日時が設定されます。
cl_LastAcDate	最終参照日時	最終参照日時が設定されます。
cl_TermDate	登録有効期限	登録有効期限が設定されます。
cl_LocalSave	ファイリング依頼	ファイリング依頼が設定されます。 0 : ファイリング未 1 : ファイリング済
cl_IndexSearch	抜き出し検索ファイルの有無	抜き出し検索ファイルの有無が設定されます。

メンバ変数	項目	説明
		0 : 無 1 : 有
cl_DelType	削除対象	削除対象が設定されます。 0 : 有効期限を過ぎても削除対象としない 1 : 有効期限を過ぎたら削除対象とする
cl_PrtType	リモート印刷依頼	リモート印刷依頼が設定されます。 0 : 印刷未 1 : 印刷済
cl_MemType	帳票記入情報の有無	帳票記入情報の有無が設定されます。 0 : 無 1 : 有
cl_F66Type	高速印刷ファイルの有無	VSPシリーズに印刷する富士通ホスト帳票のファイル(高速印刷ファイル)の有無が設定されます。(Windows版のみ) 0 : 無 1 : 有
cl_Polling	ポーリング印刷依頼	ポーリング印刷依頼が設定されます。 0 : 印刷未 1 : 印刷済
cl_LocalPrint	ローカル印刷依頼	ローカル印刷依頼が設定されます。 0 : 印刷未 1 : 印刷済
usl_AccessNum	アクセス回数	アクセス回数が設定されます。
cl_Rsv5[2]	リザーブ	—
ull_AllPageNum	全ページ数	全ページ数が設定されます。
cl_SplId[16+4]	帳票ID	帳票IDが設定されます。(Windows版のみ)
cl_PaperOrient	印刷用紙の向き	印刷する時の印刷用紙の向きが設定されます。 0 : 指定なし 1 : ポートレート 2 : ランドスケープ
cl_PaperSize	印刷用紙サイズ	印刷用紙サイズが設定されます。 0 : 指定なし 1 : Letter 8 1/2 × 11 インチ 5 : Legal 8 1/2 × 14 インチ 8 : A3 297 × 420 mm 9 : A4 210 × 297 mm 11 : A5 148 × 210 mm 12 : B4 (JIS) 250 × 354 13 : B5 (JIS) 182 × 257 mm 43 : Japanese Postcard 100 × 148 mm 66 : A2 420 × 594 mm 70 : A6 105 × 148 mm
cl_Rsv6[2]	リザーブ	—
usl_PrintWidth	印刷横倍率	印刷横倍率(%)が設定されます。
cl_Rsv7[2]	リザーブ	—

メンバ変数	項目	説明
usl_PrintHeight	印刷縦倍率	印刷縦倍率(%)が設定されます。
cl_Rsv8[2]	リザーブ	—
cl_Rsv9[156]	リザーブ	—

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

注意

指定した保管フォルダの全帳票一覧情報を取得したい場合、インデックスを0から「帳票数 - 1」までインクリメントして、本APIを帳票数分実行してください。

参考

異常終了した場合に以下のサーバ機能APIを実行すると、エラーの詳細を取得することができます。

エラーコードの取得

LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)



LW_GetServerApiErrCodeについては、“[1.3.1 LW_GetServerApiErrCode\(サーバ機能APIエラーコード取得\)](#)”を参照してください。

エラーメッセージの取得

LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)



LW_GetServerApiErrMsgについては、“[1.3.2 LW_GetServerApiErrMsg\(サーバ機能APIエラーメッセージ取得\)](#)”を参照してください。

1.4.9 LW_DeleteKeepFile(保管フォルダ内の帳票の削除)

記述形式

```
int LW_DeleteKeepFile(int      iServerApiHandle,
                      char *   lpKeepFile)
```

機能

保管フォルダ内の帳票を削除します。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

lpKeepFile

削除する帳票の論理パスを指定します。本情報の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

注意

本APIは、削除対象の帳票名をすべて取得し、LW_EndKeepList(保管フォルダ内の帳票一覧終了)を呼び出したあとに実行してください。

参考

異常終了した場合に以下のサーバ機能APIを実行すると、エラーの詳細を取得することができます。

エラーコードの取得

LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)



LW_GetServerApiErrCodeについては、“[1.3.1 LW_GetServerApiErrCode\(サーバ機能APIエラーコード取得\)](#)”を参照してください。

エラーメッセージの取得

LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)



LW_GetServerApiErrMsgについては、“[1.3.2 LW_GetServerApiErrMsg\(サーバ機能APIエラーメッセージ取得\)](#)”を参照してください。

1.4.10 LW_ChangeKeepFile(保管フォルダ内の帳票情報の変更)

記述形式

```
int LW_ChangeKeepFile(int          iServerApiHandle,  
                      char *      lpKeepFile,  
                      LPMNGCHANGE lpMngChange)
```

機能

保管フォルダ内の帳票情報を変更します。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

lpKeepFile

帳票情報を変更したい帳票の論理パスを指定します。本情報の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

lpMngChange

帳票管理情報を変更するためのMNGCHANGE構造体 (帳票変更情報構造体)のアドレスを、指定します。

MNGCHANGE構造体のメンバ変数は、必ずすべてを指定してください。

MNGCHANGE構造体の「usc_Length」を指定しないと、エラーになります。

MNGCHANGE構造体を、以下に示します。

```
typedef struct ManageChange
{
unsigned short  usc_Length;           /*領域長                */
char           cc_Resv1[2];         /*リザーブ              */
unsigned long   ulc_Title;          /*帳票名変更フラグ     */
char           cc_Title[64 + 4];    /*帳票名                */
unsigned long   ulc_SubTitle;       /*コメント変更フラグ   */
char           cc_SubTitle[64 + 4]; /*コメント              */
unsigned long   ulc_OwnerName;      /*作成者名変更フラグ  */
char           cc_OwnerName[64 + 4]; /*作成者名              */
unsigned long   ulc_Comment1;       /*備考1変更フラグ     */
char           cc_Comment1[64 + 4]; /*備考1                */
unsigned long   ulc_Comment2;       /*備考2変更フラグ     */
char           cc_Comment2[64 + 4]; /*備考2                */
unsigned long   ulc_Comment3;       /*備考3変更フラグ     */
char           cc_Comment3[64 + 4]; /*備考3                */
unsigned long   ulc_Comment4;       /*備考4変更フラグ     */
char           cc_Comment4[64 + 4]; /*備考4                */
unsigned long   ulc_CreateDate;     /*作成日時変更フラグ  */
char           cc_CreateDate[16 + 4]; /*作成日時              */
unsigned long   ulc_AddDate;        /*登録日時変更フラグ  */
char           cc_AddDate[16 + 4];  /*登録日時              */
unsigned long   ulc_LastAcDate;     /*最終参照日時変更フラグ */
char           cc_LastAcDate[16 + 4]; /*最終参照日時          */
unsigned long   ulc_TermDate;       /*登録有効期限変更フラグ */
char           cc_TermDate[10 + 2]; /*登録有効期限          */
unsigned long   ulc_AccessNum;      /*アクセス回数変更フラグ */
unsigned short usc_AccessNum;       /*アクセス回数          */
char           cc_Resv2[2];         /*リザーブ              */
unsigned long   ulc_DelType;        /*削除対象変更フラグ  */
char           cc_DelType;         /*削除対象              */
char           cc_Resv3[3];         /*リザーブ              */
unsigned long   ulc_PrtType;        /*リモート印刷依頼変更フラグ */
char           cc_PrtType;         /*リモート印刷依頼      */
char           cc_Resv4[3];         /*リザーブ              */
unsigned long   ulc_Polling;        /*ポーリング印刷依頼変更フラグ */
char           cc_Polling;         /*ポーリング印刷依頼    */
char           cc_Resv5[3];         /*リザーブ              */
unsigned long   ulc_LocalPrint;     /*ローカル印刷依頼変更フラグ */
char           cc_LocalPrint;      /*ローカル印刷依頼      */
char           cc_Resv5_1[3];       /*リザーブ              */
char           cc_Resv6[388];       /*リザーブ              */
} MNGCHANGE;
typedef MNGCHANGE* LPMNGCHANGE;
```

MNGCHANGE構造体の説明

メンバ変数	項目	説明
usc_Length	領域長	構造体のサイズを指定します。 本APIを実行する前に、呼び出し元でsizeof(MNGCHANGE)を実行してください。
cc_Resv1	リザーブ	NULLを指定します。
ulc_Title	帳票名変更フラグ	帳票名を変更するかどうかを、0か1の数値で指定します。 0: 変更しない 1: 変更する
cc_Title	帳票名	変更する帳票名を指定します。指定できる帳票名の長さは、運用形態によって異なります。 ・ 富士通ホストで作成した帳票の場合は、40バイト以内の文字列で指定します。 ・ 富士通ホストで作成した帳票以外の場合は、64バイト以内の文字列で指定します。
ulc_SubTitle	コメント変更フラグ	コメントを変更するかどうかを、0か1の数値で指定します。 0: 変更しない 1: 変更する
cc_SubTitle	コメント	変更するコメントを指定します。指定できるコメントの長さは、運用形態によって異なります。 ・ 富士通ホストで作成した帳票の場合は、40バイト以内の文字列で指定します。 ・ 富士通ホストで作成した帳票以外の場合は、64バイト以内の文字列で指定します。
ulc_OwnerName	作成者名変更フラグ	作成者名を変更するかどうかを、0か1の数値で指定します。 0: 変更しない 1: 変更する
cc_OwnerName	作成者名	変更する作成者名を指定します。指定できる作成者名の長さは、運用形態によって異なります。 ・ 富士通ホストで作成した帳票の場合は、16バイト以内の文字列で指定します。 ・ 富士通ホストで作成した帳票以外の場合は、64バイト以内の文字列で指定します。
ulc_Comment1	備考1変更フラグ	備考1を変更するかどうかを、0か1の数値で指定します。 0: 変更しない 1: 変更する
cc_Comment1	備考1	変更する備考1を指定します。 富士通ホストで作成された帳票の場合、本情報は無視されます。 変更する備考1の長さは、64バイト以内で指定します。
ulc_Comment2	備考2変更フラグ	備考2を変更するかどうかを、0か1の数値で指定します。

メンバ変数	項目	説明
		0: 変更しない 1: 変更する
cc_Comment2	備考2	変更する備考2を指定します。 富士通ホストで作成された帳票の場合、本情報は無視されます。 変更する備考2の長さは、64バイト以内で指定します。
ulc_Comment3	備考3変更フラグ	備考3を変更するかどうかを、0か1の数値で指定します。 0: 変更しない 1: 変更する
cc_Comment3	備考3	変更する備考3を指定します。 富士通ホストで作成された帳票の場合、本情報は無視されます。 変更する備考3の長さは、64バイト以内で指定します。
ulc_Comment4	備考4変更フラグ	備考4を変更するかどうかを、0か1の数値で指定します。 0: 変更しない 1: 変更する
cc_Comment4	備考4	変更する備考4を指定します。 富士通ホストで作成された帳票の場合、本情報は無視されます。 変更する備考4の長さは、64バイト以内で指定します。
ulc_CreateDate	作成日時変更フラグ	作成日時を変更するかどうかを、0か1の数値で指定します。 0: 変更しない 1: 変更する
cc_CreateDate	作成日時	変更する作成日時の文字列を、「YYYY/MM/DD HH:MM」の形式で指定します。
ulc_AddDate	登録日時変更フラグ	登録日時を変更するかどうかを、0か1の数値で指定します。 0: 変更しない 1: 変更する
cc_AddDate	登録日時	変更する登録日時の文字列を、「YYYY/MM/DD HH:MM」の形式で指定します。
ulc_LastAcsDate	最終参照日時変更フラグ	最終参照日時を変更するかどうかを、0か1の数値で指定します。 0: 変更しない 1: 変更する
cc_LastAcsDate	最終参照日時	変更する最終参照日時の文字列を、「YYYY/MM/DD HH:MM」の形式で指定します。
ulc_TermDate	登録有効期限変更フラグ	登録有効期限を変更するかどうかを、0か1の数値で指定します。 0: 変更しない 1: 変更する

メンバ変数	項目	説明
cc_TermDate	登録有効期限	変更する登録有効期限の文字列を、「YYYY/MM/DD」の形式で指定します。
ulc_AccessNum	アクセス回数変更フラグ	アクセス回数を変更するかどうかを、0か1の数値で指定します。 0: 変更しない 1: 変更する
usc_AccessNum	アクセス回数	変更するアクセス回数を0から65535までの数値で指定します。
cc_Resv2	リザーブ	NULLを指定します。
ulc_DelType	削除対象変更フラグ	削除対象を変更するかどうかを、0か1の数値で指定します。 0: 変更しない 1: 変更する
cc_DelType	削除対象	削除対象とするかどうかを、0か1の数値で指定します。 0: 有効期限を過ぎたら削除対象としない 1: 有効期限を過ぎたら削除対象とする
cc_Resv3	リザーブ	NULLを指定します。
ulc_PrtType	リモート印刷依頼変更フラグ	リモート印刷依頼を変更するかどうかを、0か1の数値で指定します。 0: 変更しない 1: 変更する
cc_PrtType	リモート印刷依頼	リモート印刷依頼を、0か1の数値で指定します。 0: リモート印刷未 1: リモート印刷済
cc_Resv4	リザーブ	NULLを指定します。
ulc_Polling	ポーリング印刷依頼変更フラグ	ポーリング印刷依頼を変更するかどうかを、0か1の数値で指定します。 0: 変更しない 1: 変更する
cc_Polling	ポーリング印刷依頼	ポーリング印刷依頼を、0か1の数値で指定します。 0: ポーリング印刷未 1: ポーリング印刷済
cc_Resv5	リザーブ	NULLを指定します。
ulc_LocalPrint	ローカル印刷依頼変更フラグ	ローカル印刷依頼を変更するかどうかを、0か1の数値で指定します。 0: 変更しない 1: 変更する
cc_LocalPrint	ローカル印刷依頼	ローカル印刷依頼を、0か1の数値で指定します。 0: ローカル印刷未 1: ローカル印刷済
cc_Resv5_1	リザーブ	NULLを指定します。
cc_Resv6	リザーブ	NULLを指定します。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

注意

本APIは、変更対象の帳票名をすべて取得し、LW_EndKeepList(保管フォルダ内の帳票一覧終了)を呼び出した後に実行してください。

参考

異常終了した場合に以下のサーバ機能APIを実行すると、エラーの詳細を取得することができます。

エラーコードの取得

LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)



LW_GetServerApiErrCodeについては、“[1.3.1 LW_GetServerApiErrCode\(サーバ機能APIエラーコード取得\)](#)”を参照してください。

エラーメッセージの取得

LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)



LW_GetServerApiErrMsgについては、“[1.3.2 LW_GetServerApiErrMsg\(サーバ機能APIエラーメッセージ取得\)](#)”を参照してください。

1.4.11 LW_CreatePDFFile(帳票のPDF変換) <Solaris版のみ>

記述形式

```
int LW_CreatePDFFile(int      iServerApiHandle,  
                    char *   lpSplFilePath,  
                    char *   lpPDFDirPath,  
                    char *   lpPDFFileName)
```

機能

帳票をSPL形式からPDF形式に変換します。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

lpSplFilePath

PDFに変換するList Works帳票の論理パスを指定します。必ず指定します。

本情報の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

lpPDFDirPath

PDFファイルを格納するフォルダの物理パスを指定します。必ず指定します。

本情報の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

フォルダの物理パスには、実際に存在するパスを指定してください。

lpPDFFileName

生成するPDFファイルの名前を指定します。本情報の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

本情報を省略する場合はNULLを指定します。省略された場合は、lpSplFilePathで指定したList Works帳票のファイル名の拡張子を“.pdf”に変更したファイル名で作成します。

なお、指定したPDFファイルの名前に拡張子“.pdf”が付加されていない場合でも、自動的に拡張子“.pdf”が付加したファイル名で作成します。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。



注意

- LW_CreatePDFFile()を使用するには、List WorksサーバにList Creator Enterprise Editionがインストールされている必要があります。
- 変換が可能な最大ページ数は8000ページです。ページ数が8000ページを超える帳票を指定した場合はエラーになります。大量ページのPDF変換は、サーバの負荷が非常に高くなるため、8000ページを上限としています。
- PDF変換された帳票を見るためには、Adobe Readerが必要です。
- 変換時にフォントはエンベッドされません。このため、環境によってはフォントが正しく表示されないことがあります。
- lpPDFDirPathおよび、lpPDFFileNameで指定されたファイルと同一のファイルが存在する場合、そのファイルに上書きします。
- lpPDFDirPath および、lpPDFFileName に指定したファイルの物理パスの合計が、256バイトを超えた場合はエラーになります。
- 帳票に記入情報が設定されている場合は、PDF変換時に記入情報は反映されません。
- PDFに変換する帳票は、保管フォルダ内に登録されている必要があります。
- List CreatorのPDFフォント登録機能には対応していません。MS明朝、MSゴシック以外のフォントは、すべてMS明朝として変換されます。
- 変換後のPDFファイルは、変換前の帳票と比べて、面塗り属性、線属性、バーコードなどが多少異なる場合があります。



PDF変換時の制限事項や注意事項については、“List Creatorのマニュアル”も合わせて参照してください。

- PDF変換後のバーコードは、用紙、リーダ、出力装置の解像度、および状態により精度が変わるため、実際の運用を行う前に、読み込めることを確認してから使用してください。
- 仕分け機能でWindows版からSolaris版に一般アプリ帳票が登録された場合、一般アプリ帳票の図形データ(表、罫線など)およびバーコードは変換されません。

- List CreatorデザイナーやFORMのPowerFORMツールで作成したベクトルオーバーレイ(KOL6)の場合、矩形オーバーレイ文字は表示されません。
- オーバーレイはベクトルオーバーレイ、ドットオーバーレイの順に変換されます。
- 変換後のPDFファイルは、印刷データ/オーバーレイに設定されている色が有効となります。設定されていない場合はモノクロとなります。
- ID印刷によって出力される情報はPDF変換されません。
- 組み込みメディアがクリッピングされている場合、解像度に関わらず72dpiで変換されます。このため、変換後のPDFファイルでは、組み込みメディアが変換前の帳票と異なる場合があります。
- エラーが発生し、エラーの原因が特定できない場合は、リスト管理サーバの実行履歴を参照してください。

参考

異常終了した場合に以下のサーバ機能APIを実行すると、エラーの詳細を取得することができます。

エラーコードの取得

LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)



LW_GetServerApiErrCodeについては、“[1. 3. 1 LW_GetServerApiErrCode \(サーバ機能APIエラーコード取得\)](#)”を参照してください。

エラーメッセージの取得

LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)



LW_GetServerApiErrMsgについては、“[1. 3. 2 LW_GetServerApiErrMsg \(サーバ機能APIエラーメッセージ取得\)](#)”を参照してください。

1.4.12 LW_CreatePDFFileEx(帳票のPDF変換(セキュリティ情報指定))

記述形式

```
int LW_CreatePDFFileEx(int          iServerApiHandle,
                       char *       lpSplFilePath,
                       char *       lpPDFDirPath,
                       char *       lpPDFFileName,
                       LPPDFINFO    lpPDFInfo,
                       void *       reserve)
```

機能

帳票をSPL形式からPDF形式へ変換します。またセキュリティ情報などを指定することもできます。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

lpSplFilePath

PDFに変換するList Works帳票の論理パスを指定します。必ず指定します。

本情報の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

lpPDFDirPath

PDFファイルを格納するフォルダの物理パスを指定します。必ず指定します。

本情報の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

フォルダの物理パスには、実際に存在するパスを指定してください。

lpPDFFileName

生成するPDFファイルの名前を指定します。本情報の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

本情報を省略する場合はNULLを指定します。省略された場合は、lpSplFilePathで指定したList Works帳票のファイル名の拡張子を“.pdf”に変更したファイル名で作成します。

なお、指定したPDFファイルの名前に拡張子“.pdf”が付加されていない場合でも、自動的に拡張子“.pdf”を付加したファイル名で作成します。

lpPDFInfo

PDFINFO構造体 (PDF変換情報構造体)のアドレスを指定します。

本情報を省略する場合はNULLを指定します。省略された場合は、デフォルト動作としてのPDF変換が行われます。

PDFINFO構造体を以下に示します。

```
typedef struct CreatePDFInfo
{
unsigned short  usp_Length;          /* 領域長 */
char           cp_OvlOrigin;        /* オーバレイ原点位置の参照方法 */
char           cp_Rsv1[1];          /* リザーブ */
char           cp_OpenPwd[32+4];     /* “文書を開く”パスワード */
char           cp_SecuPwd[32+4];     /* “セキュリティオプションの変更”パスワード */
int            ip_Print;             /* 印刷許可指定 */
int            ip_Modify;           /* 文書変更許可指定 */
int            ip_Select;           /* テキスト/グラフィックス選択許可指定 */
int            ip_Annotate;         /* 注釈/フォームフィールド追加変更許可指定 */
int            ip_Embed;            /* エンベッド指定 */
} PDFINFO;
typedef PDFINFO* LPPDFINFO;
```

lpPDFInfoにNULLを指定した場合の設定内容のデフォルト値は以下のとおりです。

設定内容	デフォルト値
オーバーレイ原点位置の参照方法	オーバーレイごとに保存してある帳票項目から参照します。
“文書を開く”パスワード	設定されません。
“セキュリティオプションの変更”パスワード	設定されません。
印刷許可指定	印刷を許可します。
文書変更許可指定	変更を許可します。
テキスト/グラフィックス選択許可指定	選択を許可します。
注釈/フォームフィールド追加変更許可指定	追加・変更を許可します。
エンベッド指定	埋め込みません。

reserve

予約されています。NULLを指定してください。

PDFINFO構造体の説明

メンバ変数	項目	説明
usp_Length	領域長	構造体のサイズを指定します。 本APIを実行する前に、呼び出し元でsizeof(PDFINFO)を実行してください。
cp_OvlOrigin	オーバーレイ原点位置の参照方法	オーバーレイ原点位置情報の参照方法を指定します。 0：オーバーレイごとに保存してある帳票項目から参照する 1：帳票名ごとに保存してある帳票項目から参照する List Worksクライアント環境設定の【帳票項目】タブで「帳票名ごとに利用する」を選択している場合は「1」を、「オーバーレイごとに利用する」を選択している場合は「0」を指定します。
cp_Rsv1	リザーブ	NULLを指定します。
cp_OpenPwd	“文書を開く”パスワード	PDFファイルを開くときのパスワードを32バイト以内の半角英数字、または記号(ASCIIコードの文字範囲)で指定します。最終文字にはNULLが設定されている必要があります。 その他の文字を指定した場合、また32バイトを超えたパスワードを指定した場合はエラーとなります。 指定しない場合パスワードは設定されません。
cp_SecuPwd	“セキュリティオプションの変更”パスワード	PDFファイルのセキュリティオプションを変更するときのパスワードを32バイト以内の半角英数字、または記号(ASCIIコードの文字範囲)で指定します。最終文字にはNULLが設定されている必要があります。 その他の文字を指定した場合、また32バイトを超えたパスワードを指定した場合はエラーとなります。 “文書を開く”パスワードと同じパスワードを指定した場合、この“セキュリティオプションの変更”パスワードは無効となります。 指定しない場合はパスワードなしでセキュリティオプションの変更ができるようになります。
ip_Print	印刷許可指定	PDFファイルの印刷を許可するかどうかを指定します。 0：印刷を許可する 1：印刷を許可しない
ip_Modify	文書変更許可指定	PDFファイルの文書の変更を許可するかどうかを指定します。 0：変更を許可する 1：変更を許可しない
ip_Select	テキスト/グラフィックス選択許可指定	PDFファイルのテキストとグラフィックスの選択を許可するかどうかを指定します。 0：選択を許可する 1：選択を許可しない
ip_Annotate	注釈/フォームフィールド追加変更許可指定	PDFファイルの注釈と、フォームフィールドの追加と変更を許可するかどうかを指定します。 0：追加・変更を許可する 1：追加・変更を許可しない

メンバ変数	項目	説明
ip_Embed	エンベッド指定	<p>PDFファイルに文字を埋め込むかどうかを指定します。</p> <p>0：埋め込まない 1：外字を埋め込む 2：すべての文字を埋め込む</p> <p>外字のエンベッドはList Worksに帳票を登録する時に、外字を文字コードとして登録した場合のみ有効となります。</p>

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

注意

- LW_CreatePDFFileEx()を使用するには、List WorksサーバにList Creator Enterprise Editionがインストールされている必要があります。
- PDF変換された帳票を見るためには、Adobe Readerが必要です。
- 変換が可能な最大ページ数は8000ページです。ページ数が8000ページを超える帳票を指定した場合はエラーになります。大量ページのPDF変換は、サーバの負荷が非常に高くなるため、8000ページを上限としています。
- Adobe Readerには、文書を変更する機能がありません。このため、本APIで「文書変更許可指定」および「注釈/フォームフィールド追加変更許可指定」に「許可する」を指定してPDF変換しても、Adobe Readerでは文書を変更することはできません。
- 本APIで「文書変更許可指定」および「注釈/フォームフィールド追加変更許可指定」に「許可する」を指定して変換したPDFファイルは、Adobe Readerで表示した場合、セキュリティ情報に「許可しない」と表示される場合があります。「許可しない」と表示された場合でも、指定した「文書変更許可指定」および「注釈/フォームフィールド追加変更許可指定」は、正常に設定されています。
- 外字のエンベッド指定をする場合、事前に以下の手順で設定を行う必要があります。
 1. Charset Managerにおける、List Creator連携時の設定
 2. List Creatorにおける、利用者定義文字の登録



外字のエンベッド指定をする場合の設定については“Charset Managerのマニュアル”および“List Creatorのマニュアル”を参照してください。

- 外字を含む帳票を変換する際に、「エンベッド指定」で「0:埋め込まない」を指定すると、PDFファイルが正しく表示されない場合があります。正しく表示されない場合は、「エンベッド指定」に「1:外字を埋め込む」、または「2:すべての文字を埋め込む」を指定してください。
- lpPDFDirPathおよび、lpPDFFileNameで指定されたファイルと同一のファイルが存在する場合、そのファイルに上書きします。
- lpPDFDirPathおよび、lpPDFFileNameに指定したファイルの物理パスの合計が、256バイトを超えた場合はエラーになります。
- 帳票に記入情報が設定されている場合は、PDF変換時に記入情報は反映されません。
- PDFに変換する帳票は、保管フォルダ内に登録されている必要があります。
- List CreatorのPDFフォント登録機能には対応していません。MS明朝、MSゴシック以外のフォントは、すべてMS明朝として変換されます。

- 変換後のPDFファイルは、変換前の帳票と比べて、面塗り属性、線属性、バーコードなどが多少異なる場合があります。



PDF変換時の制限事項や注意事項については、“List Creatorのマニュアル”も合わせて参照してください。

- PDF変換後のバーコードは、用紙、リーダ、出力装置の解像度、および状態により精度が変わるため、実際の運用を行う前に、読み込めることを確認してから使用してください。
- List CreatorデザイナやFORMのPowerFORMツールで作成したベクトルオーバーレイ(KOL6)の場合、矩形オーバーレイ文字は表示されません。
- オーバーレイはベクトルオーバーレイ、ドットオーバーレイの順に変換されます。
- 変換後のPDFファイルは、印刷データ/オーバーレイに設定されている色が有効となります。設定されていない場合はモノクロとなります。
- ID印刷によって出力される情報はPDF変換されません。
- 組み込みメディアがクリッピングされている場合、解像度に関わらず72dpiで変換されます。このため、変換後のPDFファイルでは、組み込みメディアが変換前の帳票と異なる場合があります。

Windows版の場合

- 一般アプリ帳票のバーコードについては、バーコードリーダによる読み込みを保証していません。
- 保管フォルダの共有運用時には、PDFに変換する帳票の論理パスは、UNC名(¥¥サーバ名～)を指定する必要があります。
- エラーが発生し、その原因が特定できない場合は、リスト管理サーバのログ情報、およびList Worksサーバのイベントログを参照してください。

Solaris版の場合

- 仕分け機能でWindows版からSolaris版に一般アプリ帳票が登録された場合、一般アプリ帳票の図形データ(表、罫線など)およびバーコードは変換されません。
- エラーが発生し、エラーの原因が特定できない場合は、リスト管理サーバの実行履歴を参照してください。

参考

異常終了した場合に以下のサーバ機能APIを実行すると、エラーの詳細を取得することができます。

エラーコードの取得

LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)



LW_GetServerApiErrCodeについては、“1.3.1 LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)”を参照してください。

エラーメッセージの取得

LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)



LW_GetServerApiErrMsgについては、“1.3.2 LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)”を参照してください。

1.4.13 LW_SendMail(メール送信)

記述形式

```
int LW_SendMail(int          iServerApiHandle,
                 LPSENDINFO  lpMailInfo,
                 LPRTNINFO   lpErrInfo)
```

機能

電子メールを、指定された送信先に送信します。また、添付ファイルを指定することもできます。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

lpMailInfo

メール送信情報を格納したSENDINFO構造体 (メール送信情報構造体)のアドレスを指定します。

SENDINFO構造体のメンバ変数は、必ずすべてを指定してください。

SENDINFO構造体を、以下に示します。

```
typedef struct SendInfo
{
char          *iFromAddress;          /* 発信者アドレス */
unsigned char *iFromUserName;        /* 発信者の名前 */
char          **iToAddress;          /* 送信先アドレスのリスト */
long          iToAddressCount;       /* 送信先アドレス数 */
unsigned char *iSubject;             /* メールの表題 */
unsigned char *iMessage;            /* メールの本文 */
char          *iCharCode;           /* 文字列の文字コード系名 */
void          *iIconv_ext_exp;      /* リザーブ */
unsigned char **iAttachments;        /* 添付ファイルのパスのリスト */
long          iAttachmentsCount;     /* 添付ファイル数 */
char          *iAttachmentsFilenameCharCode; /* 添付ファイルの文字コード系名 */
long          iEncodeType;          /* MIMEのエンコードタイプ */
long          iIsPartial;           /* 分割メール送信 */
long          iMaxPartSize;         /* 分割された1メール分の最大バイト数 */
long          iPartSendTerm;        /* 分割したメールの送信間隔 */
char          *iSMTPServerName;     /* SMTPサーバ名 */
long          iPort;                /* SMTPサーバのポート番号 */
long          iTimeout;             /* SMTPサーバのタイムアウト秒数 */
char          cc_Resv[188];         /* リザーブ */
} SENDINFO;
typedef SENDINFO* LPSENDINFO;
```

lpErrInfo

RTNINFO構造体(メール送信復帰情報構造体)のアドレスを指定します。

RTNINFO構造体を、以下に示します。

```
typedef struct RtnInfo
{
long mIndex;          /* エラー検出時の送信先アドレスのインデックス値 */
char cc_Resv[60];
} RTNINFO;
typedef RTNINFO* LPRTNINFO;
```

SENDINFO構造体の説明

メンバ変数	項目	説明
*iFromAddress	発信者アドレス (注1)	必ず指定してください。 発信者のメールアドレスの格納先を指定します。 指定できるアドレスは、1つです。 格納先の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。 以下に指定例を示します。 指定例) abc@mail.xxx.com
*iFromUserName	発信者の名前 (注1)	メール発信者の名前の格納先を指定します。 格納先の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。 受信先ではメール発信者に、本情報とiFromAddressで指定された文字列から組み立てた、以下の形式の文字列が表示されます。 形式 : iFromUserName<iFromAddress> 本情報に「発信者の名前」を指定しない場合、以下の形式で表示されます。 形式 : iFromAddress 文字列の長さは、iFromUserNameとiSubjectを合わせて268435455バイト以内で指定します。 指定する名前の文字コード系名はiCharCodeで指定します。(注2)(注5) 本情報は省略可能です。省略する場合は、空文字列へのポインタを指定します。(注3)
**iToAddress	送信先アドレスのリスト	必ず指定してください。 送信先メールアドレスのリストを指定します。 指定形式の詳細は、「iToAddressの指定形式」を参照してください。
iToAddressCount	送信先アドレス数	必ず指定してください。 iToAddressで指定した送信先アドレスの数を1から2147483647までの数値で指定します。
*iSubject	メールの表題 (注1)	メールの表題の格納先を指定します。格納先の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。 文字列の長さは、iFromUserNameとiSubjectをあわせて268435455バイト以内で指定します。 指定する表題の文字コード系名はiCharCodeで指定します。(注2) 本情報は省略可能です。省略する場合は、空文字列へのポインタを指定します。(注3)
*iMessage	メールの本文 (注1)	メールの本文の格納先を指定します。格納先の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

メンバ変数	項目	説明
		本文が複数行の場合は、行の終わりにCR(0x0d)、LF(0x0a)を設定します。 文字列の長さは、2147483647バイト以内で指定します。 文字列の文字コード系名はiCharCodeで指定します。(注2) 本情報は省略可能です。省略する場合は、空文字列へのポインタを指定します。(注3)
*iCharCode	文字列の文字コード系名	必ず指定してください。 メールヘッダ(iFromUserName, iSubject)と、メール本文(iMessage)で渡す文字列の文字コード系名の格納先を指定します。 格納先の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。 指定可能な文字コード系名については、“iCharCodeパラメタで指定可能な値”を参照してください。
*iConv_ext_exp	リザーブ	NULLを指定します。
**iAttachments	添付ファイルのパスのリスト (注1)	添付ファイルのパスのリストを指定します。(注4) 指定形式の詳細は“iAttachmentsの指定形式”を参照してください。 添付ファイルがない場合、iAttachmentsCountで0を指定します。この場合、本リストは無視されます。
iAttachmentsCount	添付ファイル数	iAttachmentsで指定された添付ファイルのパスの数を0から2147483647までの数値で指定します。添付ファイルがない場合は0を指定します。
*iAttachmentsFilenameCharCode	添付ファイル名の文字コード系名	iAttachmentsで指定される添付ファイル名の文字コード系名の格納先を指定します。格納先の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。 指定可能な文字コード系名については、“iCharCodeパラメタで指定可能な値”を参照してください。 本情報にNULLを指定した場合は、iCharCodeで指定された文字コード系名を使用します。
iEncodeType	MIMEのエンコードタイプ	1(MIMEのエンコードタイプ:base64)を指定します。
iIsPartial	分割メール送信	分割メール送信するかどうかを、1か2の数値で指定します。 1: 分割する 2: 分割しない
iMaxPartSize	分割した1メール分の最大バイト数	iIsPartialで「分割する」を指定した場合、分割した1メール分の最大バイト数をキロバイト単位で1から2097151までの数値で指定します。

メンバ変数	項目	説明
		iIsPartialで「分割しない」を指定した場合は、本情報の値は無視されます。
iPartSendTerm	分割したメールの送信間隔	iIsPartialで「分割する」を指定した場合、分割したメールの送信間隔を秒単位で0から2147483647までの数値で指定します。1以上の値を指定することをお勧めします。 iIsPartialで「分割しない」を指定した場合は、本情報の値は無視されます。
*iSMTPServerName	SMTPサーバ名	必ず指定してください。 メール送信のSMTPサーバ名の格納先を指定します。格納先の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。 SMTPサーバ名は、FQDN名で指定します。以下に指定例を示します。 指定例) smtp. foo. xxx. com
Iport	SMTPサーバのポート番号	SMTPサーバのポート番号を指定します。0が指定された場合は、デフォルト値(25)が指定されたものとみなします。 デフォルト値(25)がすでに使用されている場合、ポート番号は、以下の範囲で未使用の値を指定してください。 Windows版の場合: 5001～32768 Solaris版の場合: 1024～32767
Itimeout	SMTPサーバのタイムアウト秒数	<ul style="list-style-type: none"> Windows版の場合 SMTPサーバ接続のタイムアウト秒数を0から2147483647までの数値で指定します。 <ul style="list-style-type: none"> Solaris版の場合 SMTPサーバ接続のタイムアウト秒数を0から100,000,000までの数値で指定します。 <p>Windows版、Solaris版ともに0が指定された場合は、デフォルト値(600秒)が指定されたものとみなします。</p>
cc_Resv	リザーブ	NULLを指定します。

注1:

次のパラメタで指定する情報のバイト数の合計が700MB以下となるようにしてください。700MBを超えるとメール送信に失敗する場合があります。

- 発信者アドレス(iFromAddress)
- 発信者の名前(iFromUserName)
- メールを表題(iSubject)
- メールの本文(iMessage)
- 添付ファイルのサイズの合計(iAttachmentsで指定する各ファイル名のファイルサイズの合計)

注2:

指定された格納先の文字列を、JISコードに変換し送信します。半角カナ文字は、全角カナ文字に変換されます。また、変換元コードの文字に対応する文字が、変換先文字コード(JIS)にない場合は、アンダースコア(_)に変換されます。

注3:

「空文字列へのポインタ」とは、先頭がNULLバイトである文字配列へのポインタのことです。

注4:

添付ファイル名に半角カナ文字が含まれていた場合、メール送信時にファイル名の半角カナ文字を、全角カナ文字に変換します。このため、メール送信時に指定した添付ファイル名と、受信時のファイル名が異なる場合があります。

注5:

- 半角カナ文字を含む場合は、40バイト以内で指定する必要があります。
- コロン(:)は(":")に変換される場合があります。

RTNINFO構造体の説明

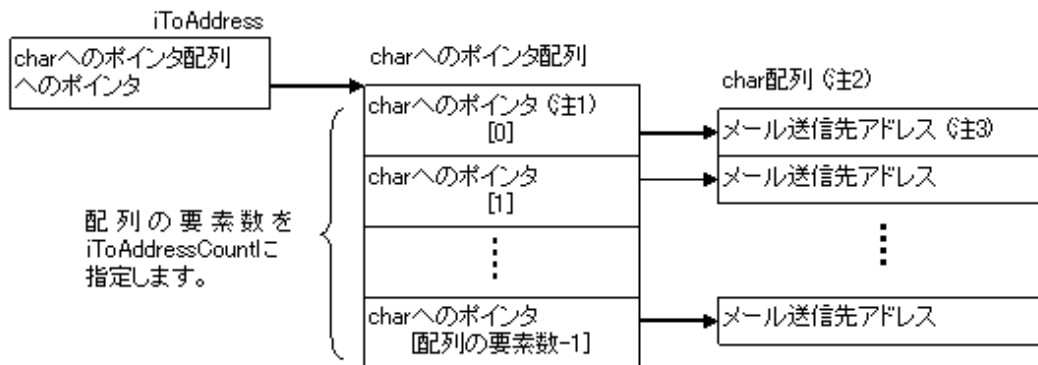
メンバ変数	項目	説明
mIndex	エラー検出時の送信先アドレスのインデックス値	SMTPサーバへのメール送信依頼時にエラーを検出した場合、iToAddressが指す送信先アドレスリストのインデックス値を返します。このインデックス値は、エラーを検出した送信先メールアドレスの格納先を指しています。iToAddressで指定した最初のアドレスの送信先メールアドレスでエラーが発生した場合、0が設定されます。(注1)

注1:

SMTPサーバへのメール送信依頼は、iToAddressで指定されたリストの最初の送信先メールアドレスから順番に行われます。このとき、途中でエラーを検出した場合、すべての処理を中断し、エラー復帰します。

この復帰時に、エラーを検出したメール送信先アドレスを指す、iToAddressのポインタ配列の添字をmIndexに設定します。この値から、エラーが発生した送信先、および、送信依頼が完了した送信先を知ることができます。

iToAddressの指定形式



注1:

メール送信依頼時にエラーを検出した場合、エラーを検出した送信先メールアドレスを示す本配列の添字の値が、RTNINFO構造体のmIndexに設定されます。

注2:

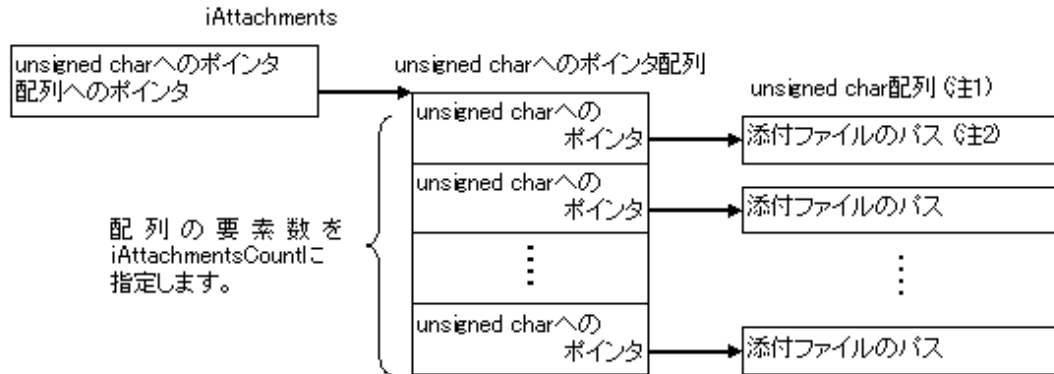
各配列の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

注3:

メール送信先アドレスの指定例を以下に示します。

指定例) aaa@mail.xxx.com

iAttachmentsの指定形式



注1:各配列の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

注2:添付ファイルのパスの指定例を以下に示します。

— Windows版の場合

C:¥work¥report.pdf

— Solaris版の場合

/tmp/report.pdf

iCharCode/パラメタで指定可能な値

指定値	コード系名	備考
sjis	シフトJIS (SJISMS, R90,SJISDOS)	“SJIS”の代表コード系名 (注1) デフォルト値は、SJISMSです。
sjisdos	シフトJIS (DOS)	
sjisms	シフトJIS (MS)	
U90	EUC (U90, S90)	“U90”の代表コード系名 (注1) デフォルト値は、U90です。
S90	EUC (S90)	

注1:

代表コード系名を指定した場合、デフォルト値のコード系名として解釈します。Charset Managerがインストールされている場合、Charset Managerが提供する変換仕様変更ユーティリティで、代表コード系名のデフォルト値を変更することができます。変更した場合、変更後のデフォルト値に従います。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

参考

- ・ リスト管理サーバの環境設定でメールの送信サイズを制限している場合は、リスト管理サーバ環境設定に設定されている値が有効となります。
- ・ 添付ファイルを複数指定した場合は、添付ファイルの合計サイズと制限サイズを比較します。
- ・ 異常終了した場合に以下のサーバ機能APIを実行すると、エラーの詳細を取得することができます。

エラーコードの取得

LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)



LW_GetServerApiErrCodeについては、“[1.3.1 LW_GetServerApiErrCode\(サーバ機能APIエラーコード取得\)](#)”を参照してください。

エラーメッセージの取得

LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)



LW_GetServerApiErrMsgについては、“[1.3.2 LW_GetServerApiErrMsg\(サーバ機能APIエラーメッセージ取得\)](#)”を参照してください。

1.4.14 LW_CopyKeepFile(保管フォルダ内の帳票の複写)

記述形式

```
int LW_CopyKeepFile(int iServerApiHandle,
                    char * lpSourceKeepFile,
                    char * lpTargetKeepFolder,
                    char * lpReserve,
                    int iReserve)
```

機能

保管フォルダ内の帳票を、指定された保管フォルダに複写します。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

lpSourceKeepFile

複写する帳票の論理パスを指定します。本情報の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

lpTargetKeepFolder

複写先の保管フォルダの論理パスを指定します。本情報の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

lpReserve

予約されています。NULLを指定してください。

iReserve

予約されています。0を指定してください。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。



- ・ 複写した帳票のファイル名は、List Worksが自動生成したファイル名となります。
- ・ 異常終了した場合に以下のサーバ機能APIを実行すると、エラーの詳細を取得することができます。

エラーコードの取得

LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)



LW_GetServerApiErrCodeについては、“[1.3.1 LW_GetServerApiErrCode\(サーバ機能APIエラーコード取得\)](#)”を参照してください。

エラーメッセージの取得

LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)



LW_GetServerApiErrMsgについては、“[1.3.2 LW_GetServerApiErrMsg\(サーバ機能APIエラーメッセージ取得\)](#)”を参照してください。

1.4.15 LW_MoveKeepFile(保管フォルダ内の帳票の移動)

記述形式

```
int LW_MoveKeepFile(int iServerApiHandle,  
                    char * lpSourceKeepFile,  
                    char * lpTargetKeepFolder,  
                    char * lpReserve,  
                    int iReserve)
```

機能

保管フォルダ内の帳票を、指定された保管フォルダに移動します。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

lpSourceKeepFile

移動する帳票の論理パスを指定します。本情報の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

lpTargetKeepFolder

移動先の保管フォルダの論理パスを指定します。本情報の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

lpReserve

予約されています。NULLを指定してください。

iReserve

予約されています。0を指定してください。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。



参考

異常終了した場合に以下のサーバ機能APIを実行すると、エラーの詳細を取得することができます。

エラーコードの取得

LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)



LW_GetServerApiErrCodeについては、“[1.3.1 LW_GetServerApiErrCode\(サーバ機能APIエラーコード取得\)](#)”を参照してください。

エラーメッセージの取得

LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)



LW_GetServerApiErrMsgについては、“[1.3.2 LW_GetServerApiErrMsg\(サーバ機能APIエラーメッセージ取得\)](#)”を参照してください。

1.5 印刷フォルダ

ここでは、以下のサーバ機能APIについて説明します。

API	機能
LW_RemotePrint	リモート印刷 (注1)

注1: Windows版のみの機能です。

1.5.1 LW_RemotePrint(リモート印刷) <Windows 版のみ>

記述形式

```
int LW_RemotePrint(int          iServerApiHandle,
                   char *       lpKeepFile,
                   LPRMPRTINFO lpRMPrtInfo,
                   LPPRTITEM    lpPrtItem,
                   char *       lpPrintFolder)
```

機能

保管フォルダ内の帳票を、リスト管理サーバに印刷フォルダとして設定されているプリンタに印刷します。

パラメタの説明

iServerApiHandle

サーバAPI識別子を指定します。

lpKeepFile

帳票情報を印刷したい帳票の論理パスを指定します。本情報の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

lpRMPrtInfo

帳票を印刷する開始ページなどの情報を格納したRMPRTINFO構造体(印刷情報構造体)のアドレスを指定します。

RMPRTINFO構造体のメンバ変数は、必ずすべてを指定してください。特に、RMPRTINFO構造体の「usl_Length」を指定しないと、エラーになります。

RMPRTINFO構造体を、以下に示します。

```
typedef struct RemotePrintInfo
{
    unsigned short  usl_Length;          /* 領域長          */
    char            cl_Rsv1[2];         /* リザーブ        */
    unsigned long   ull_PageScope;     /* 印刷範囲指定    */
    unsigned long   ull_StartPageNo;   /* 開始ページ      */
    unsigned long   ull_EndPageNo;     /* 終了ページ      */
    unsigned short  usl_FileKind;      /* 高速印刷        */
    char            cl_Rsv2[2];         /* リザーブ        */
    unsigned short  usl_Priority;       /* 優先順位        */
    char            cl_Rsv3[2];         /* リザーブ        */
    unsigned short  usl_CopyNum;       /* 印刷部数        */
    char            cl_Rsv4[2];         /* リザーブ        */
    char            cl_Rsv8[228];      /* リザーブ        */
} RMPRTINFO;
typedef RMPRTINFO* LPRMPRTINFO;
```

lpPrtItem

帳票を印刷する項目情報を格納したPRTITEM構造体(印刷項目構造体)のアドレスを指定します。

以下の情報が格納されます。

PRTITEM構造体を、以下に示します。

```
typedef struct PrintItem
{
    unsigned short  usl_Length;          /* 領域長          */
    char            cl_Rsv1[2];         /* リザーブ        */
    unsigned long   ull_DataPrint;     /* 印刷データ      */
    unsigned long   ull_OverlayPrint;  /* オーバレイ      */
    unsigned long   ull_TagPrint;      /* 付せん          */
    unsigned long   ull_MemPrint;      /* メモ            */
    unsigned long   ull_LineMakPrint;  /* ラインマーク    */
    unsigned long   ull_CheckMakPrint; /* チェックマーク */
    unsigned long   ull_StampPrint;    /* スタンプ        */
    unsigned long   ull_HyperLinkPrint; /* ハイパーリンク  */
    char            cl_Rsv2[92];       /* リザーブ        */
} PRTITEM;
typedef PRTITEM* LPPRTITEM;
```


lpPrintFolder

帳票の印刷を行う印刷フォルダ名を指定します。本情報の最終文字にはNULLが設定されている必要があります。

RMPRTINFO構造体の説明

メンバ変数	項目	説明
usl_Length	領域長	構造体のサイズを指定します。 本APIを実行する前に、呼び出し元でsizeof(RMPRTINFO)を実行してください。
cl_Rsv1	リザーブ	NULLを指定します。
ull_PageScope	印刷範囲指定	印刷する範囲を0か1の数値で指定します。 0 : 全ページ 1 : ページ指定 全ページを指定すると、開始ページと終了ページは無視されます。
ull_StartPageNo	開始ページ	開始ページを指定します。
ull_EndPageNo	終了ページ	終了ページを指定します。
usl_FileKind	高速印刷	VSPシリーズに富士通ホスト帳票を印刷(高速印刷)するかどうかを0か1の数値で指定します。 0 : VSPシリーズへの富士通ホスト帳票の印刷(高速印刷)を行う 1 : VSPシリーズへの富士通ホスト帳票の印刷(高速印刷)を行わない 以下の条件をすべて満たす場合に、VSPシリーズへの富士通ホスト帳票の印刷を行うことができます。 <ul style="list-style-type: none"> 分散印刷運用でFNAを使用した形態 受信フォルダの属性で「VSPシリーズにホスト帳票を印刷する」にチェックをつけて登録した帳票 印刷フォルダが66xxエミュレーションモードで定義されているVSPシリーズのプリンタ
cl_Rsv2	リザーブ	NULLを指定します。
usl_Priority	優先順位	優先順位を1から50までの数値で指定します。
cl_Rsv3	リザーブ	NULLを指定します。
usl_CopyNum	印刷部数	印刷部数を指定します。
cl_Rsv4	リザーブ	NULLを指定します。
cl_Rsv8	リザーブ	NULLを指定します。

PRTITEM構造体の説明

メンバ変数	項目	説明
usl_Length	領域長	構造体のサイズを指定します。 本APIを実行する前に、呼び出し元でsizeof(PRTITEM)を実行してください。
cl_Rsv1	リザーブ	NULLを指定します。
ull_DataPrint	印刷データ	印刷データを印刷するかどうかを0か1の数値で指定します。 0 : 印刷しない 1 : 印刷する

メンバ変数	項目	説明
ull_OverlayPrint	オーバーレイ	オーバーレイを印刷するかどうかを0か1の数値で指定します。 0 : 印刷しない 1 : 印刷する
ull_TagPrint	付せん	付せんを印刷するかどうかを0か1の数値で指定します。 0 : 印刷しない 1 : 印刷する
ull_MemPrint	メモ	メモを印刷するかどうかを0か1の数値で指定します。 0 : 印刷しない 1 : 印刷する
ull_LineMakPrint	ラインマーク	ラインマークを印刷するかどうかを0か1の数値で指定します。 0 : 印刷しない 1 : 印刷する
ull_CheckMakPrint	チェックマーク	チェックマークを印刷するかどうかを0か1の数値で指定します。 0 : 印刷しない 1 : 印刷する
ull_StampPrint	スタンプ	スタンプを印刷するかどうかを0か1の数値で指定します。 0 : 印刷しない 1 : 印刷する
ull_HyperLinkPrint	ハイパーリンク	ハイパーリンクを印刷するかどうかを0か1の数値で指定します。 0 : 印刷しない 1 : 印刷する
cl_Rsv2	リザーブ	NULLを指定します。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

注意

- 本APIは、Windows版のみ使用できます。
- 帳票は、印刷フォルダのプロパティに設定された属性に従って、印刷されます。
- RMPRTINFO構造体のusl_FileKind(高速印刷)で記述されている条件以外で登録した帳票を、「VSPシリーズにHOST帳票を印刷する」の指定をしてリモート印刷した場合、正しく印刷されません。
- 印刷部数については、「印刷データに用紙サイズ/用紙方向および印刷倍率が設定されている場合は、その設定を優先する」が指定されている印刷フォルダに印刷した場合は無効になります。

参考

異常終了した場合に以下のサーバ機能APIを実行すると、エラーの詳細を取得することができます。

エラーコードの取得

LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)



LW_GetServerApiErrCodeについては、“[1.3.1 LW_GetServerApiErrCode\(サーバ機能APIエラーコード取得\)](#)”を参照してください。

エラーメッセージの取得

LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)



LW_GetServerApiErrMsgについては、“[1.3.2 LW_GetServerApiErrMsg\(サーバ機能APIエラーメッセージ取得\)](#)”を参照してください。

第2章 クライアント機能オートメーション

この章では、ほかのアプリケーションからList Worksクライアントの機能を制御するための、インタフェースについて説明します。

2.1 オートメーションメソッドの概要

2.2 リストナビ オートメーション

2.3 リストビューア オートメーション

2.1 オートメーションメソッドの概要

List Worksクライアントは、オートメーションメソッドを使用して、ほかのアプリケーションやスクリプトから、List Worksクライアントの機能を制御することができます。

オートメーション メソッド/プロパティを記述するとき、CreateObject関数などに指定するオブジェクト名は、以下の名前を使用します。

リストナビの機能 : ListNavi. Application

リストビューアの機能 : ListView. Application

クライアント機能オートメーション一覧表

以下に、リストナビ、およびリストビューアのオートメーション メソッド/プロパティを示します。

リストナビ

オートメーションメソッド/プロパティ	機能
Change	オブジェクト情報の変更
ClearSearchCondition	帳票の検索条件の解除
Connect	リスト管理サーバへの接続
Copy	オブジェクトの複写/移動
Count	オブジェクトの数の取得
CreateLocalKeepFolder	マイコンピュータの保管フォルダの作成
CreateRemoteKeepFolder	リスト管理サーバの保管フォルダの作成
Delete	フォルダ/帳票の削除
DeleteFolder	フォルダの削除
Deliver	受信フォルダ内の帳票の再振り分け
Disconnect	リスト管理サーバからの切断
Filing	ファイリング
For Each ... Next	オブジェクト一覧の取得
GetOpenFileName	帳票を開くためのファイル名を取得
Item	オブジェクト情報の取得
ItemListPrint	オブジェクト一覧の印刷
ItemListSave	オブジェクト一覧のファイル出力
LocalPageSetup	ローカル印刷のページ設定
LocalPrint	ローカル印刷
Maximize	ウィンドウの最大化
Minimize	ウィンドウの最小化

オートメーションメソッド/プロパティ	機能
Move	ウィンドウの移動
OpenFolder	フォルダを開く
OpenItem	選択されているオブジェクトを開く
Quit	リストナビの終了
RemotePageSetup	リモート印刷のページ設定
RemotePrint	リモート印刷(Solaris版の場合はSolaris9またはSolaris10のみ)
Restore	ウィンドウを元のサイズに戻す
ResumeRemotePrint	リモート印刷の再開
SearchList	帳票を検索
SelectAllItem	すべてのオブジェクトを選択
SelectFile	保管フォルダ内のオブジェクトを選択
SelectItem	オブジェクトを選択
SelectNextItem	次のオブジェクトを選択
SelectPrevItem	前のオブジェクトを選択
SetDeviceCondition	一覧の表示条件の設定(装置フォルダ)
SetKeepCondition (注)	一覧の表示条件の設定(保管フォルダ)
SetKeepConditionEx	一覧の表示条件の設定(保管フォルダ)
SetPrintCondition	一覧の表示条件の設定(印刷フォルダ)
SetReceiveCondition	一覧の表示条件の設定(受信フォルダ)
SetSearchDateCondition	帳票の検索条件の設定(日付情報)
SetSearchManageCondition	帳票の検索条件の設定(管理情報)
SetSearchTextCondition	帳票の検索条件の設定(印刷データ内の文字情報)
ShowApp	ウィンドウの表示/非表示
Size	ウィンドウのサイズ変更
StartRemotePrint	リモート印刷の開始
StopRemotePrint	リモート印刷の中断
UnselectItem	オブジェクトの選択状態の解除

注:ListWORKS、およびList Works V6.0L10/6.0から移行した場合に、プログラムを変更しなくても継続して運用できるよう、互換のために用意されているメソッドです。

通常はSetKeepConditionExメソッドを使用してください。

リストビューア

オートメーション メソッド	機能
Activate	リストビューアをアクティブにする
Cascade	重ねて表示
Copy	クリップボードへコピー
DataConvert	データ変換
ExtractCancel	絞り込みの解除
ExtractFind	検索による絞り込み

オートメーション メソッド	機能
ExtractItem	記入による絞り込み
ExtractPage	ページによる絞り込み
FieldArea	帳票項目の範囲の追加
FieldClear	帳票項目の削除
FieldClearPage	帳票項目の削除(先頭/中間/最後のページごと異なる範囲)
FieldDate	帳票項目の日付型の範囲の追加
FieldDefineMode	帳票項目の設定
FieldItem	帳票項目の追加
FieldItemPage	帳票項目の追加(先頭/中間/最後のページごと異なる範囲)
Find	印刷データを検索
FindClear	検索条件の削除
FindDataConvert	検索結果のデータ変換(行の一覧)
FindDate	日付の検索条件の設定
FindLoad	検索条件の読み込み
FindNext	下方向に検索
FindNumeric	数値の検索条件の設定
FindOption	検索の方法の設定
FindOrderConvert	検索結果のデータ変換(表形式の一覧)
FindOrderSelect	検索結果の表形式の一覧の項目名の選択
FindPrev	上方向に検索
FindResult	検索結果の表示/非表示
FindResultList	検索結果一覧の表示/非表示
FindSave	検索条件の保存
FindString	文字列の検索条件の設定
FullScreen	全画面表示
GetCurrentTotalPage	全ページ数の取得
HScroll	水平方向へスクロール
IsExtract	絞り込み状態の取得
ItemList	記入の一覧の表示/非表示
LocalPrint	帳票を印刷
Maximize	ウィンドウの最大化
Minimize	ウィンドウの最小化
Move	ウィンドウの移動
Open	帳票を開く
Option	オプションの設定
PageBottom	最後のページへ
PageJump	指定のページへ
PageNext	次のページへ
PagePrev	前のページへ

オートメーション メソッド	機能
PageSetup	ページ設定
PageTop	最初のページへ
PanWindow	パンウィンドウの表示/非表示
Quit	リストビューアの終了
Restore	ウィンドウを元のサイズに戻す
Save	上書き保存
SaveAs	名前を付けて保存
Select	範囲選択
SelectAll	すべて選択
Show	表示項目の設定
ShowApp	ウィンドウの表示/非表示
Size	ウィンドウのサイズ変更
Split	分割/分割解除
Tile	並べて表示
VScroll	垂直方向へスクロール
Zoom	倍率の指定

サンプルプログラム

オートメーションメソッドのサンプルプログラムは、List Worksクライアントの以下のフォルダ配下に格納されています。

```
List Worksのインストールフォルダ¥Samples¥sample.vbs
```

スクリプトを実行する場合は、実行する前に、ほかのウィンドウを最小化してください。



クライアント機能オートメーションの記述例については、“付録C オートメーションメソッドのサンプルプログラム”を参照してください。

注意

パラメタを省略するときの注意

複数のパラメタをもつオートメーション メソッド/プロパティで、パラメタ列の途中の値を省略する場合でも、パラメタの区切りを示す「,」は省略できません。パラメタを省略するときの記述方法の詳細は、それぞれのオートメーション メソッド/プロパティの使用例を参照してください。

復帰値に関する注意

- 「正常終了しました。」とは、メソッドに指定したパラメタが正しく、List Works クライアント機能を制御したことを意味しています。そのため、List Works クライアント機能を制御した結果までは復帰値から判断することはできません。
- 「異常終了しました。」とは、メソッドに指定したパラメタに誤りがあり、List Works クライアント機能を制御できなかったことを意味します。

使用上の注意

- ・ クライアントのオートメーション機能はクライアント上で動作することを前提としているため、WWWサーバでの動作を保証していません。例えば、ASP(Active Server Pages)経由で使用することはできません。
- ・ Microsoft Visual Basic.NETで開発した、クライアント機能オートメーションを使用したアプリケーションは、Windowsサーバ(x64)では32ビットアプリケーションとして動作させる必要があります。64ビットアプリケーションとしての動作は保証していません。
- ・ クライアントのオートメーション機能を使用する場合は、オペレーティングシステムにログインしている必要があります。例えば、ログオフ時、またはログオフしている状態で、タスクスケジューラにより、クライアントのオートメーション機能を使用したアプリケーションやスクリプトを起動しないでください。

2.2 リストナビ オートメーション

以下に、リストナビのオートメーション メソッド/プロパティを示します。

オートメーションメソッド/プロパティ	機能
Change	オブジェクト情報の変更
ClearSearchCondition	帳票の検索条件の解除
Connect	リスト管理サーバへの接続
Copy	オブジェクトの複写/移動
Count	オブジェクトの数の取得
CreateLocalKeepFolder	マイコンピュータの保管フォルダの作成
CreateRemoteKeepFolder	リスト管理サーバの保管フォルダの作成
Delete	フォルダ/帳票の削除
DeleteFolder	フォルダの削除
Deliver	受信フォルダ内の帳票の再振り分け
Disconnect	リスト管理サーバからの切断
Filing	ファイリング
For Each ... Next	オブジェクト一覧の取得
GetOpenFileName	帳票を開くためのファイル名を取得
Item	オブジェクト情報の取得
ItemListPrint	オブジェクト一覧の印刷
ItemListSave	オブジェクト一覧のファイル出力
LocalPageSetup	ローカル印刷のページ設定
LocalPrint	ローカル印刷
Maximize	ウィンドウの最大化
Minimize	ウィンドウの最小化
Move	ウィンドウの移動
OpenFolder	フォルダを開く
OpenItem	選択されているオブジェクトを開く
Quit	リストナビの終了
RemotePageSetup	リモート印刷のページ設定
RemotePrint	リモート印刷
Restore	ウィンドウを元のサイズに戻す

オートメーションメソッド/プロパティ	機能
ResumeRemotePrint	リモート印刷の再開
SearchList	帳票を検索
SelectAllItem	すべてのオブジェクトを選択
SelectFile	保管フォルダ内のオブジェクトを選択
SelectItem	オブジェクトを選択
SelectNextItem	次のオブジェクトを選択
SelectPrevItem	前のオブジェクトを選択
SetDeviceCondition	一覧の表示条件の設定(装置フォルダ)
SetKeepCondition (注)	一覧の表示条件の設定(保管フォルダ)
SetKeepConditionEx	一覧の表示条件の設定(保管フォルダ)
SetPrintCondition	一覧の表示条件の設定(印刷フォルダ)
SetReceiveCondition	一覧の表示条件の設定(受信フォルダ)
SetSearchDateCondition	帳票の検索条件の設定(日付情報)
SetSearchManageCondition	帳票の検索条件の設定(管理情報)
SetSearchTextCondition	帳票の検索条件の設定(印刷データ内の文字情報)
ShowApp	ウィンドウの表示/非表示
Size	ウィンドウのサイズ変更
StartRemotePrint	リモート印刷の開始
StopRemotePrint	リモート印刷の中断
UnselectItem	オブジェクトの選択状態の解除

注:ListWORKS、およびList Works V6.0L10/6.0から移行した場合に、プログラムを変更しなくても継続して運用できるよう、互換のために用意されているメソッドです。
通常はSetKeepConditionExメソッドを使用してください。

2.2.1 Change(オブジェクト情報の変更)メソッド

記述形式

```
object.Change ([オブジェクト名 [, コメント [, 登録有効期限  
[, 有効期限を過ぎたら削除対象にする] ] ] ] )
```

機能

現在選択されているリスト管理サーバの保管フォルダの名前、または保管フォルダの帳票の帳票情報を変更します。

パラメタの説明

オブジェクト名

変更するオブジェクトに設定する「オブジェクト名」を半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。省略すると「オブジェクト名」は変更しないものとみなします。

コメント

変更する帳票に設定する「コメント」を半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。省略すると「コメント」は変更しないものとみなします。

登録有効期限

変更する帳票に設定する「登録有効期限」を半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」の形式で指定します。省略可能です。省略すると「登録有効期限」は変更しないものとみなします。

有効期限を過ぎたら削除対象にする

変更する帳票に設定する「有効期限を過ぎたら削除対象にする」を、0か1の数値で指定します。

- 0：有効期限を過ぎても削除対象にしない
- 1：有効期限を過ぎたら削除対象にする

省略可能です。省略すると「有効期限を過ぎたら削除対象にする」は変更しないものとみなします。

復帰値

TRUE

変更しました。

FALSE

変更できませんでした。

使用例

- ・ 現在選択されている保管フォルダの帳票の帳票情報を、オブジェクト名「2002年度売り上げ」、コメント「目標達成」に変更します。

```
object.Change "2002年度売り上げ", "目標達成"
```

- ・ 現在選択されているリスト管理サーバの保管フォルダの名前、または保管フォルダの帳票の帳票情報をオブジェクト名「営業」に変更します。

```
object.Change "営業"
```



- ・ 「オブジェクト名」、および「コメント」に、設定可能文字数を超えたものを指定すると、超えた文字列は切り捨てられます。
- ・ リスト管理サーバの保管フォルダの名前を変更する場合、以下のパラメタは無効になります。
 - 「コメント」
 - 「登録有効期限」
 - 「有効期限を過ぎたら削除対象にする」
- ・ マイコンピュータの保管フォルダの名前は変更できません。

2.2.2 ClearSearchCondition(帳票の検索条件の解除)メソッド

記述形式

```
object.ClearSearchCondition
```

機能

「帳票を検索」の検索条件をクリアします。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

帳票の検索条件を解除しました。

FALSE

帳票の検索条件を解除できませんでした。

使用例

検索条件をクリアします。

```
object.ClearSearchCondition
```

2.2.3 Connect(リスト管理サーバへの接続)メソッド

記述形式

```
object.Connect( [ユーザID [ , パスワード [ , ホスト名 [ , ダイアログボックスの表示/非表示 ] ] ] )
```

機能

リスト管理サーバに接続します。

パラメタの説明

ユーザID

接続するユーザIDを、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。省略するとオプションに設定された値を有効にします。

パスワード

ユーザIDに対応したパスワードを、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。パスワードがない場合は半角のダブルクォーテーション「"」を指定します。
省略可能です。省略するとオプションに設定された値を有効にします。

ホスト名

接続するリスト管理サーバのホスト名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。省略するとオプションに設定された値を有効にします。

ダイアログボックスの表示/非表示

【リスト管理サーバへ接続】ダイアログボックスを表示するか表示しないかを0か1の数値で指定します。

- 0: 表示しない
- 1: 表示する

省略可能です。省略すると「0」が設定されたものとみなします。ユーザIDまたはホスト名が指定されていない場合は、このパラメタに「0」を指定しても、【リスト管理サーバへ接続】ダイアログボックスを表示します。

復帰値

TRUE

リスト管理サーバに接続しました。

FALSE

リスト管理サーバに接続できませんでした。または、すでにリスト管理サーバに接続しています。

使用例

- リスト管理サーバ「Server」にユーザID「user-A」、パスワード「password」で接続します。

```
object.Connect "user-A", "password", "Server"
```

- リスト管理サーバ「Server」にユーザID「user-A」、パスワードなしで接続します。

```
object.Connect "user-A", "", "Server"
```

- リスト管理サーバ「Server」にユーザID「user-A」、パスワードをダイアログボックスの入力で接続します。

```
object.Connect "user-A", "", "Server", 1
```



注意

リストナビのオプションで「起動時にリスト管理サーバに接続する」がチェックされていると、Connectメソッドによるリスト管理サーバ接続要求よりも、先にオプションに設定されている接続情報でリスト管理サーバに接続します。Connectメソッドで指定した接続情報でリスト管理サーバに接続したい場合は、「起動時にリスト管理サーバに接続する」のチェックを外してください。

2.2.4 Copy(オブジェクトの複写/移動)メソッド

記述形式

```
object.Copy(複写/移動先の保管フォルダの論理パス [, ページ指定 [, 開始ページ [, 終了ページ  
[, オーバレイの複写 [, 暗証番号 [, 登録有効期間 [, 削除対象  
[, 移動指示] ] ] ] ] ] )
```

機能

現在選択されているリスト管理サーバの保管フォルダ、または保管フォルダの帳票を、複写、または移動します。

パラメタの説明

複写/移動先の保管フォルダの論理パス

複写/移動先の保管フォルダの論理パスを、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。必ず指定します。

例)

サーバ「milano」の保管フォルダ「営業」の場合

milano¥保管¥営業

マイ コンピュータの保管フォルダ「営業」の場合

マイ コンピュータ¥保管¥営業 (注)

注:「マイコンピュータ」は半角文字

ページ指定

選択されているオブジェクトが帳票の場合に、ページ指定を0か1の数値で指定します。

- 0：開始ページから終了ページまで
- 1：すべてのページ

省略可能です。省略すると「1」が設定されたものとみなします。

開始ページ

選択されているオブジェクトが帳票の場合に、開始ページを数値で指定します。「ページ指定」に「1」を指定すると無効になります。省略可能です。省略すると1ページが指定されたものとみなします。

終了ページ

選択されているオブジェクトが帳票の場合に、終了ページを数値で指定します。「ページ指定」に「1」を指定すると無効になります。省略可能です。省略すると帳票の最終ページが指定されたものとみなします。

オーバーレイの複写

選択されているオブジェクトが帳票の場合に、オーバーレイを複写するかどうかを、0か1の数値で指定します。オーバーレイのない帳票の場合は、無効になります。

- 0：オーバーレイを複写しない
- 1：オーバーレイを複写する

省略可能です。省略すると「0」が設定されたものとみなします。

暗証番号

選択されているオブジェクトが帳票の場合に、複写先の帳票に設定する暗証番号を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。

省略可能です。省略すると暗証番号を設定しないものとみなします。

登録有効期間

選択されているオブジェクトが帳票の場合に、複写先の帳票に設定する登録有効期間(単位:日)を数値で指定します。

省略可能です。省略すると「1日」が設定されたものとみなします。

削除対象

選択されているオブジェクトが帳票の場合に、有効期限を過ぎたら削除対象にするかどうかを、0か1の数値で指定します。

- 0：有効期限を過ぎても削除対象にしない
- 1：有効期限を過ぎたら削除対象にする

省略可能です。省略すると「0」が設定されたものとみなします。

移動指示

リスト管理サーバの保管フォルダ、または帳票を移動するかどうかを0か1の数値で指定します。

- 0：複写
- 1：移動

省略可能です。省略すると「0」が設定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

- 現在選択されている帳票を、マイコンピュータ配下の保管フォルダ「営業」に複写します。

object. Copy “マイ コンピュータ¥保管¥営業” (注)

注:「マイコンピュータ」は半角文字

- 現在選択されているリスト管理サーバ「Server」の保管フォルダ、または保管フォルダの帳票を、リスト管理サーバ「Server」の保管フォルダ「営業」に複写します。

object. Copy “Server¥保管¥営業”

- 現在選択されているリスト管理サーバ「Server」の保管フォルダ、または保管フォルダの帳票を、リスト管理サーバ「Server」の保管フォルダ「営業」に移動します。

object. Copy “Server¥保管¥営業”, 1

注意

- リスト管理サーバの保管フォルダを複写/移動する場合、またはリスト管理サーバの帳票をリスト管理サーバの保管フォルダに複写/移動する場合、以下のパラメタは無効になります。

- 「ページ指定」
- 「開始ページ」
- 「終了ページ」
- 「オーバーレイの複写」
- 「暗証番号」
- 「登録有効期間」
- 「削除対象」

- マイコンピュータの帳票をマイコンピュータの保管フォルダに複写する場合、以下のパラメタは無効になります。

- 「暗証番号」
- 「登録有効期間」
- 「削除対象」

- マイコンピュータの帳票をマイコンピュータの保管フォルダに移動する場合(「移動指示」に「1」を指定した場合)、以下のパラメタは無効になります。

- 「ページ指定」
- 「開始ページ」
- 「終了ページ」
- 「暗証番号」
- 「登録有効期間」
- 「削除対象」

- リスト管理サーバの帳票をマイコンピュータの保管フォルダに移動(「移動指示」に「1」を指定)することはできません。

- リスト管理サーバのルート保管フォルダ、およびマイコンピュータの保管フォルダを複写/移動することはできません。

2.2.5 Count(オブジェクトの数の取得)プロパティ

記述形式

object.Count

機能

現在選択されているフォルダ内のオブジェクトの数を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

オブジェクトの数

使用例

現在選択されているフォルダ内のオブジェクト数を取得します。

```
object.Count
```

2.2.6 CreateLocalKeepFolder(マイ コンピュータの保管フォルダの作成)メソッド

記述形式

```
object.CreateLocalKeepFolder( 保管フォルダ名 [, フォルダの場所 [, 書き込み不可媒体フラグ] ] )
```

機能

マイコンピュータの保管フォルダを作成します。

パラメタの説明

保管フォルダ名

保管フォルダ名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。

フォルダの場所

保管フォルダの物理パスを、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。

ルート保管フォルダを作成する場合は必ず指定してください。サブフォルダを作成する場合は無視されます。

書き込み不可媒体フラグ

保管フォルダを書き込み不可媒体として定義するかを0か1の数値で指定します。

0：書き込み不可媒体として定義しない

1：書き込み不可媒体として定義する

省略可能です。省略すると「0」が設定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

保管フォルダを作成しました。

FALSE

保管フォルダを作成できませんでした。

使用例

保管フォルダ名「営業」、フォルダの場所「C:¥営業」のルート保管フォルダを作成します。

```
object.CreateLocalKeepFolder "営業", "C:¥営業"
```



- ・ ルートフォルダを作成する場合は、事前に【保管】アイコンを選択してください。
- ・ サブフォルダを作成する場合は、事前に保管フォルダを選択してください。

2.2.7 CreateRemoteKeepFolder(リスト管理サーバの保管フォルダの作成)メソッド

記述形式

```
object.CreateRemoteKeepFolder (保管フォルダ名 [, フォルダの場所 [, 帳票の有効期限の日数  
[, 削除対象フラグ [, 先頭ページ削除フラグ  
[, 削除する先頭ページ数 [, 末尾ページ削除フラグ  
[, 削除する末尾ページ数 [, 連続紙の幅  
[, 抜き出し検索無効フラグ] ] ] ] ] ] ] )
```

機能

リスト管理サーバの保管フォルダを作成します。

パラメタの説明

保管フォルダ名

保管フォルダ名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。

フォルダの場所

保管フォルダの物理パスを、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。

ルート保管フォルダを作成する場合は必ず指定してください。サブフォルダを作成する場合は無視されます。

保管フォルダの共有運用をする場合には、共有ディスクを指定してください。なお、Windows版において、共有ディスクはUNCで設定してください。共有ディスクは、NTFSでフォーマットされている必要があります。

帳票の有効期限の日数

帳票の有効期限の日数を1から9999までの数値で指定します。

省略可能です。省略すると「1」が設定されたものとみなします。

削除対象フラグ

有効期限が過ぎた帳票を削除対象にするかを0か1の数値で指定します。

- 0 : 削除対象としない
- 1 : 削除対象とする

省略可能です。省略すると「0」が設定されたものとみなします。

先頭ページ削除フラグ

先頭のセパレータページを削除するかを0か1の数値で指定します。

- 0 : 削除しない
- 1 : 削除する

省略可能です。省略すると「0」が設定されたものとみなします。

削除する先頭ページ数

削除する先頭のセパレータページ数を1から9999までの数値で指定します。
省略可能です。省略すると「1」が設定されたものとみなします。

末尾ページ削除フラグ

末尾のセパレータページを削除するかを0か1の数値で指定します。

- 0 : 削除しない
- 1 : 削除する

省略可能です。省略すると「0」が設定されたものとみなします。

削除する末尾ページ数

削除する末尾のセパレータページ数を1から9999までの数値で指定します。
省略可能です。省略すると「1」が設定されたものとみなします。

連続紙の幅

連続紙の幅を650から2000までの数値で指定します。数値はインチ×100単位です。
省略可能です。省略すると「1500」が設定されたものとみなします。

抜き出し検索無効フラグ

抜き出し検索を無効にするかを0か1の数値で指定します。

- 0 : 無効にしない
- 1 : 無効にする

省略可能です。省略すると「0」が設定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

保管フォルダを作成しました。

FALSE

保管フォルダを作成できませんでした。

使用例

保管フォルダ名「営業」、フォルダの場所「C:¥営業」のルート保管フォルダを作成します。

```
object.CreateRemoteKeepFolder "営業", "C:¥営業"
```



- ・ ルートフォルダを作成する場合は、事前に【保管】アイコンを選択してください。

- ・ サブフォルダを作成する場合は、事前に保管フォルダを選択してください。

2.2.8 Delete(フォルダ/帳票の削除)メソッド

記述形式

`object.Delete([削除確認メッセージの表示/非表示])`

機能

現在選択されている保管フォルダ、受信フォルダ、印刷フォルダ、グループフォルダ、装置フォルダ、または、帳票を削除します。

パラメタの説明

削除確認メッセージの表示/非表示

削除確認メッセージの表示/非表示を、0か1の数値で指定します。

0 : 削除確認メッセージを表示しない

1 : 削除確認メッセージを表示する

省略可能です。省略すると「0」が設定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

フォルダの場合

正常終了しました。

帳票の場合

帳票を削除しました。または、削除確認メッセージで【いいえ】ボタンを選択しました。

FALSE

フォルダの場合

異常終了しました。

帳票の場合

帳票を削除できませんでした。

使用例

現在選択されている帳票を削除します。

```
object.Delete
```

参考

フォルダを削除する場合は、DeleteFolderメソッドを使用すると便利です。

2.2.9 DeleteFolder(フォルダの削除)メソッド

記述形式

object.DeleteFolder ([削除確認メッセージの表示/非表示])

機能

現在フォルダ一覧で選択されているフォルダを削除します。

パラメタの説明

削除確認メッセージの表示/非表示

削除確認メッセージの表示/非表示を0か1の数値で指定します。

- 0 : 削除確認メッセージを表示しない
- 1 : 削除確認メッセージを表示する

省略可能です。省略すると「0」が設定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

フォルダを削除しました。または、削除確認メッセージで【いいえ】ボタンを選択しました。

FALSE

フォルダを削除できませんでした。

使用例

現在フォルダ一覧で選択されているフォルダを削除します。

```
object.DeleteFolder
```

2.2.10 Deliver(受信フォルダ内の帳票の再振り分け)メソッド

記述形式

object.Deliver

機能

現在選択されている受信フォルダ内の帳票を再振り分けします。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

帳票を再振り分けしました。

FALSE

帳票を再振り分けできませんでした。

使用例

現在選択されている受信フォルダ内の帳票を再振り分けします。

```
object.Deliver
```

2.2.11 Disconnect(リスト管理サーバからの切断)メソッド

記述形式

```
object.Disconnect
```

機能

リスト管理サーバから切断します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

リスト管理サーバから切断しました。

FALSE

リスト管理サーバから切断できませんでした。

使用例

リスト管理サーバから切断します。

```
object.Disconnect
```

2.2.12 Filing(ファイリング)メソッド

記述形式

```
object.Filing( [ホスト名,] 装置名 )
```

機能

現在選択されているグループを、指定された装置にファイリングします。

パラメタの説明

ホスト名

リスト管理サーバの装置フォルダにファイリングする場合はリスト管理サーバのホスト名(注1)を半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。

マイコンピュータの装置フォルダにファイリングする場合は半角で「"マイコンピュータ"」(注2)を指定します。

省略可能です。省略すると選択されているグループのあるリスト管理サーバのホスト名または「"マイコンピュータ"」(注2)が指定されたものとみなします。

注1: IPv4アドレスに対応づけられたホスト名を指定してください。

注2: 「マイコンピュータ」は半角文字

装置名

ファイリング先の装置名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。必ず指定します。

復帰値

TRUE

グループをファイリングしました。

FALSE

グループをファイリングできませんでした。

使用例

グループフォルダ「Spool」を、マイコンピュータの装置名「MO」の装置にファイリングします。

```
Dim objNavi As Object
set objNavi = CreateObject("ListNavi.Application")
objNavi.OpenFolder("マイ コンピュータ¥ファイリング¥グループ") (注1)
objNavi.SelectItem "Spool"
objNavi.Filing "マイ コンピュータ", "MO" (注2)
```

注1: 「マイコンピュータ」、「ファイリング」、「グループ」は半角文字

注2: 「マイコンピュータ」は半角文字

2.2.13 For Each ... Next(オブジェクト一覧の取得)

記述形式

```
For Each 変数名 In object
  処理
Next 変数名
```

機能

現在選択されているフォルダのオブジェクト一覧を取得します。

使用例

現在選択されているフォルダのオブジェクト一覧を取得します。

```
Dim objNavi As Object
Dim Item As String
Dim thing As Variant
```

```

Set objNavi = CreateObject("ListNavi.Application")

objNavi.OpenFolder("マイ コンピュータ¥保管¥Spool") (注)

For Each thing In objNavi
    Item = thing
Next thing

```

注:「マイコンピュータ」は半角文字

Microsoft Visual Basic.NETで使用する場合には、「Variant」を「Object」に置き換えてください。

注意

- Visual Basic、またはMicrosoft Visual Basic.NETアプリケーションからのみ使用可能です。
- 「For Each ... Next」のループの中でChangeメソッドを使用すると、一覧情報が更新されるため、「For Each ... Next」で次に取得される情報が変更される場合があり、取得した一覧情報に矛盾が発生します。そのため、「For Each ... Next」のループ内ではChangeメソッドを使用しないでください。

[誤った使用例]

```

For Each ... Nextのループ内でChangeメソッドを使用している。
For Each thing In objNavi
    Item = thing
    objNavi.Change xxxx
Next thing

```

[正しい使用例]

1. For Each ... Nextで一覧情報を取得し、作業用の変数に保持する。
2. ループを抜けてからChangeメソッドを使用する。

```

For Each thing In objNavi
    作業用の変数に一覧情報を保持する
Next

```

- 本メソッドは、リストナビで現在選択されているフォルダのオブジェクトの一覧を取得するメソッドです。そのため、Webクライアントの保管フォルダの帳票一覧のみで表示される、「ローカル印刷済みかどうか」の情報は取得できません。

参考

取得される文字列は、表示している一覧の種類によって変わります。また、取得される文字列は以下の情報がタブコードで区切られた形式になります。

- 受信フォルダの帳票一覧を表示している場合
 - 項目種別(項目種別は「0:帳票」固定)
 - 帳票名
 - 作成者名
 - 状態
- 保管フォルダの帳票一覧を表示している場合
 - 項目種別(0:帳票、1:フォルダ)
 - 帳票名/フォルダ名
 - コメント

- 作成者名
 - ページ数
 - 作成日時
 - 登録日時
 - アクセス回数
 - 最終参照日時
 - 登録有効期限
 - 削除対象
 - 帳票記入
 - 抜き出し検索
 - ファイル名
 - ファイリング
 - リモート印刷依頼
 - 備考1
 - 備考2
 - 備考3
 - 備考4
- 印刷フォルダの帳票一覧を表示している場合
- 項目種別(項目種別は「0:帳票」固定)
 - 帳票名
 - 管理番号
 - 依頼者名
 - 登録日時
 - 全ページ
 - 印刷ページ
 - 状態
 - 中断時のページ
 - 部数
 - 中断時の部数
 - 保存期限
 - 印刷日時
 - 優先順位
 - サイズ
 - 開始ページ
 - 終了ページ

- ・ フォルダの一覧を表示している場合
 - ー 項目種別(0:帳票、1:フォルダ)
 - ー フォルダ名
 - ー 作成日時(グループフォルダの一覧を表示している場合は、作成日時は取得されません。)
-

2.2.14 GetOpenFileName(帳票を開くためのファイル名を取得)メソッド

記述形式

object.GetOpenFileName ([開く方法])

機能

現在選択されている帳票を開くためのファイルの名前を取得します。

パラメタの説明

開く方法

帳票が複数選択されているときの開く方法を0から2までの数値で指定します。

- 0: 個々に開く
- 1: 連結して開く
- 2: 連結して開くか確認する

省略可能です。省略するとオプションの設定に従います。

復帰値

- ・ 現在選択されている帳票を開くためのファイルの名前
- ・ 帳票が選択されていない状態でファイル名が取得できなかったときは空文字列

使用例

現在選択されている帳票を開くためのファイルの名前を取得します。

```
FileName = object.GetOpenFileName
```

注意

- ・ 本メソッドの実行前に帳票を選択しておく必要があります。
 - ・ リストビューアでメール送信することはできません。
 - ・ 他の利用者が使用中の帳票や、書き込み権利のない帳票を連結した場合、記入情報を記入することはできません。
 - ・ 同じオーバレイを使用している帳票で、かつ抜き出し検索範囲が異なる帳票を連結して開いた場合、抜き出し検索範囲を正しく検索できない場合があります。正しく検索できなかった場合には、「すべての抜き出し検索範囲で」を指定して、検索してください。
 - ・ 連結して表示した場合、名前を付けて保存することはできません。
-

2.2.15 Item(オブジェクト情報の取得)プロパティ

記述形式

object.Item (インデックス)

機能

現在選択されているフォルダ内のオブジェクト情報を取得します。

パラメタの説明

インデックス

取得するリスト要素の位置を、帳票一覧の先頭から内部的に0から割り当てられた数値(インデックス値)で指定します。

復帰値

オブジェクト情報が文字列で復帰されます。

取得される文字列は、選択しているフォルダの種類によって異なります。

取得される文字列は、以下の情報がタブコードによって区切られた形式になります。

- 受信フォルダが選択されている場合
 - 項目種別(項目種別は「0:帳票」固定)
 - 帳票名
 - 作成者名
 - 状態

- 保管フォルダが選択されている場合
 - 項目種別(0:帳票、1:フォルダ)
 - 帳票名/フォルダ名
 - コメント
 - 作成者名
 - ページ数
 - 作成日時
 - 登録日時
 - アクセス回数
 - 最終参照日時
 - 登録有効期限
 - 削除対象
 - 帳票記入
 - 抜き出し検索
 - ファイル名
 - ファイリング
 - リモート印刷依頼

- 備考1
 - 備考2
 - 備考3
 - 備考4
- 印刷フォルダが選択されている場合
 - 項目種別(項目種別は「0:帳票」固定)
 - 帳票名
 - 管理番号
 - 依頼者名
 - 登録日時
 - 全ページ
 - 印刷ページ
 - 状態
 - 中断時のページ
 - 部数
 - 中断時の部数
 - 保存期限
 - 印刷日時
 - 優先順位
 - サイズ
 - 開始ページ
 - 終了ページ
 - 全フォルダ(フォルダのルート)が選択されている場合
 - 項目種別(0:帳票、1:フォルダ)
 - フォルダ名
 - 作成日時(グループフォルダの一覧を表示している場合は、作成日時は取得されません。)

使用例

現在選択されているフォルダ内のオブジェクト情報を取得します。

```
strItem = object.Item(0)
```

2.2.16 ItemListPrint(オブジェクト一覧の印刷)メソッド

記述形式

```
object.ItemListPrint ( [印刷範囲 [, 部数] ] )
```

機能

現在選択されているフォルダのオブジェクト一覧を印刷します。

パラメタの説明

印刷範囲

印刷する範囲を0か1の数値で指定します。

- 0: すべてのオブジェクトの一覧を印刷します。
- 1: 選択されているオブジェクトの一覧を印刷します。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

部数

印刷する部数を1から9999の数値で指定します。
省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

オブジェクト一覧を印刷しました。

FALSE

オブジェクト一覧を印刷できませんでした。

使用例

現在選択されているオブジェクトの一覧を印刷します。

```
object.ItemListPrint 1
```



オブジェクト一覧は、リストナビで設定されている表示項目に従って出力されます。

2.2.17 ItemListSave(オブジェクト一覧のファイル出力)メソッド

記述形式

```
object.ItemListSave( [出力範囲 [ , ファイル名 [ , ファイルの種類] ] ] )
```

機能

現在選択されているフォルダのオブジェクト一覧をファイルに出力します。

パラメタの説明

出力範囲

出力する範囲を0か1の数値で指定します。

- 0 : すべてのオブジェクトの一覧を出力します。
- 1 : 選択されているオブジェクトの一覧を出力します。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

ファイル名

出力するファイルの物理パスを、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。省略すると【一覧のファイル出力】ダイアログボックスを表示します。

ファイルの種類

出力するファイルの種類(ファイル形式)を0か1の数値で指定します。

- 0 : CSV形式(カンマ区切り)
- 1 : Text形式(タブ区切り)

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

オブジェクト一覧を出力しました。または、【一覧のファイル出力】ダイアログボックスで【キャンセル】ボタンを選択しました。

FALSE

オブジェクト一覧を出力できませんでした。

使用例

現在選択されているオブジェクトの一覧を、CSV形式でファイル(C:\%data%A.CSV)に出力します。

```
object.ItemListSave 1, "C:\%data%A.CSV"
```



- ・ 「出力範囲」で「1」が指定されていても選択されているオブジェクトがない場合には、すべてのオブジェクトを出力します。
- ・ ファイル名の拡張子には、CSV形式、またはText形式以外は指定できません。
- ・ 出力先に同一ファイル名が存在する場合は、上書きされます。

2.2.18 LocalPageSetup(ローカル印刷のページ設定)メソッド

記述形式

```
object.LocalPageSetup( [タブ番号] )
```

機能

ローカル印刷の【ページ設定】ダイアログボックスを表示します。

パラメタの説明

タブ番号

タブ番号を1から7までの数値で指定します。

- 1:【カラム】タブを表示
- 2:【印刷倍率】タブを表示
- 3:【余白】タブを表示
- 4:【印刷項目】タブを表示
- 5:【色】タブを表示
- 6:【詳細設定】タブを表示
- 7:【プリンタ情報】タブを表示

省略可能です。省略すると「1」が選択されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

ローカル印刷の【ページ設定】ダイアログボックスを【印刷倍率】タブの内容で表示します。

```
object.LocalPageSetup 2
```

2.2.19 LocalPrint(ローカル印刷)メソッド

記述形式

```
object.LocalPrint ([ページ指定方法 [, 開始ページ [, 終了ページ [, 部数  
[, 用紙のサイズ [, 用紙の向き ] ] ] ] ] )
```

機能

現在選択されている帳票をローカル印刷します。ローカル印刷のページ設定で指定されているプリンタに印刷します。

パラメタの説明

ページ指定方法

ページ指定を0か1の数値で指定します。

0:すべてのページ

1:開始ページから終了ページまで

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

開始ページ

ローカル印刷を開始するページを指定します。「ページ指定方法」が「1」のときのみ有効になります。

省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

終了ページ

ローカル印刷を終了するページを指定します。「ページ指定方法」が「1」のときのみ有効になります。

省略可能です。省略すると帳票の最終ページが指定されたものとみなします。

部数

印刷する部数を1から9999までの数値で指定します。
省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

用紙のサイズ

用紙のサイズを1から41までの数値で指定します。
省略可能です。省略するとページ設定で行った用紙のサイズが指定されたものとみなします。

用紙の向き

用紙の向きを0か1の数値で指定します。

- 0 : 縦向き
- 1 : 横向き

省略可能です。省略するとページ設定で行った用紙の向きが指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

現在選択されている帳票の5ページから10ページまでを印刷します。

```
object.LocalPrint 1, 5, 10
```

用紙サイズ一覧

- 1 : Letter、8 1/2 × 11 インチ
- 2 : Legal、8 1/2 × 14 インチ
- 3 : A4 シート、210 × 297 mm
- 4 : C シート、17 × 22 インチ
- 5 : D シート、22 × 34 インチ
- 6 : E シート、34 × 44 インチ
- 7 : Letter Small、8 1/2 × 11 インチ
- 8 : Tabloid、11 × 17 インチ
- 9 : Ledger、17 × 11 インチ
- 10 : Statement、5 1/2 × 8 1/2 インチ
- 11 : Executive、7 1/4 × 10 1/2 インチ
- 12 : A3 シート、297 × 420 mm
- 13 : A4 small シート、210 × 297 mm
- 14 : A5 シート、148 × 210 mm
- 15 : B4 シート、250 × 354 mm
- 16 : B5 シート、182 × 257 mm
- 17 : Folio、8 1/2 × 13 インチ
- 18 : Quarto、215 × 275 mm
- 19 : 10 × 14 インチ シート
- 20 : 11 × 17 インチ シート
- 21 : Note、8 1/2 × 11 インチ
- 22 : #9 Envelope、3 7/8 × 8 7/8 インチ
- 23 : #10 Envelope、4 1/8 × 9 1/2 インチ
- 24 : #11 Envelope、4 1/2 × 10 3/8 インチ
- 25 : #12 Envelope、4 3/4 × 11 インチ
- 26 : #14 Envelope、5 × 11 1/2 インチ
- 27 : DL Envelope、110 × 220 mm

- 28 : C5 Envelope、162 × 229 mm
- 29 : C3 Envelope、324 × 458 mm
- 30 : C4 Envelope、229 × 324 mm
- 31 : C6 Envelope、114 × 162 mm
- 32 : C65 Envelope、114 × 229 mm
- 33 : B4 Envelope、250 × 353 mm
- 34 : B5 Envelope、176 × 250 mm
- 35 : B6 Envelope、176 × 125 mm
- 36 : Italy Envelope、110 × 230 mm
- 37 : Monarch Envelope、3 7/8 × 7 1/2 インチ
- 38 : 6 3/4 Envelope、3 5/8 × 6 1/2 インチ
- 39 : US Std Fanfold、14 7/8 × 11 インチ
- 40 : German Std Fanfold、8 1/2 × 12 インチ
- 41 : German Legal Fanfold、8 1/2 × 13 インチ

注意

“2.3.36”のリストビューアオートメーションにおけるLocalPrint(帳票を印刷)メソッドでは、第1パラメタで指定する値の意味が、本メソッドとは異なります。

第1パラメタの値	リストナビからの印刷	リストビューアからの印刷
0	すべてのページ	開始ページから終了ページまで
1	開始ページから終了ページまで	すべてのページ

参考

LocalPrintを使用して、「印刷データに設定されている印刷属性を優先する」の「用紙のサイズ」、「用紙の向き」を有効にする場合は、以下の設定が必要です。

1. 【ページ設定】ダイアログボックスで設定されている「印刷データに設定されている印刷属性を優先する」を有効にします。
2. LocalPrintの「用紙のサイズ」、「用紙の向き」パラメタを省略します。

“2.2.18”のLocalPageSetup(ローカル印刷のページ設定)メソッドを使用して、ローカル印刷の【ページ設定】ダイアログボックスの「カラム」タブを表示させます。「プリンタの設定」ボタンを押下することにより、印刷するプリンタを指定することができます。

2.2.20 Maximize(ウィンドウの最大化)メソッド

記述形式

object.Maximize

機能

リストナビのウィンドウを最大化して表示します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

リストナビのウィンドウを最大化します。

```
object.Maximize
```

2.2.21 Minimize(ウィンドウの最小化)メソッド

記述形式

```
object.Minimize
```

機能

リストナビのウィンドウを最小化します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

リストナビのウィンドウを最小化します。

```
object.Minimize
```

2.2.22 Move(ウィンドウの移動)メソッド

記述形式

```
object.Move( [水平位置 [, 垂直位置] ] )
```

機能

リストナビのウィンドウを移動します。

パラメタの説明

水平位置

画面の左端からウィンドウの左端までの水平距離を、ピクセル数で指定します。省略可能です。省略すると水平位置は移動しません。

垂直位置

画面の上端からウィンドウの上端までの垂直距離を、ピクセル数で指定します。省略可能です。省略すると垂直位置は移動しません。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

リストナビのウィンドウを「水平位置:200、垂直位置:100」の位置へ移動します。

```
object.Move 200, 100
```

2.2.23 OpenFolder(フォルダを開く)メソッド

記述形式

```
object.OpenFolder(パス)
```

機能

指定されたフォルダを開きます。

パラメタの説明

パス

開くフォルダの論理パスを、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。必ず指定します。

例)

サーバ「milano」の保管フォルダ「営業」の場合
milano¥保管¥営業
マイ コンピュータの保管フォルダ「営業」の場合
マイ コンピュータ¥保管¥営業 (注)

注:「マイコンピュータ」は半角文字

復帰値

TRUE

フォルダを開きました。

FALSE

フォルダを開けませんでした。

使用例

マイコンピュータの保管フォルダ「営業」を開きます。

```
object.OpenFolder “マイ コンピュータ¥保管¥営業” (注)
```

注:「マイコンピュータ」は半角文字

2.2.24 OpenItem(選択されているオブジェクトを開く)メソッド

記述形式

```
object.OpenItem
```

機能

現在選択されているオブジェクトを開きます。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

オブジェクトを開きました。

FALSE

オブジェクトを開けませんでした。

使用例

現在選択されているオブジェクトを開きます。

```
object.OpenItem
```



対象のオブジェクトが帳票の場合は、リストビューが新規に起動されます。このリストビューに対してはオートメーションメソッドを使用することはできません。

リストビューに対してオートメーションメソッドを使用する場合は、以下の例のようにリストビューのOpenメソッドを使用し帳票を開いてください。

例)

```
Dim objNavi As Object
Dim objView As Object
Dim FileName As String
Set objNavi = CreateObject("ListNavi.Application")
```

```
Set objView = CreateObject("ListViewer.Application")
FileName = objNavi.GetOpenFileName
objView.Open FileName
```

2.2.25 Quit(リストナビの終了)メソッド

記述形式

object.Quit

機能

リストナビを終了します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

リストナビを終了します。

```
object.Quit
```



マイコンピュータの装置フォルダにファイリング中のグループは、ファイリング依頼をすべてキャンセルします。

2.2.26 RemotePageSetup(リモート印刷のページ設定)メソッド

記述形式

object.RemotePageSetup([タブ番号])

機能

リモート印刷の【ページ設定】ダイアログボックスを表示します。

パラメタの説明

タブ番号

タブ番号を1から6までの数値で指定します。

- 1:【カラム】タブを表示
- 2:【印刷倍率】タブを表示
- 3:【余白】タブを表示
- 4:【印刷項目】タブを表示
- 5:【色】タブを表示
- 6:【詳細設定】タブを表示

省略可能です。省略すると「1」が選択されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

リモート印刷の【ページ設定】ダイアログボックスを【印刷倍率】タブの内容で表示します。

```
object.RemotePageSetup 2
```

2.2.27 RemotePrint(リモート印刷)メソッド

(1) Windows版の場合

記述形式

```
object.RemotePrint (印刷フォルダ名 [, ページ指定方法 [, 開始ページ [, 終了ページ [, 部数  
[, 用紙のサイズ [, 用紙の向き [, 高速印刷指定 [, 優先順位] ] ] ] ] ] ] )
```

機能

現在選択されている帳票をリモート印刷します。

パラメタの説明

印刷フォルダ名

リモート印刷先の印刷フォルダ名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
必ず指定します。

ページ指定方法

リモート印刷するページの指定方法を0か1の数値で指定します。

- 0: すべてのページ
- 1: 開始ページから終了ページまで

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

開始ページ

リモート印刷を開始するページを指定します。「ページ指定方法」が「1」のときのみ有効になります。省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

終了ページ

リモート印刷を終了するページを指定します。「ページ指定方法」が「1」のときのみ有効になります。省略可能です。省略すると帳票の最終ページが指定されたものとみなします。

部数

リモート印刷する部数を1から65535までの数値で指定します。省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

用紙のサイズ

用紙のサイズを1から8までの数値で指定します。省略可能です。省略するとページ設定で行った用紙のサイズが指定されたものとみなします。

用紙の向き

用紙の向きを0か1の数値で指定します。

- 0 : 縦向き
- 1 : 横向き

省略可能です。省略するとページ設定で行った用紙の向きが指定されたものとみなします。

高速印刷指定

高速印刷(VSPシリーズに富士通ホスト帳票を印刷)するかどうかを0か1の数値で指定します。

- 0 : 高速印刷 (VSPシリーズへの富士通ホスト帳票の印刷) を行いません。
- 1 : 高速印刷 (VSPシリーズへの富士通ホスト帳票の印刷) を行います。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

優先順位

優先順位を1から50までの数値で指定します。省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

現在選択されている帳票を、印刷フォルダ「Printer」にすべてのページで1部、リモート印刷します。

```
object.RemotePrint "Printer"
```

用紙サイズ一覧

- 1 : A3
- 2 : A4
- 3 : A5
- 4 : B4
- 5 : B5
- 6 : レターサイズ

- 7: 連帳
- 8: 不定型

参考

- RemotePrintを使用して、「印刷データに設定されている印刷属性を優先する」を有効にする場合は、以下の設定が必要です。
 1. 「ページ設定」で設定されている「印刷データに設定されている印刷属性を優先する」を有効にします。
 2. RemotePrintの印刷フォルダ名以外のパラメタを省略します。
- 「開始ページ」、「終了ページ」パラメタに帳票の最終ページを超えた数値を指定した場合は、帳票をリモート印刷できません。

(2) Solaris版の場合

注意

Solaris 11上ではリモート印刷できないため、エラーとなります。

記述形式

```
object.RemotePrint( 印刷フォルダ名 [, ページ指定方法 [, 開始ページ [, 終了ページ [, 部数] ] ] ] )
```

機能

現在選択されている帳票をリモート印刷します。

パラメタの説明

印刷フォルダ名

リモート印刷先の印刷フォルダ名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
必ず指定します。

ページ指定方法

リモート印刷するページの指定方法を0か1の数値で指定します。

- 0: すべてのページ
- 1: 開始ページから終了ページまで

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

開始ページ

リモート印刷を開始するページを指定します。「ページ指定方法」が「1」のときのみ有効になります。
省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

終了ページ

リモート印刷を終了するページを指定します。「ページ指定方法」が「1」のときのみ有効になります。
省略可能です。省略すると帳票の最終ページが指定されたものとみなします。

部数

リモート印刷する部数を1から65535までの数値で指定します。
省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

現在選択されている帳票を、印刷フォルダ「Printer」にすべてのページで1部、リモート印刷します。

```
object.RemotePrint "Printer"
```

用紙サイズ一覧

- 1 : A3
- 2 : A4
- 3 : A5
- 4 : B4
- 5 : B5
- 6 : レターサイズ
- 7 : 連帳
- 8 : 不定型



「開始ページ」、「終了ページ」パラメタに帳票の最終ページを超えた数値を指定した場合は、帳票の最終ページが指定されたものとみなしてリモート印刷されます。

2.2.28 Restore(ウィンドウを元のサイズに戻す)メソッド

記述形式

```
object.Restore
```

機能

リストナビのウィンドウがアイコン化または最大表示されている場合に、元のサイズに戻します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

アイコン化したリストナビのウィンドウを元のサイズに戻します。

```
object.Minimize  
object.Restore
```

2.2.29 ResumeRemotePrint(リモート印刷の再開)メソッド

記述形式

```
object.ResumeRemotePrint ( [再開部数 [, 再開ページ] ] )
```

機能

現在選択されている印刷フォルダ内の帳票のリモート印刷を再開します。

パラメタの説明

再開部数

リモート印刷を何部目から再開するかを数値で指定します。
省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

再開ページ

リモート印刷を何ページ目から再開するかを数値で指定します。
省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

現在選択されている印刷フォルダ内の帳票のリモート印刷を再開します。

```
object.ResumeRemotePrint
```

2.2.30 SearchList(帳票を検索)メソッド

記述形式

```
object.SearchList
```

機能

選択されている保管フォルダで「帳票を検索」を行います。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

「帳票を検索」を行います。

```
object.SearchList
```

2.2.31 SelectAllItem(すべてのオブジェクトを選択)メソッド

記述形式

```
object.SelectAllItem
```

機能

現在表示中の一覧にあるすべてのオブジェクトを選択します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

オブジェクトを選択しました。

FALSE

オブジェクトを選択できませんでした。

使用例

現在表示中の一覧にあるすべてのオブジェクトを選択します。

```
object.SelectAllItem
```

2.2.32 SelectFile(保管フォルダ内のオブジェクトを選択)メソッド

記述形式

object.SelectFile(オブジェクト名)

機能

現在表示中の保管フォルダ内一覧の、指定されたファイル名、または指定された論理パスのオブジェクトを選択します。

パラメタの説明

オブジェクト名

選択するオブジェクトのファイル名、または論理パス名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。帳票を選択する場合には、帳票のファイル名を指定します。

保管フォルダを選択する場合には、保管フォルダの論理パス名で指定します。論理パスは、以下の形式で指定する必要があります。

Windows版の場合

(ドライブ名) : ¥(第1階層のフォルダ名)¥(保管フォルダ名)¥・・・¥(保管フォルダ名)
例) C:¥Data¥営業

Solaris版の場合

/(第1階層のディレクトリ名)/(保管フォルダ名)/・・・/(保管フォルダ名)
例) /chohyo/data/営業

復帰値

TRUE

オブジェクトを選択しました。

FALSE

オブジェクトを選択できませんでした。

使用例

- ファイル名「ABC.SPL」の帳票を選択します。

```
object.SelectFile "ABC.SPL"
```

- 論理パス名「C:¥Data¥営業部」の保管フォルダを選択します。

```
object.SelectFile "C:¥Data¥営業部"
```

2.2.33 SelectItem(オブジェクトを選択)メソッド

記述形式

object.SelectItem(オブジェクト [, 全選択フラグ])

機能

現在表示中の一覧の指定されたオブジェクトを選択します。

パラメタの説明

オブジェクト

選択するオブジェクトの名前を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。必ず指定します。

全選択フラグ

「オブジェクト」で指定された名前と一致するものをすべて選択するかを0か1の数値で指定します。

0: 最初に一致したオブジェクトのみ選択します。

1: 一致したすべてのオブジェクトを選択します。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

オブジェクトを選択しました。

FALSE

オブジェクトを選択できませんでした。

使用例

帳票名「月末支払予定表」の帳票をすべて選択します。

```
object.SelectItem "月末支払予定表", 1
```

2.2.34 SelectNextItem(次のオブジェクトを選択)メソッド

記述形式

```
object.SelectNextItem( [同一名のオブジェクトを選択] )
```

機能

現在選択されているオブジェクトの次のオブジェクトを選択します。

パラメタの説明

同一名のオブジェクトを選択

現在選択されているオブジェクトと同一名のオブジェクトを選択するかを0か1の数値で指定します。

0: 現在選択されているオブジェクトの次のオブジェクトを選択します。

1: 現在選択されているオブジェクトの次の同一名のオブジェクトを選択します。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

オブジェクトを選択しました。

FALSE

オブジェクトを選択できませんでした。

使用例

現在選択されているオブジェクトの次のオブジェクトを選択します。

```
object.SelectNextItem
```



現在選択されているオブジェクトがない場合、「同一名のオブジェクトを選択」の指定によって結果が異なります。「同一名のオブジェクトを選択」で「0」が指定された場合、先頭のオブジェクトを選択します。「1」が指定された場合、エラーで復帰します。

2.2.35 SelectPrevItem(前のオブジェクトを選択)メソッド

記述形式

```
object.SelectPrevItem( [同一名のオブジェクトを選択] )
```

機能

現在選択されているオブジェクトの前のオブジェクトを選択します。

パラメタの説明

同一名のオブジェクトを選択

現在選択されているオブジェクトと同一名のオブジェクトを選択するかを0か1の数値で指定します。

0：現在選択されているオブジェクトの前のオブジェクトを選択します。

1：現在選択されているオブジェクトの前の同一名のオブジェクトを選択します。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

オブジェクトを選択しました。

FALSE

オブジェクトを選択できませんでした。

使用例

現在選択されているオブジェクトの前のオブジェクトを選択します。

```
object.SelectPrevItem
```



注意

現在選択されているオブジェクトがない場合、「同一名のオブジェクトを選択」の指定によって結果が異なります。「同一名のオブジェクトを選択」で「0」が指定された場合、末尾のオブジェクトを選択します。「1」が指定された場合、エラーで復帰します。

2.2.36 SetDeviceCondition(一覧の表示条件の設定(装置フォルダ))メソッド

記述形式

```
object.SetDeviceCondition([グループ名 [, 依頼者名 [, 開始ファイリング日時  
[, 終了ファイリング日時 [, 状態] ] ] ] ] )
```

機能

装置フォルダ内の一覧の表示条件を設定します。

パラメタの説明

グループ名

表示条件に設定するグループ名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角文字で40文字(全角文字で20文字)以内で指定します。
省略可能です。

依頼者名

表示条件に設定する依頼者名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角文字で24文字(全角文字で12文字)以内で指定します。
省略可能です。

開始ファイリング日時

表示条件に設定するファイリング日時の開始範囲を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd hh:mm」の形式で指定します。
省略可能です。

終了ファイリング日時

表示条件に設定するファイリング日時の終了範囲を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd hh:mm」の形式で指定します。
省略可能です。

状態

表示条件に設定する状態を0から7までの数値で指定します。

- 0: 表示条件に設定しません
- 1: 待機中
- 2: 抽出中
- 3: 準備中
- 4: 書き込み中
- 5: 印刷中
- 6: キャンセル
- 7: 異常

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

表示条件を設定しました。

FALSE

表示条件を設定できませんでした。

使用例

状態が「異常」の帳票のみを表示するように、表示条件を設定します。

```
object.SetDeviceCondition( , , , , 7
```

2.2.37 SetKeepCondition(一覧の表示条件の設定(保管フォルダ))メソッド

ポイント

互換

SetKeepConditionメソッドは、ListWORKS、およびList Works V6.0L10/6.0から移行した場合に、プログラムを変更しなくても継続して運用できるよう、互換のために用意されているメソッドです。
通常はSetKeepConditionExメソッドを使用してください。

記述形式

```
object.SetKeepCondition([帳票名 [ , コメント [ , 作成者名 [ , 開始作成日時 [ , 終了作成日時  
[ , 開始登録日時 [ , 終了登録日時  
[ , 記入状態 [ , アクセス状態 [ , ファイリング状態  
[ , 登録有効期限までの日数指定  
[ , 登録有効期限までの日数] ] ] ] ] ] ] ] ] ] ] )
```

機能

保管フォルダ内の一覧の表示条件を設定します。

パラメタの説明

帳票名

表示条件に設定する帳票名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角文字で64文字(全角文字で32文字)以内で指定します。
省略可能です。

コメント

表示条件に設定するコメントを、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角文字で64文字(全角文字で32文字)以内で指定します。
省略可能です。

作成者名

表示条件に設定する作成者名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角文字で64文字(全角文字で32文字)以内で指定します。
省略可能です。

開始作成日時

表示条件に設定する作成日時の開始範囲を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd hh:mm」の形式で指定します。
省略可能です。

終了作成日時

表示条件に設定する作成日時の終了範囲を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd hh:mm」の形式で指定します。
省略可能です。

開始登録日時

表示条件に設定する登録日時の開始範囲を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd hh:mm」の形式で指定します。
省略可能です。

終了登録日時

表示条件に設定する登録日時の終了範囲を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd hh:mm」の形式で指定します。
省略可能です。

記入状態

表示条件に設定する記入状態を0から2までの数値で指定します。

- 0: 表示条件に設定しません
- 1: 記入してある帳票
- 2: 記入していない帳票

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

アクセス状態

表示条件に設定するアクセス状態を0から2までの数値で指定します。

- 0: 表示条件に設定しません
- 1: アクセスしていない帳票
- 2: アクセスしてある帳票

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

ファイリング状態

表示条件に設定するファイリング状態を0から2までの数値で指定します。

- 0: 表示条件に設定しません
- 1: ファイリングしていない帳票
- 2: ファイリングしてある帳票

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

登録有効期限までの日数指定

表示条件に登録有効期限までの日数を設定するかを0か1の数値で指定します。

- 0: 表示条件に設定しません
- 1: 表示条件に設定します

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

登録有効期限までの日数

表示条件に登録有効期限までの日数を0から9999の数値で指定します。
省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

開始作成日時

表示条件に設定する作成日時の開始範囲を指定します。作成日時の指定によって指定方式が異なります。

範囲指定の場合

半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd hh:mm」の形式で指定します。
省略可能です。

日数指定の場合

指定しません。

終了作成日時/日数

表示条件に設定する作成日時の終了範囲/日数を指定します。作成日時の指定によって指定方式が異なります。

範囲指定の場合

半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd hh:mm」の形式で指定します。
省略可能です。

日数指定の場合

日数を0から9999の数値で指定します。
省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

登録日時の指定

表示条件に登録日時を指定する方法を0から2までの数値で指定します。

- 0：表示条件に設定しません
- 1：範囲指定 (yyyy/mm/dd~yyyy/mm/dd)
- 2：本日から〇〇日前までの日数指定

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。省略した場合、[開始登録日時]、[終了登録日時/日数]の指定は無効となります。「1」を指定した場合、[開始登録日時]、[終了登録日時/日数]の両方の省略はできません。

開始登録日時

表示条件に設定する登録日時の開始範囲を指定します。登録日時の指定によって指定方式が異なります。

範囲指定の場合

半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd hh:mm」の形式で指定します。
省略可能です。

日数指定の場合

指定しません。

終了登録日時/日数

表示条件に設定する登録日時の終了範囲/日数を指定します。登録日時の指定によって指定方式が異なります。

範囲指定の場合

半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd hh:mm」の形式で指定します。
省略可能です。

日数指定の場合

日数を0から9999の数値で指定します。
省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

記入状態

表示条件に設定する記入状態を0から2までの数値で指定します。

- 0: 表示条件に設定しません
- 1: 記入してある帳票
- 2: 記入していない帳票

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

アクセス状態

表示条件に設定するアクセス状態を0から2までの数値で指定します。

- 0: 表示条件に設定しません
- 1: アクセスしていない帳票
- 2: アクセスしてある帳票

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

ファイリング状態

表示条件に設定するファイリング状態を0から2までの数値で指定します。

- 0: 表示条件に設定しません
- 1: ファイリングしていない帳票
- 2: ファイリングしてある帳票

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

登録有効期限までの日数指定

表示条件に登録有効期限までの日数を設定するかを0か1の数値で指定します。

- 0: 表示条件に設定しません
- 1: 表示条件に設定します

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

登録有効期限までの日数

表示条件に設定する登録有効期限までの日数を0から9999の数値で指定します。
省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

表示条件を設定しました。

FALSE

表示条件を設定できませんでした。

使用例

作成日時が2002年内の帳票のうち、アクセスしていない帳票のみを表示するように、表示条件を設定します。

```
object.SetKeepConditionEx , , , 1, "2002/01/01", "2002/12/31", , , , 1
```

2.2.39 SetPrintCondition(一覧の表示条件の設定(印刷フォルダ))メソッド

(1) Windows版の場合

記述形式

```
object.SetPrintCondition([帳票名 [ , 依頼者名 [ , 開始印刷日時 [ , 終了印刷日時  
[ , 開始登録日時 [ , 終了登録日時 [ , 保存期限までの日数指定  
[ , 保存期限までの日数 [ , 状態] ] ] ] ] ] ] ] )
```

機能

印刷フォルダ内の一覧の表示条件を設定します。

パラメタの説明

帳票名

表示条件に設定する帳票名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角文字で132文字(全角文字で66文字)以内で指定します。
省略可能です。

依頼者名

表示条件に設定する依頼者名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角文字で24文字(全角文字で12文字)以内で指定します。
省略可能です。

開始印刷日時

表示条件に設定する印刷日時の開始範囲を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd hh:mm」の形式で指定します。
省略可能です。

終了印刷日時

表示条件に設定する印刷日時の終了範囲を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd hh:mm」の形式で指定します。
省略可能です。

開始登録日時

表示条件に設定する登録日時の開始範囲を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd hh:mm」の形式で指定します。
省略可能です。

終了登録日時

表示条件に設定する登録日時の終了範囲を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd hh:mm」の形式で指定します。
省略可能です。

保存期限までの日数指定

表示条件に保存期限までの日数を設定するかを0か1の数値で指定します。

- 0 : 表示条件に設定しません
- 1 : 表示条件に設定します

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

保存期限までの日数

表示条件に設定する保存期限までの日数を0から9999までの数値で指定します。
省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

状態

表示条件に設定する状態を0から13までの数値で指定します。

- 0 : 表示条件に設定しません
- 1 : 保留

- 2: 中断中
- 3: 格納中
- 4: 印刷待ち
- 5: 印刷中
- 6: 異常
- 7: 停止
- 8: 試し印刷中
- 9: 試し印刷完了確認
- 10: 用紙切れ
- 11: オフライン
- 12: 用紙詰まり
- 13: 印刷完了

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

表示条件を設定しました。

FALSE

表示条件を設定できませんでした。

使用例

帳票名「月末支払予定表」の帳票のうち、状態が「印刷中」のものだけを表示するように、表示条件を設定します。

```
object.SetPrintCondition "月末支払予定表", , , , , , 5
```

(2) Solaris版の場合

記述形式

```
object.SetPrintCondition( [帳票名 [ , 依頼者名 [ , 開始登録日時 [ , 終了登録日時 [ , 状態] ] ] ] )
```

機能

印刷フォルダ内の一覧の表示条件を設定します。

パラメタの説明

帳票名

表示条件に設定する帳票名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角文字で64文字(全角文字で32文字)以内で指定します。
省略可能です。

依頼者名

表示条件に設定する依頼者名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角文字で24文字(全角文字で12文字)以内で指定します。
省略可能です。

開始登録日時

表示条件に設定する登録日時の開始範囲を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd hh:mm」の形式で指定します。
省略可能です。

終了登録日時

表示条件に設定する登録日時の終了範囲を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd hh:mm」の形式で指定します。
省略可能です。

状態

表示条件に設定する状態を0から5までの数値で指定します。

- 0：表示条件に設定しません
- 1：保留
- 2：印刷待ち
- 3：印刷中
- 4：異常
- 5：フィルタ通過

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

表示条件を設定しました。

FALSE

表示条件を設定できませんでした。

使用例

帳票名「月末支払予定表」の帳票のうち、状態が「印刷中」のものだけを表示するように、表示条件を設定します。

```
object.SetPrintCondition "月末支払予定表", . . . 3
```

2.2.40 SetReceiveCondition(一覧の表示条件の設定(受信フォルダ))メソッド

記述形式

```
object.SetReceiveCondition( [帳票名 [ , 作成者名 [ , 状態] ] ] )
```

機能

受信フォルダ内の一覧の表示条件を設定します。

パラメタの説明

帳票名

表示条件に設定する帳票名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角文字で64文字(全角文字で32文字)以内で指定します。
省略可能です。

作成者名

表示条件に設定する作成者名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角文字で24文字(全角文字で12文字)以内で指定します。
省略可能です。

状態

表示条件に設定する状態を0から7までの数値で指定します。

- 0：表示条件に設定しません
- 1：格納中
- 2：振り分け待ち
- 3：振り分け中
- 4：異常
- 5：変換エラー
- 6：振り分けエラー
- 7：振り分け完了

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

表示条件を設定しました。

FALSE

表示条件を設定できませんでした。

使用例

帳票名「月末支払予定表」の帳票のみを表示するように、表示条件を設定します。

```
object.SetReceiveCondition "月末支払予定表"
```

2.2.41 SetSearchDateCondition(帳票の検索条件の設定(日付情報))メソッド

記述形式

```
object.SetSearchDateCondition([[開始作成日付 [, 終了作成日付  
[, 開始登録日付 [, 終了登録日付 ] ] ] ] )
```

機能

「帳票を検索」の検索条件(日付)を設定します。

パラメタの説明

開始作成日付

検索条件に設定する作成日付の開始範囲を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」の形式で指定します。
省略可能です。

終了作成日付

検索条件に設定する作成日付の終了範囲を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」の形式で指定します。
省略可能です。

開始登録日付

検索条件に設定する登録日付の開始範囲を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」の形式で指定します。
省略可能です。

終了登録日付

検索条件に設定する登録日付の終了範囲を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、「yyyy/mm/dd」の形式で指定します。
省略可能です。

復帰値

TRUE

検索条件を設定しました。

FALSE

検索条件を設定できませんでした。

使用例

検索条件として作成日付に2002/01/01から2002/12/31を設定します。

```
object.SetSearchDateCondition "2002/01/01", "2002/12/31"
```

2.2.42 SetSearchManageCondition(帳票の検索条件の設定(管理情報))メソッド

記述形式

```
object.SetSearchManageCondition( [帳票名 [, コメント [, 作成者名 [, アクセス状態] ] ] ] )
```

機能

「帳票を検索」の検索条件(管理情報)を設定します。

パラメタの説明

帳票名

検索条件に設定する帳票名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角文字で64文字(全角文字で32文字)以内で指定します。
省略可能です。

コメント

検索条件に設定するコメントを、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角文字で64文字(全角文字で32文字)以内で指定します。
省略可能です。

作成者名

検索条件に設定する作成者名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角文字で64文字(全角文字で32文字)以内で指定します。
省略可能です。

アクセス状態

検索条件に設定するアクセス状態を0から2までの数値で指定します。

- 0：検索条件に設定しません
- 1：アクセスしていない帳票
- 2：アクセスしてある帳票

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

検索条件を設定しました。

FALSE

検索条件を設定できませんでした。

使用例

検索条件として帳票名に「売り上げ」を設定します。

```
object.SetSearchManageCondition "売り上げ"
```

2.2.43 SetSearchTextCondition(帳票の検索条件の設定(印刷データ内の文字情報))メソッド

記述形式

```
object.SetSearchTextCondition( 検索文字列 [, 一致条件 [, 検索対象] ] )
```

機能

「帳票を検索」の検索条件(印刷データの文字列)を設定します。

パラメタの説明

検索文字列

検索条件に設定する検索文字列を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、40文字以内で指定します。
必ず指定します。

一致条件

「検索文字列」が一致する条件を0から2までの数値で指定します。

- 0：部分的に一致する
- 1：完全に一致する
- 2：前方から一致する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

検索対象

「検索文字列」が検索対象となる範囲を0か1の数値で指定します。

- 0：印刷データ全体
- 1：抜き出し検索範囲

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

検索条件を設定しました。

FALSE

検索条件を設定できませんでした。

使用例

検索条件として検索文字列に「合計」を設定します。

```
object.SetSearchTextCondition "合計"
```

2.2.44 ShowApp(ウィンドウの表示/非表示)メソッド

記述形式

```
object.ShowApp( [表示方法] )
```

機能

リストナビのウィンドウの表示/非表示を設定します。

パラメタの説明

表示方法

リストナビのウィンドウの表示/非表示を0か1の数値で指定します。

0：リストナビを非表示にする

1：リストナビを表示する

省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

リストナビのウィンドウを表示します。

```
object.ShowApp
```

2.2.45 Size(ウィンドウのサイズ変更)メソッド

記述形式

```
object.Size( [幅 [ ,高さ ] ] )
```

機能

リストナビのウィンドウのサイズを変更します。

パラメタの説明

幅

ウィンドウの幅を、ピクセル数で指定します。
省略可能です。省略すると幅を変更しません。

高さ

ウィンドウの高さを、ピクセル数で指定します。
省略可能です。省略すると高さを変更しません。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

リストナビのウィンドウを「幅:800、高さ:500」のサイズに変更します。

```
object.Size 800, 500
```

2.2.46 StartRemotePrint(リモート印刷の開始)メソッド

記述形式

```
object.StartRemotePrint ( [開始ページ [ , 終了ページ [ , 部数 ] ] ] )
```

機能

現在選択されている印刷フォルダ内の帳票のリモート印刷を開始します。

パラメタの説明

開始ページ

リモート印刷を開始するページを指定します。
省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

終了ページ

リモート印刷を終了するページを指定します。
省略可能です。省略すると帳票の最終ページが指定されたものとみなします。

部数

リモート印刷する部数を1から65535までの数値で指定します。
省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

現在選択されている印刷フォルダ内の帳票のリモート印刷を開始します。

```
object.StartRemotePrint
```

2.2.47 StopRemotePrint(リモート印刷の中断)メソッド

記述形式

```
object.StopRemotePrint
```

機能

現在選択されている印刷フォルダ内の帳票のリモート印刷を中断します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

帳票のリモート印刷を中断しました。

FALSE

帳票のリモート印刷を中断できませんでした。

使用例

現在選択されている印刷フォルダ内の帳票のリモート印刷を中断します。

```
object.StopRemotePrint
```



注意

印刷の中断は、スプーラに格納される印刷データの状態に依存するため、リモート印刷の中断メソッドが実行されるタイミングにより、印刷中断が正しく行われず、印刷状態が「保留」または「異常」となる場合があります。中断のタイミングを考慮し、リモート印刷の中断メソッドを実行してください。

2.2.48 UnselectItem(オブジェクトの選択状態の解除)メソッド

記述形式

```
object.UnselectItem
```

機能

オブジェクトの選択を解除します。

パラメタの説明

なし

復帰値

なし

使用例

オブジェクトの選択を解除します。

```
object.UnselectItem
```

2.3 リストビューア オートメーション

以下に、リストビューアのオートメーション メソッドを示します。

オートメーション メソッド	機能
Activate	リストビューアをアクティブにする
Cascade	重ねて表示
Copy	クリップボードへコピー
DataConvert	データ変換
ExtractCancel	絞り込みの解除
ExtractFind	検索による絞り込み
ExtractItem	記入による絞り込み
ExtractPage	ページによる絞り込み
FieldArea	帳票項目の範囲の追加
FieldClear	帳票項目の削除
FieldClearPage	帳票項目の削除(先頭/中間/最後のページごと異なる範囲)

オートメーション メソッド	機能
FieldDate	帳票項目の日付型の範囲の追加
FieldDefineMode	帳票項目の設定
FieldItem	帳票項目の追加
FieldItemPage	帳票項目の追加(先頭/中間/最後のページごと異なる範囲)
Find	印刷データを検索
FindClear	検索条件の削除
FindDataConvert	検索結果のデータ変換(行の一覧)
FindDate	日付の検索条件の設定
FindLoad	検索条件の読み込み
FindNext	下方向に検索
FindNumeric	数値の検索条件の設定
FindOption	検索の方法の設定
FindOrderConvert	検索結果のデータ変換(表形式の一覧)
FindOrderSelect	検索結果の表形式の一覧の項目名の選択
FindPrev	上方向に検索
FindResult	検索結果の表示/非表示
FindResultList	検索結果一覧の表示/非表示
FindSave	検索条件の保存
FindString	文字列の検索条件の設定
FullScreen	全画面表示
GetCurrentTotalPage	全ページ数の取得
HScroll	水平方向へスクロール
IsExtract	絞り込み状態の取得
ItemList	記入の一覧の表示/非表示
LocalPrint	帳票を印刷
Maximize	ウィンドウの最大化
Minimize	ウィンドウの最小化
Move	ウィンドウの移動
Open	帳票を開く
Option	オプションの設定
PageBottom	最後のページへ
PageJump	指定のページへ
PageNext	次のページへ
PagePrev	前のページへ
PageSetup	ページ設定
PageTop	最初のページへ
PanWindow	パンウィンドウの表示/非表示
Quit	リストビューアの終了
Restore	ウィンドウを元のサイズに戻す

オートメーション メソッド	機能
Save	上書き保存
SaveAs	名前を付けて保存
Select	範囲選択
SelectAll	すべて選択
Show	表示項目の設定
ShowApp	ウィンドウの表示/非表示
Size	ウィンドウのサイズ変更
Split	分割/分割解除
Tile	並べて表示
VScroll	垂直方向へスクロール
Zoom	倍率の指定

2.3.1 Activate(リストビューアをアクティブにする)メソッド

記述形式

object.Activate([分割ウィンドウ番号])

機能

リストビューアをアクティブにします。また、ウィンドウが分割表示されている場合は、分割ウィンドウをアクティブにします。

パラメタの説明

分割ウィンドウ番号

左右、上下、上下左右に分割されている場合に、どの分割ウィンドウをアクティブにするかを、1から4までの数値で指定します。
(アクティブになる分割ウィンドウ)

- 1 : 上下左右の分割の場合→左上の分割ウィンドウ
上下の分割の場合→上の分割ウィンドウ
左右の分割の場合→左の分割ウィンドウ
- 2 : 上下左右の分割の場合→右上の分割ウィンドウ
左右の分割の場合→右の分割ウィンドウ
- 3 : 上下左右の分割の場合→左下の分割ウィンドウ
上下の分割の場合→下の分割ウィンドウ
- 4 : 上下左右の分割の場合→右下の分割ウィンドウ

省略可能です。省略するとアクティブな分割ウィンドウを変更しません。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

- ・ リストビューアをアクティブにします。

```
object.Activate
```

- ・ リストビューアが上下左右に分割されている場合、左下の分割ウィンドウをアクティブにします。

```
object.Activate 3
```

- ・ リストビューアが上下左右に分割されている場合、右下の分割ウィンドウをアクティブにします。

```
object.Activate 4
```



注意

リストナビのOpenItemメソッド、リストビューアのOpenメソッド等で帳票を開いた直後にActivateメソッドを実行した場合、帳票を開く処理が実行中であるため、正常にアクティブにならない場合があります。このような場合には、Activateメソッドを実行する前に、スリープ処理を挿入してください。

2.3.2 Cascade(重ねて表示)メソッド

記述形式

```
object.Cascade
```

機能

リストビューアのウィンドウを重ねて表示します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

ウィンドウを重ねて表示します。

```
object.Cascade
```

2.3.3 Copy(クリップボードへコピー)メソッド

パラメタの説明

ファイル名

出力するファイルの物理パスを、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。省略すると【データ変換】ダイアログボックスを表示します。

ファイルの種類

出力するファイルの種類(ファイル形式)を0か1の数値で指定します。

- 0 : CSV形式
- 1 : Text形式

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

項目の範囲名の出力

項目の範囲名を出力するかを0か1の数値で指定します。

- 0 : 項目の範囲名を出力しない
- 1 : 項目の範囲名を出力する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

先頭のページの範囲名のみ出力

先頭のページだけ範囲名を出力するかどうかを0か1の数値で指定します。「項目の範囲名の出力」に「0」を指定すると無効になります。

- 0 : 各ページに範囲名を出力する
- 1 : 先頭のページの範囲名だけ出力する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

拡張漢字の出力

拡張漢字を置き換える文字を0か1の数値で指定します。

- 0 : 「=」で置き換える
- 1 : 空白で置き換える

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

ページ指定

ページ指定を0か1の数値で指定します。

- 0 : 開始ページから終了ページまで
- 1 : すべてのページ

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

開始ページ

開始ページを数値で指定します。「ページ指定」に「1」を指定すると無効になります。
省略可能です。省略すると現在表示中のページとなります。

終了ページ

終了ページを数値で指定します。「ページ指定」に「1」を指定すると無効になります。
省略可能です。省略すると現在表示中のページとなります。

特殊マイナス記号

特殊なマイナス記号の種類を、0から3までの数値で指定します。

- 0 : なし
- 1 : 後ろのマイナス記号
- 2 : 前の▲記号
- 3 : 前の△記号

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

文字型の範囲にある数値も、Microsoft Excelで文字として扱われるように変換する

文字型の範囲にある数値も、Microsoft Excelで文字として扱われるように変換するかどうかを0か1の数値で指定します。「ファイルの種類」に「1」を指定すると無効になります。

- 0：変換しない
- 1：変換する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

注意

出力したCSVファイルの文字型の範囲にある数値が、Microsoft Excelでゼロサプレスされないように表示したい場合は、本パラメータを指定します。

通常は、「文字型の範囲にある数値も、Microsoft Excelで文字として扱われるように変換する」を指定する必要はありません。

復帰値

TRUE

データ変換しました。

FALSE

データ変換できませんでした。

使用例

表示中の帳票の5ページから10ページまでのデータを、CSV形式でファイル(C:\¥data¥A.CSV)に出力します。

```
object.DataConvert "C:\¥data¥A.CSV", 0, 0, 0, 0, 0, 5, 10, 0
```

注意

- ファイル名の拡張子には、CSV形式、Text形式以外は指定できません。
- 出力先に同一ファイル名が存在する場合は、上書きされます。
- 「ファイルの種類」に「0」を指定した場合には、ファイル名の拡張子をCSV形式で、「ファイルの種類」に「1」を指定した場合には、ファイル名の拡張子をText形式で指定してください。
- 帳票項目が設定されていない場合は、データ変換されません。

2.3.5 ExtractCancel(絞り込みの解除)メソッド

記述形式

```
object.ExtractCancel
```

機能

リストビューアに表示している帳票の絞り込みを解除します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

表示している帳票の絞り込みを解除します。

```
object.ExtractCancel
```

2.3.6 ExtractFind(検索による絞り込み)メソッド

記述形式

```
object.ExtractFind([結果メッセージのダイアログボックスの表示/非表示])
```

機能

リストビューアに表示している帳票を、検索で絞り込みます。

パラメタの説明

結果メッセージのダイアログボックスの表示/非表示

検索した値が見つからなかった場合に表示される結果メッセージのダイアログボックスについて、表示するか表示しないかを0か1の数値で指定します。

0：表示しない

1：表示する

省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

1. 検索条件を削除します。

```
object.FindClear
```


指定例) "255. 0. 255"

省略可能です。省略すると色は指定されないものとみなします。

付せんのユーザID指定

ユーザIDを指定するかを、0か1の数値で指定します。

0 : 指定しない

1 : 指定する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

付せんのユーザID

ユーザIDの文字列を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。

省略可能です。

メモ

メモで絞り込むかを、0か1の数値で指定します。

0 : 絞り込まない

1 : 絞り込む

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

メモの色

赤色、緑色、青色の輝度(0から255まで)を半角のピリオド「.」で区切った文字列で指定します。文字列は、半角のダブルクォーテーション「"」で囲んだものを指定します。

指定例) "255. 0. 255"

省略可能です。省略すると色は指定されないものとみなします。

メモのユーザID指定

ユーザIDを指定するかを、0か1の数値で指定します。

0 : 指定しない

1 : 指定する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

メモのユーザID

ユーザIDの文字列を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。

省略可能です。

ラインマーク

ラインマークで絞り込むかを、0か1の数値で指定します。

0 : 絞り込まない

1 : 絞り込む

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

ラインマークの色

赤色、緑色、青色の輝度(0から255まで)を半角のピリオド「.」で区切った文字列で指定します。文字列は、半角のダブルクォーテーション「"」で囲んだものを指定します。

指定例) "255. 0. 255"

省略可能です。省略すると色は指定されないものとみなします。

ラインマークのユーザID指定

ユーザIDを指定するかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 指定しない
- 1: 指定する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

ラインマークのユーザID

ユーザIDの文字列を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。

チェックマーク

チェックマークで絞り込むかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 絞り込まない
- 1: 絞り込む

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

チェックマークの色

赤色、緑色、青色の輝度(0から255まで)を半角のピリオド「.」で区切った文字列で指定します。文字列は、半角のダブルクォーテーション「"」で囲んだものを指定します。

指定例) "255. 0. 255"

省略可能です。省略すると色は指定されないものとみなします。

チェックマークのユーザID指定

ユーザIDを指定するかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 指定しない
- 1: 指定する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

チェックマークのユーザID

ユーザIDの文字列を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。

スタンプ

スタンプで絞り込むかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 絞り込まない
- 1: 絞り込む

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

スタンプの色

赤色、緑色、青色の輝度(0から255まで)を半角のピリオド「.」で区切った文字列で指定します。文字列は、半角のダブルクォーテーション「"」で囲んだものを指定します。

指定例) "255. 0. 255"

省略可能です。省略すると色は指定されないものとみなします。

スタンプのユーザID指定

ユーザIDを指定するかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 指定しない
- 1: 指定する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

スタンプのユーザID

ユーザIDの文字列を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。

ハイパーリンク

ハイパーリンクで絞り込むかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 絞り込まない
- 1: 絞り込む

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

ハイパーリンクの色

赤色、緑色、青色の輝度(0から255まで)を半角のピリオド「.」で区切った文字列で指定します。文字列は、半角のダブルクォーテーション「"」で囲んだものを指定します。

指定例) "255.0.255"

省略可能です。省略すると色は指定されないものとみなします。

ハイパーリンクのユーザID指定

ユーザIDを指定するかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 指定しない
- 1: 指定する

省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

ハイパーリンクのユーザID

ユーザIDの文字列を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。

結果メッセージのダイアログボックスの表示/非表示

結果メッセージのダイアログボックスを表示するか表示しないかを0か1の数値で指定します。

- 0: 表示しない
- 1: 表示する

省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票の記入情報(赤色の付せん)を検索し、帳票を絞り込みます。

```
object.ExtractItem 1, "255.0.0"
```

2.3.8 ExtractPage(ページによる絞り込み)メソッド

記述形式

```
object.ExtractPage( [開始ページ [ , 終了ページ [ , ページ単位] ] ] )
```

機能

リストビューアに表示している帳票を、ページで絞り込みます。

パラメタの説明

開始ページ

絞り込みを開始するページを数値で指定します。
省略可能です。省略すると「1ページ」が指定されたものとみなします。

終了ページ

絞り込みを終了するページを指定します。
省略可能です。省略すると「最終ページ」が指定されたものとみなします。

ページ単位

絞り込みを行うページ単位を数値で指定します。
省略可能です。省略すると「1ページ」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

ページで絞り込みました。

FALSE

ページで絞り込みできませんでした。

使用例

表示中の帳票を2ページおきに絞り込みます。

```
object.ExtractPage , , 2
```

2.3.9 FieldArea(帳票項目の範囲の追加)メソッド

記述形式

```
object.FieldArea(項目名, 範囲名 [ , 検索の型], 開始横位置, 終了横位置  
[ , 暗黙項目の補完 [ , 小数点位置 [ , 段組ごと暗黙補完] ] ] )
```

機能

リストビューアに表示している帳票項目に対して列の範囲を設定します。

パラメタの説明

項目名

項目名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は半角文字で32文字(全角文字で16文字)以内で指定します。
必ず指定します。

範囲名

項目に設定する範囲名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は半角文字で32文字(全角文字で16文字)以内で指定します。
必ず指定します。

検索の型

設定する検索の型を、1か2の数値で指定します。

- 1: 文字型
- 2: 数値型

省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

開始横位置

選択する範囲の開始の横位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。
必ず指定します。

終了横位置

選択する範囲の終了の横位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。
必ず指定します。

暗黙項目の補完

暗黙項目を補完するかどうかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 暗黙項目を補完しない
- 1: 暗黙項目を補完する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

小数点位置

小数点の位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。
「検索の型」が「2」のときのみ有効になります。
省略可能です。省略すると小数点は設定されないものとみなします。

段組ごと暗黙補完

段組ごとに暗黙項目を補完するかどうかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 段組ごとに暗黙項目を補完しない
- 1: 段組ごとに暗黙項目を補完する

「検索の型」が「1」、かつ「暗黙項目の補完」が「1」の場合のみ有効になります。
省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

帳票項目の範囲を追加しました。

FALSE

帳票項目の範囲を追加できませんでした。

使用例

「帳票項目の設定」を開始し、表示中の帳票に項目名(項目1)、開始横位置(100)、開始縦位置(100)、終了横位置(3000)、終了縦位置(3000)の帳票項目を設定し、範囲名(範囲1)、開始横位置(1000)、終了横位置(2000)の範囲を設定します。

```
object.FieldDefineMode 1
object.FieldItem "項目1", 100, 100, 3000, 3000
object.FieldArea "項目1", "範囲1", 1, 1000, 2000
```



注意

「帳票項目の設定」が開始されている必要があります。

指定した開始横位置から、終了横位置までの間に、すでに範囲がある場合は、その範囲は削除されます。

2.3.10 FieldClear(帳票項目の削除)メソッド

記述形式

```
object.FieldClear( [項目名] )
```

機能

リストビューアに表示している帳票の帳票項目を削除します。

パラメタの説明

項目名

削除する項目名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は半角文字で32文字(全角文字で16文字)以内で指定します。

省略可能です。省略すると表示中のすべての帳票項目を削除します。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

「帳票項目の設定」を開始し、すべての帳票項目を削除します。

```
object.FieldDefineMode 1
object.FieldClear
```



注意

「帳票項目の設定」が開始されている必要があります。

2.3.11 FieldClearPage(帳票項目の削除(先頭/中間/最後のページごと異なる範囲)) メソッド

記述形式

```
object.FieldClearPage( 項目名 [, 削除ページ] )
```

機能

リストビューアに表示している帳票の帳票項目を削除します。ページごと異なる範囲の帳票項目を設定している場合に、先頭、中間、最後ページのいずれかの帳票項目を削除できます。

パラメタの説明

項目名

削除する項目名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。必ず指定します。

削除ページ

削除する帳票項目のページを0から3までの数値で指定します。

- 0 : 先頭、中間、最後ページの帳票項目をすべて削除します。
- 1 : 先頭ページの帳票項目を削除します。
- 2 : 中間ページの帳票項目を削除します。
- 3 : 最後ページの帳票項目を削除します。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

- ・「帳票項目の設定」を開始し、項目名(項目1)の先頭、中間、最後ページの帳票項目のすべてを削除します。

```
object.FieldDefineMode 1  
object.FieldClearPage "項目1"
```

- ・「帳票項目の設定」を開始し、項目名(項目2)の中間ページの帳票項目を削除します。

```
object.FieldDefineMode 1  
object.FieldClearPage "項目2", 2
```

注意

- ・【List Worksクライアント環境設定】ダイアログボックスで「ページごと異なる範囲の帳票項目の設定する機能を使用する」をチェックした場合のみ設定が可能です。チェックしていない場合はエラーになります。
- ・「帳票項目の設定」が開始されている必要があります。

- ・ 項目名にFieldItemPageで追加した帳票項目を指定する必要があります。
- ・ 総ページ数が1ページの帳票で、「削除ページ」に「2」または「3」を指定した場合には、帳票項目がないものとみなします。
- ・ 総ページ数が2ページの帳票で、「削除ページ」に「2」を指定した場合には、帳票項目がないものとみなします。

2.3.12 FieldDate(帳票項目の日付型の範囲の追加)メソッド

記述形式

```
object.FieldDate(項目名 [, 年型の範囲名 [, 年型の種別 [, 年開始横位置, 年終了横位置
[, 月型の範囲名 [, 月開始横位置, 月終了横位置
[, 日型の範囲名 [, 日開始横位置, 日終了横位置
[, 暗黙項目の補完 [, 段組ごと暗黙補完] ] ] ] ] ] ] )
```

機能

リストビューアに表示している帳票項目に対して日付型の列の範囲を設定します。

パラメタの説明

項目名

項目名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は半角文字で32文字(全角文字で16文字)以内で指定します。
必ず指定します。

年型の範囲名

項目に設定する年型の範囲名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は半角文字で32文字(全角文字で16文字)以内で指定します。
省略可能です。

年型の種別

設定する年型の種別を、1か2の数値で指定します。

- 1: 西暦
- 2: 和暦

省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

年開始横位置

選択する範囲の開始の横位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。
省略可能です。省略すると範囲は設定されないものとみなします。

年終了横位置

選択する範囲の終了の横位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。
省略可能です。省略すると範囲は設定されないものとみなします。また、年開始横位置を省略すると無効になります。

月型の範囲名

項目に設定する月型の範囲名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は半角文字で32文字(全角文字で16文字)以内で指定します。
省略可能です。

月開始横位置

選択する範囲の開始の横位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。
省略可能です。省略すると範囲は設定されないものとみなします。

月終了横位置

選択する範囲の終了の横位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。
省略可能です。省略すると範囲は設定されないものとみなします。また、月開始横位置を省略すると無効になります。

日型の範囲名

項目に設定する日型の範囲名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は半角文字で32文字(全角文字で16文字)以内で指定します。
省略可能です。

日開始横位置

選択する範囲の開始の横位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。
省略可能です。省略すると範囲は設定されないものとみなします。

日終了横位置

選択する範囲の終了の横位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。
省略可能です。省略すると範囲は設定されないものとみなします。また、日開始横位置を省略すると無効になります。

暗黙項目の補完

暗黙項目を補完するかどうかを、0か1の数値で指定します。

- 0 : 暗黙項目を補完しない
- 1 : 暗黙項目を補完する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

段組ごと暗黙補完

段組ごとに暗黙項目を補完するかどうかを、0か1の数値で指定します。

- 0 : 段組ごとに暗黙項目を補完しない
- 1 : 段組ごとに暗黙項目を補完する

「暗黙項目の補完」が「1」の場合のみ有効となります。
省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

「帳票項目の設定」を開始し、表示中の帳票に項目名(項目1)、開始横位置(1000)、開始縦位置(1000)、終了横位置(3000)、終了縦位置(1500)の帳票項目を設定し、年開始横位置(1100)、年終了横位置(1600)、月開始横位置(1700)、月終了横位置(2200)、日開始横位置(2300)、日終了横位置(2800)の範囲を設定します。

```
object.FieldDefineMode 1
object.FieldItem "項目1", 1000, 1000, 3000, 1500
object.FieldDate "項目1", "年", ., 1100, 1600, "月", 1700, 2200, "日", 2300, 2800
```

注意

- ・「帳票項目の設定」が開始されている必要があります。
- ・指定した開始横位置から、終了横位置までの間に、すでに範囲がある場合は、その範囲は削除されます。

- ・ 各範囲の横位置は、重ならないように設定してください。
-

2.3.13 FieldDefineMode(帳票項目の設定)メソッド

記述形式

```
object.FieldDefineMode( 開始終了方法 [, 保存方法] )
```

機能

リストビューアに表示している帳票に対して「帳票項目の設定」を開始、終了します。

パラメタの説明

開始終了方法

開始、終了を0か1の数値で指定します。

- 0: 「帳票項目の設定」を終了する
- 1: 「帳票項目の設定」を開始する

必ず指定します。

保存方法

終了時に帳票項目を保存するかどうかを0か1の数値で指定します。「開始終了方法」に「0」以外を指定すると無効になります。

- 0: 保存しないで終了する
- 1: 保存して終了する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

帳票項目の設定を開始/終了しました。

FALSE

帳票項目の設定を開始/終了できませんでした。

使用例

- ・ 「帳票項目の設定」を開始します。

```
object.FieldDefineMode 1
```

- ・ 「帳票項目の設定」を保存して終了します。

```
object.FieldDefineMode 0, 1
```

2.3.14 FieldItem(帳票項目の追加)メソッド

記述形式

```
object.FieldItem( 項目名, 開始横位置, 開始縦位置, 終了横位置, 終了縦位置 )
```

機能

リストビューアに表示している帳票に対して帳票項目を設定します。

パラメタの説明

項目名

帳票項目に設定する項目名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は半角文字で32文字(全角文字で16文字)以内で指定します。必ず指定します。

開始横位置

選択する範囲の開始の横位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

開始縦位置

選択する範囲の開始の縦位置を、帳票の上端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

終了横位置

選択する範囲の終了の横位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

終了縦位置

選択する範囲の終了の縦位置を、帳票の上端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

「帳票項目の設定」を開始し、表示中の帳票に項目名(項目1)、開始横位置(100)、開始縦位置(100)、終了横位置(3000)、終了縦位置(3000)の帳票項目を設定します。

```
object.FieldDefineMode 1  
object.FieldItem "項目1", 100, 100, 3000, 3000
```

注意

- パラメタは、すべて指定しないとエラーになります。
- 「帳票項目の設定」が開始されている必要があります。

2.3.15 FieldItemPage(帳票項目の追加(先頭/中間/最後のページごと異なる範囲))メソッド

記述形式

```
object.FieldItemPage(項目名, 開始横位置, 終了横位置,  
先頭ページ開始縦位置, 先頭ページ終了縦位置,
```

中間ページ開始縦位置, 中間ページ終了縦位置,
最後ページ開始縦位置, 最後ページ終了縦位置)

機能

リストビューアに表示している帳票に対して、先頭/中間/最後のページごと異なる範囲の帳票項目を設定します。

パラメタの説明

項目名

帳票項目に設定する項目名を、半角のダブルクォーテーション"'"で囲まれた文字列として指定します。必ず指定します。

開始横位置

選択する範囲の開始の横位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

終了横位置

選択する範囲の終了の横位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

先頭ページ開始縦位置

先頭ページの選択する範囲の開始の縦位置を、帳票の上端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

先頭ページ終了縦位置

先頭ページの選択する範囲の終了の縦位置を、帳票の上端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

中間ページ開始縦位置

中間ページの選択する範囲の開始の縦位置を、帳票の上端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

中間ページ終了縦位置

中間ページの選択する範囲の終了の縦位置を、帳票の上端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

最後ページ開始縦位置

最後ページの選択する範囲の開始の縦位置を、帳票の上端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

最後ページ終了縦位置

最後ページの選択する範囲の終了の縦位置を、帳票の上端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

「帳票項目の設定」を開始し、表示中の帳票に項目名(項目1)、開始横位置(100)、終了横位置(3000)、先頭ページ開始縦位置(200)、先頭ページ終了縦位置(3000)、中間ページ開始縦位置(100)、中間ページ終了縦位置(3000)、最後ページ開始縦位置(100)、最後ページ終了縦位置(2000)の帳票項目を設定します。

```
object.FieldDefineMode 1  
object.FieldItemPage "項目1", 100, 3000, 200, 3000, 100, 3000, 100, 2000
```




注意

- ・【List Worksクライアント環境設定】ダイアログボックスで「ページごと異なる範囲の帳票項目を設定する機能を使用する」をチェックした場合のみ設定が可能です。チェックしていない場合にはエラーとなります。
- ・パラメタは、すべて指定しないとエラーになります。
- ・「帳票項目の設定」が開始されている必要があります。
- ・1ページの帳票の場合には、中間ページ開始縦位置/中間ページ終了縦位置/最終ページ開始縦位置/最終ページ終了縦位置は無効となります。
- ・2ページの帳票の場合には、中間ページ開始縦位置/中間ページ終了縦位置は無効となります。
- ・連結表示している帳票または連結保存した帳票に対して、本メソッドを使用した場合、期待した結果が得られない場合があります。

2.3.16 Find(印刷データを検索)メソッド

記述形式

object.Find([検索結果の表示方法])

機能

リストビューアに表示している帳票内のデータを検索します。

パラメタの説明

検索結果の表示方法

検索結果の表示方法を0から3までの数値で指定します。

- 0：ページ単位
- 1：項目単位
- 2：行の一覧
- 3：表形式の一覧

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

1. 検索条件を削除します。

```
object.FindClear
```

2. 範囲名「振込先」で「東京支店」と等しい文字列を検索する条件を設定します。

```
object.FindString "振込先", "東京支店", 0, 0, 0, 0
```

3. 範囲名「振込金額」で「1,000,000」以上かつ「3,000,000」以下の数値を検索する条件を設定します。

```
object.FindNumeric "振込金額", "1000000", 4, 1, "3000000", 5, 0, 0
```

4. 2と3の条件で、ページ単位で検索を行います。

```
object.Find 0
```

注意

- FindString、FindNumeric、FindDate、FindOptionメソッドを呼び出して、あらかじめ検索条件を設定しておく必要があります。検索条件が設定されていない場合は、検索は行われません。
- FindOptionメソッドの「検索する行」で「3」を指定した場合には、FindClearメソッド以降で最初に設定した検索条件が「基準の行」として認識されます。
- FindOptionメソッドの「検索する行」で「4」を指定した場合には、FindString、FindNumeric、FindDateメソッドのいずれかで、「範囲の確定条件/検索条件」の「0」から「2」、または「0」から「3」の検索条件を指定しておく必要があります。
- FindOptionメソッドの「対象範囲」に「2」を指定した場合には、FindString、FindNumeric、FindDateメソッドの「範囲名」には、帳票項目の範囲名を指定する必要があります。
FindString、FindNumeric、FindDateメソッドの「範囲名」に帳票項目の範囲名以外を指定した場合には、FindOptionメソッドの「対象範囲」に「0」が指定されたものとみなされて検索されます。

2.3.17 FindClear(検索条件の削除)メソッド

記述形式

```
object.FindClear
```

機能

リストビューアに表示している帳票内のデータを検索する条件をすべて削除します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

検索条件をすべて削除します。

```
object.FindClear
```


- 0: 開始ページから終了ページまで
- 1: すべてのページ

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

開始ページ

開始ページを数値で指定します。ページ指定に1を指定すると無効になります。省略可能です。省略すると現在表示中のページとなります。

終了ページ

終了ページを数値で指定します。ページ指定に1を指定すると無効になります。省略可能です。省略すると現在表示中のページとなります。

検索結果の出力

検索結果の出力方法を、0から2までの数値で指定します。

- 0: 検索一致行のみ出力する
- 1: 検索一致行を含む段組を出力する
- 2: 検索一致行を含むページを出力する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

検索一致行のm行上から出力

検索一致行の何行上から出力するかを指定します。「検索結果の出力」の指定に0以外を指定すると無効になります。省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

検索一致行のn行下まで出力

検索一致行の何行下まで出力するかを指定します。「検索結果の出力」の指定に0以外を指定すると無効になります。省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

特殊マイナス記号

特殊なマイナス記号の種類を、0から3までの数値で指定します。

- 0: なし
- 1: 後ろのマイナス記号
- 2: 前の▲記号
- 3: 前の△記号

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

文字型の範囲にある数値も、Microsoft Excelで文字として扱われるように変換する

文字型の範囲にある数値も、Microsoft Excelで文字として扱われるように変換するかどうかを0か1の数値で指定します。「ファイルの種類」に「1」を指定すると無効になります。

- 0: 変換しない
- 1: 変換する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

注意

出力したCSVファイルの文字型の範囲にある数値が、Microsoft Excelでゼロサプレスされないように表示したい場合は、本パラメタを指定します。

通常は、「文字型の範囲にある数値も、Microsoft Excelで文字として扱われるように変換する」を指定する必要はありません。

日1 日2

検索する日付の日を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角2桁で指定します。省略可能です。

比較式1

日付1の比較式を、0から2までの数値で指定します。

- 0: 等しい
- 1: から
- 2: まで

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

条件式

条件式を0の数値で指定します。

- 0: かつ

本パラメタは、「比較式1」に「1」を指定した場合に有効になります。省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

比較式2

日付2を指定した場合の比較式を指定します。

- 2: まで

本パラメタは、「比較式1」に「1」を指定した場合に有効になります。省略可能です。省略すると「2」が指定されたものとみなします。

基準の行からの行数

基準の行を指定して検索する場合に、基準の行からの行数を指定します。

基準の行の場合は、「0」を指定します。

本パラメタは、FindOptionメソッドの「検索する行」に「3」を指定した場合に、有効になります。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

基準の行からの方向

基準の行を指定して検索する場合に、基準の行からの方向を0か1の数値で指定します。

- 0: 基準の行から下方向
- 1: 基準の行から上方向

基準の行の場合は、「0」を指定します。

本パラメタは、FindOptionメソッドの「検索する行」に「3」を指定した場合に、有効になります。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

範囲名の型

表示中のオーバーレイを使用しているページ以外も検索する場合に、「範囲名」の型を1から6の数値で指定します。

- 1: 年月日型
- 2: 年月型
- 3: 月日型
- 4: 年型
- 5: 月型
- 6: 日型

本パラメタは、表示中のオーバーレイを使用しているページ以外も検索する場合に、有効になります。

省略可能です。省略すると表示中のオーバーレイに設定されている帳票項目が指定されたものとみなします。

年の種別

検索する年型の種別を1か2の数値で指定します。

- 1: 西暦
- 2: 和暦

本パラメータは、「範囲名の型」に「1」、「2」または「4」を指定した場合に、有効になります。
省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

範囲の確定条件/検索条件

不定数の複数行が1組となる帳票において、範囲を指定して検索する場合に、このメソッドで設定する検索条件が、範囲を確定するための条件か、範囲内を検索する条件かを0から3までの数値で指定します。

- 0: 範囲を確定する開始行の条件
- 1: 範囲を確定する終了行の条件
- 2: 確定した範囲を検索する条件1
- 3: 確定した範囲を検索する条件2

本パラメータはFindOptionメソッドの「検索する行」に「4」を指定した場合のみ有効になります。
省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

複数の条件で検索する

1. 検索条件を削除します。

```
object.FindClear
```

2. 範囲名「日付」で、平成12年10月31日と等しい日付を検索する条件を設定します。

```
object.FindDate "日付", "H12", "10", "31", 0
```

3. 範囲名「報告日」で、1999年1月1日から2002年12月31日までの日付を検索する条件を設定します。

```
object.FindDate "報告日", "1999", "01", "01", 1, 0, "2002", "12", "31", 2, 0, 0
```

4. 2と3の条件で検索を行います。

```
object.Find
```

基準の行を指定して検索する

1. 検索条件を削除します。

```
object.FindClear
```

2. 検索する方法として「基準の行を指定して検索する」を設定します。

```
object.FindOption , , , 3
```

3. 範囲名「日付」で、平成12年10月31日と等しい日付を基準の行として検索する条件を設定します。

```
object.FindDate "日付", "H12", "10", "31", 0, , , , , 0, 0
```

4. 基準の行から2行上の範囲名「報告日」で、1999年1月1日から2002年12月31日までの日付を検索する条件を設定します。

```
object.FindDate "報告日", "1999", "01", "01", 1, 0, "2002", "12", "31", 2, 2, 1
```

5. 基準の行から1行下の範囲名「承認日」で、1999年1月1日から2002年12月31日までの日付を検索する条件を設定します。

```
object.FindDate "報告日", "1999", "01", "01", 1, 0, "2002", "12", "31", 2, 1, 0
```

6. 3から5の条件で検索します。

```
object.Find
```

不定数の複数行が1組となる帳票において、範囲を指定して検索する

1. 検索条件を削除します。

```
object.FindClear
```

2. 検索する方法として「範囲を指定して検索する」を設定します。

```
object.FindOption , , , 4
```

3. 範囲名「日付」で、平成12年10月31日と等しい日付を、範囲を確定する開始行の検索条件として設定します。

```
object.FindDate "日付", "H12", "10", "31", 0, , , , , , , , , 0
```

4. 範囲名「報告日」で、1999年1月1日から2002年12月31日までの日付を、範囲を確定する終了行の検索条件として設定します。

```
object.FindDate "報告日", "1999", "01", "01", 1, 0, "2002", "12", "31", 2, , , , , 1
```

5. 範囲名「承認日」で、2002年12月31日と等しい日付を、検索する条件として設定します。

```
object.FindDate "報告日", "2002", "12", "31", 0, , , , , , , , , 2
```

6. 3から5の条件で検索します。

```
object.Find
```



注意

- 年、月、日をすべて省略した場合は、【検索】ダイアログボックスが表示されます。
- 年と日を指定し、月を指定しない場合は、検索条件は設定されません。
- Findメソッドを呼び出す前に、最大4つの検索条件が設定できます。
- 検索条件を新たに設定し直す場合は、あらかじめ検索条件を削除しておく必要があります。検索条件を削除しないで設定すると、これまで設定された条件に追加されます。
- FindOptionメソッドの「対象範囲」に「2」を指定した場合には、「範囲名」には、帳票項目の範囲名を指定する必要があります。帳票項目の範囲名を指定しない場合、FindOptionメソッドの「対象範囲」に「0」が指定されたものとみなされて検索されます。

2.3.20 FindLoad(検索条件の読み込み)メソッド

記述形式

```
object.FindLoad( 検索条件の名前 )
```


機能

リストビューアに表示している帳票内のデータを検索する条件を読み込みます。読み込まれた検索条件は、現在設定されている検索条件と置き換わります。

パラメタの説明

検索条件の名前

読み込む検索条件の名前を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は半角文字で40文字(全角文字で20文字)以内で指定します。
必ず指定します。

復帰値

TRUE

検索条件を読み込みました。

FALSE

検索条件を読み込めませんでした。

使用例

検索条件の名前「東京支店」を読み込みます。

```
object.FindLoad "東京支店"
```

2.3.21 FindNext(下方向に検索)メソッド

記述形式

```
object.FindNext
```

機能

リストビューアに表示している帳票を、下方向に検索します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票を下方向に検索します。

object.FindNext

2.3.2 FindNumeric(数値の検索条件の設定)メソッド

記述形式

```
object.FindNumeric(範囲名 [, 数値1 [, 比較式1 [, 条件式 [, 数値2 [, 比較式2  
[, 基準の行からの行数 [, 基準の行からの方向  
[, 範囲の確定条件/検索条件] ] ] ] ] ] )
```

機能

リストビューアに表示している帳票内のデータを検索する前準備として、数値を検索する条件を設定します。

パラメタの説明

範囲名

検索する範囲名を、半角のダブルクォーテーション"\""で囲まれた文字列として指定します。選択した範囲を検索する場合は、「選択した範囲(数値)\"\"を指定します。
必ず指定します。

数値1 数値2

検索する数値を、半角のダブルクォーテーション"\""で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角80文字以内で指定します。
省略可能です。省略すると【検索】ダイアログボックスを表示します。

比較式1 比較式2

数値nの比較式を、0から5までの数値で指定します。

- 0: 等しい
- 1: 等しくない
- 2: より大きい
- 3: より小さい
- 4: 以上
- 5: 以下

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

条件式

条件式を、0か1の数値で指定します。

- 0: または
- 1: かつ

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

基準の行からの行数

基準の行を指定して検索する場合に、基準の行からの行数を指定します。

基準の行の場合は、「0」を指定します。

本パラメタは、FindOptionメソッドの「検索する行」に「3」を指定した場合に、有効になります。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

基準の行からの方向

基準の行を指定して検索する場合に、基準の行からの方向を指定します。

- 0: 基準の行から下方向
- 1: 基準の行から上方向

基準の行の場合は、「0」を指定します。

本パラメタは、FindOptionメソッドの「検索する行」に「3」を指定した場合に、有効になります。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

範囲の確定条件/検索条件

不定数の複数行が1組となる帳票において、範囲を指定して検索する場合に、このメソッドで設定する検索条件が、範囲を確定するための条件か、範囲内を検索する条件かを0から3までの数値で指定します。

- 0：範囲を確定する開始行の条件
- 1：範囲を確定する終了行の条件
- 2：確定した範囲を検索する条件1
- 3：確定した範囲を検索する条件2

本パラメタはFindOptionメソッドの「検索する行」に「4」を指定した場合のみ有効になります。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

複数の条件で検索する

1. 検索条件を削除します。

```
object.FindClear
```

2. 範囲名「No」で「10」以下の数値を検索する条件を設定します。

```
object.FindNumeric "No", "10", 5
```

3. 範囲名「振込金額」で「1,000,000」以上かつ「3,000,000」以下の数値を検索する条件を設定します。

```
object.FindNumeric "振込金額", "1000000", 4, 1, "3000000", 5, 0, 0
```

4. 2と3の条件で検索を行います。

```
object.Find
```

基準の行を指定して検索する

1. 検索条件を削除します。

```
object.FindClear
```

2. 検索する方法として「基準の行を指定して検索する」を設定します。

```
object.FindOption , , , 3
```

3. 範囲名「No」で、「10」以下の数値を基準の行として検索する条件を設定します。

```
object.FindNumeric "No", "10", 5, , , , 0, 0
```

4. 基準の行から2行上の範囲名「顧客番号」で、「100」以上かつ「500」以下の数値を検索する条件を設定します。

```
object.FindNumeric "顧客番号", "100", 4, 1, "500", 5, 2, 1
```


パラメタの説明

方向

検索する方向を0から4までの数値で指定します。

- 0: 現在のページから下方向
- 1: 現在のページから上方向
- 2: 先頭のページから下方向
- 3: 最後のページから上方向
- 4: 指定ページ

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

開始ページ

「方向」が「4」のときのみ有効になります。検索を開始するページ番号を数値で指定します。省略可能です。省略すると「現在表示しているページ番号」が指定されたものとみなします。

終了ページ

「方向」が「4」のときのみ有効になります。検索を終了するページ番号を数値で指定します。省略可能です。省略すると「最終ページ」が指定されたものとみなします。

検索する行

検索する行を0から4までの数値で指定します。

- 0: すべての行を検索する
- 1: 行をスキップして検索する
- 2: 行を指定して検索する
- 3: 基準の行を指定して検索する
- 4: 範囲を指定して検索する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

行スキップ数

「検索する行」が「1」のときのみ有効になります。検索を開始する行から、スキップする行数を数値で指定します。省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

行組

「検索する行」が「2」のときのみ有効になります。1段としてみなす行数を数値で指定します。省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

行組で検索する行

「検索する行」が「2」のときのみ有効になります。行組で指定した行数の何行目を検索するかを数値で指定します。省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

項目間の条件

「検索する行」が「3」または「4」以外のとき有効になります。項目間の条件を0か1の数値で指定します。

- 0: かつ
- 1: または

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

対象範囲

「検索する行」が「3」または「4」以外のとき有効になります。項目間の条件の対象範囲を0から2までの数値で指定します。

- 0: 同一行
- 1: 同一ページ
- 2: 同一段組

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

文字列の一致条件

文字列の一致条件を0から2までの数値で指定します。

- 0: 部分的に一致する
- 1: 完全に一致する
- 2: 前方から一致する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

マイナス記号

マイナス記号とみなす記号を0から3までの数値で指定します。

- 0: なし
- 1: 後ろマイナス記号
- 2: 前の▲記号
- 3: 前の△記号

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

小数点

点を小数点とみなすかを0か1の数値で指定します。

- 0: 点を小数点とみなす
- 1: 点を小数点とみなさない

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

検索の方法を設定しました。

FALSE

検索の方法を設定できませんでした。

使用例

- ・「現在のページから下方向」、「すべての行を検索する」、項目間の条件が「かつ」、対象範囲が「同一行」、「部分的に一致する」、マイナス記号「なし」、「点を小数点とみなす」、を設定します。

```
object.FindOption
```

- ・100ページから1000ページを検索、「行を指定して検索する」、2行を1組として1行目を検索する、項目間の条件が「かつ」、対象範囲が「同一行」、「完全に一致する」、「後ろマイナス記号」、「点を小数点とみなさない」、を設定します。

```
object.FindOption 4, 100, 1000, 2, , 2, 1, 0, 0, 1, 1, 1
```

- ・「現在のページから下方向」、「基準の行を指定して検索する」、「部分的に一致する」、マイナス記号「なし」、「点を小数点とみなす」、を設定します。

```
object.FindOption 0, , , 3
```

注意

- ・FindOptionメソッドの「検索する行」で「3」を指定した場合には、FindClearメソッド以降で最初に指定した検索条件が、「基準の行」として認識されます。
- ・「対象範囲」に「2」を指定した場合には、「検索する行」で「1」「2」を指定しても無効になり「0」が指定されたものとみなされます。

2.3.24 FindOrderConvert(検索結果のデータ変換(表形式の一覧))メソッド

記述形式

```
object.FindOrderConvert( [ファイル名 [、ファイルの種類 [、n行を1レコードに変換  
[、文字型の範囲にある数値も、Microsoft Excelで文字として扱われるように変換する] ] ] ] )
```

機能

リストビューアに表示している検索結果の表形式の一覧に対して「データ変換」を行い、帳票データ(印刷データ)をファイルに出力します。

パラメタの説明

ファイル名

出力するファイルの物理パスを、半角のダブルクォーテーション"\""で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。省略すると【データ変換】ダイアログボックスを表示します。

ファイルの種類

出力するファイルの種類(ファイル形式)を0か1の数値で指定します。

- 0 : CSV形式
- 1 : Text形式

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

n行を1レコードに変換

複数の行を1レコードに変換する場合の行数を指定します。
省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

文字型の範囲にある数値も、Microsoft Excelで文字として扱われるように変換する

文字型の範囲にある数値も、Microsoft Excelで文字として扱われるように変換するかどうかを0か1の数値で指定します。「ファイルの種類」に「1」を指定すると無効になります。

- 0 : 変換しない
- 1 : 変換する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。



注意

出力したCSVファイルの文字型の範囲にある数値が、Microsoft Excelでゼロサプレスされないように表示したい場合は、本パラメタを指定します。

通常は、「文字型の範囲にある数値も、Microsoft Excelで文字として扱われるように変換する」を指定する必要はありません。

復帰値

TRUE

検索結果のデータ変換(表形式の一覧)をしました。

FALSE

検索結果のデータ変換(表形式の一覧)ができませんでした。

使用例

表示中の帳票の、検索結果の表形式の一覧を、CSV形式でファイル(C:¥data¥A.CSV)に出力します。

```
object.FindOrderConvert "C:¥data¥A.CSV", 0
```

注意

- ・ ファイル名の拡張子には、CSV形式、Text形式以外は指定できません。
- ・ 出力先に同一ファイル名が存在する場合は、上書きされます。
- ・ 「ファイルの種類」に「0」を指定した場合には、ファイル名の拡張子をCSV形式で、「ファイルの種類」に「1」を指定した場合には、ファイル名の拡張子をText形式で指定してください。

2.3.25 FindOrderSelect(検索結果の表形式の一覧の項目名の選択)メソッド

記述形式

```
object.FindOrderSelect( 項目名 [, 表示形式 [, 上方向の行 [, 下方向の行] ] ] )
```

機能

リストビューアに表示している検索結果の表形式の一覧に対して、帳票項目を選択します。

パラメタの説明

項目名

項目名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は半角文字で32文字(全角文字で16文字)以内で指定します。
必ず指定します。

表示形式

一覧に表示するレコードの形式を0から4までの数値で指定します。

- 0: 行
- 1: 段組
- 2: 段組を1レコード
- 3: 基準の行の上下
- 4: 検索した範囲

省略可能です。省略すると「2」が指定されたものとみなします。

なお、「3」は、FindOptionメソッドの「検索する行」に「3」または「4」を指定した場合のみ有効になります。「4」は、FindOptionメソッドの「検索する行」に「4」を指定した場合のみ有効になります。

上方向の行

「表示形式」が「0」または「3」のとき、有効になります。

基準の行の上下を表示する場合に、基準の行から上方向に表示する行数を1から999までの数値で指定します。
省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

下方向の行

「表示形式」が「0」または「3」のとき、有効になります。

基準の行の上下を表示する場合に、基準の行から下方向に表示する行数を1から999までの数値で指定します。
省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

検索結果の表形式の一覧の項目名を選択しました。

FALSE

検索結果の表形式の一覧の項目名を選択できませんでした。

使用例

- 表示中の帳票の、検索結果の表形式の一覧の帳票1項目に、「会社名」を選択します。

```
object.FindOrderSelect "会社名"
```

- 帳票項目に、「明細」、表示形式に「行」、上方向の行に「0」、下方向の行に「2」を指定します。

```
object.FindOrderSelect "明細", 0, 0, 2
```

2.3.26 FindPrev(上方向に検索)メソッド

記述形式

```
object.FindPrev
```

機能

リストビューアに表示している帳票を、上方向に検索します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票を上方向に検索します。

```
object.FindPrev
```

2.3.27 FindResult(検索結果の表示/非表示)メソッド

記述形式

```
object.FindResult(表示方法)
```

機能

リストビューアに表示している帳票の検索結果を表示します。

パラメタの説明

表示方法

表示方法を0か1の数値で指定します。

- 0 : 検索結果を非表示にする
- 1 : 検索結果を表示する

必ず指定します。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票の検索結果を表示します。

```
object.FindResult 1
```

2.3.28 FindResultList(検索結果一覧の表示/非表示)メソッド

記述形式

```
object.FindResultList( 表示方法 )
```

機能

リストビューアに表示している帳票の検索結果の一覧を表示します。

パラメタの説明

表示方法

表示方法を0か1の数値で指定します。

- 0 : 検索結果の一覧を非表示にする
- 1 : 検索結果の一覧を表示する

必ず指定します。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票の検索結果の一覧を表示します。

```
object.FindResultList 1
```

2.3.29 FindSave(検索条件の保存)メソッド

記述形式

```
object.FindSave ( 検索条件の名前 )
```

機能

リストビューアに表示している帳票内のデータを検索する条件を、名前を付けて保存します。

パラメタの説明

検索条件の名前

検索条件の名前を、半角のダブルクォーテーション"\""で囲まれた文字列として指定します。文字列は半角文字で40文字(全角文字で20文字)以内で指定します。
必ず指定します。

復帰値

TRUE

検索条件を保存しました。

FALSE

検索条件を保存できませんでした。

使用例

検索条件の名前「東京支店」で検索条件を保存します。

```
object.FindSave "東京支店"
```

2.3.30 FindString(文字列の検索条件の設定)メソッド

記述形式

```
object.FindString ([範囲名 [, 文字列 [, 比較式 [, 抜き出し範囲  
[, 基準の行からの行数 [, 基準の行からの方向  
[, 範囲の確定条件/検索条件] ] ] ] ] ] )
```

機能

リストビューアに表示している帳票内のデータを検索する前準備として、文字列を検索する条件を設定します。

パラメタの説明

範囲名

検索を行う範囲名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。選択した範囲を検索する場合には、「"選択した範囲(文字)"」を指定します。抜き出し範囲を検索する場合には、抜き出し範囲の名前を指定します。すべての抜き出し検索範囲を検索する場合には、「すべての抜き出し検索範囲」を指定します。省略可能です。省略すると「この帳票」が指定されたものとみなします。

文字列

検索する文字列を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角文字で40文字(全角文字で20文字)以内で指定します。省略可能です。省略すると【検索】ダイアログボックスを表示します。

比較式

比較式を、0の数値で指定します。

0: 等しい

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

抜き出し範囲

抜き出し範囲を検索するかを0か1の数値で指定します。

0: 抜き出し範囲を検索しない

1: 抜き出し範囲を検索する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

基準の行からの行数

基準の行を指定して検索する場合に、基準の行からの行数を指定します。

基準の行の場合は、「0」を指定します。

本パラメタは、FindOptionメソッドの「検索する行」に「3」を指定した場合に、有効になります。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

基準の行からの方向

基準の行を指定して検索する場合に、基準の行からの方向を0か1の数値で指定します。

0: 基準の行から下方向

1: 基準の行から上方向

基準の行の場合は、「0」を指定します。

本パラメタは、FindOptionメソッドの「検索する行」に「3」を指定した場合に、有効になります。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

範囲の確定条件/検索条件

不定数の複数行が1組となる帳票において、範囲を指定して検索する場合に、このメソッドで設定する検索条件が、範囲を確定するための条件か、範囲内を検索する条件かを0から3までの数値で指定します。

0: 範囲を確定する開始行の条件

1: 範囲を確定する終了行の条件

2: 確定した範囲を検索する条件1

3: 確定した範囲を検索する条件2

本パラメタはFindOptionメソッドの「検索する行」に「4」を指定した場合のみ有効になります。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

複数の条件で検索する

1. 検索条件を削除します。

```
object.FindClear
```

2. 範囲名「振込先」で「東京支店」と等しい文字列を検索する条件を設定します。

```
object.FindString "振込先", "東京支店", 0, 0, 0, 0
```

3. 範囲名「個人名」で「増田」と等しい文字列を検索する条件を設定します。

```
object.FindString "個人名", "増田", 0, 0, 0, 0
```

4. 2.と3.の条件で検索を行います。

```
object.Find
```

基準の行を指定して検索する

1. 検索条件を削除します。

```
object.FindClear
```

2. 検索する方法として「基準の行を指定して検索する」を設定します。

```
object.FindOption , , , 3
```

3. 範囲名「振込先」で、「東京支店」と等しい文字列を基準の行として検索する条件を設定します。

```
object.FindString "振込先", "東京支店", 0, , 0, 0
```

4. 基準の行から2行上の範囲名「個人名」で、「増田」と等しい文字列を検索する条件を設定します。

```
object.FindString "個人名", "増田", 0, , 2, 1
```

5. 基準の行から1行下の範囲名「振込先」で、「合計」と等しい文字列を検索する条件を設定します。

```
object.FindString "振込先", "合計", 0, , 1, 0
```

6. 3.から5.の条件で検索します。

```
object.Find
```

不定数の複数行が1組となる帳票において、範囲を指定して検索する

1. 検索条件を削除します。

```
object.FindClear
```

2. 検索する方法として「範囲を指定して検索する」を設定します。

```
object.FindOption , , , 4
```

3. 範囲名「振込先」で、「東京支店」と等しい文字列を、範囲を確定する開始行の検索条件として設定します。

```
object.FindString "振込先", "東京支店", 0, . . . , 0
```

4. 範囲名「振込先」で、「合計」と等しい文字列を、範囲を確定する終了行の検索条件として設定します。

```
object.FindString "振込先", "合計", 0, . . . , 1
```

5. 範囲名「個人名」で、「増田」と等しい文字列を検索する条件を設定します。

```
object.FindString "個人名", "増田", 0, . . . , 2
```

6. 3.から5.の条件で検索します。

```
object.Find
```



注意

- Findメソッドを呼び出す前に、最大4つの検索条件が設定できます。
- 検索条件を新たに設定し直す場合は、あらかじめ検索条件を削除しておく必要があります。検索条件を削除しないで設定すると、これまで設定された条件に追加されます。
- FindOptionメソッドの「対象範囲」に「2」を指定した場合には、「範囲名」には、帳票項目の範囲名を指定する必要があります。帳票項目の範囲名を指定しない場合、FindOptionメソッドの「対象範囲」に「0」が指定されたものとみなされて検索されます。

2.3.31 FullScreen(全画面表示)メソッド

記述形式

```
object.FullScreen( 表示方法 )
```

機能

リストビューアに表示している帳票を全画面で表示します。

パラメタの説明

表示方法

全画面で表示する方法を、0か1の数値で指定します。

0 : 全画面で表示を解除する(通常のサイズで表示)

1 : 全画面で表示する

必ず指定します。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票を全画面で表示します。

```
object.FullScreen 1
```

2.3.32 GetCurrentTotalPage(全ページ数の取得)メソッド

記述形式

```
object.GetCurrentTotalPage
```

機能

リストビューアに表示している帳票の全ページ数を取得します。

パラメタの説明

なし



注意

表示している帳票が絞り込まれている場合、絞り込まれている状態での全ページ数を取得します。

復帰値

全ページ数

使用例

表示中の帳票の全ページ数を取得します。

```
object.GetCurrentTotalPage
```

2.3.33 HScroll(水平方向へスクロール)メソッド

記述形式

```
object.HScroll(スクロールタイプ)
```

機能

リストビューアに表示している帳票を水平方向にスクロールします。

パラメタの説明

スクロールタイプ

スクロールタイプを1から6までの数値で指定します。

- 1: スクロール量分左へスクロール
- 2: スクロール量分右へスクロール
- 3: 1画面分(スクロール量の2倍)左へスクロール
- 4: 1画面分(スクロール量の2倍)右へスクロール
- 5: 帳票の左端へスクロール
- 6: 帳票の右端へスクロール

必ず指定します。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

- 表示中の帳票をスクロール量分右へスクロールします。

```
object.HScroll 2
```

- 表示中の帳票を1画面分右へスクロールします。

```
object.HScroll 4
```

2.3.34 IsExtract(絞り込み状態の取得)メソッド

記述形式

```
object.IsExtract
```

機能

リストビューアに表示している帳票の絞り込み状態を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

絞り込まれています。

FALSE

絞り込まれていません。

使用例

表示中の帳票の絞り込み状態を取得します。

```
object.IsExtract
```


2.3.35 ItemList(記入の一覧の表示/非表示)メソッド

記述形式

object.ItemList(表示方法)

機能

リストビューアに表示している帳票の記入の一覧を表示/非表示にします。

パラメタの説明

表示方法

表示方法を0か1の数値で指定します。

- 0 : 記入の一覧を非表示にする
- 1 : 記入の一覧を表示する

必ず指定します。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

記入の一覧を表示します。

```
object.ItemList 1
```

2.3.36 LocalPrint(帳票を印刷)メソッド

記述形式

```
object.LocalPrint ( [ページ指定 [ , 開始ページ [ , 終了ページ [ , 部数  
[ , 用紙のサイズ [ , 用紙の向き [ , 選択した部分の印刷] ] ] ] ] ] )
```

機能

リストビューアに表示している帳票を印刷します。リストビューアの【ページ設定】ダイアログボックスで指定されているプリンタに印刷します。

パラメタの説明

ページ指定

ページ指定を0か1の数値で指定します。

- 0 : 開始ページから終了ページまで
- 1 : すべてのページ

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

開始ページ

開始ページを数値で指定します。「ページ指定」に「1」を指定すると無効になります。省略可能です。省略すると現在表示中のページとなります。

終了ページ

終了ページを数値で指定します。「ページ指定」に「1」を指定すると無効になります。省略可能です。省略すると現在表示中のページとなります。

部数

印刷する部数を1から9999までの数値で指定します。省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

用紙のサイズ

用紙のサイズを1から41までの数値で指定します。省略可能です。省略するとページ設定で行った用紙のサイズが指定されたものとみなします。

用紙の向き

用紙の向きを0か1の数値で指定します。

- 0 : 縦向き
- 1 : 横向き

省略可能です。省略するとページ設定で行った用紙の向きが指定されたものとみなします。

選択した部分の印刷

選択した部分だけを印刷するかどうかを、0か1の数値で指定します。範囲選択されていない場合は無効になります。

- 0 : ページ全体を印刷する
- 1 : 選択した部分だけを印刷する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票の5ページから10ページまでを印刷します。

```
object.LocalPrint 0, 5, 10
```

用紙サイズ一覧

- 1 : Letter、8 1/2 × 11 インチ
- 2 : Legal、8 1/2 × 14 インチ
- 3 : A4 シート、210 × 297 mm
- 4 : C シート、17 × 22 インチ
- 5 : D シート、22 × 34 インチ
- 6 : E シート、34 × 44 インチ

- 7: Letter Small、8 1/2 × 11 インチ
- 8: Tabloid、11 × 17 インチ
- 9: Ledger、17 × 11 インチ
- 10: Statement、5 1/2 × 8 1/2 インチ
- 11: Executive、7 1/4 × 10 1/2 インチ
- 12: A3 シート、297 × 420 mm
- 13: A4 small シート、210 × 297 mm
- 14: A5 シート、148 × 210 mm
- 15: B4 シート、250 × 354 mm
- 16: B5 シート、182 × 257 mm
- 17: Folio、8 1/2 × 13 インチ
- 18: Quarto、215 × 275 mm
- 19: 10 × 14 インチ シート
- 20: 11 × 17 インチ シート
- 21: Note、8 1/2 × 11 インチ
- 22: #9 Envelope、3 7/8 × 8 7/8 インチ
- 23: #10 Envelope、4 1/8 × 9 1/2 インチ
- 24: #11 Envelope、4 1/2 × 10 3/8 インチ
- 25: #12 Envelope、4 3/4 × 11 インチ
- 26: #14 Envelope、5 × 11 1/2 インチ
- 27: DL Envelope、110 × 220 mm
- 28: C5 Envelope、162 × 229 mm
- 29: C3 Envelope、324 × 458 mm
- 30: C4 Envelope、229 × 324 mm
- 31: C6 Envelope、114 × 162 mm
- 32: C65 Envelope、114 × 229 mm
- 33: B4 Envelope、250 × 353 mm
- 34: B5 Envelope、176 × 250 mm
- 35: B6 Envelope、176 × 125 mm
- 36: Italy Envelope、110 × 230 mm
- 37: Monarch Envelope、3 7/8 × 7 1/2 インチ
- 38: 6 3/4 Envelope、3 5/8 × 6 1/2 インチ
- 39: US Std Fanfold、14 7/8 × 11 インチ
- 40: German Std Fanfold、8 1/2 × 12 インチ
- 41: German Legal Fanfold、8 1/2 × 13 インチ

注意

“2.2.19”のリストナビオートメーションにおけるLocalPrint(ローカル印刷)メソッドでは、第1パラメタで指定する値の意味が、本メソッドとは異なります。

第1パラメタの値	リストナビからの印刷	リストビューアからの印刷
0	すべてのページ	開始ページから終了ページまで
1	開始ページから終了ページまで	すべてのページ

参考

LocalPrintを使用して、「印刷データに設定されている印刷属性を優先する」の「用紙のサイズ」、「用紙の向き」を有効にする場合は、以下の設定が必要です。

1. 【ページ設定】ダイアログボックスで設定されている「印刷データに設定されている印刷属性を優先する」を有効にします。
2. LocalPrintの「用紙のサイズ」、「用紙の向き」パラメタを省略します。

“2.3.46”のPageSetup(ページ設定)メソッドを使用して、ローカル印刷の【ページ設定】ダイアログボックスの「カラム」タブを表示させます。「プリンタの設定」ボタンを押下することにより、印刷するプリンタを指定することができます。

2.3.37 Maximize(ウィンドウの最大化)メソッド

記述形式

object.Maximize

機能

リストビューアのウィンドウを最大化して表示します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

リストビューアのウィンドウを最大化します。

```
object.Maximize
```

2.3.38 Minimize(ウィンドウの最小化)メソッド

記述形式

object.Minimize

機能

リストビューアのウィンドウを最小化します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

リストビューアのウィンドウを最小化します。

```
object.Minimize
```

2.3.39 Move(ウィンドウの移動)メソッド

記述形式

```
object.Move( [水平位置 [ , 垂直位置] ] )
```

機能

リストビューアのウィンドウを移動します。

パラメタの説明

水平位置

画面の左端からウィンドウの左端までの水平距離を、ピクセル数で指定します。
省略可能です。省略すると水平位置は移動しません。

垂直位置

画面の上端からウィンドウの上端までの垂直距離を、ピクセル数で指定します。
省略可能です。省略すると垂直位置は移動しません。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

リストビューアのウィンドウを「水平位置:200、垂直位置:100」の位置へ移動します。

```
object.Move 200, 100
```

2.3.40 Open(帳票を開く)メソッド

記述形式

```
object.Open( [ファイルの名前] )
```

機能

リストビューアで帳票を開きます。

パラメタの説明

ファイルの名前

リストナビで現在選択されている帳票を開くためのファイルの名前を指定します。
省略可能です。省略すると【開く】ダイアログボックスを表示します。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

リストナビで現在選択されている帳票を開きます。

```
Dim objNavi As Object
Dim objView As Object
Set objNavi = CreateObject("ListNavi.Application")
Set objView = CreateObject("ListViewer.Application")
objView.Open (objNavi.GetOpenFileName())
```

2.3.41 Option(オプションの設定)メソッド

記述形式

object.Option([タブ番号])

機能

リストビューアの【ツール】メニューの【オプション】に対応し、【オプション】ダイアログボックスを表示します。

パラメタの説明

タブ番号

タブ番号を1から10までの数値で指定します。

- 1: 【全般】 タブを表示
- 2: 【表示】 タブを表示
- 3: 【表示項目】 タブを表示
- 4: 【色】 タブを表示
- 5: 【フォント】 タブを表示
- 6: 【オーバーレイ】 タブを表示
- 7: 【帳票項目】 タブを表示
- 8: 【検索】 タブを表示
- 9: 【保存】 タブを表示
- 10: 【マウス】 タブを表示

省略可能です。省略すると「1」が選択されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

【オプション】ダイアログボックスの【色】タブの内容を表示します。

```
object.Option 4
```

2.3.42 PageBottom(最後のページへ)メソッド

記述形式

```
object.PageBottom
```

機能

リストビューアに表示している帳票の最後のページを表示します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票の最後のページを表示します。

```
object.PageBottom
```

2.3.43 PageJump(指定のページへ)メソッド

記述形式

```
object.PageJump( [ページ番号] )
```

機能

リストビューアに表示している帳票の指定ページを表示します。

パラメタの説明

ページ番号

表示したいページ番号を数値で指定します。
省略可能です。省略すると【指定のページヘジャンプ】ダイアログボックスを表示します。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

- ・ 【指定のページヘジャンプ】ダイアログボックスを表示します。

```
object. PageJump
```

- ・ 表示中の帳票の10ページ目を表示します。

```
object. PageJump 10
```

2.3.44 PageNext(次のページへ)メソッド

記述形式

```
object. PageNext
```

機能

リストビューアに表示している帳票の次のページを表示します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票の次のページを表示します。

```
object. PageNext
```


2.3.45 PagePrev(前のページへ)メソッド

記述形式

object.PagePrev

機能

リストビューアに表示している帳票の前のページを表示します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票の前のページを表示します。

```
object.PagePrev
```

2.3.46 PageSetup(ページ設定)メソッド

記述形式

object.PageSetup([タブ番号])

機能

リストビューアの【ファイル】メニューの【ページ設定】に対応し、【ページ設定】ダイアログボックスを表示します。

パラメタの説明

タブ番号

タブ番号を1から7までの数値で指定します。

- 1:【カラム】タブを表示
- 2:【印刷倍率】タブを表示
- 3:【余白】タブを表示
- 4:【印刷項目】タブを表示
- 5:【色】タブを表示
- 6:【詳細設定】タブを表示
- 7:【プリンタ情報】タブを表示

省略可能です。省略すると「1」が選択されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

【ページ設定】ダイアログボックスの【印刷倍率】タブの内容を表示します。

```
object. PageSetup 2
```

2.3.47 PageTop(最初のページへ)メソッド

記述形式

```
object. PageTop
```

機能

リストビューアに表示している帳票の最初のページを表示します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票の最初のページを表示します。

```
object. PageTop
```

2.3.48 PanWindow(パンウィンドウの表示/非表示)メソッド

記述形式

```
object. PanWindow( 表示方法 )
```

機能

リストビューアに表示している帳票のパンウインドウを表示/非表示にします。

パラメタの説明

表示方法

表示/非表示を、0か1の数値で指定します。

- 0: パンウインドウを非表示にする
- 1: パンウインドウを表示する

必ず指定します。

復帰値

TRUE

パンウインドウを表示/非表示しました。

FALSE

パンウインドウを表示/非表示できませんでした。

使用例

表示中の帳票のパンウインドウを表示します。

```
object.PanWindow 1
```

2.3.49 Quit(リストビューアの終了)メソッド

記述形式

```
object.Quit
```

機能

リストビューアを終了します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

リストビューアを終了します。

object.Quit

2.3.50 Restore(ウィンドウを元のサイズに戻す)メソッド

記述形式

object.Restore

機能

リストビューアのウィンドウを元のサイズに戻します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

リストビューアのウィンドウを元のサイズに戻します。

```
object.Restore
```

2.3.51 Save(上書き保存)メソッド

記述形式

object.Save

機能

リストビューアに表示している帳票を上書き保存します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

- 0 : オーバレイを保存しない
- 1 : オーバレイを保存する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

暗証番号

保存先の帳票に設定する暗証番号を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。省略可能です。省略すると暗証番号を設定しないものとみなします。

登録有効期間

保存先の帳票に設定する登録有効期間(単位:日)を数値で指定します。省略可能です。省略すると「1日」が指定されたものとみなします。

削除対象

登録有効期限を過ぎたら削除対象にするかどうかを、0か1の数値で指定します。

- 0 : 登録有効期限を過ぎても削除対象にしない
- 1 : 登録有効期限を過ぎたら削除対象にする

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

名前を付けて保存しました。

FALSE

名前を付けて保存できませんでした。

使用例

リストビューアに表示している帳票を、名前を付けてファイル(C:¥data¥A.SPL)に保存します。

```
object.SaveAs "C:¥data¥A.SPL"
```



注意

- ・ ファイル名には、List Works帳票の拡張子(.SPL)を指定します。
- ・ 出力先に同一ファイル名が存在する場合は、上書きされます。

2.3.53 Select(範囲選択)メソッド

記述形式

```
object.Select( 開始横位置, 開始縦位置, 終了横位置, 終了縦位置 )
```

機能

リストビューアに表示している帳票の範囲を選択します。

パラメタの説明

開始横位置

選択する範囲の開始の横位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

開始縦位置

選択する範囲の開始の縦位置を、帳票の上端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

終了横位置

選択する範囲の終了の横位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

終了縦位置

選択する範囲の終了の縦位置を、帳票の上端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票において、開始横位置(100)、開始縦位置(100)、終了横位置(3000)、終了縦位置(3000)の範囲を選択し、その範囲内のデータをクリップボードへコピーします。

```
object.Select 100, 100, 3000, 3000  
object.Copy
```



注意

パラメタは、すべて指定しないとエラーになります。

2.3.54 SelectAll(すべて選択)メソッド

記述形式

```
object.SelectAll
```

機能

リストビューアに表示している帳票のすべての範囲を選択します。

パラメタの説明

なし

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票において、すべての範囲を選択します。

```
object.SelectAll
```

2.3.55 Show(表示項目の設定)メソッド

記述形式

```
object.Show([印刷データ [, オーバレイ [, 帳票項目 [, 抜き出し検索範囲 [, 付せん [, メモ  
[, ラインマーク [, チェックマーク [, スタンプ [, ハイパーリンク ] ] ] ] ] ] ] ] ] ] )
```

機能

リストビューアの【ツール】メニューの【オプション】の【表示項目】タブに対応し、帳票上の「印刷データ」「オーバレイ」「帳票項目」「抜き出し検索範囲」「付せん」「メモ」「ラインマーク」「チェックマーク」「スタンプ」および「ハイパーリンク」の情報を、表示するかしないかを指定します。

パラメタの説明

印刷データ

印刷データを表示するかしないかを、0か1の数値で指定します。

- 0 : 印刷データを表示しない
- 1 : 印刷データを表示する

省略可能です。省略すると状態を変更しません。

オーバレイ

オーバレイを表示するかしないかを、0か1の数値で指定します。

- 0 : オーバレイを表示しない
- 1 : オーバレイを表示する

省略可能です。省略すると状態を変更しません。

帳票項目

帳票項目を表示するかしないかを、0か1の数値で指定します。

- 0 : 帳票項目を表示しない
- 1 : 帳票項目を表示する

省略可能です。省略すると状態を変更しません。

抜き出し検索範囲

抜き出し検索範囲を表示するかしないかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 抜き出し検索範囲を表示しない
- 1: 抜き出し検索範囲を表示する

省略可能です。省略すると状態を変更しません。

付せん

付せんを表示するかしないかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 付せんを表示しない
- 1: 付せんを表示する

省略可能です。省略すると状態を変更しません。

メモ

メモを表示するかしないかを、0か1の数値で指定します。

- 0: メモを表示しない
- 1: メモを表示する

省略可能です。省略すると状態を変更しません。

ラインマーク

ラインマークを表示するかしないかを、0か1の数値で指定します。

- 0: ラインマークを表示しない
- 1: ラインマークを表示する

省略可能です。省略すると状態を変更しません。

チェックマーク

チェックマークを表示するかしないかを、0か1の数値で指定します。

- 0: チェックマークを表示しない
- 1: チェックマークを表示する

省略可能です。省略すると状態を変更しません。

スタンプ

スタンプを表示するかしないかを、0か1の数値で指定します。

- 0: スタンプを表示しない
- 1: スタンプを表示する

省略可能です。省略すると状態を変更しません。

ハイパーリンク

ハイパーリンクを表示するかしないかを、0か1の数値で指定します。

- 0: ハイパーリンクを表示しない
- 1: ハイパーリンクを表示する

省略可能です。省略すると状態を変更しません。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票のオーバーレイを非表示にして、再度表示します。

```
object.Show , 0  
object.Show , 1
```



注意

すべてのパラメタを指定しないと、【オプション】ダイアログボックスの【表示項目】タブが表示されます。

2.3.56 ShowApp(ウィンドウの表示/非表示)メソッド

記述形式

```
object.ShowApp( [表示方法] )
```

機能

リストビューアのウィンドウの表示/非表示を設定します。

パラメタの説明

表示方法

表示/非表示を0か1の数値で指定します。

- 0：リストビューアを非表示にする
- 1：リストビューアを表示する

省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

- リストビューアのウィンドウを表示します。

```
object.ShowApp 1
```

- リストビューアのウィンドウを非表示にします。

```
object.ShowApp 0
```

2.3.57 Size(ウィンドウのサイズ変更)メソッド

記述形式

```
object.Size( [幅 [ , 高さ] ] )
```

機能

リストビューアのウィンドウのサイズを変更します。

パラメタの説明

幅

ウィンドウの幅を、ピクセル数で指定します。
省略可能です。省略すると幅を変更しません。

高さ

ウィンドウの高さを、ピクセル数で指定します。
省略可能です。省略すると高さを変更しません。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

リストビューアのウィンドウを「幅:800、高さ:500」のサイズに変更します。

```
object.Size 800, 500
```

2.3.58 Split(分割/分割解除)メソッド

記述形式

```
object.Split( [横の分割位置 [ , 縦の分割位置] ] )
```

機能

リストビューアに表示している帳票を、左右、上下、上下左右に分割します。

パラメタの説明

横の分割位置

帳票を左右分割する位置を、ウィンドウの左端からのピクセル数で指定します。すでに左右、上下左右分割されている場合は、左右の分割が解除されます。

省略可能です。省略すると左右分割を行いません。

縦の分割位置

帳票を上下分割する位置を、ウィンドウの上端からのピクセル数で指定します。すでに上下、上下左右分割されている場合は、上下の分割が解除されます。

省略可能です。省略すると上下分割を行いません。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

- 表示中の帳票を左右(300)分割します。

```
object.Split 300
```

- 表示中の帳票を上下(200)分割します。

```
object.Split , 200
```

- 表示中の帳票を上下左右(300, 200)分割します。

```
object.Split 300, 200
```

- 表示中の帳票の分割を解除します。

```
object.Split
```



注意

横の分割位置と、縦の分割位置の両方を省略すると、左右、上下、上下左右のすべての分割が解除されます。

2.3.59 Tile(並べて表示)メソッド

記述形式

```
object.Tile( [整列方法] )
```

機能

リストビューアのウィンドウを並べて表示します。

パラメタの説明

整列方法

整列方法を0か1の数値で指定します。

- 0 : ウィンドウを、上下に並べて表示する
- 1 : ウィンドウを、左右に並べて表示する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

ウィンドウを左右に並べて表示します。

```
object.Tile 1
```

2.3.60 VScroll(垂直方向へスクロール)メソッド

記述形式

```
object.VScroll(スクロールタイプ)
```

機能

リストビューアに表示している帳票を垂直方向にスクロールします。

パラメタの説明

スクロールタイプ

スクロールタイプを1から6までの数値で指定します。

- 1: スクロール量分上へスクロール
- 2: スクロール量分下へスクロール
- 3: 1画面分(スクロール量の2倍)上へスクロール
- 4: 1画面分(スクロール量の2倍)下へスクロール
- 5: 帳票の先頭へスクロール
- 6: 帳票の末尾へスクロール

必ず指定します。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

- ・ 表示中の帳票をスクロール量分下へスクロールします。

```
object.VScroll 2
```

- ・ 表示中の帳票を1画面分下へスクロールします。

```
object.VScroll 4
```

2.3.61 Zoom(倍率の指定)メソッド

記述形式

```
object.Zoom( [表示倍率] )
```

機能

リストビューアに表示している帳票の表示倍率を変更します。

パラメタの説明

表示倍率

表示倍率を以下の数値で指定します。

- 10～300 : 指定の倍率で表示
- 0 : 全体を表示
- 1 : 幅に合わせて表示
- 2 : 高さに合わせて表示

省略可能です。省略すると【倍率を指定して拡大/縮小】ダイアログボックスを表示します。

復帰値

TRUE

正常終了しました。

FALSE

異常終了しました。

使用例

- ・ 【倍率を指定して拡大/縮小】ダイアログボックスを表示します。

```
object.Zoom
```

- ・ 表示中の帳票を30%のサイズで表示します。

```
object.Zoom 30
```

第3章 Web連携機能API

この章では、List WorksのWeb連携機能APIを利用したアプリケーションを開発するためのインタフェースについて説明しています。

3.1 Web連携機能APIの概要

3.2 ListGateway

3.3 ListPrint

3.1 Web連携機能APIの概要

Web連携機能API(Webゲートウェイサーバ)を使用して、Webアプリケーションを開発することができます。

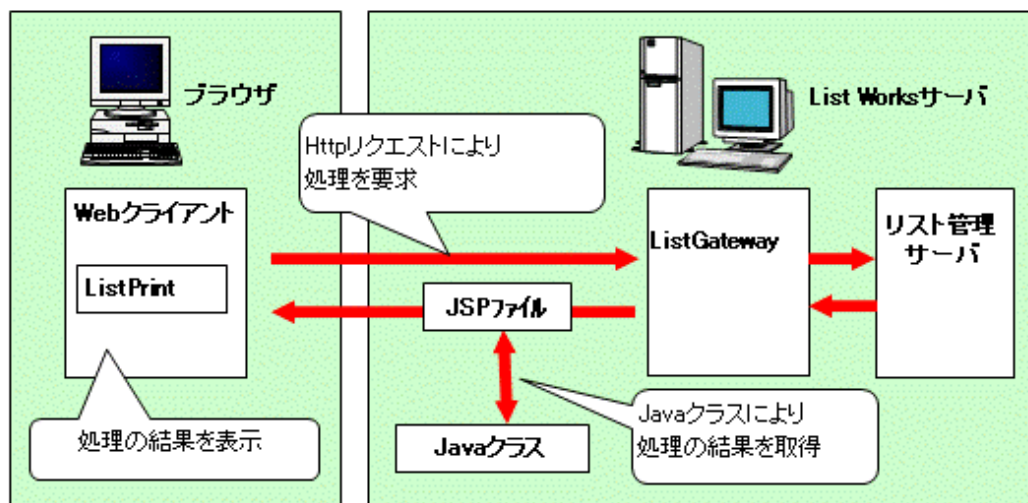
Web連携機能APIを使用することにより、Webクライアントの画面をカスタマイズすることができます。また、Javaスクリプトを使用することにより、リスト管理サーバで管理している帳票の表示やローカル印刷などの操作を制御することもできます。

Web連携機能APIは、以下のコンポーネントから構成されます。

- ListGateway(Javaサーブレットプログラム)
- ListPrint(ActiveXコントロール)

各コンポーネントの機能は以下の通りです。

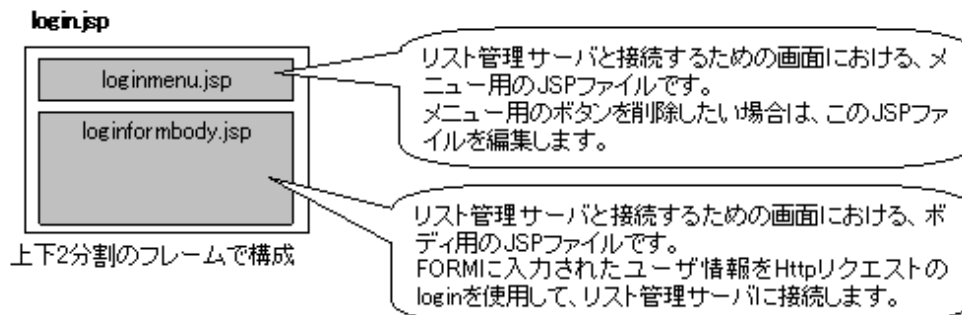
コンポーネント	機能
ListGateway (Javaサーブレットプログラム)	Webクライアントからの要求に応じてリスト管理サーバと通信し、結果をWebクライアントへ送信します。JavaクラスとHttpリクエストがあります。 機能の詳細については“ 3.2 ListGateway ”を参照してください。
ListPrint (ActiveXコントロール)	帳票の表示、印刷、検索、データ変換などを行います。 機能の詳細については“ 3.3 ListPrint ”を参照してください。



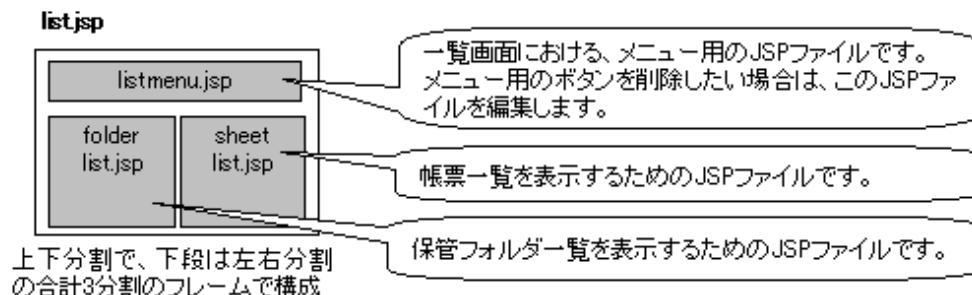
画面の構成

List WorksのWeb連携における画面を構成するファイルについて、代表的な画面を例に説明します。

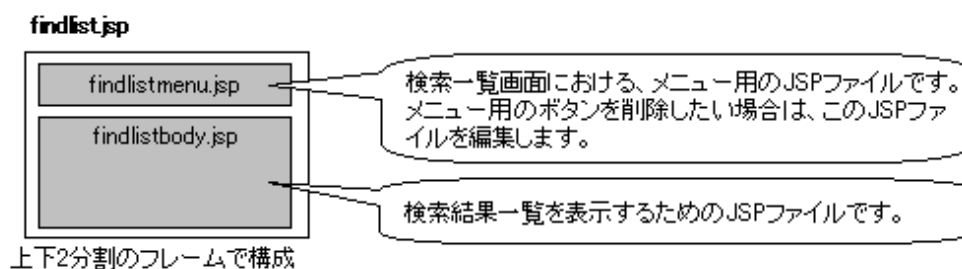
●リスト管理サーバと接続するための画面



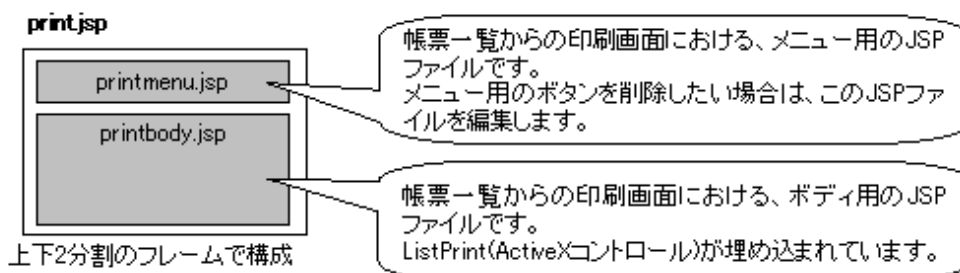
●一覧画面



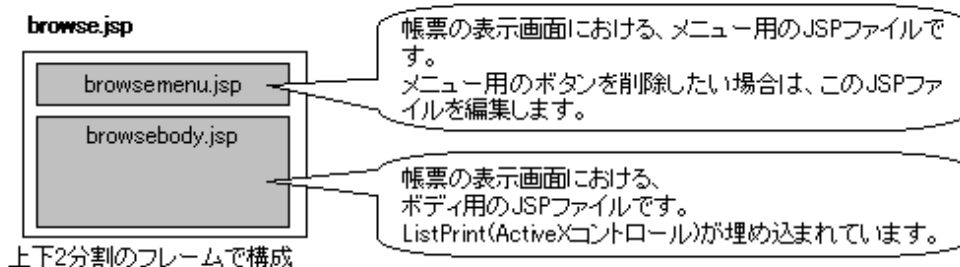
●検索結果一覧画面



●帳票一覧からの印刷画面



●帳票の表示画面



ログイン画面の初期値の設定方法

Web連携機能APIを利用したプログラムにおいて、ログイン画面の、ユーザID、パスワード、ホスト名の各フィールドに初期値を設定することができます。



ログイン画面に初期値を設定する方法については“[F.1 ログイン画面に初期値を設定する方法](#)”を参照してください。

注意

製品に含まれているJSPファイルをカスタマイズした場合は、製品として品質を保証することはできません。JSPファイルをカスタマイズした場合は、お客様の環境で十分テストして問題のないことを確認する必要があります。

3.2 ListGateway

ListGateway (Javaサーブレットプログラム)は、HttpリクエストとJavaクラスを利用して、Webクライアントからの要求に応じてリスト管理サーバと通信し、結果をWebクライアントへ送信します。

- Httpリクエスト

ListGatewayへの処理要求に使用します。

• Javaクラス

Webクライアントに送信する結果を作成するための、必要な情報取得に使用します。
Javaクラスには以下のクラスがあります。

ListConfig	…	List Works構成クラス
KeepFolderAttribute	…	保管フォルダ情報クラス
KeepSheetAttribute	…	保管フォルダ内の帳票情報クラス
ObjectList	…	オブジェクトリストクラス
HtmlConv	…	HTML文字列クラス

ListGatewayメソッド一覧表

以下に、ListGatewayメソッドを示します。

コマンド/メソッド	機能	
Httpリクエスト	getjsp	JSPファイルの取得(セッションに関係なし)
	getjspinsession	JSPファイルの取得(セッションが有効な場合に限定する場合)
	getkeepfolder	保管フォルダ一覧の表示
	getkeeplist	帳票一覧の表示
	listbrowser	帳票の表示
	listprint	帳票の印刷
	login	リスト管理サーバに接続
	logout	リスト管理サーバから切断
openframe	保管フォルダ/帳票一覧の表示準備	
Javaクラス (ListConfig)	addSheetPath	帳票の論理パスの追加
	compareKeepCheckInfo	帳票が選択中かどうかの判定
	getActivePage	現在表示している帳票のページ番号の取得
	getApplicationURL	Web連携機能のURLを取得 (注1)
	getBrosKeepFolderInfoNo	次に存在する同一階層の保管フォルダ情報の番号取得
	getByteSwap	バイトスワップフラグの取得
	getChildKeepFolderInfoNo	子の保管フォルダ情報の番号取得
	getClassFolderNoList	階層のフォルダ番号リストの取得
	getClassNameList	階層のフォルダ名リストの取得
	getConnectForm	連結できる最大帳票数の取得
	getConnectServer	リスト管理サーバ接続フラグの取得
	getCurrentFolderAttribute	現在選択している保管フォルダの情報の取得
	getCurrentFolderNameList	最上位の保管フォルダから現在選択している保管フォルダまでのフォルダ名リストの取得
	getEndNo	帳票一覧の最後の番号の取得
	getFolderNo	選択している保管フォルダ番号の取得
	getGroupCount	所属グループの種別番号の取得
	getHitTotalSheetNo	選択した保管フォルダ内の表示条件に該当する帳票の総数の取得
	getKeepFolderAttribute	保管フォルダ情報の取得

コマンド/メソッド	機能
getKeepFolderInfoNo	保管フォルダ情報の番号の取得
getKeepSheetAttribute	保管フォルダ内帳票情報の取得
getKeepSheetInfoNo	保管フォルダ内帳票の番号の取得
getNextKeepFolderInfoNo	次に存在する同一階層、それがない場合は親と同一階層で、次に存在する保管フォルダ情報の番号の取得
getListPrintPropertiesName	ListPrint.propertiesのファイル名を取得
getPollingPrintWatchTime	ポーリング印刷における帳票一覧の監視時間の取得
getRemoteAddr	処理を要求したクライアントのホストIPアドレスの取得
getRemoteHost	処理を要求したクライアントのホスト名、または処理を要求したクライアントのホストIPアドレスの取得
getSeparatorMark	フォルダ区切りマークの取得
getServerAddr	リスト管理サーバIPアドレスの取得
getServerName	リスト管理サーバ名の取得
getServletURL	ListGatewayのURLを取得 (注1)
getSession	セッションの取得
getSessionID	セッションIDの取得
getSheetNo	選択した帳票の番号の取得
getSheetPath	帳票の論理パスの取得
getStartNo	帳票一覧の最初の番号の取得
getTotalFolderNo	保管フォルダの総数の取得
getTotalSheetNo	帳票の総数の取得
getUsePdfSheet	PDF形式での帳票の表示、および帳票をPDF形式に変換して保存する機能を使用するかどうかの取得
getUsePrintedSheet	ローカル印刷識別を利用するかどうかの取得
getUserID	ユーザIDを取得
getViewNo	帳票一覧に表示できる最大帳票数の取得
getViewSheetNo	表示する帳票の数の取得
setFolderPath	保管フォルダの論理パスを設定
setListPrintPropertiesName	ListPrint.propertiesのファイル名を設定
setSheetPath	帳票の論理パスの設定
Javaクラス (KeepFolderAttribute)	getClassNo
	保管フォルダの階層番号の取得
	getCreateDate
	保管フォルダの作成日時の取得
	getName
	保管フォルダ名の取得
	getNodeId
	保管フォルダの識別子の取得
	getPath
	保管フォルダの論理パスの取得
Javaクラス (KeepSheetAttribute)	getAccessCount
	アクセス回数の取得
	getAutoDelete
	[有効期限を過ぎたら削除対象にする]が設定されているかどうかの取得
	getComment
	帳票のコメントの取得
	getCreateDate
	帳票の作成日時の取得

コマンド/メソッド	機能
	getCreatorName 帳票の作成者名の取得
	getFileName ファイル名の取得
	getFiling ファイリングされているかどうかの取得
	getFlagInfo フラグ情報の取得
	getIndexFind 抜き出し検索ができるかどうかの取得
	getItem 帳票に記入情報が記入されているかどうかの取得
	getNodeId 帳票の識別子の取得
	getNote1 備考1の取得
	getNote2 備考2の取得
	getNote3 備考3の取得
	getNote4 備考4の取得
	getReferenceDate 最終参照日時の取得
	getRegistDate 登録日時の取得
	getRequestPrint リモート印刷されたかどうかの取得
	getSerialSheetNo 帳票番号の取得
	getTitle 帳票名の取得
	getTotalPage ページ数の取得
	getValid 有効・無効フラグの取得
	getValidDate 登録有効期限の取得
	setValid 有効・無効フラグの設定
Javaクラス (ObjectList)	get オブジェクトの取得
	getCount オブジェクトの数の取得
Javaクラス (HtmlConv)	convVendorChar Unicode文字列内のベンダ依存文字を変換
	toSjisArray シフトJIS文字列をシフトJIS文字列のbyte型配列に変換
	toSjisString Unicode文字列をシフトJIS文字列のStringに変換

注1: ListWORKS、およびList Works V6.0L10/6.0から移行した場合に、プログラムを変更しなくても継続して運用できるよう、互換のために用意されているメソッドです。

サンプルプログラム

サンプルプログラムの種類と格納場所を以下に示します。ご使用の環境に合わせてカスタマイズすることができます。サンプルプログラムの詳細な説明については、Webブラウザを起動してWeb連携機能に割り当てられているURLに続けて、「jsp/sample/index.html」を入力して表示されるページを参照してください。

なお、サンプルプログラム(JSPファイル)を編集した場合は、新しい編集内容を有効にする必要があります。



JSPファイルの編集内容を有効にする方法については、“環境構築手引書”を参照してください。

全体用のJSPサンプル

サンプルプログラムの種類

[ユーザ認証をユーザのアプリケーションで行うサンプル](#)

- ユーザID、パスワード、ホスト名、保管フォルダの論理パスを指定して帳票一覧を表示するサンプル
- ユーザID、パスワード、ホスト名、保管フォルダの論理パスを指定して帳票一覧を表示するサンプル(保管フォルダ一覧を非表示)
- ユーザID、パスワード、ホスト名、帳票の論理パスを指定して帳票を表示するサンプル
- ユーザID、パスワード、ホスト名、帳票の論理パスを指定して帳票を表示し、データ変換するサンプル
- ユーザID、パスワード、ホスト名、帳票の論理パスを指定して帳票を印刷するサンプル
- ユーザID、パスワード、ホスト名、帳票の論理パスを指定して帳票を印刷するサンプル(印刷画面を非表示)

ユーザ認証をList Worksで行うサンプル

- 保管フォルダの論理パスを指定して帳票一覧を表示するサンプル
- 保管フォルダの論理パスを指定して帳票一覧を表示するサンプル(保管フォルダ一覧を非表示)
- 帳票の論理パスを指定して帳票を表示するサンプル
- 帳票の論理パスを指定して帳票を表示し、データ変換するサンプル
- 帳票の論理パスを指定して帳票を印刷するサンプル
- 帳票の論理パスを指定して帳票を印刷するサンプル(印刷画面を非表示)

保管フォルダ一覧のサンプル

- すべての保管フォルダを、ツリーが閉じた状態で表示するサンプル
- すべての保管フォルダを、ツリーが開いた状態で表示するサンプル

帳票一覧のサンプル

- ユーザ名、パスワード、ホスト名、および帳票一覧に表示される帳票の表示条件を指定して、帳票一覧を表示するサンプル

格納場所

Windows版の場合

```
List Worksのインストール先フォルダ¥web¥app¥jsp¥sample¥other
```

Solaris版の場合

```
List Works Web連携のインストールディレクトリ/app/jsp/sample/other
```

ポーリング印刷用のJSPサンプル

サンプルプログラムの種類

- ポーリング印刷を自動的に起動するサンプル
- プリンタを指定してポーリング印刷を自動的に起動するサンプル

格納場所

Windows版の場合

```
List Worksのインストール先フォルダ¥web¥app¥jsp¥sample¥pollingprint
```

Solaris版の場合

```
List Works Web連携のインストールディレクトリ/app/jsp/sample/pollingprint
```

帳票保管活用機能と帳票印刷配信機能の機能選択用のJSPサンプル(Windows版のみ)

サンプルプログラムの種類

- 使用する機能(帳票保管活用機能、帳票印刷配信機能)を選択するための画面を表示するサンプル

格納場所

List Worksのインストール先フォルダ¥web¥app¥jsp¥sample¥distribute



注意

- Windows版の場合、JavaスクリプトのWindowオブジェクトのopenメソッドを使用し複数のウィンドウを開いて、List Works(Webクライアント、Web配信操作クライアント)を操作することはできません。
- Solaris版の場合、JavaスクリプトのWindowオブジェクトのopenメソッドを使用し複数のウィンドウを開いて、List Works(Webクライアント)を操作することはできません。
- JSPファイルは、シフトJISコードで記述されています。JSPファイルを編集する場合には、シフトJISコードで記述してください。

3.2.1 Httpリクエスト

Httpリクエストには、以下のコマンドがあります。

コマンド名	機能
getjsp	JSPファイルの取得(セッションに関係なし)
getjspinsession	JSPファイルの取得(セッションが有効な場合に限定する場合)
getkeepfolder	保管フォルダ一覧の表示
getkeeplist	帳票一覧の表示
listbrowser	帳票の表示
listprint	帳票の印刷
login	リスト管理サーバに接続
logout	リスト管理サーバから切断
openframe	保管フォルダ/帳票一覧の表示準備

リクエストコマンドの記述形式

List Works Web連携は、クライアントサイドからListGatewayに対してリクエストコマンドを送信することで動作しています。

リクエスト方式には、GET/POSTオペレーションの2つがあり用途に応じて使い分けます。

リクエスト形式

http://サーバ名/listworks/servlet/ListGateway?command=コマンド名&パラメタ名=パラメタ値 (注)

注: プロトコルが「https」の場合は、「http」を「https」に置き換えて参照してください。

以降の説明では、コマンド名に上記の「コマンド名」のみを記述しています。リクエスト形式については、各コマンドの説明ページの使用例を参照してください。



注意

新規に作成するJSPファイルにおいて、Httpリクエストのコマンドを使用する場合は、以下の行を追加してください。

```
<%
response.setHeader("Pragma", "no-cache");
response.setHeader("Cache-Control", "no-cache");
response.setDateHeader("Expires", 0);
%>
```

追加しない場合は、ブラウザにキャッシュされたリクエストコマンドが、ListGatewayに送信され、正しく動作しません。

ただし、ActiveXコントロールを使用しているJSPファイルには、追加しないでください。

ボタンのリンク先編集

以下のフォルダに格納されているJSPファイルを編集することにより、【ログイン】ボタン、または【ログアウト】ボタンをクリックしたあと、任意のURLに接続することができます。

- Windows版の場合

```
List Worksのインストールフォルダ¥web¥app¥jsp
```

- Solaris版の場合

```
List Works Web連携のインストールディレクトリ/app/jsp
```

保管フォルダの帳票一覧の表示/帳票の表示・印刷する機能の【ログイン】ボタン、および【ログアウト】ボタンのリンク先を編集する手順は以下のとおりです。



【ログイン】ボタン、【ログアウト】ボタンの説明は、“操作手引書 利用者編”を参照してください。

logout.jspファイルに接続したいURLを設定します。以下の例では、「/listworks/」に移動します。

```
~略~

<%
String strWinID = request.getParameter("winid");
String strCommand;
if(strWinID == null || strWinID.equals("") == true)
    strCommand = "/listworks/";
    ↑
    移動先のURL
else
    strCommand = "/listworks/jsp/login.jsp?winid=" + strWinID;
%>

~略~
```

3.2.1.1 getjsp(JSPファイルの取得)

コマンド名

getjsp

機能

セッションに関係なくJSPファイルを取得します。

パラメタの説明

jsp

本コマンド完了後に実行させるJSPファイル名を指定します。
必ず指定します。

使用例

WWWサーバ「WebServer」経由で、「list.jsp」ファイルを取得します。

```
http://WebServer/listworks/servlet/ListGateway?command=get.jsp&jsp=list.jsp
```

3.2.1.2 getjspinssession(JSPファイルの取得)

コマンド名

getjspinssession

機能

セッションが有効な場合に限定して、JSPファイルを取得します。

パラメタの説明

jsp

本コマンド完了後に実行させるJSPファイル名を指定します。
必ず指定します。

使用例

WWWサーバ「WebServer」経由で、「list.jsp」ファイルを取得します。

```
http://WebServer/listworks/servlet/ListGateway?command=get.jspinssession&jsp=list.jsp
```



注意

あらかじめリスト管理サーバに接続しておく必要があります。接続していない場合は、JSPファイルを取得できません。

3.2.1.3 getkeepfolder(保管フォルダの一覧の表示)

コマンド名

getkeepfolder

機能

保管フォルダの一覧を表示します。

パラメタの説明

range

保管フォルダの一覧を取得する範囲を0から4までの数値で指定します。

- 0 : すべての保管フォルダ
- 1 : ルート(最上位)階層の保管フォルダ
- 2 : 表示中の階層の1階層上の保管フォルダ
- 3 : 指定した保管フォルダの直下の保管フォルダ
- 4 : 表示中の階層の保管フォルダ

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

nodeid

保管フォルダの識別子を指定します。指定した保管フォルダの直下に存在する保管フォルダを取得します。

rangeパラメタに「3」を指定した場合のみ有効で、その場合は本パラメタかkeepreenoパラメタのどちらかを必ず指定します。

keepreeno

保管フォルダの番号を指定します。指定した保管フォルダの直下に存在する保管フォルダを取得します。

rangeパラメタに「3」を指定して、nodeidパラメタが指定されていない場合のみ有効で、その場合は必ず指定します。

jsp

本コマンド完了後に実行させるJSPファイル名を指定します。

省略可能です。省略すると何も表示されません。

refresh

リスト管理サーバから保管フォルダ一覧を再取得するかどうかを指定します。ただし、保管フォルダの一覧を取得する範囲(rangeパラメタ)に「0」を指定した場合のみ有効となります。

- yes : 取得する
- no : 取得しない

省略可能です。省略すると「yes」が指定されたものとみなします。

使用例

WWWサーバ「WebServer」経由で、すべての保管フォルダの一覧を表示するために「folderlist.jsp」ファイルを要求します。

```
http://WebServer/listworks/servlet/ListGateway?command=getkeepfolder&jsp=folderlist.jsp
```

注意

- あらかじめリスト管理サーバに接続しておく必要があります。接続していない場合は、保管フォルダの一覧を表示できません。
- 本コマンドを実行する前に、保管フォルダ一覧の表示準備(openframeコマンド)を行う必要があります。

3.2.1.4 getkeeplist(帳票一覧の表示)

コマンド名

getkeeplist

機能

帳票一覧を表示します。

パラメタの説明

folder

保管フォルダの選択方法を指定します。

no : keeptreenoパラメタ (保管フォルダの番号) で指定

current : getkeepfolderのrangeパラメタに「2」、「3」または「4」を指定したときのフォルダを指定

省略可能です。省略すると「no」が指定されたものとみなします。

keeptreeno

保管フォルダの番号を指定します。

folderパラメタで「no」を指定した場合のみ有効で、その場合は必ず指定します。

keepliststartno

帳票一覧に表示する先頭の帳票番号を指定します。

必ず指定します。

jsp

本コマンド完了後に実行させるJSPファイル名を指定します。

省略可能です。省略すると何も表示されません。

使用例

WWWサーバ「WebServer」経由で、保管フォルダの番号[1]の帳票一覧で帳票番号[1]を先頭にして表示させるために「sheetlist.jsp」ファイルを要求します。

```
http://WebServer/listworks/servlet/ListGateway?command=getkeeplist&keeptreeno=1&keepliststartno=1&jsp=sheetlist.jsp
```



注意

- あらかじめリスト管理サーバに接続し、保管フォルダの一覧を表示しておく必要があります。リスト管理サーバに接続し、保管フォルダの一覧を表示していない場合は、帳票一覧を表示できません。
- 本コマンドを実行する前に、帳票一覧の表示準備(openframeコマンド)を行う必要があります。
- 帳票一覧を絞り込んで表示するためには、あらかじめsession.setAttribute("[条件]","[値]")メソッドを使用して、セッションに表示条件を設定しておく必要があります。



表示条件の設定については、“[E.2 帳票一覧の表示条件の設定](#)”を参照してください。

3.2.1.5 listbrowser(帳票の表示)

コマンド名

listbrowser

機能

帳票を表示します。

パラメタの説明

sheetnodeid

表示中の帳票一覧に含まれる帳票の識別子を指定します。
本パラメタかkeepsheetnoパラメタのどちらかを必ず指定します。

keepsheetno

表示中の帳票一覧における帳票番号を指定します。
sheetnodeidパラメタを指定していない場合のみ有効で、その場合は必ず指定します。

jsp

本コマンド完了後に実行させるJSPファイル名を指定します。
省略可能です。省略すると何も表示されません。

使用例

WWWサーバ「WebServer」経由で、表示中の帳票一覧における帳票番号「1」の帳票を表示するために「browse.jsp」ファイルを要求します。

```
http://WebServer/listworks/servlet/ListGateway?command=listbrowser&keepsheetno=1&jsp=browse.jsp
```



注意

あらかじめリスト管理サーバに接続し、保管フォルダの一覧の表示、帳票一覧の表示をしておく必要があります。

リスト管理サーバに接続し、保管フォルダの一覧の表示、帳票一覧の表示をしていない場合は、帳票を表示できません。

3.2.1.6 listprint(帳票の印刷)

コマンド名

listprint

機能

帳票を印刷します。

パラメタの説明

sheetnodeid

表示中の帳票一覧に含まれる帳票の識別子を指定します。
本パラメタかkeepsheetnoパラメタのどちらかを必ず指定します。

keepsheetno

表示中の帳票一覧における帳票番号を指定します。
sheetnodeidパラメタを指定していない場合のみ有効で、その場合は必ず指定します。

jsp

本コマンド完了後に実行させるJSPファイル名を指定します。
省略可能です。省略すると何も表示されません。

使用例

WWWサーバ「WebServer」経由で、表示中の帳票一覧における帳票番号「1」の帳票を印刷するために「print.jsp」ファイルを要求します。

```
http://WebServer/listworks/servlet/ListGateway?command=listprint&keepsheetno=1&jsp= print. jsp
```



注意

あらかじめリスト管理サーバに接続し、保管フォルダの一覧の表示、帳票一覧の表示をしておく必要があります。

リスト管理サーバに接続し、保管フォルダの一覧の表示、帳票一覧の表示をしていない場合は、帳票を印刷できません。

3.2.1.7 login(リスト管理サーバへの接続)

コマンド名

login

機能

リスト管理サーバに接続します。

パラメタの説明

userid

接続するユーザIDを指定します。
必ず指定します。文字列は、半角36文字以内で指定します。

password

ユーザIDに対応したパスワードを指定します。
必ず指定します。パスワードは、半角255文字以内で指定します。

servername

ホスト名を指定します。
必ず指定します。ホスト名は、以下の文字数以内で指定します。

Windows版の場合:半角15文字

Solaris版の場合:半角64文字

jsp

本コマンド完了後に実行させるJSPファイル名を指定します。
省略可能です。省略すると何も表示されません。

使用例

- WWWサーバ「WebServer」経由で、リスト管理サーバ「Server」にユーザID「user-A」、パスワード「password」で接続して、「list.jsp」ファイルを要求します。

```
http://WebServer/listworks/servlet/ListGateway?command=login&user id=user-A&password=password&servername=Server&jsp=list. jsp
```

- WWWサーバ「WebServer」経由で、リスト管理サーバ「Server」にユーザID「user-A」、パスワードなしで接続して、「list.jsp」ファイルを要求します。

```
http://WebServer/listworks/servlet/ListGateway?command=login&user id=user-A&password=&servername=Server&jsp=list. jsp
```

3.2.1.8 logout(リスト管理サーバからの切断)

コマンド名

logout

機能

リスト管理サーバから切断します。

パラメタの説明

jsp

本コマンド完了後に実行させるJSPファイル名を指定します。
省略可能です。省略すると何も表示されません。

使用例

WWWサーバ「WebServer」経由で、リスト管理サーバから切断して「logout.jsp」ファイルを要求します。

```
http://WebServer/listworks/servlet/ListGateway?command=logout&jsp=logout. jsp
```



注意

あらかじめリスト管理サーバに接続しておく必要があります。接続していない場合は、本コマンドは実行されません。

3.2.1.9 openframe(保管フォルダ/帳票一覧の表示準備)

コマンド名

openframe

機能

保管フォルダ/帳票一覧の表示準備を行います。

パラメタの説明

jsp

本コマンド完了後に実行させるJSPファイル名を指定します。
省略可能です。省略すると何も表示されません。

使用例

WWWサーバ「WebServer」経由で、保管フォルダの一覧を表示するために、getkeepfolder(保管フォルダの一覧の表示)コマンドを含む「list.jsp」ファイルを要求します。

```
http://WebServer/listworks/servlet/ListGateway?command=openframe&jsp=list.jsp
```

list.jspの内容

```
http://WebServer/listworks/servlet/ListGateway?command=getkeepfolder&jsp=folderlist.jsp
```



注意

- あらかじめリスト管理サーバに接続しておく必要があります。接続していない場合は、一覧を表示できません。
- getkeepfolderコマンド(保管フォルダの一覧の表示)、またはgetkeepelistコマンド(帳票一覧の表示)を使用するJSPファイルは、本コマンドのjspパラメタに指定する必要があります。

3.2.2 Javaクラス(ListConfig)

ListConfigとは、List Works構成クラスのことです。

以下に、Javaクラス(ListConfig)のメソッドを示します。

メソッド	機能
addSheetPath	帳票の論理パスの追加
compareKeepCheckInfo	帳票が選択中かどうかの判定
getActivePage	現在表示している帳票のページ番号の取得
getApplicationURL	Web連携機能のURLを取得(注1)
getBrosKeepFolderInfoNo	次に存在する同一階層の保管フォルダ情報の番号取得
getByteSwap	バイトスワップフラグの取得
getChildKeepFolderInfoNo	子の保管フォルダ情報の番号取得
getClassFolderNoList	階層のフォルダ番号リストの取得
getClassFolderNameList	階層のフォルダ名リストの取得
getConnectForm	連結できる最大帳票数の取得
getConnectServer	リスト管理サーバ接続フラグの取得
getCurrentFolderAttribute	現在選択している保管フォルダの情報の取得
getCurrentFolderNameList	最上位の保管フォルダから現在選択している保管フォルダまでのフォルダ名リストの取得

メソッド	機能
getEndNo	帳票一覧の最後の番号の取得
getFolderNo	選択している保管フォルダ番号の取得
getGroupCount	所属グループの種別番号の取得
getHitTotalSheetNo	選択した保管フォルダ内の表示条件に該当する帳票の総数の取得
getKeepFolderAttribute	保管フォルダ情報の取得
getKeepFolderInfoNo	保管フォルダ情報の番号の取得
getKeepSheetAttribute	保管フォルダ内帳票情報の取得
getKeepSheetInfoNo	保管フォルダ内帳票の番号の取得
getNextKeepFolderInfoNo	次に存在する同一階層、それがない場合は親と同一階層で、次に存在する保管フォルダ情報の番号の取得
getListPrintPropertiesName	ListPrint.propertiesのファイル名を取得
getPollingPrintWatchTime	ポーリング印刷における帳票一覧の監視時間の取得
getRemoteAddr	処理を要求したクライアントのホストIPアドレスの取得
getRemoteHost	処理を要求したクライアントのホスト名、または処理を要求したクライアントのホストIPアドレスの取得
getSeparatorMark	フォルダ区切りマークの取得
getServerAddr	リスト管理サーバIPアドレスの取得
getServerName	リスト管理サーバ名の取得
getServletURL	ListGatewayのURLを取得(注1)
getSession	セッションの取得
getSessionID	セッションIDの取得
getSheetNo	選択した帳票の番号の取得
getSheetPath	帳票の論理パスの取得
getStartNo	帳票一覧の最初の番号の取得
getTotalFolderNo	保管フォルダの総数の取得
getTotalSheetNo	帳票の総数の取得
getUsePdfSheet	PDF形式での帳票の表示、および帳票をPDF形式に変換して保存する機能を使用するかどうかの取得
getUsePrintedSheet	ローカル印刷識別を利用するかどうかの取得
getUserID	ユーザIDを取得
getViewNo	帳票一覧に表示できる最大帳票数の取得
getViewSheetNo	表示する帳票の数の取得
setFolderPath	保管フォルダの論理パスを設定
setListPrintPropertiesName	ListPrint.propertiesのファイル名を設定
setSheetPath	帳票の論理パスの設定

注1: ListWORKS、およびList Works V6.0L10/6.0から移行した場合に、プログラムを変更しなくても継続して運用できるよう、互換のために用意されているメソッドです。

3.2.2.1 addSheetPath(帳票の論理パスの追加)

記述形式

`listConfig.addSheetPath`(帳票の論理パス)

機能

リスト管理サーバ上での帳票の論理パスを追加します。

パラメタの説明

帳票の論理パス

帳票の論理パスをシフトJIS文字列のbyte型配列で指定します。
必ず指定します。

例) 保管フォルダの論理パスが「C:¥営業部」、帳票のファイル名が「ABC.spj」の場合
C:¥営業部¥ABC.spj

復帰値

`true`

帳票の論理パスを追加しました。

`false`

帳票の論理パスを追加できませんでした。

使用例

帳票の論理パス「C:¥営業¥DEF.spj」を追加します。

```
String strPath = new String("C:¥¥営業¥¥ABC.spj");
listConfig.setSheetPath(strPath.getBytes("MS932"));
strPath = new String("C:¥¥営業¥DEF.spj");
listConfig.addSheetPath(strPath.getBytes("MS932"));
```

3.2.2.2 compareKeepCheckInfo(帳票が選択中かどうかの判定)

記述形式

`listConfig.compareKeepCheckInfo`(ファイル名)

機能

帳票が選択中(帳票一覧で、帳票のチェックボックスがチェックされた状態)かどうか判定します。

パラメタの説明

ファイル名

`java.lang.String`型で帳票のファイル名を指定します。
必ず指定します。

復帰値

true

選択中です。

false

選択中ではありません。

使用例

帳票が選択中かどうか判定します。

```
listConfig.compareKeepCheckInfo("ABC.sp1");
```

3.2.2.3 getActivePage(現在表示している帳票のページ番号の取得)

記述形式

```
listConfig.getActivePage()
```

機能

現在表示している帳票のページ番号を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

- ・ 一覧からの印刷画面を表示している場合は、0
- ・ 帳票を表示している場合は、long型の現在表示しているページのページ番号

使用例

現在表示している帳票のページ番号を取得します。

```
listConfig.getActivePage();
```



注意

- ・ このメソッドは、一覧からの印刷画面および、帳票を表示している場合のみ有効です。
- ・ キャッシュされていないページを表示した場合のみ有効です。

3.2.2.4 getApplicationURL(Web連携機能のURLを取得)

ポイント

互換

getApplicationURLメソッドは、ListWORKS、およびList Works V6.0L10/6.0から移行した場合に、プログラムを変更しなくても継続して運用できるよう、互換のために用意されているメソッドです。

記述形式

```
listConfig.getApplicationURL()
```

機能

List WorksのWeb連携機能(Webアプリケーション)のURLを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

- java.lang.String型のList WorksのWeb連携機能(Webアプリケーション)のURL
(SSLを導入している場合には、「http」の部分を「https」に置き換えて指定してください。)

形式 : http://【server name】/listworks

- WWWサーバのURLを指定していない場合は、null

使用例

List WorksのWeb連携機能(Webアプリケーション)のURLを取得します。

```
listConfig.getApplicationURL();
```

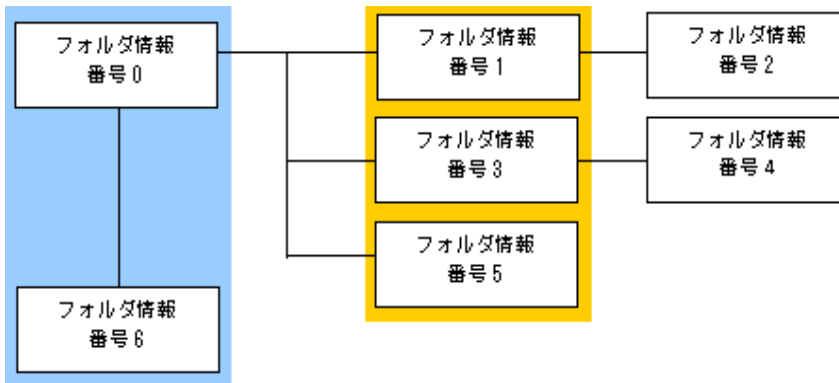
3.2.2.5 getBrosKeepFolderInfoNo(次に存在する同一階層の保管フォルダ情報の番号取得)

記述形式

```
listConfig.getBrosKeepFolderInfoNo(保管フォルダ情報の番号)
```

機能

次に存在する同一階層の保管フォルダ情報の番号を取得します。



- ・ フォルダ情報番号「0」を指定すると、「6」が復帰します。
- ・ フォルダ情報番号「3」を指定すると、「5」が復帰します。

パラメタの説明

保管フォルダ情報の番号

保管フォルダ情報の番号をint型で指定します。
必ず指定します。

復帰値

- ・ int型の保管フォルダ情報の番号
- ・ 次に存在する同一階層のフォルダがない場合は、-1

使用例

0番の保管フォルダの次に存在する同一階層の保管フォルダ情報の番号を取得します。

```
listConfig.getBrosKeepFolderInfoNo(0);
```

3.2.2.6 getByteSwap(バイトスワップフラグの取得)

記述形式

```
listConfig.getByteSwap()
```

機能

バイトスワップフラグを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

true

バイトスワップフラグを取得しました。

false

バイトスワップフラグを取得できませんでした。

使用例

バイトスワップフラグを取得します。

```
listConfig.getByteswap();
```

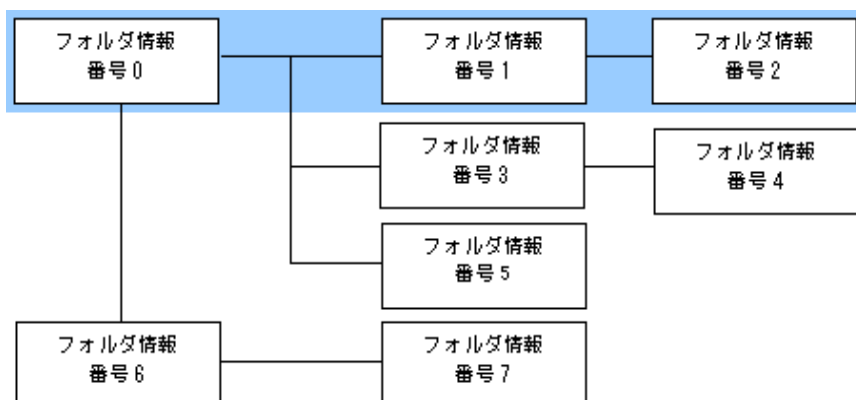
3.2.2.7 getChildKeepFolderInfoNo(子の保管フォルダ情報の番号取得)

記述形式

```
listConfig.getChildKeepFolderInfoNo(保管フォルダ情報の番号)
```

機能

子の保管フォルダ情報の番号を取得します。直下に保管フォルダが複数ある場合は、最初の保管フォルダ情報の番号を取得します。



- ・フォルダ情報番号「0」を指定すると、「1」が復帰します。
- ・フォルダ情報番号「1」を指定すると、「2」が復帰します。

パラメタの説明

保管フォルダ情報の番号

保管フォルダ情報の番号をint型で指定します。
必ず指定します。

復帰値

- ・ int型の、子の保管フォルダ情報の番号
- ・ 子の保管フォルダがない場合は、-1

- すべての保管フォルダの一覧を取得していない場合は、-1

使用例

0番の保管フォルダにおける、子の保管フォルダ情報の番号を取得します。

```
listConfig.getChildKeepFolderInfoNo(0);
```



注意

このメソッドは、Httpリクエストのgetkeepfolder(保管フォルダの一覧の表示)コマンドを、すべての保管フォルダを指定して実行した場合のみ有効です。

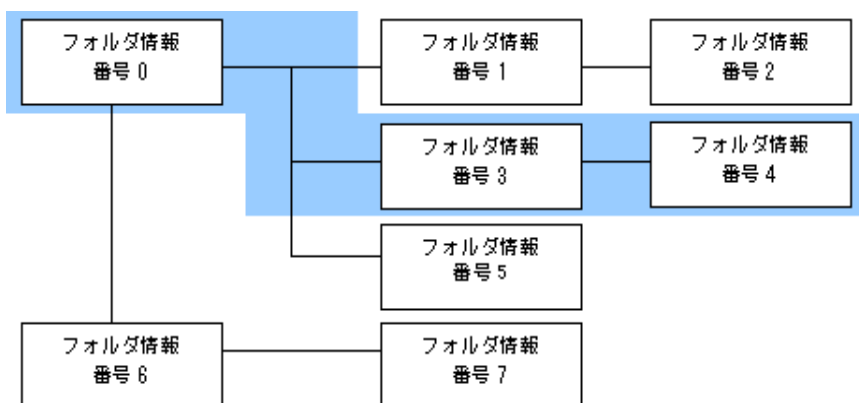
3.2.2.8 getClassFolderNoList(階層のフォルダ番号リストの取得)

記述形式

```
listConfig.getClassFolderNoList(保管フォルダ情報の番号)
```

機能

最上位の親保管フォルダから、指定した保管フォルダ番号までの階層のフォルダ番号リストを取得します。



- フォルダ情報番号「4」を指定すると、フォルダ情報番号「0」、「3」、「4」のフォルダ番号リストを獲得します。

パラメタの説明

保管フォルダ情報の番号

保管フォルダ情報の番号をint型で指定します。
必ず指定します。

復帰値

- com.fujitsu.systemwalker.listworks.common.util.ObjectList型の、最上位の親保管フォルダからの階層のフォルダ番号リスト
- すべての保管フォルダの一覧を取得していない場合は、指定したフォルダのフォルダ番号

使用例

最上位の保管フォルダから10番目の保管フォルダまでの階層のフォルダ番号リストを取得します。

```
listConfig.getClassFolderNoList(10);
```



注意

このメソッドは、Httpリクエストのgetkeepfolder(保管フォルダの一覧の表示)コマンドを、すべての保管フォルダを指定して実行した場合のみ有効です。

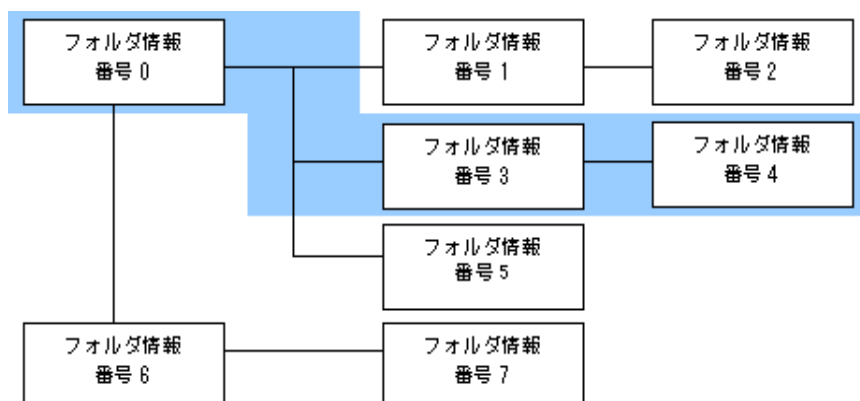
3.2.2.9 getClassNamelist(階層のフォルダ名リストの取得)

記述形式

```
listConfig.getClassNamelist(保管フォルダ情報の番号)
```

機能

最上位の親保管フォルダから、指定した保管フォルダ番号までのフォルダ名リストを取得します。



- ・ フォルダ情報番号「4」を指定すると、フォルダ情報番号「0」、「3」、「4」のフォルダ名リストを獲得します。

パラメタの説明

保管フォルダ情報の番号

保管フォルダ情報の番号をint型で指定します。
必ず指定します。

復帰値

- ・ com.fujitsu.systemwalker.listworks.common.util.ObjectList型の、最上位の親保管フォルダからの階層のフォルダ名リスト
- ・ すべての保管フォルダの一覧を取得していない場合は、指定した保管フォルダのフォルダ名

使用例

最上位の保管フォルダから10番目の保管フォルダまでの階層のフォルダ名リストを取得します。

```
listConfig.getClassNameList(10);
```



このメソッドは、Httpリクエストのgetkeepfolder(保管フォルダの一覧の表示)コマンドを、すべての保管フォルダを指定して実行した場合のみ有効です。

3.2.2.10 getConnectForm(連結できる最大帳票数の取得)

記述形式

```
listConfig.getConnectForm()
```

機能

連結表示できる最大帳票数を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

int型の連結表示できる最大帳票数

使用例

連結表示できる最大帳票数を取得します。

```
listConfig.getConnectForm();
```

3.2.2.11 getConnectServer(リスト管理サーバ接続フラグの取得)

記述形式

```
listConfig.getConnectServer()
```

機能

リスト管理サーバに接続しているかどうかの判定を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

true

接続しています。

false

接続していません。

使用例

リスト管理サーバ接続フラグを取得します。

```
listConfig.getConnectServer();
```

3.2.2.12 getCurrentFolderAttribute(現在選択している保管フォルダの情報の取得)

記述形式

```
listConfig.getCurrentFolderAttribute()
```

機能

現在選択している保管フォルダの情報を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

- com.fujitsu.systemwalker.listworks.gateway.command.KeepFolderAttribute型の保管フォルダ情報
- getkeepfolderコマンドで、rangeパラメタに「2」、「3」または「4」を指定していない場合は、null

使用例

現在選択している保管フォルダの情報を取得します。

```
listConfig.getCurrentFolderAttribute();
```



注意

このメソッドは、Httpリクエストのgetkeepfolder(保管フォルダの一覧の表示)コマンドのrangeパラメタに「2」、「3」または「4」を指定して実行した場合のみ有効です。

3.2.2.13 getCurrentFolderNameList(最上位の保管フォルダから現在選択している保管フォルダまでのフォルダ名リストの取得)

記述形式

```
listConfig.getCurrentFolderNameList()
```

機能

最上位の保管フォルダから現在選択している保管フォルダまでのフォルダ名リストを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

- com.fujitsu.systemwalker.listworks.common.util.ObjectList型の、最上位の保管フォルダから現在選択している保管フォルダまでのフォルダ名リスト
- getkeepfolderコマンドで、rangeパラメタに「2」、「3」または「4」を指定していない場合は、null

使用例

最上位の保管フォルダから現在選択している保管フォルダまでのフォルダ名リストを取得します。

```
listConfig.getCurrentFolderNameList();
```



注意

このメソッドは、Httpリクエストのgetkeepfolder(保管フォルダの一覧の表示)コマンドのrangeパラメタに「2」、「3」または「4」を指定して実行した場合のみ有効です。

3.2.2.14 getEndNo(帳票一覧の最後の番号の取得)

記述形式

```
listConfig.getEndNo()
```

機能

帳票一覧の最後の番号を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

- int型の、帳票一覧の最後の番号
- 保管フォルダに帳票がない場合は、-1

使用例

帳票一覧の最後の番号を取得します。

```
listConfig.getEndNo();
```

3.2.2.15 getFolderNo(選択している保管フォルダ番号の取得)

記述形式

```
listConfig.getFolderNo()
```

機能

選択している保管フォルダ番号を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

int型の選択している保管フォルダ番号

使用例

選択している保管フォルダ番号を取得します。

```
listConfig.getFolderNo();
```

3.2.2.16 getGroupCount(所属グループの種別番号の取得)

記述形式

```
listConfig.getGroupCount()
```

機能

リスト管理サーバに接続中のユーザが所属しているグループの種別番号を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

int型の、所属しているグループの種別番号

0以上

一般ユーザ

-1

管理者

使用例

所属しているグループの種別番号を取得します。

```
listConfig.getGroupCount();
```

3.2.2.17 getHitTotalSheetNo(選択した保管フォルダ内の表示条件に該当する帳票の総数の取得)

記述形式

```
listConfig.getHitTotalSheetNo()
```

機能

選択した保管フォルダ内の表示条件に該当する帳票の総数を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

int型の、選択した保管フォルダ内の表示条件に該当する帳票の総数

使用例

選択した保管フォルダ内の表示条件に該当する帳票の総数を取得します。

```
listConfig.getHitTotalSheetNo();
```

3.2.2.18 getKeepFolderAttribute(保管フォルダ情報の取得)

記述形式

```
listConfig.getKeepFolderAttribute(保管フォルダ情報の番号)
```

機能

保管フォルダ情報を取得します。

パラメタの説明

保管フォルダ情報の番号

保管フォルダ情報の番号をint型で指定します。
必ず指定します。

復帰値

com.fujitsu.systemwalker.listworks.gateway.command.KeepFolderAttribute型の保管フォルダ情報

使用例

0番の保管フォルダ情報を取得します。

```
listConfig.getKeepFolderAttribute(0);
```

3.2.2.19 getKeepFolderInfoNo(保管フォルダ情報の番号の取得)

記述形式

```
listConfig.getKeepFolderInfoNo(保管フォルダの論理パス, 大小文字の区別)
```

機能

保管フォルダ情報の番号を取得します。

パラメタの説明

保管フォルダの論理パス

保管フォルダの論理パスをシフトJIS文字列のbyte型配列で指定します。
必ず指定します。

例) 保管フォルダが「営業部」の場合
C:¥営業部

大小文字の区別

大小文字を区別するかどうかをboolean型で指定します。

true : 区別しない
false : 区別する

必ず指定します。

復帰値

- ・ int型の保管フォルダ情報の番号
- ・ 指定した保管フォルダがWeb連携上に取得されていない場合は、-1

使用例

保管フォルダの論理パスが「C:¥営業」の保管フォルダ情報の番号を、大小文字の区別をしないで取得します。

```
String strPath = new String("C:¥営業");  
listConfig.getKeepFolderInfoNo(strPath.getBytes("MS932"), true);
```

3.2.2.20 getKeepSheetAttribute(保管フォルダ内帳票情報の取得)

記述形式

`listConfig.getKeepSheetAttribute(保管フォルダ内帳票情報番号)`

機能

保管フォルダ内帳票情報を取得します。

パラメタの説明

保管フォルダ内帳票情報番号

保管フォルダ内帳票情報番号をint型で指定します。
必ず指定します。

復帰値

`com.fujitsu.systemwalker.listworks.common.info.KeepSheetAttribute`型の保管フォルダ内帳票情報

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票情報を取得します。

```
listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
```

3.2.2.21 getKeepSheetInfoNo(保管フォルダ内帳票の番号の取得)

記述形式

`listConfig.getKeepSheetInfoNo(保管フォルダ内帳票のファイル名, 大小文字の区別)`

機能

保管フォルダ内帳票の番号を取得します。

パラメタの説明

保管フォルダ内帳票のファイル名

保管フォルダ内帳票のファイル名をシフトJIS文字列のbyte型配列で指定します。
必ず指定します。

大小文字の区別

大小文字を区別するかどうかをboolean型で指定します。

true : 区別しない
false : 区別する

必ず指定します。

復帰値

int型の保管フォルダ内帳票の番号

使用例

保管フォルダ内のファイル名「ABC」の帳票番号を、大小文字の区別をしないで取得します。

```
String strFile = new String("ABC.spl");  
listConfig.getKeepSheetInfoNo(strFile.getBytes("MS932"), true);
```

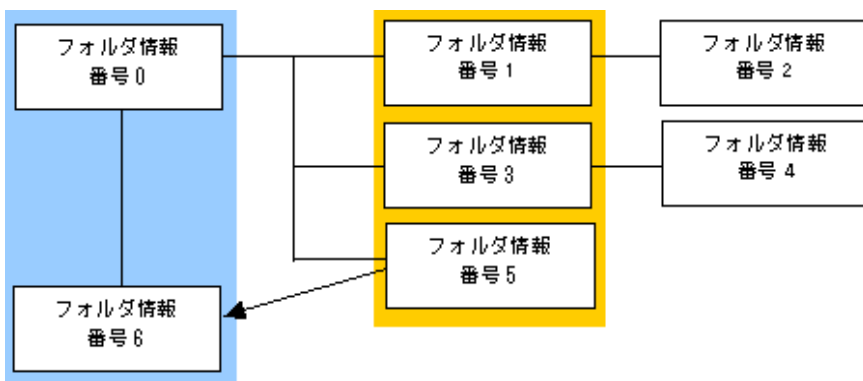
3.2.2.22 getNextKeepFolderInfoNo(次に存在する同一階層、それがいない場合は親と同一階層で次に存在する保管フォルダ情報の番号の取得)

記述形式

listConfig.getNextKeepFolderInfoNo(保管フォルダ情報の番号)

機能

次に存在する同一階層、それがいない場合は親と同一階層で、次に存在する保管フォルダの保管フォルダ情報の番号を取得します。



- フォルダ情報番号「1」を指定すると、「3」が復帰します。
- フォルダ情報番号「5」を指定すると、「6」が復帰します。
- フォルダ情報番号「6」を指定すると、次に存在する同一階層のフォルダも親と同一階層で次に存在する保管フォルダもないため、「-1」が復帰します。

パラメタの説明

保管フォルダ情報の番号

保管フォルダ情報の番号をint型で指定します。
必ず指定します。

復帰値

- int型の、次(同一階層、親階層)の保管フォルダ情報の番号
- 次に存在する同一階層のフォルダも親と同一階層で次に存在する保管フォルダもない場合は、-1
- すべての保管フォルダ一覧を取得していない場合は、-1

使用例

1番のフォルダの次(同一階層、親階層)の保管フォルダ情報の番号を取得します。

```
listConfig.getNextKeepFolderInfoNo(1);
```



このメソッドは、Httpリクエストのgetkeepfolder(保管フォルダの一覧の表示)コマンドを、すべての保管フォルダを指定して実行した場合のみ有効です。

3.2.2.23 getListPrintPropertiesName(ListPrint.propertiesのファイル名を取得)

記述形式

```
listConfig.getListPrintPropertiesName()
```

機能

ListPrint.propertiesのファイル名を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型のListPrint.propertiesのファイル名

使用例

ListPrint.propertiesのファイル名を取得します。

```
listConfig.getListPrintPropertiesName();
```

3.2.2.24 getPollingPrintWatchTime(ポーリング印刷における帳票一覧の監視時間の取得)

記述形式

```
listConfig.getPollingPrintWatchTime()
```

機能

ポーリング印刷において、帳票一覧を監視する時間を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

int型の、ポーリング印刷において帳票一覧を監視する時間(秒)

使用例

ポーリング印刷において、帳票一覧を監視する時間を取得します。

```
listConfig.getPollingPrintWatchTime();
```

3.2.2.25 getRemoteAddr(処理を要求したクライアントのホストIPアドレスの取得)

記述形式

```
listConfig.getRemoteAddr()
```

機能

処理を要求したクライアントのIPアドレスを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の処理を要求したクライアントのIPアドレス

使用例

処理を要求したクライアントのIPアドレスを取得します。

```
listConfig.getRemoteAddr();
```

3.2.2.26 getRemoteHost(処理を要求したクライアントのホスト名、または処理を要求したクライアントのホストIPアドレスの取得)

記述形式

```
listConfig.getRemoteHost()
```

機能

処理を要求したクライアントのホスト名、または処理を要求したクライアントのIPアドレスを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の、処理を要求したクライアントのホスト名、または処理を要求したクライアントのIPアドレス

使用例

処理を要求したクライアントのホスト名、または処理を要求したクライアントのIPアドレスを取得します。

```
listConfig.getRemoteHost();
```



注意

.....
WWWサーバがInterstage HTTP Serverの場合、getRemoteHost の復帰値が正しく取得されない場合があります。このような場合、getRemoteAddr を使用してクライアントのIPアドレスを取得するようにしてください。
.....

3.2.2.27 getSeparatorMark(フォルダ区切りマークの取得)

記述形式

```
listConfig.getSeparatorMark()
```

機能

フォルダ区切りマークを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型のフォルダ区切りマーク

Windows版の場合：¥

Solaris版の場合：/

使用例

フォルダ区切りマークを取得します。

```
listConfig.getSeparatorMark();
```

3.2.2.28 getServerAddr(リスト管理サーバIPアドレスの取得)

記述形式

```
listConfig.getServerAddr()
```

機能

接続しているリスト管理サーバのIPアドレスを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の、接続しているリスト管理サーバのIPアドレス

使用例

接続しているリスト管理サーバのIPアドレスを取得します。

```
listConfig.getServerAddr();
```

3.2.2.29 getServerName(リスト管理サーバ名の取得)

記述形式

```
listConfig.getServerName()
```

機能

接続しているリスト管理サーバ名を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の、接続しているリスト管理サーバ名

使用例

接続しているリスト管理サーバ名を取得します。

```
listConfig.getServerName();
```

3.2.2.30 getServletURL(ListGatewayのURLを取得)

ポイント

互換

getServletURLメソッドは、ListWORKS、およびList Works V6.0L10/6.0から移行した場合に、プログラムを変更しなくても継続して運用できるよう、互換のために用意されているメソッドです。

記述形式

```
listConfig.getServletURL()
```

機能

ListGateway(サーブレット)のURLを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

- java.lang.String型の、ListGateway(サーブレット)のURL
(SSLを導入している場合には、「http」の部分を「https」に置き換えて指定してください。)

形式 : http://【server name】/listworks/servlet/ListGateway

- WWWサーバのURLを指定していない場合は、null

使用例

ListGateway(サーブレット)のURLを取得します。

```
listConfig.getServletURL();
```

3.2.2.31 getSession(セッションの取得)

記述形式

```
listConfig.getSession()
```

機能

セッションを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型のセッション

使用例

セッションを取得します。

```
listConfig.getSession();
```

3.2.2.32 getSessionID(セッションIDの取得)

記述形式

```
listConfig.getSessionID()
```

機能

セッションIDを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型のセッションID

使用例

セッションIDを取得します。

```
listConfig.getSessionID();
```

3.2.2.33 getSheetNo(選択した帳票の番号の取得)

記述形式

```
listConfig.getSheetNo()
```

機能

選択した帳票の番号を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

- ・ int型の、選択した帳票の番号
- ・ 一度も帳票を選択していない場合は、-1

使用例

選択した帳票の番号を取得します。

```
listConfig.getSheetNo();
```



注意

取得した帳票の番号は、次の帳票を選択するまで有効です。

3.2.2.34 getSheetPath(帳票の論理パスの取得)

記述形式

```
listConfig.getSheetPath()
```

機能

帳票の論理パスを取得します。

形式：保管フォルダの論理パスが「C:¥営業部」、帳票のファイル名が「ABC.sp1」の場合
C:¥営業部¥ABC.sp1

パラメタの説明

なし

復帰値

com.fujitsu.systemwalker.listworks.common.util.ObjectList型の、帳票の論理パスのリスト

使用例

帳票の論理パスを取得します。

```
listConfig.getSheetPath();
```

3.2.2.35 getStartNo(帳票一覧の最初の番号の取得)

記述形式

```
listConfig.getStartNo()
```

機能

帳票一覧の最初の番号を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

- int型の、帳票一覧の最初の番号

- ・ 保管フォルダに帳票がない場合は、-1

使用例

帳票一覧の最初の番号を取得します。

```
listConfig.getStartNo();
```

3.2.2.36 getTotalFolderNo(保管フォルダの総数の取得)

記述形式

```
listConfig.getTotalFolderNo()
```

機能

保管フォルダの総数を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

getkeepfolderコマンドで取得したint型の、保管フォルダの総数

使用例

保管フォルダの総数を取得します。

```
listConfig.getTotalFolderNo();
```

3.2.2.37 getTotalSheetNo(帳票の総数の取得)

記述形式

```
listConfig.getTotalSheetNo()
```

機能

選択した保管フォルダ内の帳票の総数を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

int型の、選択した保管フォルダ内の帳票の総数

使用例

選択した保管フォルダ内の帳票の総数を取得します。

```
listConfig.getTotalSheetNo();
```

3.2.2.38 getUsePdfSheet(PDF形式での帳票の表示、および帳票をPDF形式に変換して保存する機能を使用するかどうかの取得)

記述形式

```
listConfig.getUsePdfSheet()
```

機能

リスト管理サーバに接続しているユーザが、PDF形式での帳票の表示、および帳票をPDF形式に変換して保存する機能を利用するかどうかを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

true

アクセス権がある帳票を、PDF形式で表示/PDF形式に変換して保存できる

false

アクセス権がある帳票も、PDF形式で表示/PDF形式に変換して保存できない

使用例

リスト管理サーバに接続しているユーザが、PDF形式での帳票の表示、および帳票をPDF形式に変換して保存する機能を使用するかどうかを取得します。

```
listConfig.getUsePdfSheet();
```

3.2.2.39 getUsePrintedSheet(ローカル印刷識別を利用するかどうかを取得)

記述形式

```
listConfig.getUsePrintedSheet()
```

機能

リスト管理サーバに接続しているユーザが、ローカル印刷識別を利用するかどうかを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

true

ローカル印刷識別を利用できる

false

ローカル印刷識別を利用できない

使用例

リスト管理サーバに接続しているユーザが、ローカル印刷識別を利用するかどうかを取得します。

```
listConfig.getUserPrintedSheet();
```

3.2.2.40 getUserID(ユーザIDを取得)

記述形式

```
listConfig.getUserID()
```

機能

リスト管理サーバへ接続したユーザIDを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型のリスト管理サーバへ接続したユーザID

使用例

リスト管理サーバへ接続したユーザIDを取得します。

```
listConfig.getUserID();
```

3.2.2.41 getViewNo(帳票一覧に表示できる最大帳票数の取得)

記述形式

```
listConfig.getViewNo()
```

機能

帳票一覧の画面に表示できる最大帳票数を取得します。



参考

このメソッドで取得できる最大帳票数は、帳票一覧の1ページ内に表示できる最大帳票数です。

パラメタの説明

なし

復帰値

int型の、帳票一覧に表示できる最大帳票数

使用例

帳票一覧に表示できる最大帳票数を取得します。

```
listConfig.getViewNo();
```

3.2.2.42 getViewSheetNo(表示する帳票の数の取得)

記述形式

```
listConfig.getViewSheetNo()
```

機能

帳票一覧に表示する帳票の数を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

int型の、帳票一覧に表示する帳票の数

使用例

帳票一覧に表示する帳票の数を取得します。

```
listConfig.getViewSheetNo();
```

3.2.2.43 setFolderPath(保管フォルダの論理パスを設定)

記述形式

```
listConfig.setFolderPath(保管フォルダの論理パス)
```

機能

保管フォルダの論理パスを設定します。

パラメタの説明

保管フォルダの論理パス

保管フォルダの論理パスをシフトJIS文字列のbyte型配列で指定します。
必ず指定します。

例) 保管フォルダが「営業部」の場合
C:¥営業部

復帰値

なし

使用例

保管フォルダの論理パス「C:¥営業」を設定します。

```
String strFolder = new String("C:¥¥営業");  
listConfig.setFolderPath(strFolder.getBytes("MS932"));
```



注意

保管フォルダの論理パスは、リスト管理サーバ上のパスを指定します。

3.2.2.44 setListPrintPropertiesName(ListPrint.propertiesのファイル名を設定)

記述形式

```
listConfig.setListPrintPropertiesName(ListPrint.propertiesのファイル名)
```

機能

ListPrint.propertiesのファイル名を設定します。

パラメタの説明

ListPrint.propertiesのファイル名

ListPrint.propertiesのファイル名をシフトJIS文字列で指定します。必ず指定します。

復帰値

true

存在するファイルの名前を指定しました。

false

存在しないファイルの名前を指定しました。

使用例

ListPrint.propertiesのファイル名「ListPrint2.properties」を設定します。

```
listConfig.setListPrintPropertiesName("ListPrint2.properties");
```

3.2.2.45 setSheetPath(帳票の論理パスの設定)

記述形式

```
listConfig.setSheetPath(帳票の論理パス)
```

機能

帳票の論理パスを設定します。

パラメタの説明

帳票の論理パス

帳票の論理パスをシフトJIS文字列のbyte型配列で指定します。
必ず指定します。

例) 保管フォルダの論理パスが「C:¥営業部」、帳票のファイル名が「ABC.spj」の場合
C:¥営業部¥ABC.spj

復帰値

true

帳票の論理パスを設定しました。

false

帳票の論理パスを設定できませんでした。

使用例

帳票の論理パス「C:¥営業¥ABC.spj」を設定します。

```
String strPath = new String("C:¥¥営業¥¥ABC.spj");  
listConfig.setSheetPath(strPath.getBytes("MS932"));
```



注意

- このメソッドで帳票の論理パスを設定する場合、それまでに設定されていた論理パスはクリアされます。複数の帳票の論理パスを設定する場合には、2番目以降はaddSheetPathメソッドを使用する必要があります。
- 帳票の論理パスは、リスト管理サーバ上のパスを指定します。

3.2.3 Javaクラス(KeepFolderAttribute)

KeepFolderAttributeとは、保管フォルダ情報クラスのことです。

以下に、Javaクラス(KeepFolderAttribute)のメソッドを示します。

メソッド	機能
getClassNo	保管フォルダの階層番号の取得
getCreateDate	保管フォルダの作成日時の取得
getName	保管フォルダ名の取得
getNodeId	保管フォルダの識別子の取得
getPath	保管フォルダの論理パスの取得

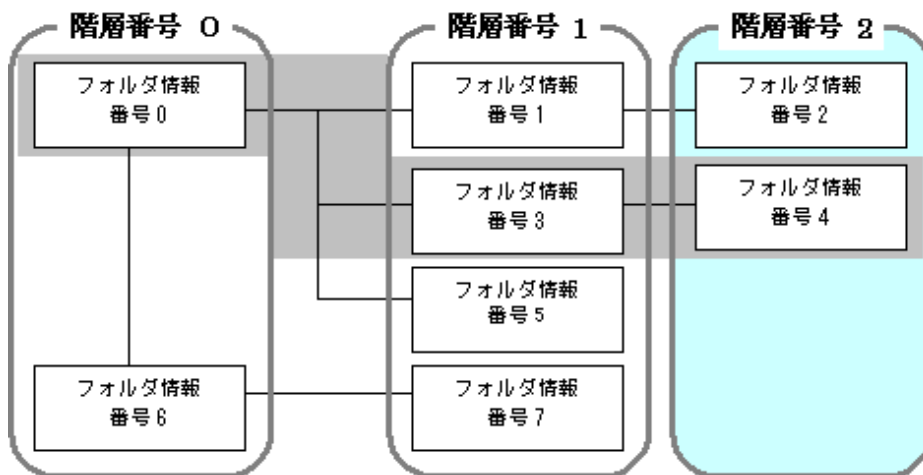
3.2.3.1 getClassNo(保管フォルダの階層番号の取得)

記述形式

```
KeepFolderAttribute.getClassNo()
```

機能

保管フォルダの階層番号を取得します。



- ・ フォルダ情報番号「4」の保管フォルダ情報が取得されていると、フォルダの階層番号「2」を獲得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

short型の保管フォルダの階層番号

使用例

フォルダ情報番号0の保管フォルダの階層番号を取得します。

```
KeepFolderAttribute keepFolderAttribute = listConfig.getKeepFolderAttribute(0);
keepFolderAttribute.getClassNo();
```

3.2.3.2 getCreateDate(保管フォルダの作成日時の取得)

記述形式

```
KeepFolderAttribute.getCreateDate()
```

機能

保管フォルダの作成日時を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の保管フォルダの作成日時

使用例

フォルダ情報番号0の保管フォルダの作成日時を取得します。

```
KeepFolderAttribute keepFolderAttribute = listConfig.getKeepFolderAttribute(0);
keepFolderAttribute.getCreateDate();
```

3.2.3.3 getName(保管フォルダ名の取得)

記述形式

```
KeepFolderAttribute.getName()
```

機能

保管フォルダ名を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の保管フォルダ名

使用例

フォルダ情報番号0の保管フォルダのフォルダ名を取得します。

```
KeepFolderAttribute keepFolderAttribute = listConfig.getKeepFolderAttribute(0);
keepFolderAttribute.getName();
```

3.2.3.4 getNodeId(保管フォルダの識別子の取得)

記述形式

```
KeepFolderAttribute.getNodeId()
```

機能

保管フォルダの識別子を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の保管フォルダの識別子

使用例

フォルダ情報番号0の保管フォルダの識別子を取得します。

```
KeepFolderAttribute keepFolderAttribute = listConfig.getKeepFolderAttribute(0);
keepFolderAttribute.getNodeId();
```

3.2.3.5 getPath(保管フォルダの論理パスの取得)

記述形式

```
KeepFolderAttribute.getPath()
```

機能

保管フォルダの論理パスを取得します。

形式：保管フォルダが「営業部」の場合
C:¥営業部

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の保管フォルダの論理パス

使用例

フォルダ情報番号0の保管フォルダの論理パスを取得します。

```
KeepFolderAttribute keepFolderAttribute = listConfig.getKeepFolderAttribute(0);
keepFolderAttribute.getPath();
```

3.2.4 Javaクラス(KeepSheetAttribute)

KeepSheetAttributeとは、保管フォルダ内の帳票情報クラスのことです。

以下に、Javaクラス(KeepSheetAttribute)のメソッドを示します。

メソッド	機能
getAccessCount	アクセス回数の取得
getAutoDelete	[有効期限を過ぎたら削除対象にする]が設定されているかどうかの取得
getComment	帳票のコメントの取得
getCreateDate	帳票の作成日時の取得
getCreatorName	帳票の作成者名の取得
getFileName	ファイル名の取得
getFiling	ファイリングされているかどうかの取得
getFlagInfo	フラグ情報の取得
getIndexFind	抜き出し検索ができるかどうかの取得
getItem	帳票に記入情報が記入されているかどうかの取得
getNodeId	帳票の識別子の取得
getNote1	備考1の取得
getNote2	備考2の取得
getNote3	備考3の取得
getNote4	備考4の取得
getReferenceDate	最終参照日時の取得
getRegistDate	登録日時の取得
getRequestPrint	リモート印刷されたかどうかの取得
getSerialSheetNo	帳票番号の取得
getTitle	帳票名の取得
getTotalPage	ページ数の取得
getValid	有効・無効フラグの取得
getValidDate	登録有効期限の取得
setValid	有効・無効フラグの設定

3.2.4.1 getAccessCount(アクセス回数の取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getAccessCount()
```

機能

アクセス回数を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

int型のアクセス回数

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、帳票のアクセス回数を取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getAccessCount();
```

3.2.4.2 getAutoDelete([有効期限を過ぎたら削除対象にする]が設定されているかどうかの取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getAutoDelete()
```

機能

[有効期限を過ぎたら削除対象にする]が設定されているかどうかを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

byte型の[有効期限を過ぎたら削除対象にする]が設定されているかどうか

0

[有効期限を過ぎたら削除対象にする]が設定されていない

1

[有効期限を過ぎたら削除対象にする]が設定されている

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、[有効期限を過ぎたら削除対象にする]が設定されているかどうかを取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getAutoDelete();
```


3.2.4.3 getComment(帳票のコメントの取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getComment()
```

機能

帳票のコメントを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の帳票のコメント

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、帳票のコメントを取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);  
keepSheetAttribute.getComment();
```

3.2.4.4 getCreateDate(帳票の作成日時の取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getCreateDate()
```

機能

帳票の作成日時を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の帳票の作成日時

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、帳票の作成日時を取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);  
keepSheetAttribute.getCreateDate();
```

3.2.4.5 getCreatorName(帳票の作成者名の取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getCreatorName()
```

機能

帳票の作成者名を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の帳票の作成者名

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、帳票の作成者名を取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);  
keepSheetAttribute.getCreatorName();
```

3.2.4.6 getFileName(ファイル名の取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getFileName()
```

機能

帳票のファイル名を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の帳票のファイル名

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、帳票のファイル名を取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);  
keepSheetAttribute.getFileName();
```

3.2.4.7 getFiling(ファイリングされているかどうかの取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getFiling()
```

機能

ファイリングされているかどうかを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

byte型のファイリングされているかどうか

0

ファイリングされていない

1

ファイリングされている

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、ファイリングされているかどうかを取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);  
keepSheetAttribute.getFiling();
```

3.2.4.8 getFlagInfo(フラグ情報の取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getFlagInfo(設定フラグ情報)
```

機能

設定フラグ情報を取得します。

パラメタの説明

設定フラグ情報

何番目の設定フラグ情報を取得するかをint型で指定します。

0 : ポーリング印刷

2 : ローカル印刷

必ず指定します。

復帰値

byte型の設定フラグ情報

0

OFF

1

ON

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、設定フラグ情報「ポーリング印刷」を取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getFlagInfo(0);
```

保管フォルダ内の0番の帳票について、設定フラグ情報「ローカル印刷」を取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getFlagInfo(2);
```

3.2.4.9 getIndexFind(抜き出し検索ができるかどうかの取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getIndexFind()
```

機能

抜き出し検索ができるかどうかを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

byte型の抜き出し検索ができるかどうか

0

抜き出し検索ができない

1

抜き出し検索ができる

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、抜き出し検索可能かどうかを取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getIndexFind();
```

3.2.4.10 getItem(帳票に記入情報が記入されているかどうかの取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getItem()
```

機能

帳票に記入情報が記入されているかどうかを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

byte型の帳票に記入情報が記入されているかどうか

0

帳票に記入情報が記入されていない

1

帳票に記入情報が記入されている

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、記入情報が記入されているかどうかを取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getItem();
```

3.2.4.11 getNodeId(帳票の識別子の取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getNodeId()
```

機能

帳票の識別子を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の帳票の識別子

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、帳票の識別子を取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getNodeId();
```

3.2.4.12 getNote1(備考1の取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getNote1()
```

機能

備考1を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の備考1

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、備考1を取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getNote1();
```

3.2.4.13 getNote2(備考2の取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getNote2()
```

機能

備考2を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の備考2

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、備考2を取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getNote2();
```

3.2.4.14 getNote3(備考3の取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getNote3()
```

機能

備考3を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の備考3

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、備考3を取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getNote3();
```

3.2.4.15 getNote4(備考4の取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getNote4()
```

機能

備考4を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の備考4

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、備考4を取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getNote4();
```

3.2.4.16 getReferenceDate(最終参照日時の取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getReferenceDate()
```

機能

最終参照日時を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の最終参照日時

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、最終参照日時を取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getReferenceDate();
```

3.2.4.17 getRegistDate(登録日時の取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getRegistDate()
```

機能

帳票の登録日時を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の登録日時

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、登録日時を取得します。


```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getRegistDate();
```

3.2.4.18 getRequestPrint(リモート印刷されたかどうかの取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getRequestPrint()
```

機能

帳票がリモート印刷されたかどうかを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

byte型の帳票がリモート印刷されたかどうか

0

帳票がリモート印刷されていない

1

帳票がリモート印刷されている



注意

Solaris11で登録した帳票は、復帰値は常に0(帳票がリモート印刷されていない)になります。

ただし、旧バージョンからSolaris11に移行した帳票で、旧バージョンですでにリモート印刷を行っている帳票は、復帰値が1(帳票がリモート印刷されている)になります。

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、リモート印刷されたかどうかを取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getRequestPrint();
```

3.2.4.19 getSerialSheetNo(帳票番号の取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getSerialSheetNo()
```

機能

帳票番号を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

int型の帳票番号

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、帳票番号を取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getSerialSheetNo();
```

3.2.4.20 getTitle(帳票名の取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getTitle()
```

機能

帳票名を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の帳票名

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、帳票名を取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getTitle();
```

3.2.4.21 getTotalPage(ページ数の取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getTotalPage()
```

機能

ページ数を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

long型のページ数

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、ページ数を取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getTotalPage();
```

3.2.4.22 getValid(有効・無効フラグの取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getValid()
```

機能

setValidメソッドで設定した有効・無効フラグを取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

true

有効

false

無効

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票について、setValidメソッドで設定した有効・無効フラグを取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getValid();
```

3.2.4.23 getValidDate(登録有効期限の取得)

記述形式

```
KeepSheetAttribute.getValidDate()
```

機能

帳票の登録有効期限を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

java.lang.String型の帳票の登録有効期限

使用例

保管フォルダ内の0番目の帳票について、帳票の登録有効期限を取得します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.getValidDate();
```

3.2.4.24 setValid(有効・無効フラグの設定)

記述形式

KeepSheetAttribute.setValid(有効・無効フラグ)

機能

有効・無効フラグを設定します。

有効・無効フラグは、ある条件に一致する帳票に印をつける場合など、帳票を区別するために使用します。

パラメタの説明

有効・無効フラグ

有効・無効フラグをboolean型で指定します。

true : 有効にする
false : 無効にする

必ず指定します。

復帰値

なし

使用例

保管フォルダ内の0番の帳票に、無効フラグを設定します。

```
KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(0);
keepSheetAttribute.setValid(false);
```

3.2.5 Javaクラス(ObjectList)

ObjectListとは、オブジェクトリストクラスのことです。

以下に、Javaクラス(ObjectList)のメソッドを示します。

メソッド	機能
get	オブジェクトの取得
getCount	オブジェクトの数の取得

3.2.5.1 get(オブジェクトの取得)

記述形式

```
ObjectList.get(インデックス)
```

機能

指定された位置にあるオブジェクトを取得します。

パラメタの説明

インデックス

リストの0からのインデックスをint型で指定します。必ず指定します。

復帰値

- java.lang.Object型のオブジェクト
- インデックスが不正な場合は、null

使用例

リストの0番目のオブジェクトを取得します。

```
ObjectList.get(0);
```

3.2.5.2 getCount(オブジェクトの数の取得)

記述形式

```
ObjectList.getCount()
```

機能

リストされているオブジェクトの数を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

int型のオブジェクトの数

使用例

リストされているオブジェクトの数を取得します。

```
ObjectList.getCount();
```

3.2.6 Javaクラス(HtmlConv)

HtmlConvとは、HTML文字列クラスのことです。

以下に、Javaクラス(HtmlConv)のメソッドを示します。

メソッド	機能
convVendorChar	Unicode文字列内のベンダ依存文字を変換
toSjisArray	シフトJIS文字列をシフトJIS文字列のbyte型配列に変換
toSjisString	Unicode文字列をシフトJIS文字列のStringに変換

3.2.6.1 convVendorChar(Unicode文字列内のベンダ依存文字を変換)

記述形式

```
HtmlConv.convVendorChar(Unicode文字列, 特殊文字の変換フラグ)
```

機能

Unicode文字列内のベンダ依存文字をブラウザで正しく表示されるように変換します。

パラメタの説明

Unicode文字列

Unicode文字列をjava.lang.String型で指定します。
必ず指定します。

特殊文字の変換フラグ

特殊文字の変換フラグをboolean型で指定します。

true : 特殊文字を文字参照に変換する
false : 特殊文字を文字参照に変換しない

必ず指定します。

復帰値

ベンダ依存文字が変換されたjava.lang.String型の文字列

使用例

ベンダ依存文字を含むUnicode文字列「売り上げ(1月～6月)」をブラウザで正しく表示されるように変換します。

```
HtmlConv. convVendorChar (“売り上げ(1月～6月)”, true);
```



注意

ベンダ依存文字の例を示します。

```
「 ~ 」  
「 // 」  
「 ¢ 」  
「 & 」  
「 ー 」
```

3.2.6.2 toSjisArray(シフトJIS文字列をシフトJIS文字列のbyte型配列に変換)

記述形式

```
HtmlConv. toSjisArray(シフトJIS文字列)
```

機能

シフトJIS文字列をシフトJIS文字列のbyte型配列に変換します。

パラメタの説明

シフトJIS文字列

シフトJIS文字列をjava.lang.String型で指定します。
必ず指定します。

復帰値

シフトJIS文字列のbyte型配列

使用例

シフトJIS文字列「C:¥営業¥ABC.sp1」をシフトJIS文字列のbyte型配列に変換します。
変数sjisstringにシフトJIS文字列「C:¥営業¥ABC.sp1」を設定しておきます。

```
HtmlConv. toSjisArray(sjisstring);
```

3.2.6.3 toSjisString(Unicode文字列をシフトJIS文字列のStringに変換)

記述形式

```
HtmlConv. toSjisString(Unicode文字列, 特殊文字の変換フラグ)
```

機能

Unicode文字列をシフトJIS文字列のStringに変換します。

パラメタの説明

Unicode文字列

Unicode文字列をjava.lang.String型で指定します。
必ず指定します。

特殊文字の変換フラグ

特殊文字の変換フラグをboolean型で指定します。

true : 特殊文字を文字参照に変換する
false : 特殊文字を文字参照に変換しない

必ず指定します。

復帰値

java.lang.String型のシフトJIS文字列

使用例

Unicode文字列「C:¥営業¥ABC.spł」をシフトJIS文字列に変換します。また、Unicode文字列に特殊文字が含まれていた場合は、特殊文字を文字参照に変換します。

変数unicodestringに、Unicode文字列「C:¥営業¥ABC.spł」を設定しておきます。

```
HtmlConv.toSjisString(unicodestring, true);
```

3.3 ListPrint

ListPrint (ActiveXコントロール)は、帳票の表示、印刷、検索、データ変換などを行います。

JavaスクリプトからListPrintのメソッドを使用して、ListPrintの機能を制御することができます。

- ・ 帳票の一覧からの印刷機能
- ・ 帳票の表示機能

ListPrintメソッド一覧表

以下に、ListPrintメソッドを示します。

	メソッド	機能
帳票の一覧からの印刷機能	localPrint	帳票を印刷
	setPrinter	印刷するプリンタの設定
帳票の表示機能	dataConvert	データ変換
	extractCancel	絞り込みの解除
	extractFind	検索による絞り込み
	extractItem	記入による絞り込み
	extractPage	ページによる絞り込み

メソッド	機能
findClear	検索条件の削除
findDate	日付の検索条件の設定
findLoad	検索条件の読み込み
findNumeric	数値の検索条件の設定
findOption	検索の方法の設定
findResult	検索結果の表示/非表示
findSave	検索条件の保存
findString	文字列の検索条件の設定
getCurrentTotalPage	全ページ数の取得
isExtract	絞り込み状態の取得
localPrint	帳票を印刷
pageBottom	最後のページへ
pageJump	指定のページへ
pageNext	次のページへ
pagePrev	前のページへ
pageTop	最初のページへ
select	表示している帳票の範囲の選択
setPrinter	印刷するプリンタの指定
zoom	倍率の指定

サンプルプログラム

サンプルプログラムの種類と格納場所を以下に示します。ご使用の環境に合わせてカスタマイズすることができます。サンプルプログラムの詳細な説明については、Webブラウザを起動してWeb連携機能に割り当てられているURLに続けて、「jsp/sample/index.html」を入力して表示されるページを参照してください。

なお、サンプルプログラム(JSPファイル)を編集した場合は、新しい編集内容を有効にする必要があります。



JSPファイルの編集内容を有効にする方法については、“環境構築手引書”を参照してください。

全体用のJSPサンプル

サンプルプログラムの種類

ユーザ認証をユーザのアプリケーションで行うサンプル

- ユーザID、パスワード、ホスト名、保管フォルダの論理パスを指定して帳票一覧を表示するサンプル
- ユーザID、パスワード、ホスト名、保管フォルダの論理パスを指定して帳票一覧を表示するサンプル(保管フォルダ一覧を非表示)
- ユーザID、パスワード、ホスト名、帳票の論理パスを指定して帳票を表示するサンプル
- ユーザID、パスワード、ホスト名、帳票の論理パスを指定して帳票を表示し、データ変換するサンプル
- ユーザID、パスワード、ホスト名、帳票の論理パスを指定して帳票を印刷するサンプル
- ユーザID、パスワード、ホスト名、帳票の論理パスを指定して帳票を印刷するサンプル(印刷画面を非表示)

ユーザ認証をList Worksで行うサンプル

- 保管フォルダの論理パスを指定して帳票一覧を表示するサンプル
- 保管フォルダの論理パスを指定して帳票一覧を表示するサンプル(保管フォルダ一覧を非表示)
- 帳票の論理パスを指定して帳票を表示するサンプル
- 帳票の論理パスを指定して帳票を表示し、データ変換するサンプル
- 帳票の論理パスを指定して帳票を印刷するサンプル
- 帳票の論理パスを指定して帳票を印刷するサンプル(印刷画面を非表示)

保管フォルダ一覧のサンプル

- すべての保管フォルダを、ツリーが閉じた状態で表示するサンプル
- すべての保管フォルダを、ツリーが開いた状態で表示するサンプル

帳票一覧のサンプル

- ユーザ名、パスワード、ホスト名、および帳票一覧に表示される帳票の表示条件を指定して、帳票一覧を表示するサンプル

格納場所

Windows版の場合

```
List Worksのインストール先フォルダ\web¥app¥jsp¥sample¥other
```

Solaris版の場合

```
List Works Web連携のインストールディレクトリ/app/jsp/sample/other
```

ポーリング印刷用のJSPサンプル

サンプルプログラムの種類

- ポーリング印刷を自動的に起動するサンプル
- プリンタを指定してポーリング印刷を自動的に起動するサンプル

格納場所

Windows版の場合

```
List Worksのインストール先フォルダ\web¥app¥jsp¥sample¥pollingprint
```

Solaris版の場合

```
List Works Web連携のインストールディレクトリ/app/jsp/sample/pollingprint
```



ListPrintのメソッドを用いたサンプルプログラムについては、“[D.1 ListPrintのサンプルプログラム](#)”を参照してください。

帳票保管活用機能と帳票印刷配信機能の機能選択用のJSPサンプル(Windows版のみ)

サンプルプログラムの種類

- 使用する機能(帳票保管活用機能、帳票印刷配信機能)を選択するための画面を表示するサンプル

パラメタの説明

ページ指定

ページ指定を0か1の数値で指定します。

0：すべてのページ

1：開始ページから終了ページまで

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

開始ページ

開始ページを数値で指定します。「ページ指定」に「0」を指定すると無効になります。

省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

終了ページ

終了ページを数値で指定します。「ページ指定」に「0」を指定すると無効になります。

省略可能です。省略すると帳票の最終ページが指定されたものとみなします。

印刷部数

印刷する部数を1から9999までの数値で指定します。

省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

用紙のサイズ

用紙のサイズを1から41までの数値で指定します。

省略可能です。省略するとプリンタに設定されている用紙のサイズが指定されたものとみなします。

用紙の向き

用紙の向きを0か1の数値で指定します。

0：縦向き

1：横向き

省略可能です。省略するとプリンタに設定されている用紙の向きが指定されたものとみなします。

リザーブ

0の数値を指定します。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

ダイアログボックスの表示/非表示

印刷ダイアログボックスを表示するか表示しないかを0か1の数値で指定します。

0：印刷ダイアログボックスを表示しない

1：印刷ダイアログボックスを表示する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

使用例

現在選択されている帳票の5ページから10ページまでを印刷します。

document.ListPrint.localPrint (1, 5, 10);

用紙サイズ一覧

- 1: Letter、8 1/2 × 11 インチ
- 2: Legal、8 1/2 × 14 インチ
- 3: A4 シート、210 × 297 mm
- 4: C シート、17 × 22 インチ
- 5: D シート、22 × 34 インチ
- 6: E シート、34 × 44 インチ
- 7: Letter Small、8 1/2 × 11 インチ
- 8: Tabloid、11 × 17 インチ
- 9: Ledger、17 × 11 インチ
- 10: Statement、5 1/2 × 8 1/2 インチ
- 11: Executive、7 1/4 × 10 1/2 インチ
- 12: A3 シート、297 × 420 mm
- 13: A4 small シート、210 × 297 mm
- 14: A5 シート、148 × 210 mm
- 15: B4 シート、250 × 354 mm
- 16: B5 シート、182 × 257 mm
- 17: Folio、8 1/2 × 13 インチ
- 18: Quarto、215 × 275 mm
- 19: 10 × 14 インチ シート
- 20: 11 × 17 インチ シート
- 21: Note、8 1/2 × 11 インチ
- 22: #9 Envelope、3 7/8 × 8 7/8 インチ
- 23: #10 Envelope、4 1/8 × 9 1/2 インチ
- 24: #11 Envelope、4 1/2 × 10 3/8 インチ
- 25: #12 Envelope、4 3/4 × 11 インチ
- 26: #14 Envelope、5 × 11 1/2 インチ
- 27: DL Envelope、110 × 220 mm
- 28: C5 Envelope、162 × 229 mm
- 29: C3 Envelope、324 × 458 mm
- 30: C4 Envelope、229 × 324 mm
- 31: C6 Envelope、114 × 162 mm
- 32: C65 Envelope、114 × 229 mm
- 33: B4 Envelope、250 × 353 mm
- 34: B5 Envelope、176 × 250 mm
- 35: B6 Envelope、176 × 125 mm
- 36: Italy Envelope、110 × 230 mm
- 37: Monarch Envelope、3 7/8 × 7 1/2 インチ
- 38: 6 3/4 Envelope、3 5/8 × 6 1/2 インチ
- 39: US Std Fanfold、14 7/8 × 11 インチ
- 40: German Std Fanfold、8 1/2 × 12 インチ
- 41: German Legal Fanfold、8 1/2 × 13 インチ

注意

“3.3.2 帳票の表示機能のメソッド”における“3.3.2.16 localPrint(帳票を印刷)”では、第1パラメタで指定する値の意味が、本メソッドとは異なります。

第1パラメタの値	帳票一覧からの印刷	帳票表示からの印刷
0	すべてのページ	開始ページから終了ページまで
1	開始ページから終了ページまで	すべてのページ



参考

localPrintを使用して、「印刷データに設定されている印刷属性を優先する」の「用紙のサイズ」、「用紙の向き」を有効にする場合は、以下の設定が必要です。

1. ListPrint.propertiesや「ページ設定」で設定されている「印刷データに設定されている印刷属性を優先する」を有効にします。
2. localPrintの「用紙のサイズ」、「用紙の向き」パラメタを省略します。

3.3.1.2 setPrinter(印刷するプリンタの指定)

記述形式

```
document.ListPrint.setPrinter(プリンタ名, ポート名)
```

機能

印刷するプリンタを設定します。

パラメタの説明

プリンタ名

プリンタ名を半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。

必ず指定します。ネットワークで共有されているプリンタを指定する場合は、「"¥¥プリンタサーバ名¥¥プリンタ名"」の形式で指定してください。

ポート名

プリンタポート名を半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。

省略可能です。省略するとポート名を設定しません。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

使用例

プリンタ名「FUJITSU XL-6010」のプリンタを印刷するプリンタとして設定します。

```
document.ListPrint.setPrinter("FUJITSU XL-6010");
```



注意

- ポート名のみ一致するプリンタを指定したい場合は、プリンタ名に半角のダブルクォーテーション「"」を指定してください。
- プリンタ名に半角のダブルクォーテーション「"」を指定して、かつポート名を省略した場合は、異常終了とみなされます。

機能

表示している帳票に対して「データ変換」を行い、帳票データ(印刷データ)をファイルに出力します。

パラメタの説明

ファイル名

出力するファイルの物理パスを、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。省略すると【データ変換】ダイアログボックスを表示します。

ファイルの種類

出力するファイルの種類(ファイル形式)を0か1の数値で指定します。

- 0 : CSV形式
- 1 : Text形式

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

項目の範囲名の出力

項目の範囲名を出力するかを0か1の数値で指定します。

- 0 : 項目の範囲名を出力しない
- 1 : 項目の範囲名を出力する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

先頭のページの範囲名のみ出力

先頭のページだけ範囲名を出力するかどうかを0か1の数値で指定します。「項目の範囲名の出力」に「0」を指定すると無効になります。

- 0 : 各ページに範囲名を出力する
- 1 : 先頭のページの範囲名だけ出力する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

拡張漢字の出力

拡張漢字を置き換える文字を0か1の数値で指定します。

- 0 : 「=」で置き換える
- 1 : 空白で置き換える

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

ページ指定

ページ指定を0か1の数値で指定します。

- 0 : 開始ページから終了ページまで
- 1 : すべてのページ

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

開始ページ

開始ページを数値で指定します。「ページ指定」に「1」を指定すると無効になります。
省略可能です。省略すると現在表示中のページとなります。

終了ページ

終了ページを数値で指定します。「ページ指定」に「1」を指定すると無効になります。
省略可能です。省略すると現在表示中のページとなります。

特殊マイナス記号

特殊なマイナス記号の種類を、0から3までの数値で指定します。

- 0: なし
- 1: 後ろのマイナス記号
- 2: 前の▲記号
- 3: 前の△記号

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

上書き確認メッセージのダイアログボックスの表示/非表示

出力先に同一のファイル名が存在する場合に表示される確認メッセージのダイアログボックスについて、表示するかを0か1の数値で指定します。

- 0: 表示しない
- 1: 表示する

省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

「上書き確認メッセージのダイアログボックスの表示/非表示」に「0」を指定した場合、出力先に同一ファイル名が存在するときは、データ変換できません。「1」を指定した場合、またはパラメタを省略した場合は、上書き確認メッセージのダイアログボックスが表示され、上書きするかどうかを選択することができます。

文字型の範囲にある数値も、Microsoft Excelで文字として扱われるように変換する

文字型の範囲にある数値も、Microsoft Excelで文字として扱われるように変換するかどうかを0か1の数値で指定します。「ファイルの種類」に「1」を指定すると無効になります。

- 0: 変換しない
- 1: 変換する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。



出力したCSVファイルの文字型の範囲にある数値が、Microsoft Excelでゼロサプレスされないように表示したい場合は、本パラメタを指定します。

通常は、「文字型の範囲にある数値も、Microsoft Excelで文字として扱われるように変換する」を指定する必要はありません。

復帰値

0

データ変換しました。

-1

データ変換できませんでした。

使用例

表示中の帳票の5ページから10ページまでのデータを、CSV形式でファイル(C:¥data¥A.CSV)に出力します。

```
document.ListPrint.dataConvert ("C:¥¥data¥¥A.CSV", 0, 0, 0, 0, 0, 5, 10, 0);
```



- ファイル名の拡張子には、CSV形式、Text形式以外は指定できません。
- 「ファイルの種類」に「0」を指定した場合には、ファイル名の拡張子をCSV形式で、「ファイルの種類」に「1」を指定した場合には、ファイル名の拡張子をText形式で指定してください。

- ・ 帳票項目が設定されていない場合は、データ変換できません。
-

3.3.2.2 extractCancel(絞り込みの解除)

記述形式

```
document.ListPrint.extractCancel()
```

機能

表示している帳票の絞り込みを解除します。

パラメタの説明

なし

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

使用例

表示している帳票の絞り込みを解除します。

```
document.ListPrint.extractCancel();
```

3.3.2.3 extractFind(検索による絞り込み)

記述形式

```
document.ListPrint.extractFind( [結果メッセージダイアログボックスの表示/非表示] )
```

機能

表示している帳票を、検索で絞り込みます。

パラメタの説明

結果メッセージダイアログボックスの表示/非表示

検索した値が見つからなかった場合に表示される結果メッセージダイアログボックスについて、表示するか表示しないかを0か1の数値で指定します。

0: 結果メッセージダイアログボックスを表示しない

1: 結果メッセージダイアログボックスを表示する

省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

機能

表示している帳票を、記入で絞り込みます。

パラメタの説明

付せん

付せんで絞り込むかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 絞り込まない
- 1: 絞り込む

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

付せんの色

赤色、緑色、青色の輝度(0から255まで)を半角のピリオド「.」で区切った文字列で指定します。文字列は、半角のダブルクォーテーション「"」で囲んだものを指定します。

指定例) "255.0.255"

省略可能です。省略すると色は指定されないものとみなします。

付せんのユーザID指定

ユーザIDを指定するかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 指定しない
- 1: 指定する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

付せんのユーザID

ユーザIDの文字列を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。

メモ

メモで絞り込むかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 絞り込まない
- 1: 絞り込む

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

メモの色

赤色、緑色、青色の輝度(0から255まで)を半角のピリオド「.」で区切った文字列で指定します。文字列は、半角のダブルクォーテーション「"」で囲んだものを指定します。

指定例) "255.0.255"

省略可能です。省略すると色は指定されないものとみなします。

メモのユーザID指定

ユーザIDを指定するかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 指定しない
- 1: 指定する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

メモのユーザID

ユーザIDの文字列を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。

ラインマーク

ラインマークで絞り込むかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 絞り込まない
- 1: 絞り込む

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

ラインマークの色

赤色、緑色、青色の輝度(0から255まで)を半角のピリオド「.」で区切った文字列で指定します。文字列は、半角のダブルクォーテーション「"」で囲んだものを指定します。

指定例) "255.0.255"

省略可能です。省略すると色は指定されないものとみなします。

ラインマークのユーザID指定

ユーザIDを指定するかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 指定しない
- 1: 指定する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

ラインマークのユーザID

ユーザIDの文字列を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。

チェックマーク

チェックマークで絞り込むかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 絞り込まない
- 1: 絞り込む

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

チェックマークの色

赤色、緑色、青色の輝度(0から255まで)を半角のピリオド「.」で区切った文字列で指定します。文字列は、半角のダブルクォーテーション「"」で囲んだものを指定します。

指定例) "255.0.255"

省略可能です。省略すると色は指定されないものとみなします。

チェックマークのユーザID指定

ユーザIDを指定するかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 指定しない
- 1: 指定する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

チェックマークのユーザID

ユーザIDの文字列を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。

スタンプ

スタンプで絞り込むかを、0か1の数値で指定します。

- 0: 絞り込まない
- 1: 絞り込む

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

スタンプの色

赤色、緑色、青色の輝度(0から255まで)を半角のピリオド「.」で区切った文字列で指定します。文字列は、半角のダブルクォーテーション「"」で囲んだものを指定します。

指定例) "255.0.255"

省略可能です。省略すると色は指定されないものとみなします。

スタンプのユーザID指定

ユーザIDを指定するかを、0か1の数値で指定します。

0: 指定しない
1: 指定する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

スタンプのユーザID

ユーザIDの文字列を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。

ハイパーリンク

ハイパーリンクで絞り込むかを、0か1の数値で指定します。

0: 絞り込まない
1: 絞り込む

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

ハイパーリンクの色

赤色、緑色、青色の輝度(0から255まで)を半角のピリオド「.」で区切った文字列で指定します。文字列は、半角のダブルクォーテーション「"」で囲んだものを指定します。

指定例) "255.0.255"

省略可能です。省略すると色は指定されないものとみなします。

ハイパーリンクのユーザID指定

ユーザIDを指定するかを、0か1の数値で指定します。

0: 指定しない
1: 指定する

省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

ハイパーリンクのユーザID

ユーザIDの文字列を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
省略可能です。

結果メッセージダイアログボックスの表示/非表示

結果メッセージダイアログボックスを表示するか表示しないかを0か1の数値で指定します。

0: 結果メッセージダイアログボックスを表示しない
1: 結果メッセージダイアログボックスを表示する

省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票の記入情報(赤色の付せん)を検索し、帳票を絞り込みます。

```
document.ListPrint.extractItem (1, "255.0.0");
```

3.3.2.5 extractPage(ページによる絞り込み)

記述形式

```
document.ListPrint.extractPage( [開始ページ [, 終了ページ [, ページ単位] ] ] )
```

機能

表示している帳票を、ページで絞り込みます。

パラメタの説明

開始ページ

絞り込みを開始するページを数値で指定します。
省略可能です。省略すると「1ページ」が指定されたものとみなします。

終了ページ

絞り込みを終了するページを指定します。
省略可能です。省略すると「最終ページ」が指定されたものとみなします。

ページ単位

絞り込みを行うページ単位を数値で指定します。
省略可能です。省略すると「1ページ」が指定されたものとみなします。

復帰値

0

ページで絞り込みました。

-1

ページで絞り込みできませんでした。

使用例

表示中の帳票の1ページから10ページまでを、2ページおきに絞り込みます。

```
document.ListPrint.extractPage (1, 10, 2);
```

3.3.2.6 findClear(検索条件の削除)

月1 月2

検索する日付の月を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角2桁で指定します。省略可能です。

日1 日2

検索する日付の日を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、半角2桁で指定します。省略可能です。

比較式1

日付1の比較式を、0から2までの数値で指定します。

- 0: 等しい
- 1: から
- 2: まで

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

条件式

条件式を0の数値で指定します。

- 0: かつ

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

比較式2

日付2を指定した場合の比較式を指定します。

- 2: まで

省略可能です。省略すると「2」が指定されたものとみなします。

基準の行からの行数

基準の行を指定して検索する場合に、基準の行からの行数を指定します。

基準の行の場合は、「0」を指定します。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

本パラメータは、findOptionメソッドの「検索する行」に「3」を指定した場合に、有効になります。

基準の行からの方向

基準の行を指定して検索する場合に、基準の行からの方向を0か1の数値で指定します。

- 0: 基準の行から下方向
- 1: 基準の行から上方向

基準の行の場合は、「0」を指定します。

本パラメータは、findOptionメソッドの「検索する行」に「3」を指定した場合に、有効になります。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

範囲名の型

表示中のオーバーレイを使用しているページ以外も検索する場合に、「範囲名」の型を1から6までの数値で指定します。

- 1: 年月日型
- 2: 年月型
- 3: 月日型
- 4: 年型
- 5: 月型
- 6: 日型

本パラメータは、表示中のオーバーレイを使用しているページ以外も検索する場合に、有効になります。

省略可能です。省略すると表示中のオーバーレイに設定されている帳票項目が指定されたものとみなします。

年の種別

検索する年型の種別を1か2の数値で指定します。

- 1: 西暦
- 2: 和暦

本パラメータは、「範囲名の型」に「1」、「2」または「4」を指定した場合に、有効になります。
省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

範囲の確定条件/検索条件

不定数の複数行が1組となる帳票において、範囲を指定して検索する場合に、このメソッドで設定する検索条件が、範囲を確定するための条件か、範囲内を検索する条件かを0から3までの数値で指定します。

- 0: 範囲を確定する開始行の条件
- 1: 範囲を確定する終了行の条件
- 2: 確定した範囲を検索する条件1
- 3: 確定した範囲を検索する条件2

本パラメータは、findOptionメソッドの「検索する行」に「4」を指定した場合のみ有効になります。
省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

使用例

複数の条件で検索し、絞り込みする

1. 検索条件を削除します。

```
document.ListPrint.findClear();
```

2. 範囲名「日付」で、平成10年10月31日と等しい日付を検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findDate("日付", "H10", "10", "31", 0);
```

3. 範囲名「報告日」で、1998年1月1日から2001年12月31日までの日付を検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findDate("報告日", "1998", "01", "01", 1, 0, "2001", "12", "31", 2, 0, 0);
```

4. 2.と3.の条件で絞り込みを行います。

```
document.ListPrint.extractFind();
```

基準の行を指定して検索し、絞り込みする

1. 検索条件を削除します。

```
document.ListPrint.findClear();
```

2. 検索する方法として「基準の行を指定して検索する」を設定します。

```
document.ListPrint.findOption(, , , 3);
```

3. 範囲名「日付」で、平成10年10月31日と等しい日付を基準の行として検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findDate("日付", "H10", "10", "31", 0, , , , , 0, 0);
```

4. 基準の行から2行上の範囲名「報告日」で、1998年1月1日から2001年12月31日までの日付を検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findDate("報告日", "1998", "01", "01", 1, 0, "2001", "12", "31", 2, 2, 1);
```

5. 基準の行から1行下の範囲名「承認日」で、1998年1月1日から2001年12月31日までの日付を検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findDate("承認日", "1998", "01", "01", 1, 0, "2001", "12", "31", 2, 1, 0);
```

6. 3から5の条件で絞り込みを行います。

```
document.ListPrint.extractFind();
```

不定数の複数行が1組となる帳票において、範囲を指定して検索し、絞り込みする

1. 検索条件を削除します。

```
document.ListPrint.findClear();
```

2. 検索する方法として「範囲を指定して検索する」を設定します。

```
document.ListPrint.findOption(, , , 4);
```

3. 範囲名「日付」で、平成10年10月31日と等しい日付を、範囲を確定する開始行の検索条件として設定します。

```
document.ListPrint.findDate("日付", "H10", "10", "31", 0, . . . . . 0);
```

4. 範囲名「報告日」で、1998年1月1日から2001年12月31日までの日付を、範囲を確定する終了行の検索条件として設定します。

```
document.ListPrint.findDate("報告日", "1998", "01", "01", 1, 0, "2001", "12", "31", 2, . . . . , 1);
```

5. 範囲名「承認日」で、2001年12月31日と等しい日付を検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findDate("承認日", "2001", "12", "31", 0, . . . . . 2);
```

6. 3から5の条件で絞り込みを行います。

```
document.ListPrint.extractFind();
```



注意

- 年、月、日をすべて省略した場合は、【検索】ダイアログボックスが表示されます。
- 年と日を指定し、月を指定しない場合は、検索条件は設定されません。
- extractFindメソッドを呼び出す前に、最大4つの検索条件が設定できます。
- 検索条件を新たに設定し直す場合は、あらかじめ検索条件を削除しておく必要があります。検索条件を削除しないで設定すると、これまで設定された条件に追加されます。
- findOptionメソッドの「対象範囲」に「2」を指定した場合には、「範囲名」には、帳票項目の範囲名を指定する必要があります。帳票項目の範囲名を指定しない場合、findOptionメソッドの「対象範囲」に「0」が指定されたものとみなされて検索されます。

3.3.2.8 findLoad(検索条件の読み込み)

記述形式

```
document.ListPrint.findLoad( 検索条件の名前 )
```

機能

表示している帳票内のデータを検索する条件を読み込みます。読み込まれた検索条件は、現在設定されている検索条件と置き換わります。

パラメタの説明

検索条件の名前

読み込む検索条件の名前を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は40バイト以内で指定します。
必ず指定します。

復帰値

0

検索条件を読み込みました。

-1

検索条件を読み込めませんでした。

使用例

検索条件の名前「東京支店」を読み込みます。

```
document.ListPrint.findLoad ("東京支店");
```

3.3.2.9 findNumeric(数値の検索条件の設定)

記述形式

```
document.ListPrint.findNumeric(範囲名 [, 数値1 [, 比較式1 [, 条件式 [, 数値2 [, 比較式2  
[, 基準の行からの行数 [, 基準の行からの方向  
[, 範囲の確定条件/検索条件] ] ] ] ] ] )
```

機能

表示している帳票内のデータを検索する前準備として、数値を検索する条件を設定します。

パラメタの説明

範囲名

検索する範囲名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。
必ず指定します。

数値1 数値2

検索する数値を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、80バイト以内の半角で指定します。

省略可能です。省略すると【検索】ダイアログボックスを表示します。

比較式1 比較式2

数値nの比較式を、0から5までの数値で指定します。

- 0: 等しい
- 1: 等しくない
- 2: より大きい
- 3: より小さい
- 4: 以上
- 5: 以下

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

条件式

条件式を、0か1の数値で指定します。

- 0: または
- 1: かつ

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

基準の行からの行数

基準の行を指定して検索する場合に、基準の行からの行数を指定します。

基準の行の場合は、「0」を指定します。

本パラメタは、findOptionメソッドの「検索する行」に「3」を指定した場合に、有効になります。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

基準の行からの方向

基準の行を指定して検索する場合に、基準の行からの方向を0か1の数値で指定します。

- 0: 基準の行から下方向
- 1: 基準の行から上方向

基準の行の場合は、「0」を指定します。

本パラメタは、findOptionメソッドの「検索する行」に「3」を指定した場合に、有効になります。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

範囲の確定条件/検索条件

不定数の複数行が1組となる帳票において、範囲を指定して検索する場合に、このメソッドで設定する検索条件が、範囲を確定するための条件か、範囲内を検索する条件かを0から3までの数値で指定します。

- 0: 範囲を確定する開始行の条件
- 1: 範囲を確定する終了行の条件
- 2: 確定した範囲を検索する条件1
- 3: 確定した範囲を検索する条件2

本パラメタは、findOptionメソッドの「検索する行」に「4」を指定した場合のみ有効になります。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

使用例

複数の条件で検索し、絞り込みする

1. 検索条件を削除します。

```
document.ListPrint.findClear();
```

2. 範囲名「No」で「10」以下の数値を検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findNumeric("No", "10", 5);
```

3. 範囲名「振込金額」で「1,000,000」以上かつ「3,000,000」以下の数値を検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findNumeric("振込金額", "1000000", 4, 1, "3000000", 5, 0, 0);
```

4. 2と3の条件で絞り込みを行います。

```
document.ListPrint.extractFind();
```

基準の行を指定して検索し、絞り込みする

1. 検索条件を削除します。

```
document.ListPrint.findClear();
```

2. 検索する方法として「基準の行を指定して検索する」を設定します。

```
document.ListPrint.findOption(, , , 3);
```

3. 範囲名「No」で、「10」以下の数値を基準の行として検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findNumeric("No", "10", 5, , , , 0, 0);
```

4. 基準の行から2行上の範囲名「顧客番号」で、「100」以上かつ「500」以下の数値を検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findNumeric("顧客番号", "100", 4, 1, "500", 5, 2, 1);
```

5. 基準の行から1行下の範囲名「振込金額」で、「1,000,000」以上かつ「3,000,000」以下の数値を検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findNumeric("振込金額", "1000000", 4, 1, "3000000", 5, 1, 0);
```

6. 3から5の条件で絞り込みを行います。

```
document.ListPrint.extractFind();
```

不定数の複数行が1組となる帳票において、範囲を指定して検索し、絞り込みする

1. 検索条件を削除します。

```
document.ListPrint.findClear();
```

2. 検索する方法として「範囲を指定して検索する」を設定します。

```
document.ListPrint.findOption(, , , 4);
```

3. 範囲名「No」で、「10」以下の数値を、範囲を確定する開始行の検索条件として設定します。

```
document.ListPrint.findNumeric("No", "10", 5, , , , , 0);
```

4. 範囲名「振込金額」で、「1,000,000」以上かつ「3,000,000」以下の数値を、範囲を確定する終了行の検索条件として設定します。

```
document.ListPrint.findNumeric("振込金額", "1000000", 4, 1, "3000000", 5, , , 1);
```

5. 範囲名「顧客番号」で、「100」以上かつ「500」以下の数値を検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findNumeric("顧客番号", "100", 4, 1, "500", 5, , , 2);
```

6. 3から5の条件で絞り込みを行います。

```
document.ListPrint.extractFind();
```


行スキップ数

「検索する行」が「1」のときのみ有効になります。検索を開始する行から、スキップする行数を数値で指定します。省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

行組

「検索する行」が「2」のときのみ有効になります。1段としてみなす行数を数値で指定します。省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

行組で検索する行

「検索する行」が「2」のときのみ有効になります。行組で指定した行数の何行目を検索するかを数値で指定します。省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

項目間の条件

「検索する行」が「3」または「4」以外のとき有効になります。項目間の条件を0か1の数値で指定します。

- 0: かつ
- 1: または

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

対象範囲

「検索する行」が「3」または「4」以外のとき有効になります。項目間の条件の対象範囲を0から2までの数値で指定します。

- 0: 同一行
- 1: 同一ページ
- 2: 同一段組

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

文字列の一致条件

文字列の一致条件を0から2までの数値で指定します。

- 0: 部分的に一致する
- 1: 完全に一致する
- 2: 前方から一致する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

マイナス記号

マイナス記号とみなす記号を0から3までの数値で指定します。

- 0: なし
- 1: 後ろマイナス記号
- 2: 前の▲記号
- 3: 前の△記号

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

小数点

点を小数点とみなすかを0か1の数値で指定します。

- 0: 点を小数点とみなす
- 1: 点を小数点とみなさない

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

0

検索の方法を設定しました。

検索の方法を設定できませんでした。

使用例

- ・「現在のページから下方向」、「すべての行を検索する」、項目間の条件が「かつ」、対象範囲が「同一行」、「部分的に一致する」、マイナス記号「なし」、「点を小数点とみなす」、を設定します。

```
document.ListPrint.findOption();
```

- ・100ページから1000ページを検索、「行を指定して検索する」、2行を1組として1行目を検索する、項目間の条件が「かつ」、対象範囲が「同一行」、「完全に一致する」、「後ろマイナス記号」、「点を小数点とみなさない」、を設定します。

```
document.ListPrint.findOption(4, 100, 1000, 2, , 2, 1, 0, 0, 1, 1, 1);
```

- ・100ページから1000ページを検索、「基準の行を指定して検索する」、「部分的に一致する」、マイナス記号「なし」、「点を小数点とみなす」、を設定します。

```
document.ListPrint.findOption(4, 100, 1000, 3);
```

注意

- ・findOptionメソッドの「検索する行」で「3」を指定した場合には、findClearメソッド以降で最初に指定した検索条件が、「基準の行」として認識されます。
- ・「対象範囲」に「2」を指定した場合には、「検索する行」で「1」「2」を指定しても無効になり「0」が指定されたものとみなされます。

3.3.2.11 findResult(検索結果の表示/非表示)

記述形式

```
document.ListPrint.findResult( 表示方法 )
```

機能

表示している帳票の検索結果を表示します。

パラメタの説明

表示方法

表示方法を、0か1の数値で指定します。

- 0 : 検索結果を非表示にする
- 1 : 検索結果を表示する

必ず指定します。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票の検索結果を表示します。

```
document.ListPrint.findResult(1);
```

3.3.2.12 findSave(検索条件の保存)

記述形式

```
document.ListPrint.findSave( 検索条件の名前 )
```

機能

表示している帳票内のデータを検索する条件を、名前を付けて保存します。

パラメタの説明

検索条件の名前

検索条件の名前を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は40バイト以内で指定します。必ず指定します。

復帰値

0

検索条件を保存しました。

-1

検索条件を保存できませんでした。

使用例

検索条件の名前「東京支店」で検索条件を保存します。

```
document.ListPrint.findSave ("東京支店");
```

3.3.2.13 findString(文字列の検索条件の設定)

記述形式

```
document.ListPrint.findString ([範囲名 [, 文字列 [, 比較式 [, 抜き出し範囲  
[, 基準の行からの行数 [, 基準の行からの方向  
[, 範囲の確定条件/検索条件] ] ] ] ] ] )
```

機能

表示している帳票内のデータを検索する前準備として、文字列を検索する条件を設定します。

パラメタの説明

範囲名

検索を行う範囲名を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。抜き出し範囲を検索する場合には、抜き出し範囲の名前を指定します。すべての抜き出し検索範囲を検索する場合には、「すべての抜き出し検索範囲」を指定します。省略可能です。省略すると「この帳票」が指定されたものとみなします。

文字列

検索する文字列を、半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。文字列は、40バイト以内で指定します。省略可能です。省略すると【検索】ダイアログボックスを表示します。

比較式

比較式を、0の数値で指定します。

0: 等しい

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

抜き出し範囲

抜き出し範囲を検索するかを0か1の数値で指定します。

0: 抜き出し範囲を検索しない

1: 抜き出し範囲を検索する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

基準の行からの行数

基準の行を指定して検索する場合に、基準の行からの行数を指定します。

基準の行の場合は、「0」を指定します。

本パラメタは、findOptionメソッドの「検索する行」に「3」を指定した場合に、有効になります。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

基準の行からの方向

基準の行を指定して検索する場合に、基準の行からの方向を0か1の数値で指定します。

0: 基準の行から下方向

1: 基準の行から上方向

基準の行の場合は、「0」を指定します。

本パラメタは、findOptionメソッドの「検索する行」に「3」を指定した場合に、有効になります。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

範囲の確定条件/検索条件

不定数の複数行が1組となる帳票において、範囲を指定して検索する場合に、このメソッドで設定する検索条件が、範囲を確定するための条件か、範囲内を検索する条件かを0から3までの数値で指定します。

0: 範囲を確定する開始行の条件

1: 範囲を確定する終了行の条件

2: 確定した範囲を検索する条件1

3: 確定した範囲を検索する条件2

本パラメタは、findOptionメソッドの「検索する行」に「4」を指定した場合のみ有効になります。

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

0

正常終了しました。

異常終了しました。

使用例

複数の条件で検索し、絞り込みする

1. 検索条件を削除します。

```
document.ListPrint.findClear();
```

2. 範囲名「振込先」で「東京支店」と等しい文字列を検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findString("振込先", "東京支店", 0, 0, 0, 0);
```

3. 範囲名「個人名」で「増田」と等しい文字列を検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findString("個人名", "増田", 0, 0, 0, 0);
```

4. 2.と3.の条件で絞り込みを行います。

```
document.ListPrint.extractFind();
```

基準の行を指定して検索し、絞り込みする

1. 検索条件を削除します。

```
document.ListPrint.findClear();
```

2. 検索する方法として「基準の行を指定して検索する」を設定します。

```
document.ListPrint.findOption(, , , 3);
```

3. 範囲名「振込先」で、「東京支店」と等しい文字列を基準の行として検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findString("振込先", "東京支店", 0, , 0, 0);
```

4. 基準の行から2行上の範囲名「個人名」で、「増田」と等しい文字列を検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findString("個人名", "増田", 0, , 2, 1);
```

5. 基準の行から1行下の範囲名「振込先」で、「合計」と等しい文字列を検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findString("振込先", "合計", 0, , 1, 0);
```

6. 3.から5.の条件で絞り込みを行います。

```
document.ListPrint.extractFind();
```

不定数の複数行が1組となる帳票において、範囲を指定して検索し、絞り込みする

1. 検索条件を削除します。

```
document.ListPrint.findClear();
```

2. 検索する方法として「範囲を指定して検索する」を設定します。

```
document.ListPrint.findOption(, , , 4);
```

3. 範囲名「振込先」で、「東京支店」と等しい文字列を、範囲を確定する開始行の検索条件として設定します。

```
document.ListPrint.findString("振込先", "東京支店", 0, , , , 0);
```

4. 範囲名「振込先」で、「合計」と等しい文字列を、範囲を確定する終了行の検索条件として設定します。

```
document.ListPrint.findString("振込先", "合計", 0, , , 1);
```

5. 範囲名「個人名」で、「増田」と等しい文字列を検索する条件を設定します。

```
document.ListPrint.findString("個人名", "増田", 0, , , 2);
```

6. 3から5の条件で絞り込みを行います。

```
document.ListPrint.extractFind();
```



注意

- extractFindメソッドを呼び出す前に、最大4つの検索条件が設定できます。
- 検索条件を新たに設定し直す場合は、あらかじめ検索条件を削除しておく必要があります。検索条件を削除しないで設定すると、これまで設定された条件に追加されます。
- findOptionメソッドの「対象範囲」に「2」を指定した場合には、「範囲名」には、帳票項目の範囲名を指定する必要があります。帳票項目の範囲名を指定しない場合、findOptionメソッドの「対象範囲」に「0」が指定されたものとみなされて検索されます。

3.3.2.14 getCurrentTotalPage(全ページ数の取得)

記述形式

```
document.ListPrint.getCurrentTotalPage()
```

機能

表示している帳票の全ページ数を取得します。

パラメタの説明

なし

復帰値

全ページ数

使用例

表示中の帳票の全ページ数を取得します。

```
document.ListPrint.getCurrentTotalPage();
```



注意

表示している帳票が絞り込まれている場合、絞り込まれている状態での全ページ数

終了ページ

終了ページを数値で指定します。「ページ指定」に「1」を指定すると無効になります。
省略可能です。省略すると現在表示中のページとなります。

印刷部数

印刷する部数を1から9999までの数値で指定します。
省略可能です。省略すると「1」が指定されたものとみなします。

用紙のサイズ

用紙のサイズを1から41までの数値で指定します。
省略可能です。省略するとページ設定で行った用紙のサイズが指定されたものとみなします。

用紙の向き

用紙の向きを0か1の数値で指定します。

- 0 : 縦向き
- 1 : 横向き

省略可能です。省略するとページ設定で行った用紙の向きが指定されたものとみなします。

リザーブ

0の数値を指定します。
省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

ダイアログボックスの表示/非表示

印刷ダイアログボックスを表示するか表示しないかを0か1の数値で指定します。

- 0 : 印刷ダイアログボックスを表示しない
- 1 : 印刷ダイアログボックスを表示する

省略可能です。省略すると「0」が指定されたものとみなします。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票の5ページから10ページまでを印刷します。

```
document.ListPrint.localPrint (0, 5, 10);
```

用紙サイズ一覧

- 1 : Letter、8 1/2 × 11 インチ
- 2 : Legal、8 1/2 × 14 インチ
- 3 : A4 シート、210 × 297 mm
- 4 : C シート、17 × 22 インチ
- 5 : D シート、22 × 34 インチ
- 6 : E シート、34 × 44 インチ
- 7 : Letter Small、8 1/2 × 11 インチ
- 8 : Tabloid、11 × 17 インチ
- 9 : Ledger、17 × 11 インチ
- 10 : Statement、5 1/2 × 8 1/2 インチ

- 11 : Executive、7 1/4 × 10 1/2 インチ
- 12 : A3 シート、297 × 420 mm
- 13 : A4 small シート、210 × 297 mm
- 14 : A5 シート、148 × 210 mm
- 15 : B4 シート、250 × 354 mm
- 16 : B5 シート、182 × 257 mm
- 17 : Folio、8 1/2 × 13 インチ
- 18 : Quarto、215 × 275 mm
- 19 : 10 × 14 インチ シート
- 20 : 11 × 17 インチ シート
- 21 : Note、8 1/2 × 11 インチ
- 22 : #9 Envelope、3 7/8 × 8 7/8 インチ
- 23 : #10 Envelope、4 1/8 × 9 1/2 インチ
- 24 : #11 Envelope、4 1/2 × 10 3/8 インチ
- 25 : #12 Envelope、4 3/4 × 11 インチ
- 26 : #14 Envelope、5 × 11 1/2 インチ
- 27 : DL Envelope、110 × 220 mm
- 28 : C5 Envelope、162 × 229 mm
- 29 : C3 Envelope、324 × 458 mm
- 30 : C4 Envelope、229 × 324 mm
- 31 : C6 Envelope、114 × 162 mm
- 32 : C65 Envelope、114 × 229 mm
- 33 : B4 Envelope、250 × 353 mm
- 34 : B5 Envelope、176 × 250 mm
- 35 : B6 Envelope、176 × 125 mm
- 36 : Italy Envelope、110 × 230 mm
- 37 : Monarch Envelope、3 7/8 × 7 1/2 インチ
- 38 : 6 3/4 Envelope、3 5/8 × 6 1/2 インチ
- 39 : US Std Fanfold、14 7/8 × 11 インチ
- 40 : German Std Fanfold、8 1/2 × 12 インチ
- 41 : German Legal Fanfold、8 1/2 × 13 インチ

注意

“3.3.1 帳票の一覧からの印刷機能のメソッド”における“3.3.1.1 localPrint(帳票を印刷)”では、第1パラメタで指定する値の意味が、本メソッドとは異なります。

第1パラメタの値	帳票一覧からの印刷	帳票表示からの印刷
0	すべてのページ	開始ページから終了ページまで
1	開始ページから終了ページまで	すべてのページ

参考

localPrintを使用して、「印刷データに設定されている印刷属性を優先する」の「用紙のサイズ」、「用紙の向き」を有効にする場合は、以下の設定が必要です。

1. ListPrint.propertiesや「ページ設定」で設定されている「印刷データに設定されている印刷属性を優先する」を有効にします。
2. localPrintの「用紙のサイズ」、「用紙の向き」パラメタを省略します。

3.3.2.17 pageBottom(最後のページへ)

記述形式

```
document.ListPrint.pageBottom()
```

機能

表示している帳票の最後のページを表示します。

パラメタの説明

なし

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

使用例

表示している帳票の最後のページを表示します。

```
document.ListPrint.pageBottom();
```

3.3.2.18 pageJump(指定のページへ)

記述形式

```
document.ListPrint.pageJump( [ページ番号] )
```

機能

表示している帳票の指定ページを表示します。

パラメタの説明

ページ番号

表示したいページ番号を数値で指定します。

省略可能です。省略すると【指定のページへジャンプ】ダイアログボックスを表示します。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

使用例

- ・【指定のページへジャンプ】ダイアログボックスを表示します。

```
document.ListPrint.pageJump();
```

- ・表示中の帳票の10ページ目を表示します。

```
document.ListPrint.pageJump(10);
```

3.3.2.19 pageNext(次のページへ)

記述形式

```
document.ListPrint.pageNext()
```

機能

表示している帳票の次のページを表示します。

パラメタの説明

なし

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

使用例

表示している帳票の次のページを表示します。

```
document.ListPrint.pageNext();
```

3.3.2.20 pagePrev(前のページへ)

記述形式

```
document.ListPrint.pagePrev()
```

機能

表示している帳票の前のページを表示します。

パラメタの説明

なし

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

使用例

表示している帳票の前のページを表示します。

```
document.ListPrint.pagePrev();
```

3.3.2.21 pageTop(最初のページへ)

記述形式

```
document.ListPrint.pageTop()
```

機能

表示している帳票の最初のページを表示します。

パラメタの説明

なし

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

使用例

表示している帳票の最初のページを表示します。

```
document.ListPrint.pageTop();
```

3.3.2.22 select(表示している帳票の範囲の選択)

記述形式

```
document.ListPrint.select(開始横位置, 開始縦位置, 終了横位置, 終了縦位置)
```

機能

表示している帳票の範囲を選択します。

パラメタの説明

開始横位置

選択する範囲の開始の横位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

開始縦位置

選択する範囲の開始の縦位置を、帳票の上端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

終了横位置

選択する範囲の終了の横位置を、帳票の左端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

終了縦位置

選択する範囲の終了の縦位置を、帳票の上端から1/1440インチ単位の数値で指定します。必ず指定します。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

使用例

表示中の帳票において、開始横位置(100)、開始縦位置(100)、終了横位置(3000)、終了縦位置(3000)の範囲を選択します。

```
document.ListPrint.select(100, 100, 3000, 3000)
```

3.3.2.23 setPrinter(印刷するプリンタの指定)

記述形式

```
document.ListPrint.setPrinter(プリンタ名, ポート名)
```

機能

印刷するプリンタを設定します。

パラメタの説明

プリンタ名

プリンタ名を半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。

必ず指定します。ネットワークで共有されているプリンタを指定する場合は、「"¥¥プリンタサーバ名¥¥プリンタ名"」の形式で指定してください。

ポート名

プリンタポート名を半角のダブルクォーテーション「"」で囲まれた文字列として指定します。

省略可能です。省略するとポート名を設定しません。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

使用例

プリンタ名「FUJITSU XL-6010」のプリンタを印刷するプリンタとして設定します。

```
document.ListPrint.setPrinter("FUJITSU XL-6010");
```



注意

- ・ ポート名のみ一致するプリンタを指定したい場合は、プリンタ名に半角のダブルクォーテーション「"」を指定してください。
- ・ プリンタ名に半角のダブルクォーテーション「"」を指定して、かつポート名を省略した場合は、異常終了とみなされます。

3.3.2.24 zoom(倍率の指定)

記述形式

```
document.ListPrint.zoom( 表示倍率 )
```

機能

表示している帳票の表示倍率を変更します。

パラメタの説明

表示倍率

表示倍率を以下の数値で指定します。

10~300 : 指定の倍率で表示

0 : 全体を表示

-1 : 幅に合わせて表示

-2 : 高さに合わせて表示

必ず指定します。

復帰値

0

正常終了しました。

-1

異常終了しました。

使用例

表示している帳票を30%のサイズで表示します。

```
document.ListPrint.zoom (30);
```

付録A サーバ機能APIのエラー情報

この章では、サーバ機能APIのエラーコードとエラーメッセージについて説明します。

A.1 サーバ機能APIエラーコード

A.2 サーバ機能APIエラーメッセージ

A.1 サーバ機能APIエラーコード

ここでは、LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)で取得したエラーコードについて説明します。なお、コードは16進数で記述しています。

Windowsの場合

コード	エラーコードの意味	利用者の処置
2	システムは指定されたファイルを見つけることができません。	指定したファイルが存在するか確認してください。
3	システムは指定されたパスを見つけることができません。	指定したパスが存在するか確認してください。
4	システムがファイルをオープンできません。	ほかのアプリケーションを終了して、再度実行してください。
5	アクセスは拒否されました。	アクセス権を確認して、再度実行してください。
6	内部ファイル識別子が正しくありません。	指定した識別子を確認して、再度実行してください。
8	利用可能な格納域が不足しているため、このコマンドを処理できません。	ほかのアプリケーションを終了して、再度実行してください。
e	利用可能な格納域が不足しているため、この操作を完了できません。	ほかのアプリケーションを終了して、再度実行してください。
f	システムは指定されたドライブを見つけることができません。	ドライブを確認して再度実行してください。
10	ディレクトリを削除できません。	ディレクトリの存在、またはアクセス権を確認してください。
13	メディアは書き込み禁止です。	メディアを確認してください。
15	ドライブの準備ができていません。	ドライブを確認してください。
1c	プリンタの用紙切れです。	プリンタの用紙を確認してください。
20	ほかのプロセスがファイルを使用しているため、プロセスはそのファイルにアクセスできません。	ほかの利用者の処理終了後、再度実行してください。
21	別のプロセスがファイルの一部分をすでにロックしているため、プロセスはそのファイルにアクセスできません。	ほかの利用者の処理終了後、再度実行してください。
24	共有のためにオープンしたファイルが多すぎます。	ほかのアプリケーションを終了し、再度実行してください。
27	ディスクがいっぱいです。	ディスクを確認してください。
35	ネットワークパスが見つかりませんでした。	ネットワークパスを確認してください。
41	ネットワークアクセスが拒否されました。	ネットワークのアクセス権を確認してください。
43	ネットワーク名が見つかりません。	ネットワーク名を確認してください。
50	ファイルは存在します。	ファイル名を確認してください。
52	ディレクトリまたはファイルを作成できません。	ディレクトリのアクセス権を確認してください。
57	パラメタが正しくありません。	指定したパラメタを確認してください。

コード	エラーコードの意味	利用者の処置
6f	ファイル名が長すぎます。	ファイル名を確認してください。
70	ディスク上に十分な容量がありません。	ディスク容量を確認してください。
95	「保管フォルダ一覧開始」または「保管フォルダ内の帳票一覧開始」がすでに実行されています。	「保管フォルダ一覧終了」または「保管フォルダ内の帳票一覧終了」を実行したか確認してください。
250	DBアクセス時にエラーが発生しました。	データベース環境を確認してください。

Solaris版の場合

コード	エラーコードの意味	利用者の処置
2	ファイルまたはディレクトリが存在しません。	指定したディレクトリ、または、ファイルが存在するか、確認してください。
c	メモリ不足が発生しました。	不要なプログラムを終了し、再度実行してください。
d	アクセス権が与えられていません。	指定したディレクトリ、または、ファイルのアクセス権を確認してください。
14	ディレクトリではありません。	指定したディレクトリのパス名を確認してください。
16	パラメタが正しくありません。	指定したパラメタを確認してください。
1c	ディスク容量が足りません。	リスト管理サーバのディスクの空き容量を確認してください。
51	内部ファイル識別子が正しくありません。	指定した識別子を確認して、再度実行してください。
95	「保管フォルダ一覧開始」または「保管フォルダ内の帳票一覧開始」がすでに実行されています。	「保管フォルダ一覧終了」または「保管フォルダ内の帳票一覧終了」を実行したか確認してください。
250	DBアクセス時にエラーが発生しました。	データベース環境を確認してください。

メール送信時の場合

コード	エラーコードの意味	利用者の処置
1a5	メールサービスは利用できません。コネクションを切断します。	SMTPサーバが動作しているか確認してください。
1c4	SMTPサーバのディスク容量不足のため、要求は実行されませんでした。	SMTPサーバのディスク容量が不足しています。SMTPサーバのディスクの空き容量を確認してください。
226	メール・ボックスが使用できないため、要求は実行されませんでした。	送信先のメールアドレスを確認してください。また、SMTPサーバが正常に動作しているか確認してください。
228	SMTPサーバのディスク容量不足のため、要求は異常終了しました。	SMTPサーバのディスク容量が不足しています。SMTPサーバのディスクの空き容量を確認してください。
229	メール・ボックス名に問題があるため、要求は実行されませんでした。	送信先のメールアドレスを確認してください。

その他のエラー

エラーコードの一覧表に記載されていない値が、LW_GetServerApiErrCode()関数で復帰する場合があります。エラーコードの一覧表に記載されていないコードが復帰した場合は、“メッセージ集”の詳細コードを参照してください。

A.2 サーバ機能APIエラーメッセージ

ここでは、LW_GetServerApiErrMsg(サーバ機能APIエラーメッセージ取得)で取得したエラーメッセージについて説明します。

「FUJITSU帳票管理」サービスが停止している可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

「FUJITSU帳票管理」サービスが起動しているか確認してください。

DBアクセス時にエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

データベース環境を確認してください。

List Creatorがインストールされていない可能性があります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

List Creatorがインストールされていない場合は、List Creatorをインストールしてください。

PDFファイル格納先フォルダのフルパスが指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

PDFファイル格納先フォルダの物理パスを指定してください。

PDFファイル格納先フォルダのフルパスに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

PDFファイル格納先フォルダの物理パスを確認してください。

PDFファイルのフルパスの長さが上限を超えています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

PDFファイルの出力フォルダとPDFファイル名を確認してください。

PDF変換が中止されました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

再度実行してください。

PDF変換情報構造体に指定した長さに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

PDF変換情報構造体に指定した長さを確認してください。

PDF変換情報構造体の印刷許可の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

印刷許可指定の値を確認してください。

PDF変換情報構造体のエンベットの指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

エンベット指定の値を確認してください。

PDF変換情報構造体のオーバーレイ原点位置の参照方法の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

オーバーレイ原点位置の参照方法の指定を確認してください。

PDF変換情報構造体の「セキュリティオプションの変更」パスワードに使用できない文字が含まれています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

「セキュリティオプションの変更」パスワードを確認してください。

PDF変換情報構造体の「セキュリティオプションの変更」パスワードの長さが上限を超えています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

「セキュリティオプションの変更」パスワードの長さを確認してください。

PDF変換情報構造体の注釈/フォームフィールド追加変更許可の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

注釈/フォームフィールド追加変更許可指定の値を確認してください。

PDF変換情報構造体のテキスト/グラフィックス選択許可の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

テキスト/グラフィックス選択許可指定の値を確認してください。

PDF変換情報構造体の文書変更許可の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

文書変更許可指定の値を確認してください。

PDF変換情報構造体の「文書を開く」パスワードに使用できない文字が含まれています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

「文書を開く」パスワードを確認してください。

PDF変換情報構造体の「文書を開く」パスワードの長さが上限を超えています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

「文書を開く」パスワードの長さを確認してください。

PDF変換に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。

SMTPサーバが見つかりません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

SMTPサーバを確認してください。

SMTPサーバでエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。

移動元の帳票が他の利用者により使用中であるため、移動できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

他の利用者が帳票の使用を終了してから再度実行してください。

印刷項目構造体が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

印刷項目構造体を指定してください。

印刷項目構造体に指定した長さに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

印刷項目構造体に指定した長さを確認してください。

印刷項目構造体の印刷データの指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

印刷項目構造体の印刷データの指定を確認してください。

印刷項目構造体のオーバーレイの指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

印刷項目構造体のオーバーレイの指定を確認してください。

印刷項目構造体のスタンプの指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

印刷項目構造体のスタンプの指定を確認してください。

印刷項目構造体のチェックマークの指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

印刷項目構造体のチェックマークの指定を確認してください。

印刷項目構造体のハイパーリンクの指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

印刷項目構造体のハイパーリンクの指定を確認してください。

印刷項目構造体の付箋の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

印刷項目構造体の付箋の指定を確認してください。

印刷項目構造体のメモの指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

印刷項目構造体のメモの指定を確認してください。

印刷項目構造体のラインマークの指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

印刷項目構造体のラインマークの指定を確認してください。

印刷情報構造体が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

印刷情報構造体を指定してください。

印刷情報構造体に指定した長さに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

印刷情報構造体に指定した長さを確認してください。

印刷情報構造体の印刷範囲指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

印刷範囲指定を確認してください。

印刷情報構造体の印刷部数の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

印刷部数を確認してください。

印刷情報構造体の開始ページの指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

開始ページを確認してください。

印刷情報構造体の高速印刷の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

高速印刷の指定を確認してください。

印刷情報構造体の終了ページの指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

終了ページを確認してください。

印刷情報構造体の優先順位の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

優先順位を確認してください。

印刷フォルダとして利用できないプリンタが指定されました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

指定したプリンタが、以下の条件を満たしているか確認してください。

- プリントプロセッサを「帳票管理出力用」で定義したプリンタ
 - Print Managerの管理対象となっているプリンタ
-

印刷フォルダ名が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

印刷フォルダ名を指定してください。

印刷フォルダ名に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

指定した印刷フォルダ名を確認してください。

サーバAPI識別子が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

サーバAPI識別子を指定してください。

サーバAPI識別子に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

サーバAPI識別子を確認してください。

作業領域の獲得に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。

システムエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

再度実行してください。

指定されたPDFファイル名に使用できない文字が含まれています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

PDFファイル名を確認してください。

指定された帳票はList Works帳票ではありません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

指定した帳票のパスを確認して再度実行してください。

帳票をPDF変換する場合、SPL形式でない帳票は変換できません。

指定された添付ファイルが見つかりません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

添付ファイル名を確認してください。

指定したPDFファイルが他の利用者により使用中であるため、変換できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

他の利用者がPDFファイルの使用を終了してから、再度実行してください。

指定したPDFファイルに対するアクセス権がありません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

アクセス権を確認して、再度実行してください。

指定したPDFファイルのオープンに失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

以下の原因が考えられます。原因に対する処置方法について示します。

- ・ オープン可能なファイル数を越えた

不要なアプリケーションや不要な帳票を閉じてから、再度実行してください。

再度エラーが発生する場合は、リスト管理サーバが動作しているシステムを再起動してください。

指定した印刷フォルダでは、高速印刷することはできません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

指定した印刷フォルダのプリンタを確認してください。

指定した帳票に対するアクセス権がありません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

アクセス権を確認し、再度実行してください。

指定した帳票を高速印刷することはできません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

指定した帳票を確認してください。

指定したドライブは使用できません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

指定したドライブを確認してください。

指定したフォルダに対するアクセス権がありません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

指定したフォルダのアクセス権を確認してください。

指定したプリンタが存在しません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

指定したプリンタを確認してください。

終了ページには開始ページ以上のページ番号を指定してください。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

開始ページと終了ページを確認して、再度実行してください。

送信先アドレスが指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

送信先アドレスを指定してください。

送信先に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

送信先を確認してください。

帳票が他の利用者により使用中であるため、オープンできませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

他の利用者が帳票の使用を終了してから、再度実行してください。

帳票が他の利用者により使用中であるため、削除できませんでした。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

他の利用者が帳票の使用を終了してから、再度実行してください。

帳票記入ファイルのアクセスに失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

不要なサービスを停止させてから、再度実行してください。

再度エラーが発生する場合は、リスト管理サーバが動作しているシステムを再起動してください。

帳票記入ファイルのオープン処理に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

以下の原因が考えられます。原因に対する処置方法について示します。

- ・ オープン可能なファイル数を越えた

不要なアプリケーションや不要な帳票を閉じてから、再度実行してください。

再度エラーが発生する場合は、リスト管理サーバが動作しているシステムを再起動してください。

帳票記入ファイルの書き込み処理に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

ディスク容量を確認して、再度実行してください。

帳票記入ファイルのバックアップファイルからの復元に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

再度実行してください。

帳票記入ファイルの読み込み処理に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

不要なサービスを停止させてから、再度実行してください。

再度エラーが発生する場合は、リスト管理サーバが動作しているシステムを再起動してください。

帳票のアクセスに失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

不要なサービスを停止させてから、再度実行してください。

再度エラーが発生する場合は、リスト管理サーバが動作しているシステムを再起動してください。

帳票の移動に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

移動元の帳票のアクセス権、および、移動先のフォルダのアクセス権を確認し、再度実行してください。

帳票のオープンに失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

以下の原因が考えられます。原因に対する処置方法について示します。

- ・ オープン可能なファイル数を越えた

不要なアプリケーションや不要な帳票を閉じてから、再度実行してください。

- ・ 指定した帳票が存在しない

帳票の存在を確認してから、再度実行してください。

再度エラーが発生する場合は、リスト管理サーバが動作しているシステムを再起動してください。

帳票の書き込み処理に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

不要なファイルを削除し、再度実行してください。

再度エラーが発生する場合は、リスト管理サーバが動作しているシステムを再起動してください。

帳票の削除処理に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

再度実行してください。

帳票のバックアップファイルからの復元に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

再度実行してください。

帳票のバックアップファイルの作成に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

帳票のアクセス権を確認して、再度実行してください。

帳票の複写に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

複写元の帳票のアクセス権、および、複写先のフォルダのアクセス権を確認し、再度実行してください。

帳票のパスが指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

帳票のパスを指定してください。

帳票のパスに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

指定した帳票のパスを確認してください。

帳票をPDF変換する場合、SPL形式の帳票が存在するか、確認してください。

帳票の変更処理に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

再度実行してください。

帳票の読み込み処理に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

不要なサービスを停止させてから、再度実行してください。

再度エラーが発生する場合は、リスト管理サーバが動作しているシステムを再起動してください。

帳票変更情報構造体が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

帳票変更情報構造体を指定してください。

帳票変更情報構造体に指定した長さに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

帳票変更情報構造体の長さを確認してください。

帳票変更情報構造体のアクセス回数変更フラグに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

アクセス回数変更フラグを確認してください。

帳票変更情報構造体のコメント変更フラグに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

コメント変更フラグを確認してください。

帳票変更情報構造体の最終参照日時の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

最終参照日時を確認してください。

帳票変更情報構造体の最終参照日時変更フラグに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

最終参照日時変更フラグを確認してください。

帳票変更情報構造体の削除対象の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

削除対象を確認してください。

帳票変更情報構造体の削除対象変更フラグに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

削除対象変更フラグを確認してください。

帳票変更情報構造体の作成者名変更フラグに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

作成者名変更フラグを確認してください。

帳票変更情報構造体の作成日時の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

作成日時を確認してください。

帳票変更情報構造体の作成日時変更フラグに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

作成日時変更フラグを確認してください。

帳票変更情報構造体の帳票名変更フラグに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

帳票名変更フラグを確認してください。

帳票変更情報構造体の登録日時の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

登録日時を確認してください。

帳票変更情報構造体の登録日時変更フラグに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

登録日時変更フラグを確認してください。

帳票変更情報構造体の登録有効期限の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

登録有効期限を確認してください。

帳票変更情報構造体の登録有効期限変更フラグに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

登録有効期限変更フラグを確認してください。

帳票変更情報構造体の備考1変更フラグに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

備考1変更フラグを確認してください。

帳票変更情報構造体の備考2変更フラグに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

備考2変更フラグを確認してください。

帳票変更情報構造体の備考3変更フラグに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

備考3変更フラグを確認してください。

帳票変更情報構造体の備考4変更フラグに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

備考4変更フラグを確認してください。

帳票変更情報構造体のポーリング印刷依頼の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

ポーリング印刷依頼を確認してください。

帳票変更情報構造体のポーリング印刷依頼変更フラグに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

ポーリング印刷依頼変更フラグを確認してください。

帳票変更情報構造体のリモート印刷依頼の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

リモート印刷依頼の指定を確認してください。

帳票変更情報構造体のリモート印刷依頼変更フラグに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

リモート印刷依頼変更フラグを確認してください。

帳票変更情報構造体のローカル印刷依頼の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

ローカル印刷依頼の指定を確認してください。

帳票変更情報構造体のローカル印刷依頼変更フラグに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

ローカル印刷依頼変更フラグを確認してください。

添付ファイルが存在しません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

添付ファイルを確認してください。

添付ファイルにアクセス権がありません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

添付ファイルのアクセス権を確認して、再度実行してください。

添付ファイルの読み込みに失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。

ネットワークエラーが発生しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。

「保管フォルダ一覧開始」がすでに実行されています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

「保管フォルダ一覧終了」を実行したか確認してください。

保管フォルダ一覧識別子が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

保管フォルダ一覧識別子を指定してください。

保管フォルダ一覧識別子に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

保管フォルダ一覧識別子を確認してください。

「保管フォルダ一覧取得」で範囲外のインデックスが指定されました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

「保管フォルダ一覧取得」のインデックスを確認してください。

保管フォルダ一覧の取得に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

再度発生する場合は、LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)を実行し、エラーコードを取得してください。

保管フォルダ情報構造体が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

保管フォルダ情報構造体を指定してください。

保管フォルダ情報構造体に指定した長さに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

保管フォルダ情報構造体に指定した長さを確認してください。

保管フォルダ情報の取得方法に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

保管フォルダ情報の取得方法を確認してください。

保管フォルダ数を格納する領域が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

保管フォルダ数を格納する領域を指定してください。

保管フォルダとして定義されていないパスが指定されました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

指定した保管フォルダが存在するか確認してください。

「保管フォルダ内の帳票一覧開始」がすでに実行されています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

「保管フォルダ内の帳票一覧終了」を実行したか確認してください。

保管フォルダ内の帳票一覧識別子が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

保管フォルダ内の帳票一覧識別子を指定してください。

保管フォルダ内の帳票一覧識別子に誤りがありました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

保管フォルダ内の帳票一覧識別子を確認してください。

「保管フォルダ内の帳票一覧取得」で範囲外のインデックスが指定されました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

「保管フォルダ内の帳票一覧取得」のインデックスを確認してください。

保管フォルダ内の帳票一覧の取得に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

再度発生する場合は、LW_GetServerApiErrCode(サーバ機能APIエラーコード取得)を実行し、エラーコードを取得してください。

保管フォルダ内の帳票情報構造体が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

保管フォルダ内の帳票情報構造体を指定してください。

保管フォルダ内の帳票情報構造体に指定した長さに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

保管フォルダ内の帳票情報構造体に指定された長さを確認してください。

保管フォルダ内の帳票数を格納する領域が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

保管フォルダ内の帳票数を格納する領域を指定してください。

保管フォルダに登録されていない帳票のパスが指定されました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

指定した帳票が存在するか確認してください。

保管フォルダのパスが指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

保管フォルダのパスを指定してください。

メール送信可能な添付ファイルサイズの上限を超えました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

添付ファイルのサイズを確認してください。

メール送信情報構造体が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

メール送信情報構造体を指定してください。

メール送信情報構造体のMIMEのエンコードタイプに誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

MIMEのエンコードタイプを確認してください。

メール送信情報構造体のSMTPサーバのタイムアウト秒数の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

SMTPサーバのタイムアウト秒数の指定を確認してください。

メール送信情報構造体のSMTPサーバのポート番号の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

SMTPサーバのポート番号の指定を確認してください。

メール送信情報構造体のSMTPサーバ名が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

SMTPサーバ名を指定してください。

メール送信情報構造体の送信先アドレス数に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

送信先数を確認してください。

メール送信情報構造体の送信先アドレスのリストが指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

送信先アドレスのリストを指定してください。

メール送信情報構造体の添付ファイル数に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

添付ファイル数を確認してください。

メール送信情報構造体の添付ファイル名の文字コード系名の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

添付ファイル名の文字コード系名の指定を確認してください。

メール送信情報構造体の発信者アドレスが指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

発信者アドレスを指定してください。

メール送信情報構造体の発信者の名前の長さが上限を超えています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

発信者の名前を確認してください。

メール送信情報構造体の発信者の名前を格納する領域が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

発信者の名前を格納する領域を指定してください。

メール送信情報構造体の分割した1メール分の最大バイト数の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

分割した1メール分の最大バイト数の指定を確認してください。

または、ヘッダ部分が1メール分の最大バイト数を越えている可能性がありますので、1メール分の最大バイト数を増やして再度実行してください。

メール送信情報構造体の分割したメールの送信間隔の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

分割したメールの送信間隔の指定を確認してください。

メール送信情報構造体の分割メール送信の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

分割メール送信の指定を確認してください。

メール送信情報構造体のメールの表題の長さが上限を超えています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

メールの表題を確認してください。

メール送信情報構造体のメールの表題を格納する領域が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

メールの表題を格納する領域を指定してください。

メール送信情報構造体のメールの本文の長さの上限を超えています。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

メールの本文を確認してください。

メール送信情報構造体のメールの本文を格納する領域が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

メールの本文を格納する領域を指定してください。

メール送信情報構造体の文字列の文字コード系名が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

文字列の文字コード系名を指定してください。

メール送信情報構造体の文字列の文字コード系名の指定に誤りがあります。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

文字列の文字コード系名を確認してください。

メール送信に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。

メール送信復帰情報構造体が指定されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

メール送信復帰情報構造体を指定してください。

メール送信ライブラリのロードに失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。

文字コード変換に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。

文字コード変換の開始処理に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。

文字コード変換のカスタマイズに失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

不要なアプリケーションを終了し、再度実行してください。

リスト管理サーバの環境が正しく構築されていません。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

リスト管理サーバの環境を確認してください。

Solaris版の場合は、アプリケーションプログラムのコンパイル時に、-licvオプションを指定したかについても確認してください。
再度発生するときはList Worksを再インストールしてください。

「リモート印刷」に失敗しました。

[システムの処理]

処理を中断します。

[利用者の処置]

プリンタの環境を確認して、再度実行してください。

付録B サーバ機能APIのサンプルプログラム

この章では、サーバ機能APIのサンプルプログラムについて説明します。

B.1 サーバ機能APIサンプルプログラム



本サンプルは、サーバ機能APIの使用法を理解していただくことを目的として提供しております。お客様の環境で、本サンプルを使用して運用を行う場合は、お客様の業務に必要な処理やエラー処理を追加した上で、十分なテストを行い問題ないことを確認してください。

B.1 サーバ機能APIサンプルプログラム

ここでは、以下の処理をするプログラムを説明します。

1. 保管フォルダ内の帳票一覧を取得します。
2. 取得した帳票名が「2000年度」で前方一致するかを比較します。
3. 前方一致した場合、その帳票を削除します。

Windows版の場合

```
#include <windows.h>
#include <stdio.h>
#include <string.h>
#include "lsvvapi.h"

typedef int (WINAPI* LPSTARTSVAPI)();
typedef int (WINAPI* LPENDSVAPI)(int);
typedef int (WINAPI* LPGETSERVERERRCODE)(int);
typedef int (WINAPI* LPGETSERVERERRMSG)(int, char*);
typedef int (WINAPI* LPSTARTKEEPFOLDER)(int, char*, int);
typedef int (WINAPI* LPENDKEEPFOLDER)(int, int);
typedef int (WINAPI* LPGETKEEPFOLDERCOUNT)(int, int, int*);
typedef int (WINAPI* LPGETKEEPFOLDERITEM)(int, int, int, LPKPFINFO);
typedef int (WINAPI* LPSTARTKEEPLIST)(int, char*);
typedef int (WINAPI* LPENDKEEPLIST)(int, int);
typedef int (WINAPI* LPGETKEEPLISTCOUNT)(int, int, int*);
typedef int (WINAPI* LPGETKEEPLISTITEM)(int, int, int, LPKPLINFO);
typedef int (WINAPI* LPDELETEKEEPFILE)(int, char*);
/*****
/* 1. 機能概要
/* 1) 保管フォルダの一覧を取得する。
/* 2) 保管フォルダ内の帳票一覧を取得する。
/* 3) 取得した帳票名が、「2000年度」で前方一致するか比較する。
/* 比較した結果、前方一致したら、その帳票を削除する。
*****/
void main(int iArgc, char* cArgv[])
{
    HINSTANCE hinSvAPI = NULL;
    int iRetCode = 0; /* 関数復帰値 */
    int iLwSvApiH = 0; /* サーバAPIハンドル */
    int iLwSvKpFH = 0; /* 保管フォルダ一覧ハンドル */
    int iLwSvKpLH = 0; /* 保管フォルダ帳票一覧ハンドル */
    int iKpFCount = 0; /* 保管フォルダ数 */
```

```

KPFINFO KpFInfo; /* 保管フォルダ情報構造体 */
LPKPFINFO lpKpFInfo = &KpFInfo;
KPLINFO KpLInfo; /* 帳票一覧情報構造体 */
LPKPLINFO lpKpLInfo = &KpLInfo;
int iKpLCount = 0; /* 帳票一覧数 */
int ie_ErrCode = 0; /* エラーコード */
char ceErrMsg[1024]; /* エラーメッセージ格納域 */
int iKpFIndex = 0; /* フォルダカウンタ */
int iKpLIndex = 0; /* 帳票カウンタ */
int iFindFlg = 0; /* フラグ */
char ceDeleteFile[260+4]; /* 削除対象ファイル */

/*****
/* サーバAPI関数宣言 */
/*****
int (WINAPI* fp_StartSvApi)();
int (WINAPI* fp_EndSvApi)(int);
int (WINAPI* fp_GetServerApiErrCode)(int);
int (WINAPI* fp_GetServerApiErrMsg)(int, char*);
int (WINAPI* fp_StartKeepFolder)(int, char*, int);
int (WINAPI* fp_EndKeepFolder)(int, int);
int (WINAPI* fp_GetKeepFolderCount)(int, int, int*);
int (WINAPI* fp_GetKeepFolderItem)(int, int, int, LPKPFINFO);
int (WINAPI* fp_StartKeepList)(int, char*);
int (WINAPI* fp_EndKeepList)(int, int);
int (WINAPI* fp_GetKeepListCount)(int, int, int*);
int (WINAPI* fp_GetKeepListItem)(int, int, int, LPKPLINFO);
int (WINAPI* fp_DeleteKeepFile)(int, char*);

/*****
/* 初期化処理 */
/*****
memset(ceDeleteFile, 0, 260+4);

/*****
/* サーバAPIライブラリ (F5cwsapi.dll) のロード */
/*****
hinSvApi = LoadLibrary("F5cwsapi.dll");
if(hinSvApi == NULL)
{
    printf("ライブラリF5cwsapi.dllのロードに失敗しました。¥n");
    goto EXIT;
}

/*****
/* 関数アドレスを取得 */
/*****
fp_StartSvApi = (LPSTARTSVAPI)GetProcAddress(hinSvApi, "LW_StartServerApi");
if(fp_StartSvApi == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。¥n");
    goto EXIT;
}
fp_EndSvApi = (LPENDSVAPI)GetProcAddress(hinSvApi, "LW_EndServerApi");
if(fp_EndSvApi == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。¥n");
    goto EXIT;
}
fp_GetServerApiErrCode = (LPGETSERVERERRCODE)GetProcAddress(hinSvApi, "LW_GetServerApiErrCode");
if(fp_GetServerApiErrCode == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。¥n");

```

```

    goto EXIT;
}
fp_GetServerApiErrMsg = (LPGETSERVERERRMSG) GetProcAddress(hinSvApi, "LW_GetServerApiErrMsg");
if (fp_GetServerApiErrMsg == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。¥n");
    goto EXIT;
}
fp_StartKeepFolder = (LPSTARTKEEPFOLDER) GetProcAddress(hinSvApi, "LW_StartKeepFolder");
if (fp_StartKeepFolder == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。¥n");
    goto EXIT;
}
fp_EndKeepFolder = (LPENDKEEPFOLDER) GetProcAddress(hinSvApi, "LW_EndKeepFolder");
if (fp_EndKeepFolder == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。¥n");
    goto EXIT;
}
fp_GetKeepFolderCount = (LPGETKEEPFOLDERCOUNT) GetProcAddress(hinSvApi, "LW_GetKeepFolderCount");
if (fp_GetKeepFolderCount == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。¥n");
    goto EXIT;
}
fp_GetKeepFolderItem = (LPGETKEEPFOLDERITEM) GetProcAddress(hinSvApi, "LW_GetKeepFolderItem");
if (fp_GetKeepFolderItem == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。¥n");
    goto EXIT;
}
fp_StartKeepList = (LPSTARTKEEPLIST) GetProcAddress(hinSvApi, "LW_StartKeepList");
if (fp_StartKeepList == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。¥n");
    goto EXIT;
}
fp_EndKeepList = (LPENDKEEPLIST) GetProcAddress(hinSvApi, "LW_EndKeepList");
if (fp_EndKeepList == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。¥n");
    goto EXIT;
}
fp_GetKeepListCount = (LPGETKEEPLISTCOUNT) GetProcAddress(hinSvApi, "LW_GetKeepListCount");
if (fp_GetKeepListCount == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。¥n");
    goto EXIT;
}
fp_GetKeepListItem = (LPGETKEEPLISTITEM) GetProcAddress(hinSvApi, "LW_GetKeepListItem");
if (fp_GetKeepListItem == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。¥n");
    goto EXIT;
}
fp_DeleteKeepFile = (LPDELETEKEEPFILE) GetProcAddress(hinSvApi, "LW_DeleteKeepFile");
if (fp_DeleteKeepFile == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。¥n");
    goto EXIT;
}
}

```

```

/*****
/* サーバAPI開始 */
/*****
iLwSvApiH = (*fp_StartSvApi)();
if(iLwSvApiH == 0)
{
    printf("サーバAPIの開始(LW_StartServerApi)に失敗しました。¥n");
    goto EXIT;
}

/*****
/* 保管フォルダ一覧開始 */
/*****
iLwSvKpFH = (*fp_StartKeepFolder)(iLwSvApiH, NULL, 0);
if(iLwSvKpFH == 0)
{
    (*fp_GetServerApiErrMsg)(iLwSvApiH, ce_ErrMsg);
    ie_ErrCode = (*fp_GetServerApiErrCode)(iLwSvApiH);
    printf("%s RC=%d", ce_ErrMsg, ie_ErrCode);
    goto EXIT;
}

/*****
/* 保管フォルダ数取得 */
/*****
iRetCode = (*fp_GetKeepFolderCount)(iLwSvApiH, iLwSvKpFH, &iKpFCount);
if(iRetCode != 0)
{
    (*fp_GetServerApiErrMsg)(iLwSvApiH, ce_ErrMsg);
    ie_ErrCode = (*fp_GetServerApiErrCode)(iLwSvApiH);
    printf("%s RC=%d", ce_ErrMsg, ie_ErrCode);
    goto EXIT;
}

/*****
/* 保管フォルダ数分ループする */
/*****
for(iKpFIndex = 0; iKpFIndex < iKpFCount; iKpFIndex++)
{
    /*****
    /* 保管フォルダ一覧情報を取得 */
    /*****
    memset(lpKpFInfo, 0x00, sizeof(KPFINFO)); /* 初期化処理 */
    lpKpFInfo->usf_Length = sizeof(KPFINFO); /* 構造体サイズ */
    iRetCode = (*fp_GetKeepFolderItem)(iLwSvApiH, iLwSvKpFH, iKpFIndex,
    lpKpFInfo);
    if(iRetCode != 0)
    {
        (*fp_GetServerApiErrMsg)(iLwSvApiH, ce_ErrMsg);
        ie_ErrCode = (*fp_GetServerApiErrCode)(iLwSvApiH);
        printf("%s RC=%d", ce_ErrMsg, ie_ErrCode);
        goto EXIT;
    }

    /*****
    /* 保管フォルダ内の帳票一覧開始 */
    /*****
    iLwSvKpLH = (*fp_StartKeepList)(iLwSvApiH, lpKpFInfo->cf_PathName);
    if(iLwSvKpLH == 0)
    {
        (*fp_GetServerApiErrMsg)(iLwSvApiH, ce_ErrMsg);
        ie_ErrCode = (*fp_GetServerApiErrCode)(iLwSvApiH);
        printf("%s RC=%d", ce_ErrMsg, ie_ErrCode);
    }
}

```

```

        continue;
    }

    /******
    /* 保管フォルダ内の帳票数取得 */
    /******
    iRetCode = (*fp_GetKeepListCount)(iLwSvApiH, iLwSvKpLH, &iKpLCount);
    if(iRetCode != 0)
    {
        (*fp_GetServerApiErrMsg)(iLwSvApiH, ce_ErrMsg);
        ie_ErrCode = (*fp_GetServerApiErrCode)(iLwSvApiH);
        printf("%s RC=%d", ce_ErrMsg, ie_ErrCode);
        goto EXIT;
    }

    /******
    /* 保管フォルダ内の帳票一覧数分ループする */
    /******
    for(iKpLIndex = 0; iKpLIndex < iKpLCount; iKpLIndex ++){
        /******
        /* 保管フォルダ内の帳票一覧情報の取得 */
        /******
        memset(lpKpLInfo, 0x00, sizeof(KPLINFO)); /* 初期化处理 */
        lpKpLInfo->usl_Length = sizeof(KPLINFO); /* 構造体の長さ */
        iRetCode = (*fp_GetKeepListItem)(iLwSvApiH, iLwSvKpLH, iKpLIndex,
        lpKpLInfo);
        if(iRetCode != 0)
        {
            (*fp_GetServerApiErrMsg)(iLwSvApiH, ce_ErrMsg);
            ie_ErrCode = (*fp_GetServerApiErrCode)(iLwSvApiH);
            printf("%s RC=%d", ce_ErrMsg, ie_ErrCode);
            break;
        }

        /* 取得した帳票名が、"2000年度"か比較する */
        iRetCode = memcmp(lpKpLInfo->cl_Title, "2000年度", 8);
        if (iRetCode == 0)
        {
            /* 帳票の論理パス名を取得する */
            iFindFlg = 1;
            memcpy(ceDeleteFile, lpKpLInfo->cl_SpIFile, 264);
            break;
        }
    }

    /******
    /* 保管フォルダ内の帳票一覧終了 */
    /******
    if(iLwSvKpLH != 0)
    {
        (*fp_EndKeepList)(iLwSvApiH, iLwSvKpLH);
        iLwSvKpLH = 0;
    }

    /* 該当する帳票が見つかったため、ループ処理を抜ける */
    if (iFindFlg == 1)
        break;
}

/******
/* 保管フォルダ終了 */
/******

```



```

    if(iLwSvKpFH != 0)
    {
        (*fp_EndKeepFolder)(iLwSvApiH, iLwSvKpFH);
        iLwSvKpFH = 0;
    }

    /*****
    /* 保管フォルダ内の帳票の削除
    /*
    /*****
    if (iFindFlg == 1)
    {
        iRetCode = (*fp_DeleteKeepFile)(iLwSvApiH, ceDeleteFile);
        if(iRetCode != 0)
        {
            (*fp_GetServerApiErrMsg)(iLwSvApiH, ceErrMsg);
            ie_ErrCode = (*fp_GetServerApiErrCode)(iLwSvApiH);
            printf("%s RC=%d", ceErrMsg, ie_ErrCode);
            goto EXIT;
        }
    }

    /*****
    /* 終了処理
    /*
    /*****
EXIT:
    if(iLwSvKpLH != 0)
        (*fp_EndKeepList)(iLwSvApiH, iLwSvKpLH);
    if(iLwSvKpFH != 0)
        (*fp_EndKeepFolder)(iLwSvApiH, iLwSvKpFH);
    if(iLwSvApiH != 0)
        (*fp_EndSvApi)(iLwSvApiH);
    FreeLibrary(hinSvAPI);
    return;
}

```

Solaris版の場合

```

#include <stdio.h>
#include <string.h>
#include <dlfcn.h>
#include "lvsvapi.h"

typedef int (*LPSTARTSVAPI)();
typedef int (*LPENDSVAPI)(int);
typedef int (*LPGETSERVERERRCODE)(int);
typedef int (*LPGETSERVERERRMSG)(int, char*);
typedef int (*LPSTARTKEEPFOLDER)(int, char*, int);
typedef int (*LPENDKEEPFOLDER)(int, int);
typedef int (*LPGETKEEPFOLDERCOUNT)(int, int, int*);
typedef int (*LPGETKEEPFOLDERITEM)(int, int, int, LPKPFINFO);
typedef int (*LPSTARTKEEPLIST)(int, char*);
typedef int (*LPENDKEEPLIST)(int, int);
typedef int (*LPGETKEEPLISTCOUNT)(int, int, int*);
typedef int (*LPGETKEEPLISTITEM)(int, int, int, LPKPLINFO);
typedef int (*LPDELETEKEEPFILE)(int, char*);

/*****
/* 1. 機能概要
/*
/* 1) 保管フォルダの一覧を取得する。
/*
/* 2) 保管フォルダ内の帳票一覧を取得する。
/*
/* 3) 取得した帳票名が、「2000年度」で前方一致するか比較する。
/*
/* 比較した結果、前方一致したら、その帳票を削除する。
/*

```

```

/*****/
void main(int iArgc, char* cArgv[])
{
    void *hinSvApi = NULL;
    int     iRetCode = 0;          /* 関数復帰値 */
    int     iLwSvApiH = 0;        /* サーバAPIハンドル */
    int     iLwSvKpFH = 0;        /* 保管フォルダ一覧ハンドル */
    int     iLwSvKpLH = 0;        /* 保管フォルダ帳票一覧ハンドル */
    int     iKpFCount = 0;        /* 保管フォルダ数 */
    KPFINFO KpFInfo;             /* 保管フォルダ情報構造体 */
    LPKPFINFO lpKpFInfo = &KpFInfo;
    KPLINFO KpLInfo;             /* 帳票一覧情報構造体 */
    LPKPLINFO lpKpLInfo = &KpLInfo;
    int     iKpLCount = 0;        /* 帳票一覧数 */
    int     ie_ErrCode = 0;        /* エラーコード */
    char    ce_ErrMsg[1024];      /* エラーメッセージ格納域 */
    int     iKpFIndex = 0;        /* フォルダカウンタ */
    int     iKpLIndex = 0;        /* 帳票カウンタ */
    int     iFindFlg = 0;         /* フラグ */
    char    ceDeleteFile[260+4]; /* 削除対象ファイル */

/*****/
/* サーバAPI関数宣言 */
/*****/
    int (*fp_StartSvApi)();
    int (*fp_EndSvApi)(int);
    int (*fp_GetServerApiErrCode)(int);
    int (*fp_GetServerApiErrMsg)(int, char*);
    int (*fp_StartKeepFolder)(int, char*, int);
    int (*fp_EndKeepFolder)(int, int);
    int (*fp_GetKeepFolderCount)(int, int, int*);
    int (*fp_GetKeepFolderItem)(int, int, int, LPKPFINFO);
    int (*fp_StartKeepList)(int, char*);
    int (*fp_EndKeepList)(int, int);
    int (*fp_GetKeepListCount)(int, int, int*);
    int (*fp_GetKeepListItem)(int, int, int, LPKPLINFO);
    int (*fp_DeleteKeepFile)(int, char*);

/*****/
/* 初期化処理 */
/*****/
    memset(ceDeleteFile, 0, 260+4);

/*****/
/* サーバAPIライブラリ(liblwapi.so)のロード */
/*****/
    hinSvApi = dlopen("/usr/lib/liblwapi.so", RTLD_LAZY);
    if(hinSvApi == NULL)
    {
        printf("ライブラリliblwapi.soのロードに失敗しました。%n");
        goto EXIT;
    }

/*****/
/* 関数アドレスを取得 */
/*****/
    fp_StartSvApi = (LPSTARTSVAPI)dlsym(hinSvApi, "LW_StartServerApi");
    if(fp_StartSvApi == NULL)
    {
        printf("関数アドレスの取得に失敗しました。%n");
        goto EXIT;
    }
    fp_EndSvApi = (LPENDSVAPI)dlsym(hinSvApi, "LW_EndServerApi");

```

```

if(fp_EndSvApi == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。%n");
    goto EXIT;
}
fp_GetServerApiErrCode = (LPGETSERVERERRCODE) dlsym(hinSvAPI, "LW_GetServerApiErrCode");
if(fp_GetServerApiErrCode == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。%n");
    goto EXIT;
}
fp_GetServerApiErrMsg = (LPGETSERVERERRMSG) dlsym(hinSvAPI, "LW_GetServerApiErrMsg");
if(fp_GetServerApiErrMsg == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。%n");
    goto EXIT;
}
fp_StartKeepFolder = (LPSTARTKEEPFOLDER) dlsym(hinSvAPI, "LW_StartKeepFolder");
if(fp_StartKeepFolder == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。%n");
    goto EXIT;
}
fp_EndKeepFolder = (LPENDKEEPFOLDER) dlsym(hinSvAPI, "LW_EndKeepFolder");
if(fp_EndKeepFolder == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。%n");
    goto EXIT;
}
fp_GetKeepFolderCount = (LPGETKEEPFOLDERCOUNT) dlsym(hinSvAPI, "LW_GetKeepFolderCount");
if(fp_GetKeepFolderCount == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。%n");
    goto EXIT;
}
fp_GetKeepFolderItem = (LPGETKEEPFOLDERITEM) dlsym(hinSvAPI, "LW_GetKeepFolderItem");
if(fp_GetKeepFolderItem == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。%n");
    goto EXIT;
}
fp_StartKeepList = (LPSTARTKEEPLIST) dlsym(hinSvAPI, "LW_StartKeepList");
if(fp_StartKeepList == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。%n");
    goto EXIT;
}
fp_EndKeepList = (LPENDKEEPLIST) dlsym(hinSvAPI, "LW_EndKeepList");
if(fp_EndKeepList == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。%n");
    goto EXIT;
}
fp_GetKeepListCount = (LPGETKEEPLISTCOUNT) dlsym(hinSvAPI, "LW_GetKeepListCount");
if(fp_GetKeepListCount == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。%n");
    goto EXIT;
}
fp_GetKeepListItem = (LPGETKEEPLISTITEM) dlsym(hinSvAPI, "LW_GetKeepListItem");
if(fp_GetKeepListItem == NULL)
{
    printf("関数アドレスの取得に失敗しました。%n");
}

```

```

        goto EXIT;
    }
    fp_DeleteKeepFile = (LPDELETEKEEPFILE)dlSym(hinSvAPI, "LW_DeleteKeepFile");
    if(fp_DeleteKeepFile == NULL)
    {
        printf("関数アドレスの取得に失敗しました。¥n");
        goto EXIT;
    }
}

/*****
/* サーバAPI開始
*****/
iLwSvApiH = (*fp_StartSvApi)();
if(iLwSvApiH == 0)
{
    printf("サーバAPIの開始(LW_StartServerApi)に失敗しました。¥n");
    goto EXIT;
}

/*****
/* 保管フォルダ一覧開始
*****/
iLwSvKpFH = (*fp_StartKeepFolder)(iLwSvApiH, NULL, 0);
if(iLwSvKpFH == 0)
{
    (*fp_GetServerApiErrMsg)(iLwSvApiH, ce_ErrMsg);
    ie_ErrCode = (*fp_GetServerApiErrCode)(iLwSvApiH);
    printf("%s RC=%d", ce_ErrMsg, ie_ErrCode);
    goto EXIT;
}

/*****
/* 保管フォルダ数取得
*****/
iRetCode = (*fp_GetKeepFolderCount)(iLwSvApiH, iLwSvKpFH, &iKpFCount);
if(iRetCode != 0)
{
    (*fp_GetServerApiErrMsg)(iLwSvApiH, ce_ErrMsg);
    ie_ErrCode = (*fp_GetServerApiErrCode)(iLwSvApiH);
    printf("%s RC=%d", ce_ErrMsg, ie_ErrCode);
    goto EXIT;
}

/*****
/* 保管フォルダ数分ループする
*****/
for(iKpFIndex = 0; iKpFIndex < iKpFCount; iKpFIndex++)
{
    /*****
    /* 保管フォルダ一覧情報を取得
    *****/
    memset(lpKpFInfo, 0, sizeof(KPFINFO)); /* 初期化処理 */
    lpKpFInfo->usf_Length = sizeof(KPFINFO) /* 構造体サイズ */
    iRetCode = (*fp_GetKeepFolderItem)(iLwSvApiH, iLwSvKpFH,
    iKpFIndex, lpKpFInfo);
    if(iRetCode != 0)
    {
        (*fp_GetServerApiErrMsg)(iLwSvApiH, ce_ErrMsg);
        ie_ErrCode = (*fp_GetServerApiErrCode)(iLwSvApiH);
        printf("%s RC=%d", ce_ErrMsg, ie_ErrCode);
        goto EXIT;
    }
}

```

```

/*****
/* 保管フォルダ内の帳票一覧開始 */
/*****
iLwSvKpLH = (*fp_StartKeepList)(iLwSvApiH,
lpKpFInfo->cf_PathName);
if(iLwSvKpLH == 0)
{
    (*fp_GetServerApiErrMsg)(iLwSvApiH, ce_ErrMsg);
    ie_ErrCode = (*fp_GetServerApiErrCode)(iLwSvApiH);
    printf("%s RC=%d", ce_ErrMsg, ie_ErrCode);
    continue;
}

/*****
/* 保管フォルダ内の帳票数取得 */
/*****
iRetCode = (*fp_GetKeepListCount)(iLwSvApiH, iLwSvKpLH, &iKpLCount);
if(iRetCode != 0)
{
    (*fp_GetServerApiErrMsg)(iLwSvApiH, ce_ErrMsg);
    ie_ErrCode = (*fp_GetServerApiErrCode)(iLwSvApiH);
    printf("%s RC=%d", ce_ErrMsg, ie_ErrCode);
    goto EXIT;
}

/*****
/* 保管フォルダ内の帳票一覧数分ループする */
/*****
for(iKpLIndex = 0; iKpLIndex < iKpLCount; iKpLIndex++)
{
    /*****
    /* 保管フォルダ内の帳票一覧情報の取得 */
    /*****
    memset(lpKpLInfo, 0, sizeof(KPLINFO)); /* 初期化処理 */
    lpKpLInfo->usl_Length = sizeof(KPLINFO); /* 構造体の長さ */
    iRetCode = (*fp_GetKeepListItem)(iLwSvApiH, iLwSvKpLH, iKpLIndex,
lpKpLInfo);
    if(iRetCode != 0)
    {
        (*fp_GetServerApiErrMsg)(iLwSvApiH, ce_ErrMsg);
        ie_ErrCode = (*fp_GetServerApiErrCode)(iLwSvApiH);
        printf("%s RC=%d", ce_ErrMsg, ie_ErrCode);
        break;
    }

    /* 取得した帳票名が、“2000年度”か比較する */
    iRetCode = memcmp(lpKpLInfo->cl_Title, "2000年度", 8);
    if(iRetCode == 0)
    {
        /* 帳票の論理パス名を取得する */
        iFindFlg = 1;
        strcpy(ceDeleteFile, lpKpLInfo->cl_SpIFile);
        break;
    }
}

/*****
/* 保管フォルダ内の帳票一覧終了 */
/*****
if(iLwSvKpLH != 0)
{
    (*fp_EndKeepList)(iLwSvApiH, iLwSvKpLH);
    iLwSvKpLH = 0;
}

```

```

    }

    /* 該当する帳票が見つかったため、ループ処理を抜ける */
    if(iFindFlg == 1)
        break;
}

/*****
/* 保管フォルダ終了 */
*****/
if(iLwSvKpFH != 0)
{
    (*fp_EndKeepFolder)(iLwSvApiH, iLwSvKpFH);
    iLwSvKpFH = 0;
}

/*****
/* 保管フォルダ内の帳票の削除(論理パス指定) */
*****/
if(iFindFlg == 1)
{
    iRetCode = (*fp_DeleteKeepFile)(iLwSvApiH, ceDeleteFile);
    if(iRetCode != 0)
    {
        (*fp_GetServerApiErrMsg)(iLwSvApiH, ceErrMsg);
        ie_ErrCode = (*fp_GetServerApiErrCode)(iLwSvApiH);
        printf("%s RC=%d", ceErrMsg, ie_ErrCode);
        goto EXIT;
    }
}

/*****
/* 終了処理 */
*****/
EXIT:
if(iLwSvKpLH != 0)
    (*fp_EndKeepList)(iLwSvApiH, iLwSvKpLH);

if(iLwSvKpFH != 0)
    (*fp_EndKeepFolder)(iLwSvApiH, iLwSvKpFH);

if(iLwSvApiH != 0)
    (*fp_EndSvApi)(iLwSvApiH);

dlclose(hinSvApi);

return;
}

```

付録C オートメーションメソッドのサンプルプログラム

この章では、オートメーションメソッドのサンプルプログラムについて説明します。

C.1 オートメーションメソッドのサンプルプログラム



注意

本サンプルは、オートメーションメソッドの使用方法を理解していただくことを目的として提供しております。お客様の環境で、本サンプルを使用して運用を行う場合は、お客様の業務に必要な処理やエラー処理を追加した上で、十分なテストを行い問題ないことを確認してください。

C.1 オートメーションメソッドのサンプルプログラム

以下に、「Microsoft Excel 2007 spreadsheet for Windows」で実行するマクロの例を示します。斜体で表されている文字列は任意に変更してください。

```
Sub NVDemo()  
    Dim objNavi As Object  
    Dim objView As Object  
  
    Set objNavi = CreateObject("ListNavi.Application")  
    Set objView = CreateObject("ListViewer.Application")  
    ' リストナビを表示します。  
    objNavi.ShowApp  
    ' 最大化表示します。  
    objNavi.Maximize  
    ' 元のサイズに戻します。  
    objNavi.Restore  
    ' リスト管理サーバへの接続ダイアログボックスを表示します。  
    objNavi.Connect "UserID", "", "Server", 1  
    ' すべて選択します。  
    objNavi.SelectAllItem  
    ' リストビューアを起動します。  
    objView.Open (objNavi.GetOpenFilename())  
    ' リストビューアを表示します。  
    objView.ShowApp  
    ' ウィンドウサイズを変更します。  
    objView.Size 400, 300  
    ' リストビューアを最大表示します。  
    objView.Maximize  
    ' 処理を終了します。  
    objNavi.Disconnect  
    objNavi.Quit  
    objView.Quit  
End Sub
```



注意

実行するマクロの文法や仕様については、Microsoft Excelのマニュアルを参照してください。

また、Windows Server 2008などのWSH(Microsoft Windows Scripting Host)機能の搭載された環境では、以下に示すようなスクリプトを実行することができます。

斜体で表されている文字列は任意に変更してください。

```
Dim objNavi
Dim objView

set objNavi = WScript.CreateObject("ListNavi.Application")
set objView = WScript.CreateObject("ListViewer.Application")

Call NVDemo()

Sub NVDemo()
    ' リストナビを表示します。
    objNavi.ShowApp
    ' 最大化表示します。
    objNavi.Maximize
    ' 元のサイズに戻します。
    objNavi.Restore
    ' リスト管理サーバへの接続ダイアログボックスを表示します。
    objNavi.Connect "UserID", "", "Server", 1
    ' すべて選択します。
    objNavi.SelectAllItem
    ' リストビューアを起動します。
    objView.Open(objNavi.GetOpenFilename())
    ' リストビューアを表示します。
    objView.ShowApp
    ' ウィンドウサイズを変更します。
    objView.Size 400, 300
    ' リストビューアを最大表示します。
    objView.Maximize
    MsgBox("処理を終了します。")
    ' 処理を終了します。
    objNavi.Disconnect
    objNavi.Quit
    objView.Quit
End Sub
```



WSH(Microsoft Windows Scripting Host)の文法や仕様については、WSH(Microsoft Windows Scripting Host)のマニュアルを参照してください。

付録D Web連携機能APIのサンプルプログラム

この章では、Web連携機能APIのサンプルプログラムについて説明します。

D.1 ListPrintのサンプルプログラム



注意

本サンプルは、Web連携機能APIの使用方法を理解していただくことを目的として提供しております。お客様の環境で、本サンプルを使用して運用を行う場合は、お客様の業務に必要な処理やエラー処理を追加した上で、十分なテストを行い問題ないことを確認してください。

D.1 ListPrintのサンプルプログラム

ListPrintのメソッドを用いたJavaスクリプトの記述例を示します。

帳票の一覧からの印刷機能

帳票の一覧から帳票を印刷するには、以下のJSPファイルとJavaScriptファイルが必要です。

- 帳票の一覧から帳票を印刷するJSPファイル
- JSPファイルから呼ばれるActiveXコントロールを定義しているJavaScriptファイル

帳票の一覧から帳票を印刷するJSPファイル

```
<%@ page session="false" import="com.fujitsu.systemwalker.listworks.gateway.util.*,
                                com.fujitsu.systemwalker.listworks.common.info.*" %>
<%@ page contentType="text/html; charset=Windows-31J" %>

<jsp:useBean id="listConfig" class="com.fujitsu.systemwalker.listworks.gateway.util.ListConfig" scope="request" />

<HTML>

<%
// ListGatewayの情報および選択されている帳票の情報を取得します。
boolean fByteSwap          = false;
long   lActivePage         = 0;
int    iSheetNo            = 0;
int    iClTraceOut         = 1;
int    iClTraceLocalMaxSize = 1000;
int    iClTraceLevel       = 0;
int    iClInformationOut   = 0;
int    iClInformationLocalMaxSize = 1000;

if (listConfig.getSheetNo() != -1)
{
    fByteSwap          = listConfig.getByteSwap();
    lActivePage        = listConfig.getActivePage();
    iClTraceOut        = listConfig.getClTraceOut();
    iClTraceLocalMaxSize = listConfig.getClTraceLocalMaxSize();
    iClTraceLevel      = listConfig.getClTraceLevel();
    iClInformationOut  = listConfig.getClInformationOut();
    iClInformationLocalMaxSize = listConfig.getClInformationLocalMaxSize();
    iSheetNo           = listConfig.getSheetNo();
}
}
```

```

%>
<HEAD>
<META http-equiv="Content-type" content="text/html; charset=Shift_JIS">
<TITLE>帳票を自動的に印刷する</TITLE>
<LINK rel=stylesheet href="/listworks/jsp/style.css" type="text/css">
<SCRIPT language="JavaScript" src="/listworks/jsp/listprint.js">
</SCRIPT>
</HEAD>

<SCRIPT language="JavaScript">
<!--
var Error = false;

function init()
{
// Internet Explorerを使用している場合
if (app == "M")
{
// ListPrintのダウンロードでエラーが発生した場合は処理を中断します。
if (Error == true)
return;

// ListPrintをアクティブにします。
setFocusListPrint();

// 選択されている帳票の5ページから10ページまでを
// 用紙サイズをA4、用紙の向きを縦、1部、
// ダイアログボックスを表示しないで印刷します。
if (document.ListPrint.localPrint(1, 5, 10, 1, 13, 0, 0, 0) != 0)
{
alert("選択されている帳票の印刷に失敗しました。")
}
}
}

function exit()
{
// Internet Explorerを使用している場合
if (app == "M")
{
// ListPrintをアクティブにします。
document.write("");
}
}

function setFocusListPrint()
{
// Internet Explorerを使用している場合
if (app == "M")
{
// バージョン・レベルをチェックします。
if (ver >= 4)
{
// ListPrintをアクティブにします。
document.ListPrint.focus();
}
}
}

function error()
{
// ListPrintのダウンロードエラーフラグを、TRUEにします。

```

```

    Error = true;
}
// -->
</SCRIPT>

<BODY background="/listworks/image/background.gif" bgcolor="#FFFFFF" text="#000000"
onload="init()"onunload="exit()">

<!-- ListPrint コントロールの起動 -->
<SCRIPT language="JavaScript">
<!--
app = navigator.appName.charAt(0);
ver = navigator.appVersion.charAt(0);

// Internet Explorerを使用している場合
if (app == "M")
{
// バージョン・レベルをチェックします。
if (ver >= 4)
{
// jsファイルから<OBJECT>タグを書き出します。
writeObject(<%=iSheetNo%,
            "<%=fByteSwap%>",
            <%=lActivePage%,
            <%=iClTraceOut%,
            <%=iClTraceLocalMaxSize%,
            <%=iClTraceLevel%,
            <%=iClInformationOut%,
            <%=iClInformationLocalMaxSize%,
            1);
}
}
// -->
</SCRIPT>

</BODY>
</HTML>

```

JSPファイルから呼ばれるActiveXコントロールを定義しているJavaScriptファイル

```

//
// jsファイルから<OBJECT>タグを書き出します。
// param iSheetNo 帳票番号
// param fByteSwap バイトスワップ
// param lActivePage アクティブページ
// param iClTraceOut Webクライアントのトレース出力情報を
//出力するかどうか
// param iClTraceLocalMaxSize Webクライアントのローカルトレースファイル
//サイズ
// param iClTraceLevel Webクライアントのトレースレベル
// param iClInformationOut Webクライアントの情報ログ出力情報を
//出力するかどうか
// param iClInformationLocalMaxSize Webクライアントのローカル情報ログファイル
//サイズ
// param iFunc 要求機能
//
function writeObject(iSheetNo,
                    fByteSwap,
                    lActivePage,
                    iClTraceOut,
                    iClTraceLocalMaxSize,
                    iClTraceLevel,

```

```

        iCIInformationOut,
        iCIInformationLocalMaxSize,
        iFunc)
{
    if (iFunc == 0)
    {
        document.write('<OBJECT ID="ListPrint" WIDTH="100%" HEIGHT="100%"')
        document.write(' CLASSID="CLSID:BF8410EB-E3B7-11D3-B833-00000EBCC7B8"')
        document.write(' CODEBASE="" + location.protocol + '//' + location.host + '/listworks/
/f5cwwpti.cab#Version=1,10,0,1" onError="error()">') ← (注1)
        document.write(' <PARAM NAME="_Version" VALUE="65536">')
        document.write(' <PARAM NAME="_ExtentX" VALUE="2646">')
        document.write(' <PARAM NAME="_ExtentY" VALUE="1323">')
        document.write(' <PARAM NAME="_StockProps" VALUE="0">')
        document.write(' <PARAM NAME="Session" VALUE="" + document.cookie + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="RequestFunc" VALUE="" + iFunc + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="KeeplistNo" VALUE="" + iSheetNo + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="ServletUrl" VALUE="" + location.protocol + '//' +
location.host + '/listworks/servlet/ListGateway">')
        document.write(' <PARAM NAME="Byteswap" VALUE="" + fByteSwap + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="ActivePage" VALUE="" + lActivePage + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="ListGatewayVL" VALUE="1502000">') ← (注2)
        document.write(' <PARAM NAME="Message" VALUE="1">')
        document.write(' <PARAM NAME="TraceFileOut" VALUE="" + iCITraceOut + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="TraceMaxSize" VALUE="" + iCITraceLocalMaxSize + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="TraceLevel" VALUE="" + iCITraceLevel + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="Recycle" VALUE="0">')
        document.write(' <PARAM NAME="PeekMessage" VALUE="0">')
        document.write(' <PARAM NAME="InformationFileOut" VALUE="" + iCIInformationOut + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="InformationMaxSize" VALUE="" + iCIInformationLocalMaxSize + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="Navigator" VALUE="" + navigator.appName + navigator.appVersion + '"">')
        document.write('</OBJECT>')
    }
    else if (iFunc == 1)
    {
        document.write('<OBJECT ID="ListPrint" WIDTH="0" HEIGHT="0"')
        document.write(' CLASSID="CLSID:BF8410EB-E3B7-11D3-B833-00000EBCC7B8"')
        document.write(' CODEBASE="" + location.protocol + '//' + location.host + '/listworks/
f5cwwpti.cab#Version=1,10,0,1" onError="error()">') ← (注1)
        document.write(' <PARAM NAME="_Version" VALUE="65536">')
        document.write(' <PARAM NAME="_ExtentX" VALUE="2646">')
        document.write(' <PARAM NAME="_ExtentY" VALUE="1323">')
        document.write(' <PARAM NAME="_StockProps" VALUE="0">')
        document.write(' <PARAM NAME="Session" VALUE="" + document.cookie + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="RequestFunc" VALUE="" + iFunc + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="KeeplistNo" VALUE="" + iSheetNo + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="ServletUrl" VALUE="" + location.protocol + '//' + location.host + '/listworks/
servlet/ListGateway">')
        document.write(' <PARAM NAME="Byteswap" VALUE="" + fByteSwap + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="ActivePage" VALUE="" + lActivePage + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="ListGatewayVL" VALUE="1502000">') ← (注2)
        document.write(' <PARAM NAME="Message" VALUE="1">')
        document.write(' <PARAM NAME="TraceFileOut" VALUE="" + iCITraceOut + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="TraceMaxSize" VALUE="" + iCITraceLocalMaxSize + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="TraceLevel" VALUE="" + iCITraceLevel + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="Recycle" VALUE="0">')
        document.write(' <PARAM NAME="PeekMessage" VALUE="0">')
        document.write(' <PARAM NAME="InformationFileOut" VALUE="" + iCIInformationOut + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="InformationMaxSize" VALUE="" + iCIInformationLocalMaxSize + '"">')
        document.write(' <PARAM NAME="Navigator" VALUE="" + navigator.appName + navigator.appVersion + '"">')
        document.write('</OBJECT>')
    }
}
}

```

注1:/listworks/f5cwwpti.cab#Version= の値が、Windows版では1,10,0,1 Solaris版では1,10,0,3になります。
注2:ListGatewayVLの値が、Windows版では1502000、Solaris版では1502002になります。

帳票の表示機能

帳票を表示するには、以下のJSPファイルとJavaScriptファイルが必要です。

- 帳票を表示するJSPファイル
- JSPファイルから呼ばれるActiveXコントロールを定義しているJavaScriptファイル

帳票を表示するJSPファイル

```
<%@ page session="false" import="com.fujitsu.systemwalker.listworks.gateway.util.*,
                                com.fujitsu.systemwalker.listworks.common.info.*" %>
<%@ page contentType="text/html; charset=Windows-31J" %>

<jsp:useBean id="listConfig" class="com.fujitsu.systemwalker.listworks.gateway.util.ListConfig" scope="request" />

<HTML>

<%
// ListGatewayの情報および選択されている帳票の情報を取得します。
boolean fByteSwap          = false;
long    lActivePage        = 0;
int     iSheetNo           = 0;
int     iClTraceOut        = 1;
int     iClTraceLocalMaxSize = 1000;
int     iClTraceLevel      = 0;
int     iClInformationOut  = 0;
int     iClInformationLocalMaxSize = 1000;

if (listConfig.getSheetNo() != -1)
{
    fByteSwap          = listConfig.getByteSwap();
    lActivePage        = listConfig.getActivePage();
    iClTraceOut        = listConfig.getClTraceOut();
    iClTraceLocalMaxSize = listConfig.getClTraceLocalMaxSize();
    iClTraceLevel      = listConfig.getClTraceLevel();
    iClInformationOut  = listConfig.getClInformationOut();
    iClInformationLocalMaxSize = listConfig.getClInformationLocalMaxSize();
    iSheetNo           = listConfig.getSheetNo();
}
%>

<HEAD>
<META http-equiv="Content-type" content="text/html; charset=Shift_JIS">
<TITLE>検索で絞り込んで表示する</TITLE>
<LINK rel="stylesheet" href="/listworks/jsp/style.css" type="text/css">
<SCRIPT language="JavaScript" src="/listworks/jsp/listprint.js">
</SCRIPT>
</HEAD>

<SCRIPT language="JavaScript">
<!--
var Error = false;

function init()
{
    // Internet Explorerを使用している場合
    if (app == "M")
    {
```

```

// ListPrintのダウンロードでエラーが発生した場合は処理を中断します。
if (Error == true)
    return;

// ListPrintをアクティブにします。
setFocusListPrint();

// 検索する条件をすべて削除します。
if (document.ListPrint.findClear() != 0)
{
    alert("検索する条件の削除に失敗しました。");
    return;
}

// 範囲名「振込先」で「東京支店」と等しい文字列を
// 検索する条件を設定します。
if (document.ListPrint.findString("振込先",
    "東京支店",
    0,
    0,
    0,
    0) != 0)
{
    alert("文字列の検索する条件の設定に失敗しました。");
    return;
}

// 範囲名「振込金額」で「1,000,000」以上
// かつ「3,000,000」以下の数値を検索する条件を設定します。
if (document.ListPrint.findNumeric("振込金額",
    "1000000",
    4,
    1,
    "3000000",
    5,
    0,
    0) != 0)
{
    alert("数値の検索する条件の設定に失敗しました。");
    return;
}

// 設定した条件で絞り込みを行います。
if (document.ListPrint.extractFind() != 0)
{
    alert("検索による絞り込みに失敗しました。");
}
}

function exit()
{
    // Internet Explorerを使用している場合
    if (app == "M")
    {
        // ListPrintを破棄します。
        document.write("");
    }
}

function setFocusListPrint()
{

```

```

// Internet Explorerを使用している場合
if (app == "M")
{
// バージョン・レベルをチェックします。
if (ver >= 4)
{
// ListPrintをアクティブにします。
document.ListPrint.focus();
}
}
}

function error()
{
// ListPrintのダウンロードエラーフラグを、TRUEにします。
Error = true;
}
// -->
</SCRIPT>

<BODY background="/listworks/image/background.gif" bgcolor="#FFFFFF" text="#000000" onload="init()"
onunload="exit()">

<!-- ListPrint コントロール/プラグインの起動 ---->
<SCRIPT language="JavaScript">
<!--
app = navigator.appName.charAt(0);
ver = navigator.appVersion.charAt(0);

// Internet Explorerを使用している場合
if (app == "M")
{
// バージョン・レベルをチェックします。
if (ver >= 4)
{
// jsファイルから<OBJECT>タグを書き出します。
writeObject(<%=iSheetNo%>,
"%=fByteSwap%>",
"%=lActivePage%>",
"%=iClTraceOut%>",
"%=iClTraceLocalMaxSize%>",
"%=iClTraceLevel%>",
"%=iClInformationOut%>",
"%=iClInformationLocalMaxSize%>",
0);
}
}
// -->
</SCRIPT>

</BODY>
</HTML>

```

JSPファイルから呼ばれるActiveXコントロールを定義しているJavaScriptファイル



当JavaScriptファイルは、“帳票の一覧からの印刷機能”で使用するJavaScriptファイルと共通のため、“帳票の一覧からの印刷機能”で説明している“JSPファイルから呼ばれるActiveXコントロールを定義しているJavaScriptファイル”を参照してください。


付録E List Worksにおける処理の流れ

この章では、Web連携機能APIを利用したプログラム開発の参考として、List Worksにおける処理の流れを説明します。

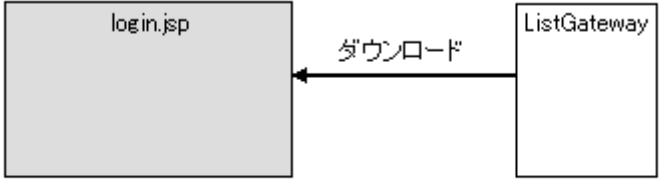
- E.1 ログインから帳票一覧の表示まで
- E.2 帳票一覧の表示条件の設定
- E.3 帳票一覧の表示項目の変更
- E.4 「帳票を検索」の検索条件の設定

E.1 ログインから帳票一覧の表示まで

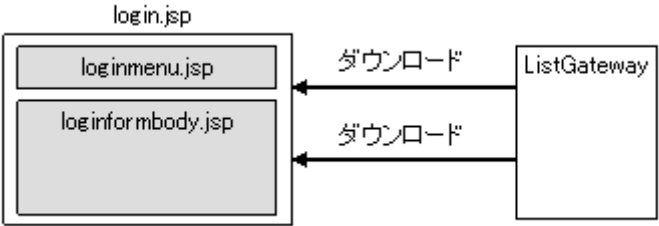
List WorksのWeb連携における、ログインから帳票一覧表示までの処理の流れを以下に示します。

1. 

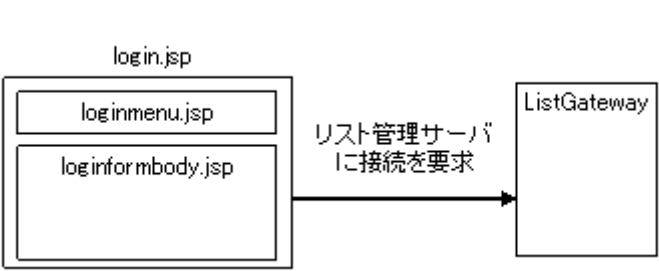
Webブラウザ → ListGateway (画面の表示を要求)

リスト管理サーバと接続するための画面の表示を要求します。
2. 

ListGateway → login.jsp (ダウンロード)

login.jspをダウンロードします。
3. 

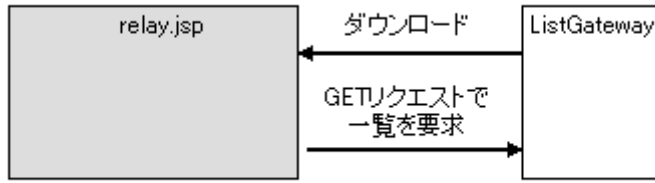
ListGateway → login.jsp (loginmenu.jsp, loginformbody.jsp) (ダウンロード)

login.jspは、上下2分割のフレームで構成されています。このため、上フレームのloginmenu.jspと、下フレームのloginformbody.jspをダウンロードします。なおloginmenu.jspには、「ご使用になる前に」、「マニュアル」ボタンが定義されています。これらのボタンを削除したい場合は、loginmenu.jspをカスタマイズします。
4. 

login.jsp → ListGateway (リスト管理サーバに接続を要求)

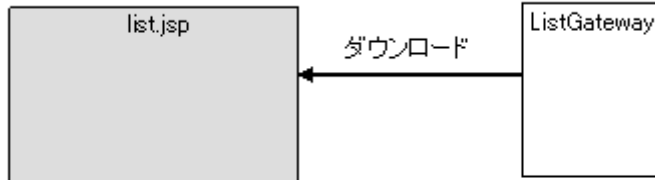
FORMに入力されたユーザ情報をもとに、Httpリクエストのloginを使用して、リスト管理サーバに接続します。

5.



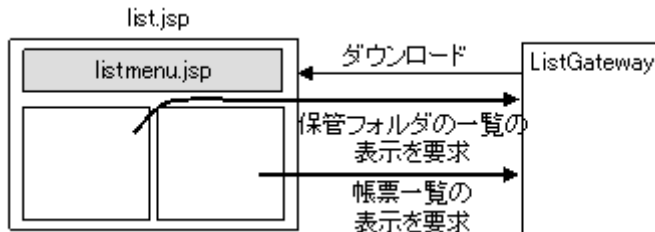
ログインが成功すると、relay.jspをダウンロードします

6.



保管フォルダ/帳票一覧を表示するlist.jspをダウンロードします。

7.



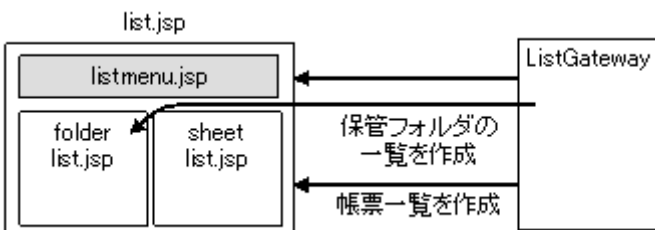
list.jspは、上下分割、下段は左右分割の合計3分割のフレームで構成されています。

上フレームのlistmenu.jspをダウンロードします。なお、listmenu.jspには、「マニュアル」ボタンなどが定義されています。これらのボタンを削除したい場合は、listmenu.jspをカスタマイズします。

下段の左フレームは保管フォルダの一覧の表示を要求します(Httpリクエストのgetkeepfolder)。

下段の右フレームは帳票一覧の表示を要求します(Httpリクエストのgetkeepelist)。

8.



保管フォルダ一覧の取得が成功すると、folderlist.jspをダウンロードします。このとき、folderlist.jspは、ListConfigクラスやKeepFolderAttributeクラスを使用して保管フォルダ一覧情報を取得し、一覧用のHTMLを作成します。

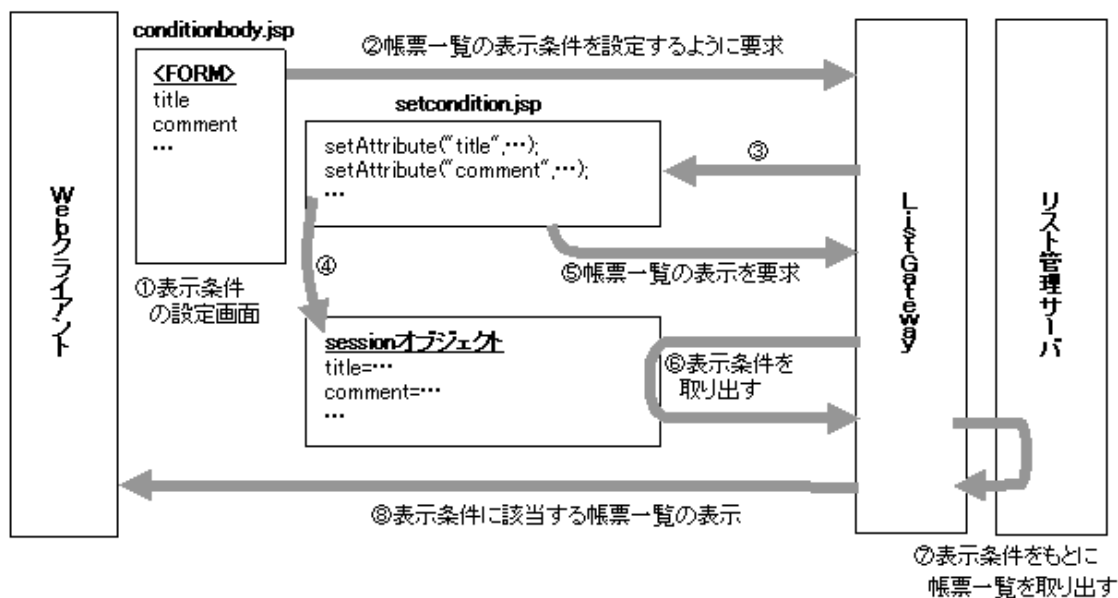
帳票一覧の取得が成功すると、sheetlist.jspをダウンロードします。このとき、sheetlist.jspは、ListConfigクラスやKeepSheetAttributeクラスを使用して帳票一覧情報を取得し、一覧用のHTMLを作成します。なお、sheetlist.jspをカスタマイズすることにより、帳票一覧の表示項目を変更することが可能です。また、findlistbody.jspをカスタマイズすることにより、検索結果一覧の表示項目を変更することが可能です。

カスタマイズの詳細は、「[E.3 帳票一覧の表示項目の変更](#)」を参照してください。

E.2 帳票一覧の表示条件の設定

List WorksのWeb連携における、帳票一覧の表示条件の設定処理の流れを示します。

帳票一覧に表示される帳票の表示条件を設定することにより、帳票一覧を絞り込むことができます。



1. 「表示条件の設定」画面で指定する条件は、name属性に、conditionが指定されている<FORM>タグの要素の<INPUT>タグ、<SELECT>タグに定義されています。<INPUT>タグ、<SELECT>タグのname属性は以下のとおりです。

[帳票の情報]

title	帳票名
comment	コメント
creator	作成者名

[帳票の詳細情報]

makeext	作成日時で絞り込むための条件に設定するかどうか
makeway	作成日時の設定方法
makefrom	作成日時(から)
maketo	作成日時(まで)
makebefore	日数
printstate	印刷状態 (注)

[帳票の備考]

note1	備考1
note2	備考2
note3	備考3
note3	備考4

2. 帳票一覧を絞り込むための表示条件を設定するためのsetcondition.jspを要求します。
3. ListGatewayが表示条件設定用のsetcondition.jspをforwardします。

4. setcondition.jspは、sessionオブジェクトに対して表示条件を設定します。

表示条件は、以下のとおりです。

[表示条件]の一覧

title	帳票名
comment	コメント
creator	作成者名
makeext	作成日時で絞り込むための条件に設定するかどうか 設定する場合は、文字列の「1」を指定してください。
makeway	作成日時の設定方法 範囲で指定する場合は文字列の「0」、日数で指定する場合は文字列の「1」を指定します。
makefrom	作成日時(から) 作成日時の設定方法で、文字列の「0」を指定した場合に指定します。
maketo	作成日時(まで) 作成日時の設定方法で、文字列の「0」を指定した場合に指定します。
makebefore	日数 作成日時の設定方法で、文字列の「1」を指定した場合に指定します。
printstate	印刷状態 (注) 「すべて」を指定する場合は「0」、「印刷してある帳票」を指定する場合は「1」、「印刷していない帳票」を指定する場合は「2」を指定します。
note1	備考1
note2	備考2
note3	備考3
note3	備考4

以下の表示条件はListWORKS、およびList Works V6.0L10/6.0 から移行した場合にプログラムを変更しなくても継続して運用できるよう、互換のために用意されています。

[表示条件]の一覧

title	帳票名
comment	コメント
creator	作成者名
makefrom	作成日時(から)
maketo	作成日時(まで)

注: ローカル印刷識別を許可している場合、条件に印刷状態を指定することができます。なお、「印刷してある帳票」および「印刷していない帳票」の印刷とは、ローカル印刷を示します。

5. ListGatewayに対して、帳票一覧の表示を要求(Httpリクエストのgetkeepelist)します。
6. ListGatewayは、sessionオブジェクトから表示条件を取り出します。
7. sessionオブジェクトから取り出した条件をもとに、リスト管理サーバから帳票一覧を取り出します。
8. 表示条件に該当する帳票を表示するためにsheetlist.jspをforwardします。

E.3 帳票一覧の表示項目の変更

Web連携機能APIを利用したプログラムにおいて、保管フォルダの帳票一覧、検索結果一覧の表示項目を変更できます。

以下のフォルダに格納されているJSPファイルを編集します。

- Windows版の場合

List Worksのインストールフォルダ¥web¥app¥jsp

• Solaris版の場合

List Works Web連携のインストールディレクトリ/app/jsp

保管フォルダの帳票一覧や検索結果一覧の表示項目を変更する場合は、以下のようにJSPファイルを編集します。以下の例では、保管フォルダの帳票一覧の表示項目に「備考1」を追加する画面のカスタマイズを説明しています。

1. 保管フォルダの帳票一覧の場合はsheetlist.jspを開きます。検索結果一覧の場合はfindlistbody.jspを開きます。
2. 帳票一覧のカラムを変更します。「帳票一覧の見出し」というコメントが記述されている処理における<TD>タグを編集します。

以下は、保管フォルダの帳票一覧のカラムに「備考1」を追加する例です。

```
<TD align="left" width="200" nowrap><NOBR><B>帳票名</B></NOBR></TD>
<TD align="left" width="160" nowrap><NOBR><B>コメント</B></NOBR></TD>
<TD align="left" width="60" nowrap><NOBR><B>ページ数</B></NOBR></TD>
<TD align="left" width="100" nowrap><NOBR><B>作成者名</B></NOBR></TD>
<TD align="left" width="100" nowrap><NOBR><B>作成日時</B></NOBR></TD>
<TD align="left" width="160" nowrap><NOBR><B>備考1</B></NOBR></TD>
```

↑
備考1 (注)

注:「備考1」は、全角文字で記入してください。

3. 帳票一覧に表示する帳票の属性を取得します。「帳票一覧」というコメントが記述されている処理におけるJavaスクリプトを編集します。

以下は、保管フォルダの帳票の「備考1」情報を取得する例です。

```
<!-- 帳票一覧 -->
<%
    KeepSheetAttribute keepSheetAttribute = null;
    int iListCount = listConfig.getViewSheetNo();
    int iCount = 0;
    String strSheetNodeId = "";
    String strTitle = "";
    String strTitle2 = "";
    String strComment = "";
    String strCreatorName = "";
    String strCreateDate = "";
    long lTotalPage = 0;
    int iKeepSheetNo = 0;
    String strChk = "";
    String strNote1 = ""; ← 備考1

    for (iCount = 0; iCount < iListCount; iCount++)
    {
        keepSheetAttribute = listConfig.getKeepSheetAttribute(iCount);
        strSheetNodeId = keepSheetAttribute.getNodeId();
        strTitle = HtmlConv.convVendorChar(keepSheetAttribute.getTitle(), false);
        strTitle2 = HtmlConv.convVendorChar(keepSheetAttribute.getTitle(), true);
        strComment = HtmlConv.convVendorChar(keepSheetAttribute.getComment(), true);
        strCreatorName = HtmlConv.convVendorChar(keepSheetAttribute.getCreatorName(), true);
        strCreateDate = HtmlConv.convVendorChar(keepSheetAttribute.getCreateDate(), true);
        lTotalPage = keepSheetAttribute.getTotalPage();
        iKeepSheetNo = keepSheetAttribute.getSerialSheetNo();
        strNote1 = keepSheetAttribute.getNote1(); ← 備考1

        if (strTitle.equals("") == true)
            strTitle = new String("(帳票名なし)");

        if (strTitle2.equals("") == true)
```

```
        strTitle2 = new String(" (帳票名なし)");

    if (strComment.equals("") == true)
        strComment = strblank;

    if (strCreatorName.equals("") == true)
        strCreatorName = strblank;

    if (strCreateDate.equals("") == true)
        strCreateDate = strblank;

    if (strNote1.equals("") == true) ← 備考1
        strNote1 = strblank;
```

4. 取得した帳票の属性を帳票一覧に追加します。「帳票一覧」とコメントが記述されている処理における<TD>タグを編集します。以下は、保管フォルダの帳票一覧のカラムに「備考1」を追加する例です。

```
<TD class="SheetStyle"><%=strComment%></TD>
<TD class="SheetStyle" align="right" nowrap><%=lTotalPage%></TD>
<TD class="SheetStyle" nowrap><%=strCreatorName%></TD>
<TD class="SheetStyle" nowrap><%=strCreateDate%></TD>
<TD class="SheetStyle"><%=strNote1%></TD> ← 備考1
```

E.4 「帳票を検索」の検索条件の設定

「帳票を検索」機能において、検索条件を設定する画面を変更、またはあらかじめ検索条件の初期値を設定することができます。

以下のフォルダに格納されているJSPファイルを編集します。

- Windows版の場合

```
List Worksのインストールフォルダ¥web¥app¥jsp
```

- Solaris版の場合

```
List Works Web連携のインストールディレクトリ/app/jsp
```

「帳票を検索」機能において検索条件を設定する画面をカスタマイズする場合は、以下のようにJSPファイルを編集します。

1. findconditionbody.jspを開きます。
2. 検索条件を設定する画面の、検索条件をカスタマイズしたい場合は、name属性に、findconditionが指定されている<FORM>タグの要素の<INPUT>タグや<SELECT>タグを編集します。

[検索対象]の一覧 (注1)

again 結果を検索対象とする

[管理情報 帳票の情報の検索条件]の一覧

title 帳票名
titlecompare 帳票名の文字列が一致する条件
comment コメント
commentcompare コメントの文字列が一致する条件

creator 作成者名
creatorcompare 作成者名の文字列が一致する条件

[管理情報 帳票の詳細情報の検索条件]の一覧

makefrom 作成日時(から)
maketo 作成日時(まで)
printstate 印刷状態 (注2)

[管理情報 帳票の備考の検索条件]の一覧

note1 備考1
note1compare 備考1の文字列が一致する条件
note2 備考2
note2compare 備考2の文字列が一致する条件
note3 備考3
note3compare 備考3の文字列が一致する条件
note4 備考4
note4compare 備考4の文字列が一致する条件

印刷データ内の文字

range0 検索する対象範囲
target0 検索する文字列
compare0 文字列が一致する条件

注1: 帳票検索一覧に対して帳票を検索する場合に表示されます。

注2: ローカル印刷識別を許可している場合、条件に印刷状態を指定することができます。

付録F ログイン画面の初期値の設定方法

この章では、Web 連携機能API を利用したプログラムにおいて、ログイン画面に初期値を設定する方法について説明します。

F.1 ログイン画面に初期値を設定する方法

Web 連携機能API を利用したプログラムにおいて、ログイン画面の、ユーザID、パスワード、ホスト名の各フィールドに初期値を設定することができます。

以下のフォルダに格納されているJSPファイルを編集します。

- Windows版の場合

```
List Worksのインストールフォルダ¥web¥app¥jsp
```

- Solaris版の場合

```
List Works Web連携のインストールディレクトリ/app/jsp
```

保管フォルダの帳票一覧の表示/帳票の表示・印刷する機能のログイン画面に初期値を設定する場合は、以下のようにJSPファイルを編集します。

1. loginformbody.jspを開きます。
2. ログイン画面の、「ユーザ名」のフィールドに初期値を設定しておく場合は、name属性に、formUserIDが指定されている<FORM>タグの要素の<INPUT>タグを以下のように編集します。ユーザ名は36バイト以内の文字列で指定します。

以下の例ではユーザ名のフィールドに初期値として、"user-A"を設定します。

```
<FORM name="formUserID" onSubmit="enterKey(); return false;">
  <TD bgcolor="#B5D0FB" background="">ユーザID:</TD> ←(注)
  <TD bgcolor="#B5D0FB" background=""><INPUT class="fixsize" type="text" size="20"
  maxlength="36" name="userid" value="user-A" ></TD>
</FORM>
      ↑
      ユーザ名
```

注:「ID:」は、全角文字で入力してください。

3. ログイン画面の、「パスワード」のフィールドに初期値を設定しておく場合は、name属性に、formPasswordが指定されている<FORM>タグの要素の<INPUT>タグを以下のように編集します。パスワードは、255バイト以内の文字列で指定します。

以下の例ではパスワードのフィールドに初期値として、"password-A"を設定します。

```
<FORM name="formPassword" onSubmit="enterKey(); return false;">
  <TD bgcolor="#B5D0FB" background="">パスワード:</TD>
  <TD bgcolor="#B5D0FB" background=""><INPUT class="fixsize" type="password" size=
  "20" maxlength="255" name="password" value="password-A"></TD>
</FORM>
      ↑
      パスワード
```

4. ログイン画面の、「ホスト名」のフィールドに初期値を設定しておく場合は、name属性に、formServerNameが指定されている<FORM>タグの要素の<INPUT>タグを以下のように編集します。ホスト名は以下の文字列で指定します。

Windows版の場合:15バイト以内

Solaris版の場合:64バイト以内

以下に示すWindows版の例ではホスト名のフィールドに初期値として、"server-A"を設定します。

```
<FORM name="formServerName" onSubmit="enterKey(); return false;">
  <TD bgcolor="#B5D0FB" background="">ホスト名 :</TD>
  <TD bgcolor="#B5D0FB" background=""><INPUT class="fixsize" type="text" size="20"
maxlength="15" name="servername" value="server-A"></TD>
</FORM>
```

↑
ホスト名

5. ログイン後に要求するJSPファイル名を指定する場合は、name属性に、formLoginが指定されている<FORM>タグの要素の<INPUT>タグを以下のように編集します。初期値は"relay.jsp"です。

以下の例ではJSPファイル名として、"relay.jsp"を指定しています。

```
<INPUT type="hidden" name="jsp" value="relay.jsp">
```

↑
JSPファイル名

6. ログイン後に、次の画面をどのFRAMEに表示するかを指定する場合は、name属性に、formLoginが指定されている<FORM>タグの要素の<INPUT>タグを以下のように編集します。初期値は"_parent"です。

以下の例では次の画面を親のFRAMEに表示するために、"_parent"を指定しています。

```
<FORM name=" formLogin" method=" POST" target="_parent" action=" /listworks/servlet/
ListGateway" OnSubmit=" return send()" >
```

↑
次の画面として表示させるFRAME

注意

.....

ユーザID、パスワードの初期値の設定は、セキュリティ上お勧めできません。

.....

参考

.....

接続するリスト管理サーバが常に同じ場合はホスト名を初期値として設定しておくくと便利です。

.....

索引

	[A]		
Activate.....		102	
ActiveXコントロール.....		232	
addSheetPath.....		183	
	[C]		
Cascade.....		103	
Change.....		49	
ClearSearchCondition.....		50	
compareKeepCheckInfo.....		184	
Connect.....		51	
convVendorChar.....		230	
Copy.....		52,103	
Count.....		55	
CreateLocalKeepFolder.....		55	
CreateRemoteKeepFolder.....		56	
	[D]		
DataConvert.....		104	
dataConvert.....		239	
Delete.....		58	
DeleteFolder.....		59	
Deliver.....		59	
Disconnect.....		60	
	[E]		
ExtractCancel.....		106	
extractCancel.....		242	
ExtractFind.....		107	
extractFind.....		242	
ExtractItem.....		108	
extractItem.....		243	
ExtractPage.....		111	
extractPage.....		247	
	[F]		
FieldArea.....		112	
FieldClear.....		114	
FieldClearPage.....		115	
FieldDate.....		116	
FieldDefineMode.....		118	
FieldItem.....		118	
FieldItemPage.....		119	
Filing.....		60	
Find.....		121	
FindClear.....		122	
findClear.....		247	
FindDataConvert.....		123	
FindDate.....		125	
findDate.....		248	
FindLoad.....		128	
findLoad.....		251	
FindNext.....		129	
FindNumeric.....		130	
findNumeric.....		252	
FindOption.....		132	
findOption.....		255	
FindOrderConvert.....		135	
FindOrderSelect.....		136	
FindPrev.....		137	
FindResult.....		137	
findResult.....		257	
FindResultList.....		138	
FindSave.....		139	
findSave.....		258	
FindString.....		139	
findString.....		258	
For Each ... Next.....		61	
FullScreen.....		142	
	[G]		
get.....		229	
getAccessCount.....		215	
getActivePage.....		185	
getApplicationURL.....		185	
getAutoDelete.....		216	
getBrosKeepFolderInfoNo.....		186	
getByteSwap.....		187	
getChildKeepFolderInfoNo.....		188	
getClassFolderNoList.....		189	
getClassNameList.....		190	
getClassNo.....		212	
getComment.....		217	
getConnectForm.....		191	
getConnectServer.....		191	
getCount.....		229	
getCreateDate.....		213,217	
getCreatorName.....		218	
getCurrentFolderAttribute.....		192	
getCurrentFolderNameList.....		192	
GetCurrentTotalPage.....		143	
getCurrentTotalPage.....		261	
getEndNo.....		193	
getFileName.....		218	
getFiling.....		219	
getFlagInfo.....		219	
getFolderNo.....		194	
getGroupCount.....		194	
getHitTotalSheetNo.....		195	
getIndexFind.....		220	
getItem.....		221	
getjsp.....		175	
getjspinsession.....		176	
getkeepfolder.....		176,182	
getKeepFolderAttribute.....		195	
getKeepFolderInfoNo.....		196	
getkeeplist.....		177,182	
getKeepSheetAttribute.....		196	
getKeepSheetInfoNo.....		197	
getListPrintPropertiesName.....		199	
getName.....		213	

getNextKeepFolderInfoNo.....	198
getNodeId.....	214,221
getNote1.....	222
getNote2.....	222
getNote3.....	223
getNote4.....	223
GetOpenFileName.....	64
getPath.....	214
getPollingPrintWatchTime.....	199
getReferenceDate.....	224
getRegistDate.....	224
getRemoteAddr.....	200
getRemoteHost.....	200
getRequestPrint.....	225
getSeparatorMark.....	201
getSerialSheetNo.....	225
getServerAddr.....	201
getServerName.....	202
getServletURL.....	202
getSession.....	203
getSessionID.....	203
getSheetNo.....	204
getSheetPath.....	205
getStartNo.....	205
getTitle.....	226
getTotalFolderNo.....	206
getTotalPage.....	226
getTotalSheetNo.....	206
getUsePdfSheet.....	207
getUsePrintedSheet.....	207
getUserID.....	208
getValid.....	227
getValidDate.....	227
getViewNo.....	208
getViewSheetNo.....	209

[H]

HScroll.....	143
HtmlConv.....	230
Httpリクエスト.....	174

[I]

iCharCodeパラメタで指定可能な値.....	36
IsExtract.....	144
isExtract.....	262
Item.....	65
ItemList.....	145
ItemListPrint.....	66
ItemListSave.....	67
iToAddressの指定形式.....	35

[J]

Javaクラス(HtmlConv).....	230
Javaクラス(KeepFolderAttribute).....	212
Javaクラス(KeepSheetAttribute).....	215
Javaクラス(ListConfig).....	182
Javaクラス(ObjectList).....	229

JSPファイルから呼ばれるActiveXコントロールを定義している JavaScriptファイル.....	315
JSPファイルの取得.....	175,176

[K]

KeepFolderAttribute.....	212
KeepSheetAttribute.....	215
KPFINFO構造体.....	10,11
KPLINFO構造体.....	15,16

[L]

listbrowser.....	178
ListConfig.....	182
ListGateway.....	169
ListGatewayのURLを取得.....	202
ListGatewayメソッド一覧表.....	170
listprint.....	179
ListPrint.....	232
ListPrint.propertiesのファイル名を取得.....	199
ListPrint.propertiesのファイル名を設定.....	210
ListPrintのサンプルプログラム.....	313
ListPrintメソッド一覧表.....	232
List Worksにおける処理の流れ.....	320
List Worksにおける処理の流れ(ログインから帳票一覧の表示 まで).....	320
LocalPageSetup.....	68
LocalPrint.....	69,145
localPrint.....	235,262
login.....	180
logout.....	181
LW_ChangeKeepFile.....	19
LW_CopyKeepFile.....	37
LW_CreatePDFFile.....	24
LW_CreatePDFFileEx.....	26
LW_DeleteKeepFile.....	18
LW_EndKeepFolder.....	8
LW_EndKeepList.....	13
LW_EndServerApi.....	4
LW_GetKeepFolderCount.....	9
LW_GetKeepFolderItem.....	10
LW_GetKeepListCount.....	14
LW_GetKeepListItem.....	15
LW_GetServerApiErrCode.....	5
LW_GetServerApiErrMsg.....	5
LW_MoveKeepFile.....	38
LW_RemotePrint.....	39
LW_SendMail.....	30
LW_StartKeepFolder.....	7
LW_StartKeepList.....	12
LW_StartServerApi.....	3

[M]

Maximize.....	71,148
Minimize.....	72,148
MNGCHANGE構造体.....	20,21
Move.....	72,149

	[O]		
ObjectList.....		229	
Open.....		149	
OpenFolder.....		73	
openframe.....		181	
OpenItem.....		74	
Option.....		150	
	[P]		
PageBottom.....		151	
pageBottom.....		264	
PageJump.....		151	
pageJump.....		265	
PageNext.....		152	
pageNext.....		266	
PagePrev.....		153	
pagePrev.....		266	
PageSetup.....		153	
PageTop.....		154	
pageTop.....		267	
PanWindow.....		154	
PDFINFO構造体.....		27,28	
PDF形式での帳票の表示、および帳票をPDF形式に変換して 保存する機能を使用するかどうかの取得.....		207	
PDF変換情報構造体.....		27	
PRTITEM構造体.....		40,41	
	[Q]		
Quit.....		75,155	
	[R]		
RemotePageSetup.....		75	
RemotePrint.....		76,78	
Restore.....		79,156	
ResumeRemotePrint.....		80	
RMPRTINFO構造体.....		40,41	
RTNINFO構造体.....		31,35	
	[S]		
Save.....		156	
SaveAs.....		157	
SearchList.....		80	
Select.....		158	
select.....		267	
SelectAll.....		159	
SelectAllItem.....		81	
SelectFile.....		81	
SelectItem.....		82	
SelectNextItem.....		83	
SelectPrevItem.....		84	
SENDINFO構造体.....		31	
SetDeviceCondition.....		85	
setFolderPath.....		209	
SetKeepCondition.....		86	
SetKeepConditionEX.....		88	
setListPrintPropertiesName.....		210	
SetPrintCondition.....		90,92	
setPrinter.....		238,268	
SetReceiveCondition.....		93	
SetSearchDateCondition.....		94	
SetSearchManageCondition.....		95	
SetSearchTextCondition.....		96	
setSheetPath.....		211	
setValid.....		228	
Show.....		160	
ShowApp.....		97,162	
Size.....		97,162	
Split.....		163	
StartRemotePrint.....		98	
StopRemotePrint.....		99	
	[T]		
Tile.....		164	
toSjisArray.....		231	
toSjisString.....		231	
	[U]		
Unicode文字列内のベンダ依存文字を変換.....		230	
Unicode文字列をシフトJIS文字列のStringに変換.....		231	
UnselectItem.....		100	
	[V]		
VScroll.....		165	
	[W]		
Web機能APIの概要.....		167	
Web連携機能API.....		167	
Web連携機能APIのサンプルプログラム.....		313	
Web連携機能APIのサンプルプログラム(ListGateway).....		172	
Web連携機能APIのサンプルプログラム(ListPrint).....		233	
Web連携機能のURLを取得.....		185	
	[Z]		
Zoom.....		166	
zoom.....		269	
	[あ]		
アクセス回数の取得.....		215	
一覧の表示条件の設定(印刷フォルダ).....		90,92	
一覧の表示条件の設定(受信フォルダ).....		93	
一覧の表示条件の設定(装置フォルダ).....		85	
一覧の表示条件の設定(保管フォルダ).....		86,88	
印刷項目構造体.....		40	
印刷情報構造体.....		40	
印刷するプリンタの指定.....		238,268	
印刷データを検索.....		121	
印刷フォルダ(サーバ機能API).....		39	
ウィンドウの移動.....		72,149	
ウィンドウの最小化.....		72,148	
ウィンドウのサイズ変更.....		97,162	
ウィンドウの最大化.....		71,148	
ウィンドウの非表示.....		97,162	
ウィンドウの表示.....		97,162	
ウィンドウを元のサイズに戻す.....		79,156	
上方向に検索.....		137	
上書き保存.....		156	
エラー情報取得(サーバ機能API).....		5	

リスト管理サーバIPアドレスの取得.....	201
リスト管理サーバからの切断.....	60,181
リスト管理サーバ接続フラグの取得.....	191
リスト管理サーバの保管フォルダの作成.....	56
リスト管理サーバへの接続.....	51,180
リスト管理サーバ名の取得.....	202
リストナビ オートメーション.....	48
リストナビの終了.....	75
リストビューア オートメーション.....	100
リストビューアの終了.....	155
リストビューアをアクティブにする.....	102
リモート印刷.....	39,76,78
リモート印刷されたかどうかの取得.....	225
リモート印刷の開始.....	98
リモート印刷の再開.....	80
リモート印刷の中断.....	99
リモート印刷のページ設定.....	75
連結できる最大帳票数の取得.....	191
ログイン画面に初期値を設定する方法.....	327
ログイン画面の初期値の設定方法.....	327
ローカル印刷.....	69
ローカル印刷識別を利用するかどうかを取得.....	207
ローカル印刷のページ設定.....	68